

元総社蒼海遺跡群 (100)・(101)

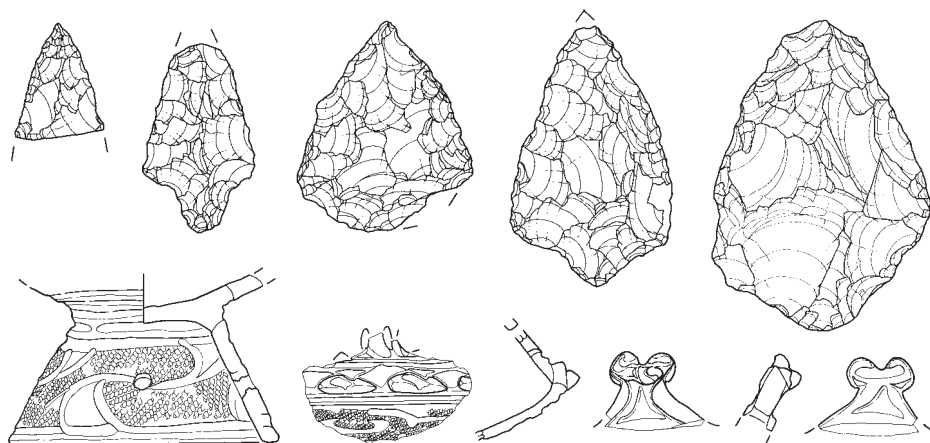
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2016.3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群 (100)・(101)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



元総社蒼海遺跡群 (100) 縄文時代晩期の遺物

2016.3

前橋市教育委員会

はじめに

上越国境にそびえる谷川連峰をその源とし、赤城山系・榛名山系のはざまを抜けて南流する利根川が、関東平野へ向かって開けるところに、ふるさと前橋市は存在します。市域は豊かな自然環境にも恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内いたる所に、人々の息吹が感ぜられる歴史遺産が存在します。

稲作文化は利根川水系の多くの河川を遡上するようにここ前橋にも伝播し、その生産基盤の安定が、東国の中心としての「毛の国」を誕生させることとなり、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれました。律令時代に入ってから上野国の中心地として、総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは「前橋シルク」の名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回報告する元総社蒼海遺跡群（100）・（101）は、古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定区域に隣接することから、調査成果は多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出・確認はかないませんでした。古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちな姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進めることができました。また、寒風吹きすさぶ中、発掘調査にあたった発掘調査担当者・作業員のみなさんに厚く御礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成28年3月

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

例 言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（100）・（101）発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、前橋市教育委員会である。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである。




遺 跡 名 称	元総社蒼海遺跡群（100）・元総社蒼海遺跡群（101）	
調 査 場 所	[100] 群馬県前橋市総社町総社 3589、3583、3587-1	
	[101] 群馬県前橋市元総社町 1387-1、1387-2	
遺 跡 コ ー ド	[100] 26 A 196（遺跡番号 0142）	[101] 26 A 197（遺跡番号 0142）
発 掘 調 査 期 間	[100] 平成 27 年 2 月 9 日～平成 27 年 3 月 23 日	
	[101] 平成 26 年 12 月 11 日～平成 27 年 2 月 9 日	
整理・報告書作成期間	平成 27 年 11 月 1 日～平成 28 年 3 月 25 日	
発 掘 担 当 者	南田法正・竹中洋治（有限会社毛野考古学研究所）	
〔遺構測量〕	小出琢磨・設楽和也（有限会社毛野考古学研究所）	
整 理 担 当 者	福嶋正史（株式会社シン技術コンサル）	

4. 本書の作成は、前橋市教育委員会の指導・監督の下、株式会社シン技術コンサルが行った。原稿執筆は I を藤坂和延（前橋市教育委員会）、他を発掘調査担当の南田が執筆し、福嶋が編集・校正をした。人骨の分析鑑定および執筆は檜崎修一郎氏（技研コンサル株式会社文化財研究所）に依頼した。
5. 発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。

【発掘調査】岡庭秋男・川島隆好・北野進二・小関泰洋・佐藤関雄・鈴木 正・中島勝由・橋元裕兒
森山孝男・山本良太・勅使川原幸枝・萩原秀子・森山恵子・井口ヒロ子・岡村美也子
【整理作業】磯 洋子・合田幸子・瀬尾則子・武士久美子・竹中美保子・永井祐二・日沖美奈子
深谷道子・真下弘美・山下奈邦子

6. 発掘調査で出土した遺物及び、図面・写真等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。
7. 下記の諸氏・機関に有益な御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）
伊藤俊一・賀川純一・津金澤吉茂・坂口 一・鈴木徳雄・谷藤保彦・山口逸弘・関根慎二・檜崎修一郎
永井智教・中村岳彦・板垣 宏・有山径世・土井道昭
学校法人花園学園 元総社幼稚園・前橋市元総社公民館・元総社町自治会・株式会社佐藤砂利興業
技研コンサル株式会社・スナガ環境測設株式会社・文化財整理こうけん

凡 例

1. 遺構図の縮尺は、平面図及び土層断面図を 1/60 縮尺で表現することを基本として掲載した。各挿図中にはスケールを付してある。また、図中の北方位記号は座標北を示し、座標値は日本測地系に基づいている。
2. 遺物実測図の縮尺は、1/1～1/4 縮尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。
遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。
3. 遺物実測図のトーンは次の意味を表す。 須恵器（硬質）  灰釉  煤（石器） 
4. 遺構及び遺構内施設の略称は、次のとおりである。
H：住居跡 T：竪穴状遺構 B：掘立柱建物跡 P：ピット BP：As-B 混入ピット JP：縄文時代のピット
D：土坑 I：井戸 W：溝跡 SF：道路状遺構 SZ：周溝墓 SX：不明遺構
5. 遺構覆土および土器類の色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 2006）に拠った。
6. 本文中や挿表中において、〈 〉は残存値を、（ ）は推定値を、それぞれ示す。
7. 本書で使用する火山灰指標テフラの略称は以下のとおりである。 As-A：浅間A軽石（西暦 1783 年）
As-B：浅間B軽石（西暦 1108 年） Hr-FA：榛名山二ツ岳渋川テフラ（Hr-S・6 世紀初頭）
As-C：浅間C軽石（3 世紀後葉～末葉） Hr-FP：榛名山二ツ岳伊香保テフラ（Hr-I・6 世紀中葉）
8. 本書作成のために使用した参考・引用文献については、紙幅の都合で割愛した。ご寛恕願いたい。

目次

はじめに
例言
凡例
目次

I	調査に至る経緯	1
II	地理的・歴史的環境	2
	1. 地理的環境	2
	2. 歴史的環境	3
III	調査の方法と経過	5
	1. 調査の方法	5
	2. 調査の経過	5
元総社蒼海遺跡群 (100)		
IV	標準堆積土層	8
V	遺構と遺物	8
	1. 遺跡の概要	8

元総社蒼海遺跡群 (101)		
VI	標準堆積土層	36
VII	遺構と遺物	36
	1. 遺跡の概要	36
VIII	自然科学分析(人骨鑑定)	62
IX	まとめ	66

写真図版(100)・(101)
抄録
奥付

挿図目次

Fig. 1	調査区位置図	1
Fig. 2	遺跡位置図	2
Fig. 3	周辺の遺跡	3
Fig. 4	元総社蒼海遺跡群(100)遺構全体図①	6
Fig. 5	元総社蒼海遺跡群(100)遺構全体図②	7
Fig. 6	[100]標準堆積土層	8
Fig. 7	[100]遺構図(1) H-1・2・3号住居跡	13
Fig. 8	[100]遺構図(2) H-6・7・9号住居跡	14
Fig. 9	[100]遺構図(3) B-1・2・3号掘立柱建物跡	15
Fig. 10	[100]遺構図(4)ピット全体図	16
Fig. 11	[100]遺構図(5)ピット群(西端)/D-1・2号土坑	17
Fig. 12	[100]遺構図(6) B-4~7号掘立柱建物/ SA-1・2号柱穴列	18
Fig. 13	[100]遺構図(7) D-3~19・23・31号土坑	19
Fig. 14	[100]遺構図(8) D-22・24~29・32~35号土坑/ W-1・6・7号溝	20
Fig. 15	[100]遺構図(9) W-2 a・2 b号溝	21
Fig. 16	[100]遺構図(10) W-2 b・3・5・8号溝/ SF-1号道路状遺構	22
Fig. 17	[100]遺構図(11) W-4・10・11号溝 (W-2 b・3・5・8号溝/SF-1号道路状遺構)	23
Fig. 18	[100]遺構図(12) W-9・13号溝(SZ-1周溝墓)①/ W-12号溝①	24
Fig. 19	[100]遺構図(13) W-9・13号溝(SZ-1周溝墓)②	25
Fig. 20	[100]遺構図(14) W-9・13号溝(SZ-1周溝墓)③/ W-12号溝②	26
Fig. 21	[100]遺物図(1) H-2・6号住居跡/H-7号住居跡①	27

Fig. 22	[100]遺物図(2) H-7号住居跡②/H-9号住居跡/ P-12/D-16・17号土坑	28
Fig. 23	[100]遺物図(3) D-19・31号土坑/BP-3・7・9/ W-2・3・4・6・9・11・13号溝/遺構外出土遺物①	29
Fig. 24	[100]遺物図(4)遺構外出土遺物②	30
Fig. 25	[100]遺物図(5)遺構外出土遺物③	31
Fig. 26	[101]標準堆積土層	36
Fig. 27	元総社蒼海遺跡群(101)遺構全体図①	37
Fig. 28	元総社蒼海遺跡群(101)遺構全体図②	38
Fig. 29	[101]遺構図(1) H-1・3・10号住居跡	42
Fig. 30	[101]遺構図(2) H-4・6・7・9・15・17号住居跡①	43
Fig. 31	[101]遺構図(3) H-4・6・7・9・15・17号住居跡②	44
Fig. 32	[101]遺構図(4) H-4・6・7・9・15・17号住居跡③	45
Fig. 33	[101]遺構図(5) H-4・6・7・9・15・17号住居跡④ H-11・12・16号住居跡①	46
Fig. 34	[101]遺構図(6) H-11・12・16号住居跡② H-13号住居跡/T-1号竪穴状遺構	47
Fig. 35	[101]遺構図(7) B-1・2・3・4号掘立柱建物跡/ ピット群(南部)	48
Fig. 36	[101]遺構図(8) B-5号掘立柱建物跡/ D-14・17・18・27・28・31号土坑	49
Fig. 37	[101]遺構図(9) SA-1号柱穴列/ D-7・8・33~36号土坑/D-21号土坑	50
Fig. 38	[101]遺構図(10) D-2~5・9~13・22~25号土坑	51
Fig. 39	[101]遺構図(11)縄文時代 土坑・ピット	52
Fig. 40	[101]遺構図(12) I-1号井戸/W-1~5号溝	53

Fig.41 [101] 遺物図 (1) H-1・3・6・10号住居跡…………… 54
 Fig.42 [101] 遺物図 (2) H-11・12・13・16号住居跡 /
 D-8・17号土坑 / D-21号土坑①…………… 55

Fig.43 [101] 遺物図 (3) D-21号土坑② /
 D-22・26・31・34・37・40・41・50・52号土坑…………… 56
 Fig.44 [101] 遺物図 (4) B P-2 / W-5号溝 / 遺構外出土遺物 …… 57
 Fig.45 元総社蒼海遺跡群 (7) (9) (10) (100) 古代遺構全体図 …… 66

挿 表 目 次

Tab. 1 周辺遺跡一覧表 …………… 4	Tab. 9 [101] 遺構一覧表 (1) 住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡・ 柱穴列・土坑…………… 40
Tab. 2 [100] 遺構一覧表 (1) 住居跡・掘立柱建物跡・柱穴列・土坑…………… 10	Tab.10 [101] 遺構一覧表 (2) 土坑・溝…………… 41
Tab. 3 [100] 遺構一覧表 (2) 土坑・溝・周溝墓・道路状遺構 …… 11	Tab.11 [101] 出土遺物観察表 (1) 住居跡…………… 58
Tab. 4 [100] 遺構一覧表 (3) As-B混ピット・ピット…………… 12	Tab.12 [101] 出土遺物観察表 (2) 住居跡・土坑…………… 59
Tab. 5 [100] 出土遺物観察表 (1) 住居跡 …… 32	Tab.13 [101] 出土遺物観察表 (3) 土坑…………… 60
Tab. 6 [100] 出土遺物観察表 (2) 住居跡・土坑・溝 …… 33	Tab.14 [101] 出土遺物観察表 (4) ピット・溝・ 遺構外出土遺物…………… 61
Tab. 7 [100] 出土遺物観察表 (3) 溝・ピット・遺構外出土遺物 …… 34	
Tab. 8 [100] 出土遺物観察表 (4) 遺構外出土遺物 …… 35	

写 真 図 版 目 次

P L . 1 (100)
 元総社蒼海遺跡群 (100) 空撮全景 榛名山方面を望む
 元総社蒼海遺跡群 (100) 空撮全景 (真上から)
 H-1号住居跡・W-10号溝 全景 (東から)
 H-6号住居跡 全景 (南西から)

P L . 2 (100)
 H-7・9号住居跡 Hr-FA 残存範囲 全景 (西から)
 H-7号住居跡 遺物出土状況 (南東から)
 W-4号溝、B-1~3号掘立柱建物跡 全景 (西から)
 D-16号土坑 全景 (東から)
 D-31号土坑 全景 (北西から)
 W-2号溝・H-2号住居跡 全景 (北から)
 W-3号溝 全景 (北から)
 W-3号溝 土層断面 (南西から)

P L . 3 (100)
 S F-1号道路状遺構、W-5・8号溝 全景 (北から)
 W-4・11号溝、西端遺構群 全景 (西から)
 W-9号溝 (S Z-1周溝墓) 全景 (南から)
 W-9号溝 (S Z-1周溝墓) 全景 (北東から)
 W-13号溝 (S Z-1周溝墓) I-I'土層断面 (南東から)
 W-13号溝 I-I'土層断面 壁際堆積土 (南から)
 W-13号溝 遺物出土状況 (北東から)
 W-13号溝 遺物出土状況 (北から)

P L . 4 (100)
 出土遺物 (1) H-2・6・7・9号住居跡、P-12号ピット

P L . 5 (100)
 出土遺物 (2) B P-3・7・9・13号ピット、
 D-16・17・19・31号土坑、
 W-2~4・6・9・11・13号溝

P L . 6 (100)
 出土遺物 (3) 遺構外出土遺物①

P L . 7 (100)
 出土遺物 (4) 遺構外出土遺物②

P L . 8 (101)
 元総社蒼海遺跡群 (101) 空撮全景 (東から)
 H-1号住居跡 全景 (西から)
 H-6号住居跡 全景 (西から)
 H-6号住居跡 出入口張出部 (北東から)
 H-7号住居跡・H-17号住居跡カマド 全景 (西から)
 H-15号住居跡 全景 (西から)
 H-16号住居跡 全景 (南から)

P L . 9 (101)
 H-11・12号住居跡 全景 (西から)
 H-12号住居跡カマド 全景 (西から)
 H-13号住居跡 全景 (西から)
 T-1号竪穴状遺構 全景 (西から)
 B-5号掘立柱建物跡 全景 (北から)
 中世土坑群 (中央D 10土)・ピット群 全景 (南から)
 縄文遺構群 全景 (北から)
 D-40号土坑 全景・遺物出土状況 (南東から)

P L .10 (101)
 D-21号土坑 全景・人骨検出状況 (南東から)
 D-21号土坑 頭蓋骨近景 (東から)
 D-21号土坑 全景 (人骨取上げ後)・遺物出土状況 (東から)
 D-21号土坑 副葬品近景 (北東から)
 W-1号溝、中世遺構群 全景 (西から)
 W-2・3号溝 全景 (東から)
 基本層序A (東から)
 基本層序B (東から)

P L .11 (101)
 出土遺物 (1) H-1・3・6・10号住居跡、H-11号住居跡①

P L .12 (101)
 出土遺物 (2) H-11号住居跡②、H-12・13・16号住居跡
 B P-2号ピット、D-8・17・21号土坑

P L .13 (101)
 出土遺物 (3) D-22・26・31・34・37・40・41・50・52号土坑

P L .14 (101)
 出土遺物 (4) W-5号溝、遺構外出土遺物

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、その15年目にあたる。本調査地は、周辺において埋蔵文化財発掘調査が長年に亘って実施されており、遺跡地であることが周知されている。

平成26年11月13日付けで前橋市長 山本 龍（区画整理第二課）より埋蔵文化財発掘調査業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、市教委の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することとなり、同年12月10日付けで前橋市と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所との間で業務委託契約が締結され、同年12月11日に発掘調査に関わる業務が開始された。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（100）」（遺跡コード：26A196）、「元総社蒼海遺跡群（101）」（遺跡コード：26A197）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、「（100）・（101）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

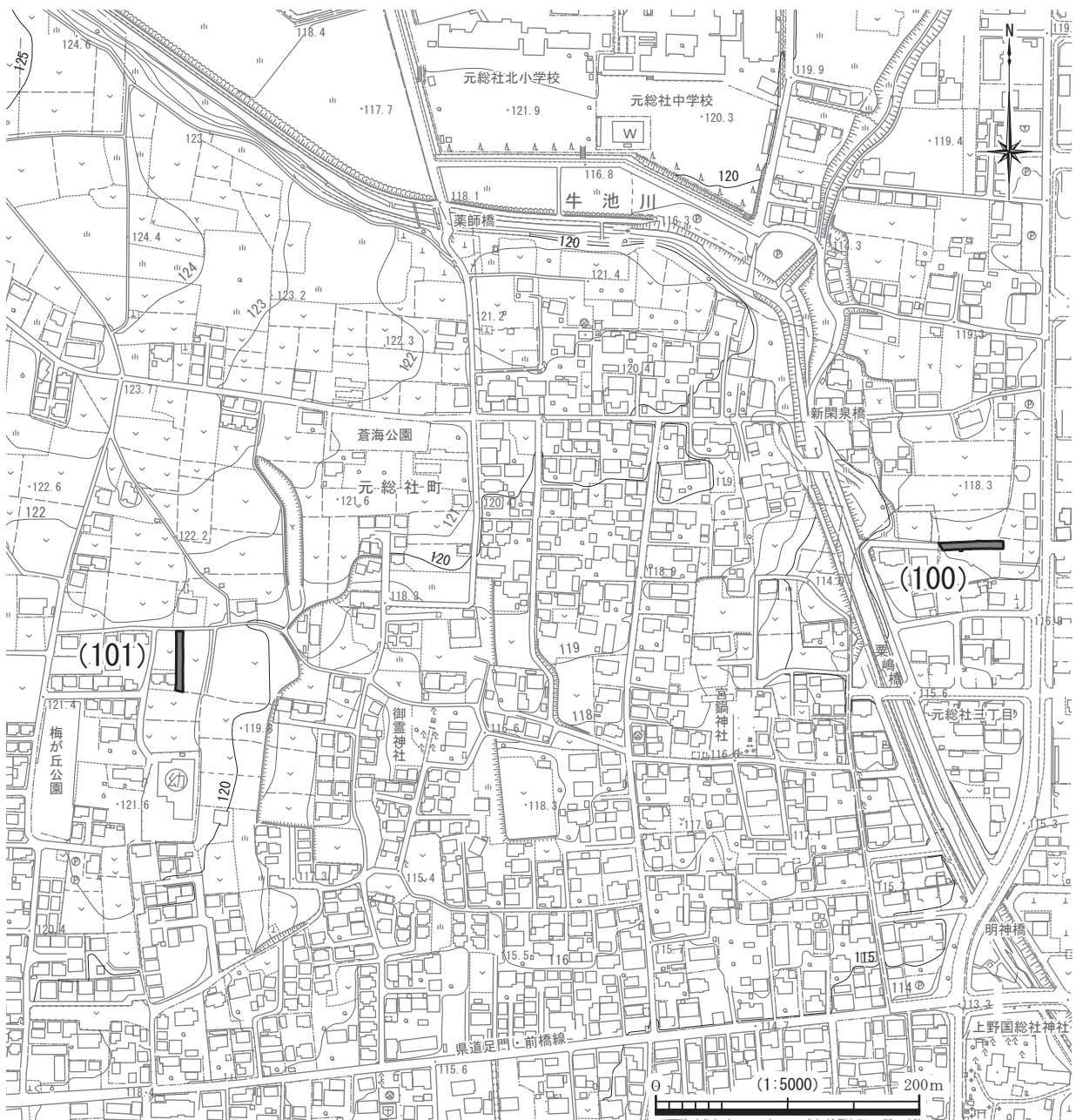


Fig. 1 調査区位置図（前橋市現形図 昭和43年 1/2500 を改変）

Ⅱ 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

本遺跡は、前橋市の南西部に広がる前橋台地（前橋・高崎台地）上に立地し、榛名山東南麓の相馬ヶ原扇状地末端部にも該当する。井野川と広瀬川（旧利根川）に挟まれた広大な地域が前橋台地と呼ばれ、赤城火山と榛名火山の両山麓の間から流下した利根川が形成した扇状地性台地である。現利根川は15世紀代に変流し、台地中央部を貫流することとなった。

前橋台地の下部には利根川扇状地が形成した厚さ100mの前橋砂礫層が堆積しており、2.5万年前頃までに形成が終了したとされる。浅間板鼻褐色軽石群（As - BP Group、2.4～1.9万年前）降下期間中の最終氷期最寒冷期に該当する2.1万年前頃には、黒斑山の崩壊に伴う浅間応桑岩屑なだれに起因した前橋泥流が、15m前後の厚さで前橋砂礫層を覆う。前橋泥流の上部には前橋泥炭層が形成されており、泥流堆積による排水不良などが原因と言われている。1.6万年前頃には、榛名火山の山体崩壊による陣場岩屑なだれが発生し、榛名山南東麓に広大な相馬ヶ原扇状地を形成した。この岩屑なだれによって、利根川の流路が赤城山西南麓、現広瀬川の辺りに固定されたと考えられている。その後、約1.3～1.4万年前に浅間板鼻黄色軽石（As - YP）が降下し、1.1万年前頃には浅間総社軽石（As - SJ）が降灰する。同じ頃、高崎台地では井野川と烏川の間井野川泥流が堆積している。

As - SJが混入する前橋上部泥炭層の上には、粘土・シルト・細砂の互層からなる総社砂層が、およそ2～5mの厚さで広範囲に堆積している。この総社砂層が本遺跡群の直接的基盤層（地山）となっている。相馬ヶ原扇状地からは、染谷川・牛池川・八幡川などが南東流し、総社砂層はこれらの中小河川によって供給された堆積物のようである。元総社蒼海遺跡群（100）では、総社砂層最上層は黄褐色細粒シルト層であった。総社砂層の上部には黒色土（黒ボク土）が堆積し、縄文時代の遺物包含層となっている遺跡もある。総社砂層の堆積終了時期、離水期の詳細は不明ながら、黒色土中の縄文時代の遺跡形成は前期後葉の諸磯式期以降に始まる。

元総社蒼海遺跡群（100）は牛池川左岸の自然堤防上に立地し、元総社公民館（元総社蒼海遺跡群7・9・10）の南側隣接地である。元総社蒼海遺跡群（101）は牛池川と染谷川に挟まれた台地に立地し、蒼海城の最外郭付近に該当する。元総社町一帯は遺跡密集地として知られ、特に上記の台地に集中する。



Fig. 2 遺跡位置図（国土地理院発行『宇都宮』・『長野』20万分の1図を改変）

2. 歴史的環境

染谷川・牛池川・八幡川（滝川）流域は遺跡密集地であり、縄文時代から中近世まで連綿と集落や生産地が営まれている。特に白鳳期・律令期には寺院と国府が置かれ、上野国の中心地として機能している。

縄文時代は、元総社蒼海遺跡群（13）・（48）〔以下、元総社蒼海（番号）と表記〕などで前期後葉・諸磯式期の集落が調査されており、現時点ではこの頃から居住が開始されるようである。元総社明神遺跡Ⅷでは晩期終末～弥生初頭の土器が出土しており、元総社蒼海（7）（9）（10）においては晩期前半の住居跡が確認されている。隣接地にあたる今回の元総社蒼海（100）においても晩期の遺物が出土した。元総社蒼海（48）からも晩期の遺物が出土し、いずれも河川沿いの台地縁に立地することに注意しておきたい。古墳時代前期以降には低地の水田開発が始まり、元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡では堰を伴う水路や、Hr-FA 直下および Hr-FP 泥流直下の水田跡、FA 泥流・FP 泥流の上面を鋤き込む畝跡が検出されている。今回調査した元総社蒼海（100）やその周辺では方形周溝墓が確認されており、牛池川左岸の台地上には前期・中期の大型集落が予想される。

7世紀代に入ると家形石棺を伴う愛宕山・宝塔山・蛇穴山の三方墳が造営され、山王廃寺が建立されるなど、総社地域の強大な権力中枢機能が明瞭になってくる。元総社蒼海（9）（10）の長大な掘立柱建物跡も注目される。

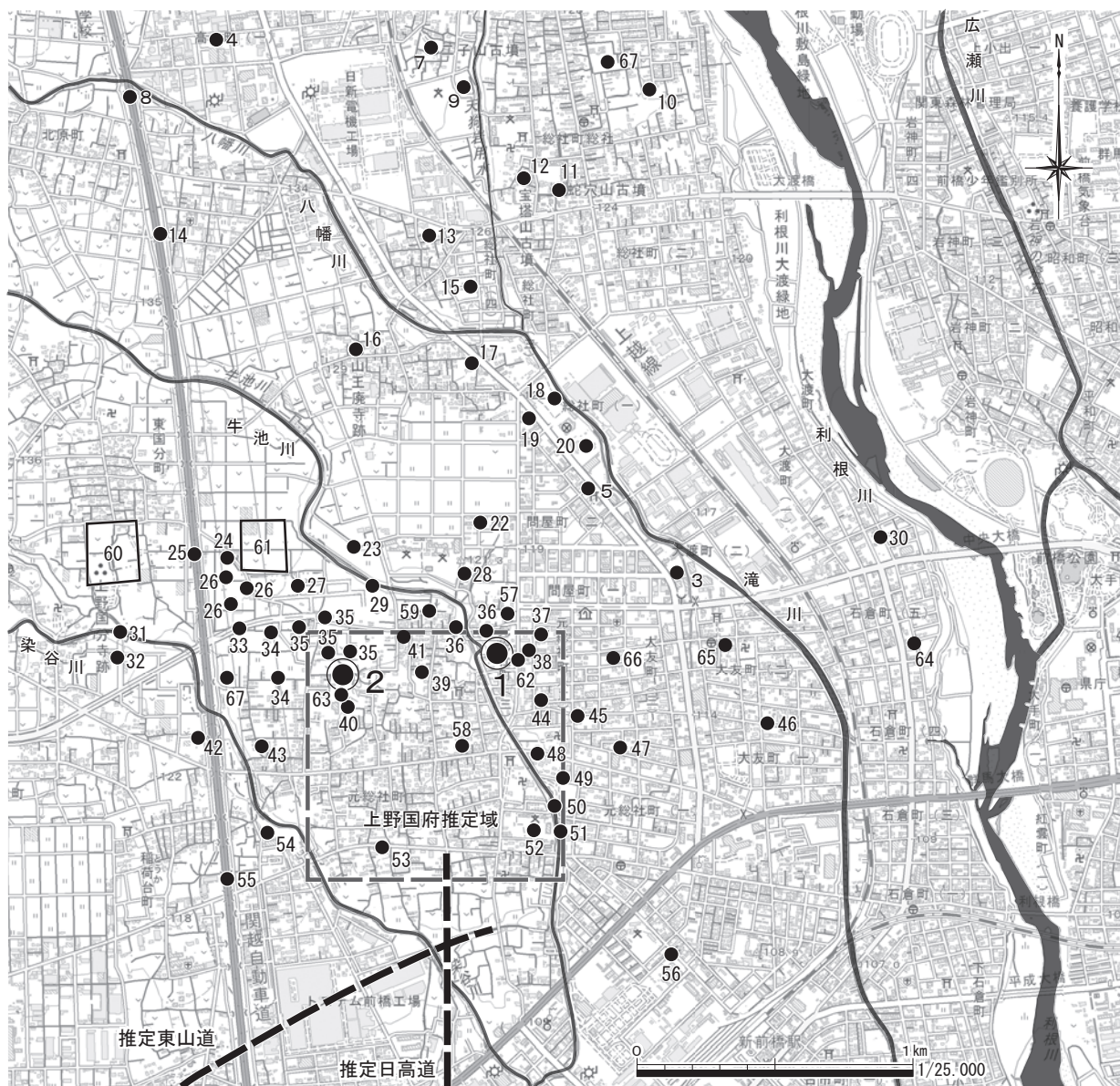


Fig. 3 周辺の遺跡（国土地理院発行『前橋』25,000分の1図を改変）

律令期に入ると元総社地域に上野国府が置かれ、国府の北西に国分僧寺・国分尼寺が造営される。元総社蒼海(7)(9)(10)や閑泉樋遺跡などでは、国府北限の推定東西大溝が確認されている。国府推定域南方には、東山道(通称国府ルート)や日高道の存在が想定されている。今後も元総社地区の区画整理事業は続くため、それに伴う調査によって国庁や正倉の実態が明らかになる日も遠くないだろう。

中世には上野国守護代の長尾氏が、国府跡地に蒼海城を築いた。これまでの調査では、主郭をはじめ、巨大な空堀や建物跡などが調査されている。戦国期には石倉城・大友城・村上城などが林立し、本遺跡の南方には八日市場城がある。元総社蒼海(7)(9)(10)では、古代の大溝と並行する巨大な堀も発見されている。他方、溝や浅い堀などで囲郭された「屋敷」も多数分布しているようであり、大渡道場遺跡では戦国期の埋納銭572枚が検出された。近世には秋元氏が総社城を築き、慶長9(1604)年に天狗岩用水を開削している。

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代					
		縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世			縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
1	元総社蒼海遺跡群(100)	●	●	●	●	●	●	31	元総社西川遺跡			●	●		
2	元総社蒼海遺跡群(101)	●		●	●	●	●	32	上野国分寺参道遺跡			●	●		
3	大渡道場遺跡			●	●	●	●	33	元総社小見遺跡	●		●	●		
4	柿木遺跡・II遺跡				●			34	元総社小見III遺跡	●		●	●		●
5	稲荷山古墳			●					元総社草作V遺跡			●	●	●	●
6	大小路山古墳			●				35	元総社小見内IV遺跡				●	●	
7	総社二子山古墳			●					元総社小見内VIII遺跡				●	●	
8	北原遺跡	●		●	●				元総社小見内IX・X遺跡			●	●	●	
9	愛宕山古墳			●					元総社蒼海遺跡群(2)(6)			●	●	●	
10	遠見山古墳			●					元総社蒼海遺跡群(11)			●	●	●	
11	蛇穴山古墳			●				36	総社閑泉明神北遺跡			●	●	●	
12	宝塔山古墳			●					総社閑泉明神北II遺跡			●	●		
13	村東遺跡			●	●	●			総社閑泉明神北V遺跡			●	●		
14	国分境遺跡			●	●				元総社蒼海遺跡群(7)				●	●	
	国分境II遺跡			●	●				元総社蒼海遺跡群(9)(10)			●	●	●	
	国分境III遺跡			●	●	●		37	閑泉樋遺跡				●		
15	大屋敷遺跡I~VI	●		●	●	●		38	閑泉樋南遺跡			●	●		
16	山王廃寺跡			●				39	元総社宅地遺跡1~23 トレンチ			●	●	●	●
17	昌楽寺廻向遺跡・II遺跡				●			40	草作遺跡			●	●	●	
18	産業道路東遺跡	●						41	元総社蒼海遺跡群(23)			●	●	●	
19	産業道路西遺跡	●						42	塚田村東遺跡				●		
20	稲荷塚道東遺跡			●	●			43	元総社蒼海遺跡群(8)				●		
21	稲荷山古墳			●				44	屋敷遺跡・II遺跡			●	●	●	
22	総社甲稲荷塚大道西遺跡				●	●	●	45	堰越II遺跡				●		
	総社甲稲荷塚大道西II遺跡			●	●		●	46	大友宅地添遺跡				●		
23	総社閑泉明神北IV遺跡・ 元総社牛池川遺跡・ 元総社北川遺跡・ 元総社小見内V遺跡	●	●	●	●	●	●	47	堰越遺跡				●		
24	元総社小見II遺跡	●		●	●	●		48	大友屋敷II・III遺跡			●	●		
	元総社小見IV・V遺跡	●		●	●	●		49	元総社明神遺跡I~13			●	●	●	
	元総社小見VI・VII遺跡	●		●	●			50	元総社寺田遺跡I~III			●	●	●	
	元総社蒼海遺跡群(4)	●		●	●			51	寺田遺跡						
25	上野国分僧寺・尼寺中間 地域	●	●	●	●	●		52	元総社小学校校庭遺跡				●		
26	元総社蒼海遺跡群(13)	●		●	●	●		53	天神遺跡・II遺跡				●		
27	元総社小見内VII遺跡	●			●	●		54	弥勒遺跡・II遺跡			●	●		
	元総社蒼海遺跡群(1)(5)				●	●		55	鳥羽遺跡			●	●		
28	総社甲稲荷塚大道西III遺跡			●	●			56	元総社稲葉遺跡	●			●		
	総社閑泉明神北III遺跡	●		●	●			57	元総社蒼海遺跡群(91)			●	●	●	
	総社甲稲荷塚大道西IV遺跡			●		●		58	元総社蒼海遺跡群(95)			●	●	●	
29	元総社小見内III遺跡			●	●	●		59	元総社蒼海遺跡群(39)			●	●	●	
	元総社小見内VI遺跡				●	●		60	上野国分寺跡				●		
	元総社蒼海遺跡群(12)			●	●	●		61	上野国分尼寺跡				●		
30	王山古墳			●				62	元総社蒼海遺跡群(75)				●	●	
								63	元総社蒼海遺跡群(78)			●	●		
								64	石倉城						●
								65	大友城						●
								66	村山城						●
								66	総社城						●
								67	元総社蒼海遺跡群(48)	●		●	●		

※ 本表の遺跡番号は本文および Fig. 3『遺跡分布図』の番号と一致している。

Ⅲ 調査の方法と経過

1. 調査の方法

工事の関係上、元総社蒼海遺跡群（101）から調査を始めた（以下、遺跡名は（100）、（101）と表記）。

（101）については、当初はT字形の調査区であったが、現況の植え込みが移設できないことから、急遽調査区を縮小することとなった。南側隣接地も元総社蒼海遺跡群（75）は調査開始直前まで発掘調査しており、調査区境界には巨大な空堀が東西に開口していた。表土掘削終了後には水道工事業者による埋戻しが速やかに行われた。表土掘削は0.45m³バックホーを用い、基本的にはAs－B混土直下を遺構確認面とした。調査区北側は埋没谷が存在するため、遺構覆土と包含層の区別が難しく、南側よりもやや深く掘り下げた。遺構調査は移植ゴテなどを用いて人力で行った。北半分はグリッドによる包含層調査を実施した。中世・古代の調査が終了した後で、北側の縄文時代の包含層を人力掘削し、各遺構を調査した。調査終了直後、水道工事業者によって下水管と人坑の敷設工事およびそれに伴う一部埋戻しが行われた。工事終了後、バックホー・振動ローラー・ランマーを用いて、填圧埋戻し作業を完了させた。

（100）の調査を開始した時点では、東側隣接地の（78）は調査中であった。調査区が繋がってしまうため、接壤地帯では互いに協力して作業にあたった。表土掘削は0.45m³バックホーを用いた。耕作土は仮置きし、地山が混ざる排土はダンプで搬出した。調査終了後には全面を埋め戻した。

両遺跡ともに測量基準となる公共座標は、周辺調査との整合性を保つために日本測地系および上野国分尼寺域確認調査ならびに元総社蒼海遺跡群で採用されたグリッドを使用した（X：44000.0000＝Y 0、Y：－72200.0000＝X 0）。平面測量は自動追尾トータルステーションを用い、断面測量は手実測した。遺構写真は35mm白黒・カラーリバーサルフィルムで撮影・記録し、デジタルカメラで補助した。調査終了後にはドローンによる空撮を実施した。

2. 調査の経過

発掘調査は平成26年12月11日から平成27年3月23日まで実施した。以下に概要を記す。

平成26年

12月11日：現地にて協議打ち合わせ。 17日：（101）プレハブ・仮設トイレ・器材搬入。調査区設定。

18日：重機による表土掘削開始（～22日）。 22日：作業員による遺構確認精査作業、遺構調査開始。

23日：（100）の重機表土掘削開始（～25日）。掘削完了後、全面をシート養生で保護。

26日：仕事納め。調査区全面の養生および安全対策を行う。（年末年始休暇中は見回り・巡視を実施）

平成27年

1月 5日：仕事始め。As－B混入覆土の中世遺構群と古代の住居跡・土坑などの調査を継続。北側はAs－C・Hr－FA混土の包含層を人力掘削、精査。

14日：古代の土坑群を調査したところ、掘立柱建物跡と判明。遺構調査・包含層調査・遺構確認を継続。

16日：D－21号土坑より人骨検出。南側の中世遺構群の調査が終了し、下部の住居群の調査を開始する。

2月 4日：ドローンによる空撮実施。 9日：（101）の調査終了。（100）に機材搬入。

10日：（100）遺構確認精査作業開始。

12日：As－B混覆土の中近世遺構群の調査開始。以降、溝・住居跡・掘立柱建物跡などの調査を実施する。

20日：W－9号溝（周溝墓）の調査を開始。以降、各遺構の調査を進める。

3月 3日：（101）の填圧埋戻し作業開始（～4日）。 5日：方形周溝墓（W－13号溝）の調査を始める。

9日：ドローンによる空撮実施。 13日：（100）調査終了。

16日：重機による埋戻し開始（～18日）。 23日：仮設トイレを撤収し、現場作業工程終了。

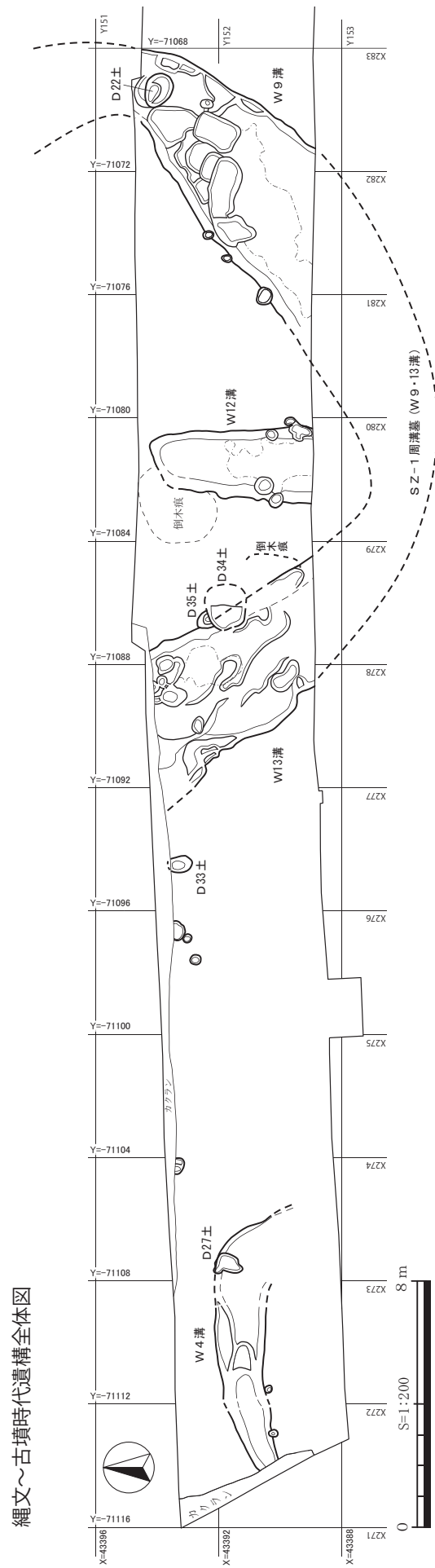
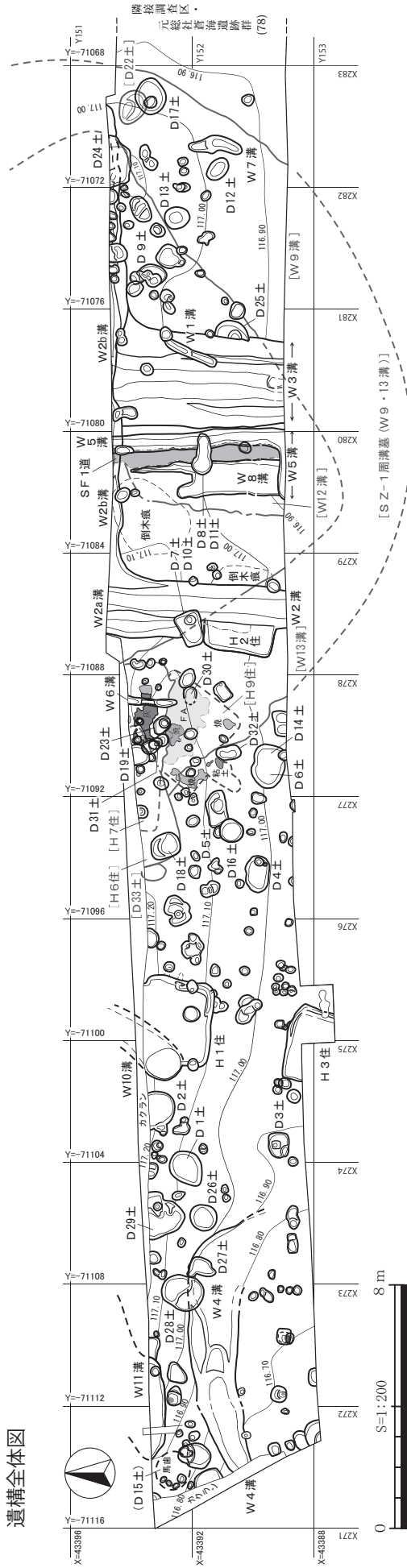
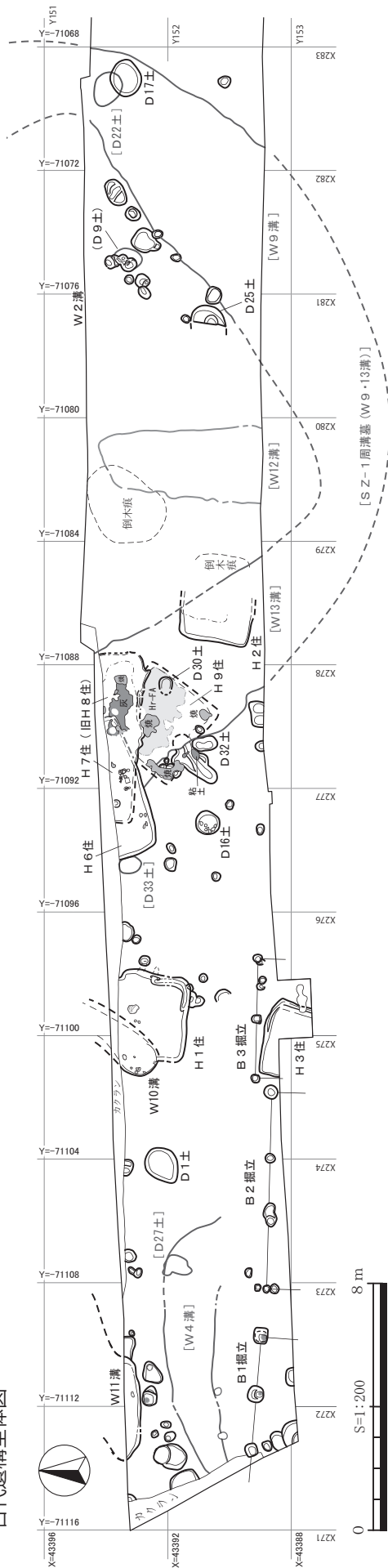


Fig. 4 元総社蒼海遺跡群 (100) 遺構全体図 ①

古代遺構全体図



中世遺構全体図

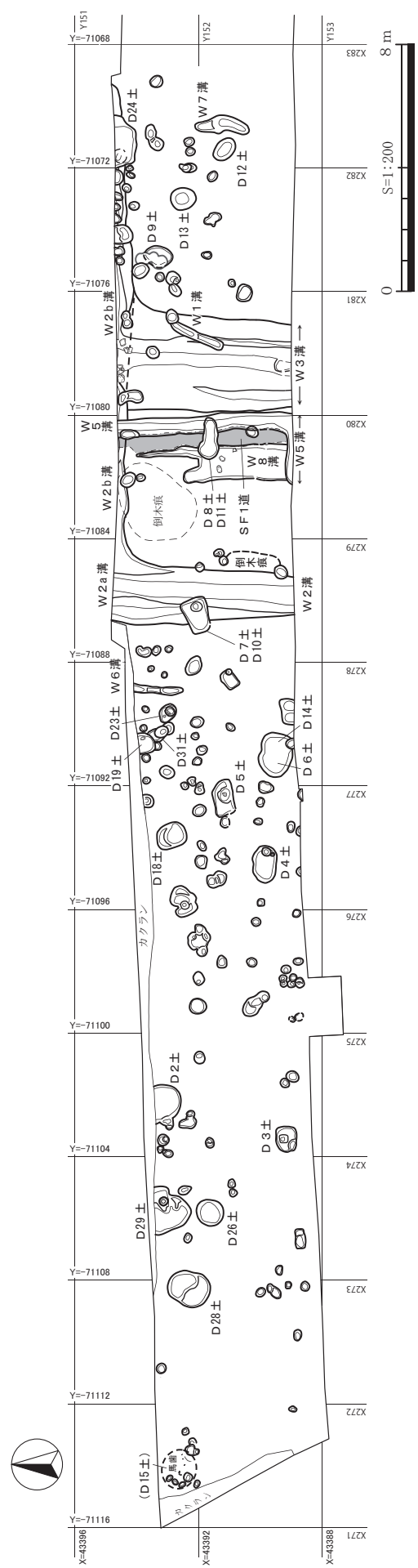


Fig. 5 元総社蒼海遺跡群 (100) 遺構全体図 ②

元総社蒼海遺跡群 (100)

IV 標準堆積土層

(100) 調査区の現況は畠地であり、西側ほど表土が薄く、表土・耕作土直下が地山の総社砂層であった。東側の南壁には部分的に本来の基本土層が残存していたものの、北壁では総社砂層まで削平されていた。

しかし、W-12号溝に切られる倒木痕には総社砂層漸移層と黒色土が残存し、W-9号溝壁際覆土には密度の高いAs-C堆積が検出され、W-13号溝覆土上面にはHr-FAの一次堆積層がわずかに残存していた。以上の所見と各時代の遺構覆土から本来の標準堆積土層を想定すると、I層：表土 II層：As-B混入褐灰色土

III層：As-C・Hr-FA混入褐色土（竪穴住居覆土） IV層：Hr-FA V層：As-C混入黒色土 VI層：暗褐色～黒褐色土（縄文時代包含層） VII層：褐色漸移層 VIII層：総社砂層（黄褐色シルト層・褐灰シルト層・褐灰硬化シルト層・褐灰粗粒シルト層・・・）となる。実際の調査区壁の土層断面ではIII・IV・V層は確認できない。

北側に隣接する元総社蒼海遺跡群(9)(10)の調査では、本調査区から約30m北側の地点において、表土～総社砂層までは約1mを測るため、大半はI・II層によって削平を受けているものと推測する。

VIII層総社砂層については、最上位の黄褐色シルト層がわずかにローム質の印象を受ける場合がある。総社砂層上面での等高線は中央部が117.200mで最も高く、牛池川による自然堤防上の稜線が調査区中央付近を通過していることが分かる。

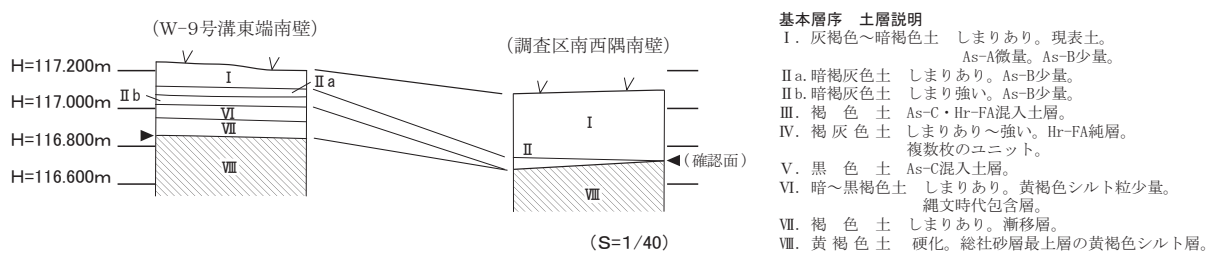


Fig. 6 [100] 標準堆積土層

V 遺構と遺物

1. 遺跡の概要

本遺跡は牛池川が大きく屈曲する左岸の自然堤防上に立地する。北側隣接地は元総社蒼海遺跡群(7)(9)(10)として報告されており、その成果をおおむね踏襲して補完するような内容ではあるが、新たな知見や発見も追加された。本遺跡(100)の主要な時期は、縄文時代晩期・古墳時代前期初頭・7世紀後半・10世紀後半・11世紀前半・中世となっている。以下、各時代ごとに概要を記述し、個別遺構については一覧表を参照されたい。

縄文時代

縄文時代では、中期後葉の土器が数点と、晩期の遺物がやや多く出土した。総遺物量は200点に満たない。晩期の土器・石器の大半はW-13号溝覆土に混入しており、同溝によって住居跡などが滅失したものと推測される。遺構外-2は大洞B2式の台付鉢で、円孔を中心基点とした4単位の入組三叉文が施文される。遺構外-3は大洞B式の範疇に入る深鉢であろう。遺構外-4は大洞C1式と思われる小型台付浅鉢の破片で、口縁部は透かし彫り状を呈する。遺構外-8は大洞A式に含まれる突起と推測するが、深鉢か浅鉢かは不明である。遺構外-5～7・9は安行3式併行の粗製深鉢であろう。わずかに1点ながら大洞A式が認められたことは、晩期末～弥生時代初頭の「元総社明神遺跡VIII」への足掛かりが広がったとも言える。石器では、遺構外-11～16が石鏃の製品と未製品で、全て図示した。石鏃が卓越する、いわゆる晩期的な石器組成であると理解される。明確なスクレイパーは非常に少ないが、2次加工剥片(リタッチドフレイク)は図示以外にも数点ある。100点ほど

の石器類のなかから、剥片・スクレイパー（遺構外 22）と、石核（遺構外- 23）の接合資料を得た。遺存状態不良で未掲載ながら、黒色頁岩の残核と思しき石器も 1 点ある。叩石は 3 点図示したが、石鏃を主体とする剥片石器製作を行っていたものと推定される。石材は頁岩・安山岩が主体を占める。ただし、石鏃と同一母岩の石核はなく、元総社（9）（10）も含めた再検討が必要であろう。

古墳時代

W-9・13号溝を方形周溝墓（SZ-1）とした。方台部推定規模は一辺 16 mを測る。断面形はいずれも方台部側が急傾斜である。W-9号溝では南側が硬化した平坦面なのに対し、北側は小土坑状の掘り込みによって凹凸が著しい。これらの覆土は地山を多量に含む褐色土であり、埋め戻されていた可能性がある。W-13号溝では底面に被熱痕を 1 か所検出したが、成因は不明である。また、同溝覆土中の方台部側には地山ブロックを大量に含む土層があり、人為的に埋め戻されている。本来の深さは不明ながら、覆土上面で Hr-FA の一次堆積を検出したことから、この時点では窪地として残っていたものと想像される。両溝とも壁際の立ち上がり部分には純度の高い As-C がわずかに堆積しており、掘削時期は As-C 降下直後の可能性がある。なお W-9号溝からは弥生後期の土器片 1 点が出土した。SZ-1 は元総社（7）にも延びるはずであったが、おそらくは倒木痕などにより遺構が判然としなかったものと思われる。W-4号溝・W-12号溝も SZ-1 同様、As-C を多量に含む黒色～黒褐色土で埋没している。削平や調査区の制約によって全体像は不明ながら、W-4号溝は周溝墓であった可能性が高い。周辺一帯に墓域および前期集落が展開するものと予想され、元総社北川遺跡・牛池川遺跡などの水田耕作や用水路工事などを担った集団とは直接的関係がうかがわれる。

調査区中央の D-30 号土坑は Hr-FA で埋没した小土坑である。

7世紀以降

7世紀後半の遺物が伴う遺構には、H-2号住居跡・H-6号住居跡・W-11号溝・P-12がある。いずれも遺物量は極めて少ない。H-2号住居跡は一辺 2 m強の貼床を伴う小竪穴で、カマドの有無は不明である。図示した土師器甕は H-6号住居跡出土遺物と接合した。ただし主軸方位が同時期の他遺構と異なっており、混入の可能性も排除できない。H-6号住居跡は元総社（7）の H-2号住居と同一竪穴であろう。完形の坏が 1 点出土し、薦編石 4 点が南西壁付近にまとまる。元総社（7）の W-3号溝の末端が、本遺跡の W-11号溝と考えられる。P-12 は掘立柱建物に伴う柱穴であろうか。7世紀後半は、元総社（9）（10）の長大な B-1号掘立柱建物や住居群の辺縁が本遺跡に該当する。

本遺跡は、推定国府北限区画溝〔元総社（7）（9）の W-1 溝〕の内側に該当することから、国府造営期にあたる 8 世紀代の明確な遺構・遺物は認められない。W-10号溝は、元総社（7）の W-4号溝の末端に該当し、数点の礫が出土した。H-1号住居跡がこの溝を破壊している。ともに図示できる遺物はないが、H-1号住居跡覆土中からは 9 世紀代の土師器甕（コの字甕）の小片が 1 点出土しており、この時期の可能性はある。竪穴は小規模で、東壁に性格不明な横穴が 2 基ある。焼土や灰も検出できず、竪穴廃絶時にはすでに埋没していたものと考えられる。H-3号住居跡も小竪穴で、遺物は皆無であったが、主軸方位や規模・形状の相同性から、一応は同時期と推測しておく。竪穴覆土の一部は埋め戻されていた。

10 世紀後半の確実な遺構は H-7号住居跡がある。当初、H-6・8号住居跡（H-8住は整理段階で欠番）との峻別ができずに調査を進めてしまったため、竪穴は北壁土層断面から推定した。覆土下層にはほぼ全面に灰層が堆積しており、上屋などの焼失が想定される。竪穴南西のほぼ床面直上に遺物集中があり、完形の坏や碗などが重なるようにして遺棄されている。墓坑のような出土状態であり、別遺構が重複していたか、そもそも住居以外の施設であった可能性を残しておく。H-9号住居跡は竪穴がほぼ削平された焼失住居と想定した。地床が

直接焼けこんでおり、焼土の分布範囲から平面形を推測した。煙道が南西方向へ延びるカマドの掘り方を確認している。北壁際から円筒埴輪片が出土したが、厚底の須恵器坏片（未掲載）も出土しており、構築時期は10世紀代と推定する。D-1号土坑からは灰釉陶器片が、D-17号土坑からは平瓦片が出土している。D-16号土坑は円筒状で、底面から砥石や焼礫と11世紀代の須恵器坏等が出土した。墓坑の可能性もある。掘立柱建物は3棟確認した。いずれも主軸方位は真北（東西）を指向しており、元総社（9）（10）の状況を踏まえれば、8～10世紀代と推測する。B-1号掘立柱建物は柱端圧痕が明瞭で、P5は方形を呈する。調査区西端のP8～P13は規模や形状から掘立柱建物に伴う柱穴と考えられるが、本体は調査区外と想定する。

Tab. 2 [100] 遺構一覧表（1）住居跡・掘立柱建物跡・柱穴列・土坑

住居跡一覧表（H-4・5・8号住居跡は欠番） 単位：m

遺構名	グリッド	平面形	主軸方位	長軸×短軸×深さ	カマド	貯蔵穴	遺物	所見	時期
H-1号住居跡	X 276, Y 152	隅丸正方形	N-9°-E	2.93 × (2.30) × 0.42	区外、北カ	不明	土師器甕、須恵器甕	東壁に性格不明横穴2。W10溝を切る。	9世紀代カ
H-2号住居跡	X 279, Y 153	隅丸長方形	N-100°-E	2.33 × (1.04) × 0.23	消滅、東カ	不明	土師器甕(H6住と接合あり)	W2溝が東半破壊。	7世紀後半
H-3号住居跡	X 274, Y 153	方形	N-102°-E	1.12 × 0.84 × 0.26	区外、東カ	不明	土師器小片1点のみ	北・東壁にわずかな段。覆土の一部埋戻し。	不明
H-6号住居跡	X 276, Y 152	隅丸方形	N-72°-W	4.48 × (1.38) × 0.39	区外、東カ	不明	土師器坏・甕、砥石、藤編石	H7住が上層を破壊。	7世紀後半
H-7号住居跡	X 278, Y 152	隅丸方形	N-93°-W	5.53 × (1.47) × 0.15	区外、東カ	不明	須恵器坏・埴、羽釜、灰釉陶器、砥石、土製品	遺物の一括廃棄。床に焼土と厚い灰層。焼失住居	10世紀後半
H-9号住居跡	X 278, Y 153	隅丸方形カ	N-142°-W	(2.8) × (2.7) × 0.05	南西壁	不明	須恵器坏、円筒埴輪	地床が被熱し焼土化。	10世紀後半

掘立柱建物跡一覧表 単位：m

遺構名	グリッド	平面形	主軸方位	棟方向	梁間×桁行	平均柱間	遺物	所見	時期
B-1号掘立柱建物跡	X 272・273, Y 153	長方形カ	N-95°-E	東西棟	— × (3.64) — × (2間)	桁行平均1.825	なし	北辺の3基のみ確認。北東隅P5は平面方形。P5・6で柱端圧痕。	8～10世紀
B-2号掘立柱建物跡	X 274・275, Y 153	長方形カ	N-91°-E	東西棟	— × 6.38 — × 3間	桁行平均2.126	なし	小柱穴4基、北辺のみ確認。	8～10世紀
B-3号掘立柱建物跡	X 276, Y 153	長方形カ	N-1°-E	南北棟	3.87 × — 2間 × —	梁間平均1.935	なし	小柱穴3基、北辺のみ確認。	8～10世紀
B-4号掘立柱建物跡	X 274-277, Y 152・153	長方形	N-84°-W	東西棟	3.2 × 12.0 2間 × 6間	桁行平均2.00 ≒ 6.6尺	なし	主屋。面積38.4㎡。南西・南東隅は推定。	中世
B-5号掘立柱建物跡	X 276-281, Y 152・153	長方形	N-0°-	東西棟	3.23 × 13.46 1間×6間+下屋	桁行平均2.036 ≒ 6.72尺	なし	主屋。梁間東面下屋底1間。南辺東半分は推定。総面積43.4㎡。身舎39.3㎡。	中世
B-6号掘立柱建物跡	X 276-278, Y 152・153	長方形	N-84°-W	東西棟	3.35 × 5.7 1～2間×3間	桁行平均1.897 ≒ 6.26尺	なし	付属建物カ。面積推定19.1㎡。北西隅は推定。	中世
B-7号掘立柱建物跡	X 277-278, Y 152・153	長方形	N-88°-W	東西棟	— × 6.00 2間カ × 3間	桁行平均1.987 ≒ 6.55尺	なし	主屋カ。面積（梁間推定2間=24.6㎡）。	中世
SA-1号柱穴列	X 280-283, Y 152		N-89°-E	東西	4間、長さ10.45m	2.61m ≒ 8.61尺		SF-1号道路状遺構より新しい。W2b溝上に沿って位置する。	中近世
SA-2号柱穴列	X 280-283, Y 152		N-85°-E	東西	3間、長さ6.46m	2.143m ≒ 7.07尺		SA-1号柱穴列と並走・重複。建物の可能性あり。	中近世

土坑一覧表（1）[D-20・21号土坑は欠番] 単位：m

遺構名	グリッド	主軸方位	平面形	断面形	長軸×短軸×深さ	覆土	遺物	所見	時期
D-1号土坑	X 274, Y 152	N-55°-E	不整楕円形	浅皿状	1.30 × 1.00 × 0.13	暗褐色土	灰釉陶器、土師器甕		古代
D-2号土坑	X 275, Y 152	N-30°-W	楕円形	逆台形	(1.11) × 1.18 × 0.23	As-B混	須恵器坏・碗、縄文土器	須恵器は10世紀	中世以降
D-3号土坑	X 275, Y 153	N-90°-	隅丸方形状	浅皿状	0.84 × 0.67 × 0.07	As-B混	土師器小片	柱穴。柱穴深さ0.43	中世以降
D-4号土坑	X 277, Y 153	N-86°-E	小判形	逆台形	1.20 × 0.76 × 0.10	As-B混	土師器盤(8世紀)・坏	BP100を切る。	中世以降
D-5号土坑	X 277, Y 153	N-77°-E	不整隅丸長方形	浅皿状	1.10 × 0.67 × 0.14	As-B混		柱穴。D16土坑を切る。	中世以降
D-6号土坑	X 278, Y 153	N-35°-E	不整円形	逆台形	1.04 × 0.95 × 0.15	As-B混	土師器片	D14土坑を切る。	中世以降
D-7号土坑	X 279, Y 153	N-25°-E	長方形	逆凸形	0.82 × 0.64 × 0.17	As-B混	土師器片	柱穴、深さ0.42。D10土坑と重複。W2溝を切る。	中世以降
D-8号土坑	X 280, Y 153	N-90°-	長楕円形	浅皿状	0.67 × 0.46 × 0.10	As-B混		D11土坑・SF1道路状遺構を切る。	中世以降
D-9号土坑	X 282, Y 152	N-13°-E	楕円形	浅皿状	0.93 × (0.60) × 0.15	As-B混	獣四肢骨検出	P3を切る。	中世以降
D-10号土坑	X 279, Y 152	N-25°-E	隅丸方形状	逆台形	(0.63) × 0.68 × 0.18	As-B混		D7土坑に切られる。	中世以降
D-11号土坑	X 280, Y 153	N-86°-E	楕円形	浅皿状	0.77 × 0.67 × 0.12	As-B混		D8土坑に切られる。	中世以降
D-12号土坑	X 283, Y 153	N-41°-W	楕円形	浅皿状	0.84 × 0.57 × 0.11	As-B混	須恵器甕		中世以降
D-13号土坑	X 282, Y 152	N-21°-W	略円形	浅皿条	0.81 × 0.72 × 0.06	As-B混			中世以降
D-14号土坑	X 278, Y 153	N-11°-E	不整楕円形	逆台形状	1.01 × (0.72) × 0.14	As-B混		D6土坑に切られる。	中世以降
D-15号土坑	X 272, Y 152	-	円形カ	-	径1.11程度と推測	As-B混	確認面で馬歯敷点検出	底面小ビット4	中世以降
D-16号土坑	X 277, Y 153	N-9°-W	略円形	箱形	0.78 × 0.77 × 0.46	As-B混 As-C混	須恵器坏・碗、土師器甕、砥石	C混黒色土で埋没後、最上層はB混土で埋没。墓坑カ	11世紀前半
D-17号土坑	X 283, Y 152	N-0°-	楕円形	逆台形	1.20 × 1.00 × 0.20	As-C混	平瓦、土師器坏・高坏、須恵器甕	BP22に切られる。	古代
D-18号土坑	X 277, Y 152	N-23°-W	不整楕円形	逆台形	0.99 × 0.79 × 0.35	As-B混	須恵器坏、土師器甕	H6住と切る。	中世以降
D-19号土坑	X 278, Y 152	N-4°-W	小判形	U字状	0.66 × (0.52) ×	As-B混	須恵器坏、土師器甕、流動滓	H6・7住を切る。	中世以降

中世

南北の大溝2条、道路状遺構1条、土坑18基に加え、柱穴（BP）は100基以上確認した（一部の土坑含む）。建物4棟と柱穴列2条を想定した。B-4・5号建物は梁間1～2間・3m強で、桁行が6間・12mを超える細長い主屋である。遺物量が極めて少ないため時期決定に苦慮するが、大溝2条からは短い口縁部の内耳土器片が各1点出土し、県内では14世紀後半～15世紀初頭に比定されている。BP-9のかわらけは15世紀末～16世紀代に比定でき、BP-13からは古瀬戸灰釉皿片が出土した。内耳土器の示す年代を中世遺構群の上限とし、下限は元総社（7）で確認された箱堀の構築時期（戦国期）と想定する。W-3号溝（上端幅3.0m・下端幅0.4m・深さ1m）は南北に走行する葉研状の溝で、埋没途中で硬化面が形成される。その後、地山ブロックを大量に含む土などで、北から南に向かって順次埋め戻される。南北に走行するW-2号溝は北壁に沿って東側へ直角に屈曲、あるいはT字に分岐しており（W-2b号溝）、W-3号溝よりも新しい。交差箇所には自然礫を貼り付けて、W-3号溝埋土の崩落を防止している。W-2号溝の埋没後は、SF-1号道路状遺構と両側側溝のW-5・8号溝が南北に走行する。D-9号土坑からは獣骨が、D-15号土坑（プランは推定）からは馬歯が検出された。

Tab. 3 [100] 遺構一覧表（2）土坑・溝・周溝墓・道路状遺構

土坑一覧表（2）〔D-20・21号土坑は欠番〕 単位：m

遺構名	グリッド	主軸方位	平面形	断面形	長軸×短軸×深さ	覆土	遺物	所見	時期
D-22号土坑	X 283, Y 152	N-57°-W	不整楕円形	浅皿状	1.15 × 0.87 × 0.09	褐色土		W9溝底面で確認、埋没途中で掘込みカ	古墳時代カ
D-23号土坑	X 278, Y 152	N-45°-W	不整楕円形	逆台形状	0.64 × 0.47 × 0.24	As-B混		柱穴。根固めの栗石あり。	中世以降
D-24号土坑	X 283, Y 152	N-90°-	不整楕円形	逆台形	1.74 × (0.70) × 0.15	As-B混	須恵器環、土師器小片	W2b溝を切る。	中世以降
D-25号土坑	X 281, Y 153	N-9°-E	楕円形カ	楕鉢状	1.14 × (0.58) × 0.30	As-C混		W2溝に切られる。	古代
D-26号土坑	X 274, Y 152	N-45°-E	略円形	逆台形	0.98 × 0.82 × 0.18	As-B混	土師器小片		中世以降
D-27号土坑	X 274, Y 152	N-15°-E	不整形	逆台形	0.88 × 0.56 × 0.22	As-C混		W4溝を切る。	
D-28号土坑	X 273, Y 152	N-23°-E	不整形	箱形	1.36 × 1.16 × 0.28	上層B混 下層褐色土	常滑甕片 土師器環	柱穴。W4溝を切る。上層はB混ビット。	中世 古代
D-29a号土坑	X 274, Y 152	N-68°-E	隅丸方形	弓張状	1.39 × 0.56 × 0.27	As-B混	東側東西軸	P22(B混)に切られる。	中世以降 古代
D-29b号土坑	X 274, Y 152	N-30°-W	隅丸長方形	弓張状	1.45 × 1.03 × 0.32	褐色土	西側南北軸		
D-30号土坑	X 278, Y 152	N-84°-W	楕円形	浅皿状	0.57 × 0.42 × 0.07	Ht-FA		FA直下の浅いくぼみ	6世紀初
D-31号土坑	X 278, Y 152	N-24°-E	楕円形	U字状	0.55 × 0.45 × 0.55	As-B混	覆土中に礎板扁平礫と 転用磨石。	柱穴。礎板礫に角材痕跡。 H6・7住を破壊。	中世以降
D-32号土坑	X 278, Y 153	N-5°-W	長楕円形	V字状	0.81 × 0.47 × 0.18	As-C混	土師器甕		古代
D-33号土坑	X 277, Y 152	N-11°-W	楕円形	U字状	0.72 × 0.51 × 0.35	褐色土			縄文カ
D-34号土坑	X 279, Y 152	N-0°-	不整形カ	逆台形	1.27 × (0.41) × 0.32	褐色土			縄文カ
D-35号土坑	X 279, Y 152	N-30°-W	楕円形	漏斗状	(0.43) × 0.52 × 0.27	褐色土		柱穴。	縄文カ

溝・周溝墓・道路状遺構・一覧表 単位：m

遺構名	グリッド	走向方位	断面形	上端幅×下端幅×深さ	覆土	遺物	所見	時期
W-1号溝	X 281, Y 153	N-24°-E	U字状	0.30 × 0.16 × 0.17	As-B混	土師器片		中世以降
W-2a号溝	X 279, Y 152・153	N-4°-E	逆台形	1.45 ~ 0.9 × 0.46 ~ 0.31 × 0.72 ~ 0.45	As-B混	青磁碗、内耳土器、かわらけ、須恵器環・甕・土師器環	2a溝が北壁で東へ折れるか分岐して2b溝となり、W3溝を切る。重複箇所には数点の礫が集中出土。	中世以降
W-2b号溝	X 279 ~ 283, Y 152	N-90°-	V字状～ 逆台形カ	(0.44) × (0.27) × (0.95)	As-B混			
W-3号溝	X 281, Y 152・153	N-90°-	浅皿状	3.1 ~ 2.65 × 0.50 ~ 0.42 × 1.18	As-B混	内耳土器、在地鉢、須恵器碗、土師器片、叩石	埋没途中で明瞭な硬化面形成。埋戻し後、W2b溝が切れる。	中世以降
W-4号溝	X 272 ~ 274, Y 153	N-88°-W	逆台形状	1.65 ~ 0.70 × 1.30 ~ 0.37 × 0.45 ~ 0.15	As-C混 黒色土	最上層：須恵器環・甕、土師器片、平瓦片	最上層はAs-B混で削平。下層は黒色C混土。	古墳前期カ
W-5号溝	X 280, Y 152・153	N-4°-W	浅皿状	0.50 ~ 0.66 × 0.17 ~ 0.46 × 0.09 ~ 0.18	As-B混		SF1道路の東側溝。W2b溝を切る。	中世以降
W-6号溝	X 278, Y 152	N-3°-E	U字状	0.26 × 0.09 × 0.33	As-B混	土師器高環、焼礫	H7住を切る。	中世以降
W-7号溝	X 283, Y 153	N-16°-E N-10°-W	逆台形	0.57 ~ 0.31 × 0.27 ~ 0.17 × 0.25	As-C混 褐色土		W9溝を切る。	古代カ
W-8号溝	X 280, Y 152・153	N-1°-W	浅皿状	1.15 ~ 0.17 × 0.92 ~ 0.05 × 0.05 ~ 0.13	As-B混	土師器片	SF1道路の西側溝。	中世以降
W-9号溝 (SZ-1)	X 281 ~ 283, Y 152・153	N-54°-E	逆台形状	4.39 ~ 2.50 × 3.94 ~ 2.02 × 0.52 ~ 0.21	As-C混 黒色土	弥生土器、土師器環	W13溝と合わせて周溝墓。上層は古墳後期遺物混入。硬化面と小土坑状掘削痕跡	古墳前期
W-10号溝	X 275, Y 152	N-55°-E	箱形状	(1.26) × (1.09) × 0.43	As-C混		元総社蒼海遺跡群（7）のW-4溝と同一。	古代
W-11号溝	X 272・273, Y 152	N-55°-E	浅皿状	壁際上幅3.33 × 3.02 × 0.11	As-C混	須恵器壺底部、須恵器環土師器片、敲石	直線的。	7世紀後半
W-12号溝	X 280, Y 152・153	N-0°-	浅皿状	2.50 ~ 1.80 × 1.70 ~ 1.29 × 0.15	As-C混	土師器片、縄文土器	硬化面あり。周溝墓の可能性あり。	古墳前期カ
W-13号溝 (SZ-1)	X 278・279, Y 152・153	N-28°-W	逆台形状	4.24 ~ 3.60 × 3.36 ~ 2.82 × 0.46	As-C混 黒色土	土師器片、縄文土器、石器	W9溝と合わせて周溝墓。底面に硬化面と被熱痕。	古墳前期

Tab. 4 [100] 遺構一覧表(3) As-B混ピット・ピット

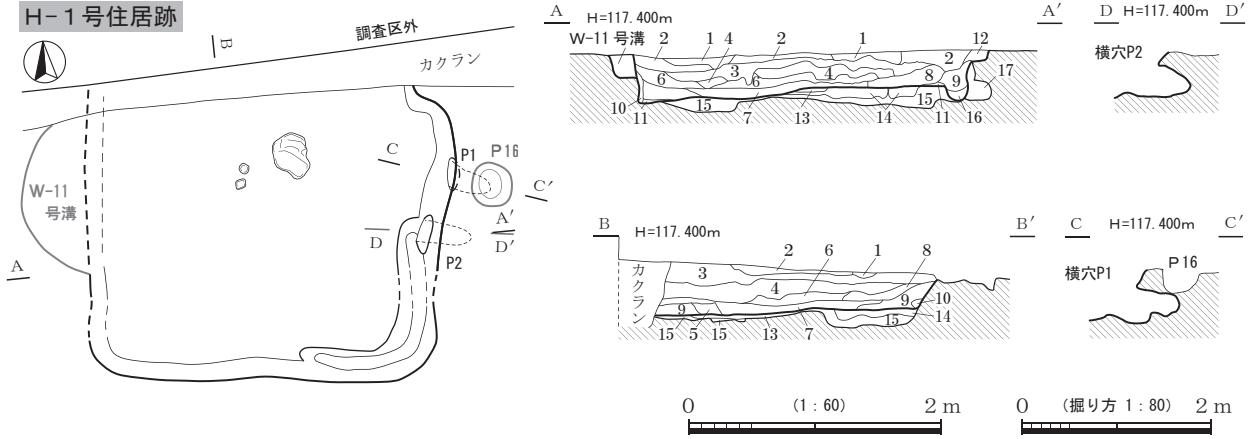
ピット一覧表(1) 単位: cm

P No.	グリッド	平面形	深さ	時期・所見	P No.	グリッド	平面形	深さ	時期・所見	P No.	グリッド	平面形	深さ	時期・所見
BP-1a	X 281, Y 152	楕円形	22	中世以降	BP-33	X 278, Y 152	円形	15	中世以降	BP-70	X 282, Y 152	楕円形	3	中世以降
BP-1b	X 281, Y 152	楕円形	18	中世以降	BP-34	X 278, Y 153	円形	19	中世以降	BP-71	X 282, Y 152	略円形	21	中世以降
BP-2a	X 281, Y 152	円形	20	中世以降	BP-35	X 278, Y 152	楕円形	3	中世以降	BP-72	X 282, Y 152	長楕円形	16	中世以降
BP-2b	X 281, Y 152	隅丸正方形	15	中世以降	BP-36	X 278, Y 152	楕円形	4	中世以降	BP-73	X 282, Y 152	楕円形	39	中世以降
BP-3	X 281, Y 152	楕円形	17	中世以降	BP-37	X 278, Y 152	楕円形	6	中世以降	BP-74	X 282, Y 152	楕円形	37	中世以降
BP-4	X 282, Y 153	不整楕円形	57	中世以降	BP-38	X 278, Y 152	略円形	10	中世以降	BP-75	X 282, Y 152	隅丸長方形	67	中世以降
BP-5	X 278, Y 152	略円形	21	中世以降	BP-39	X 278, Y 153	楕円形	13	中世以降	BP-76	X 282, Y 152	不整長楕円形	10	中世以降
BP-6	X 278, Y 152	楕円形	29	中世以降	BP-40	X 278, Y 152	隅丸正方形	13	中世以降	BP-77	X 282, Y 152	略円形	8	中世以降
BP-7	X 278, Y 152	円形	43	中世以降	BP-41	X 278, Y 152	楕円形	21	中世以降	BP-78	P -49 と同一			
BP-8	X 278, Y 152	円形	12	中世以降	BP-42	X 277, Y 152	隅丸正方形	45	中世以降	BP-79	X 282, Y 153	楕円形	12	中世以降
BP-9	X 278, Y 152	円形	21	中世以降	BP-43	X 278, Y 152	不整楕円形	14	中世以降	BP-80	X 282, Y 153	隅丸正方形	9	中世以降
BP-10	X 278, Y 152	楕円形	15	中世以降	BP-44	X 277, Y 153	楕円形	18	中世以降	BP-81	X 281, Y 152	円形	14	中世以降
BP-11	X 279, Y 152	略円形	16	中世以降	BP-45	X 277, Y 152	楕円形	11	中世以降	BP-82	X 278, Y 153	楕円形	14	中世以降
BP-12	X 279, Y 153	楕円形	18	中世以降	BP-46	X 277, Y 153	楕円形	18	中世以降	BP-83	X 275, Y 153	楕円形	25	中世以降
BP-13a	X 277, Y 153	楕円形	38	中世以降	BP-47	X 276, Y 153	不整形	18	中世以降	BP-84	X 273, Y 153	楕円形	22	中世以降
BP-13b	X 277, Y 153	楕円形	46	中世以降	BP-48	X 276, Y 153	楕円形	16	中世以降	BP-85	X 273, Y 153	不整楕円形	27	中世以降
BP-14a	X 276, Y 153	楕円形	11	中世以降	BP-49	X 276, Y 153	楕円形	18	中世以降	BP-86	X 273, Y 153	楕円形	18	中世以降
BP-14b	X 276, Y 153	楕円形	12	中世以降	BP-50	X 276, Y 153	隅丸正方形	21	中世以降	BP-87	X 272, Y 153	不整楕円形	9	中世以降
BP-14c	X 276, Y 153	円形	20	中世以降	BP-51a	X 277, Y 152	不整楕円形	23	中世以降	BP-88	X 272, Y 152	楕円形	16	中世以降
BP-15a	X 276, Y 153	不整楕円形	17	中世以降	BP-51b	X 277, Y 152	楕円形	15	中世以降	BP-89	X 278, Y 153	隅丸長方形	12	中世以降
BP-15b	X 276, Y 153	楕円形	17	中世以降	BP-51c	X 277, Y 152	隅丸正方形	33	中世以降	BP-90	X 278, Y 152	楕円形	16	中世以降
BP-15c	X 276, Y 153	楕円形	22	中世以降	BP-52	X 276, Y 152	隅丸長方形	23	中世以降	BP-91	P -36 と同一			
BP-16	X 283, Y 152	不整楕円形	35	中世以降	BP-53	X 276, Y 152	楕円形	9	中世以降	BP-92	P -37 と同一			
BP-17	X 283, Y 152	隅丸正方形	37	中世以降	BP-54	X 275, Y 153	略円形	13	中世以降	BP-93	P -38 と同一			
BP-18	X 283, Y 152	楕円形	10	中世以降	BP-55	X 275, Y 153	楕円形	14	中世以降	BP-94	P -39 と同一			
BP-19	X 283, Y 152	楕円形	24	中世以降	(BP56)	P -35 と同一。上面のみB混土				BP-95	X 277, Y 153	楕円形	16	中世以降
BP-20	X 282, Y 153	楕円形	9	中世以降	BP-57	X 275, Y 152	不整楕円形	10	中世以降	BP-96	X 277, Y 153	楕円形	11	中世以降
BP-21	X 282, Y 153	楕円形	54	中世以降	BP-58	X 275, Y 153	楕円形	14	中世以降	BP-97	X 276, Y 153	略円形	5	中世以降
BP-22	X 283, Y 152	楕円形	19	中世以降	BP-59	X 275, Y 152	円形	30	中世以降	BP-98	X 276, Y 153	略円形	55	中世以降
BP-23	X 282, Y 152	楕円形	21	中世以降	BP-60	X 275, Y 152	楕円形	17	中世以降	BP-99	X 277, Y 153	楕円形	9	中世以降
BP-24	X 280, Y 152	長楕円形	13	中世以降	BP-61	X 275, Y 152	楕円形	17	中世以降	BP-100	X 277, Y 153	略円形	32	中世以降
BP-25	X 280, Y 152	楕円形	25	中世以降	BP-62	X 274, Y 152	楕円形	12	中世以降	BP-101	X 276, Y 153	略円形	20	中世以降
BP-26	X 280, Y 152	円形	34	中世以降	BP-63	X 274, Y 153	楕円形	14	中世以降	BP-102	X 276, Y 153	略円形	20	中世以降
BP-27	X 279, Y 153	隅丸正方形	22	中世以降	BP-64	X 274, Y 153	楕円形	13	中世以降	BP-103	P -42 と同一			
BP-28	X 279, Y 153	不整楕円形	21	中世以降	BP-65	X 274, Y 152	隅丸長方形	25	中世以降	BP-104	X 277, Y 152	楕円形	60	中世以降
BP-29	X 279, Y 153	隅丸正方形	22	中世以降	BP-66	X 273, Y 152	円形	12	中世以降	BP-105	X 272, Y 153	楕円形	18	中世以降
BP-30	X 279, Y 152	隅丸正方形	21	中世以降	BP-67	X 272, Y 152	不整楕円形	51	中世以降	BP-106	X 272, Y 153	楕円形	25	中世以降
BP-31	X 279, Y 152	不整楕円形	22	中世以降	BP-68	X 282, Y 152	楕円形	30	中世以降					
BP-32	X 278, Y 152	隅丸正方形	9	中世以降	BP-69	X 282, Y 152	隅丸正方形	11	中世以降					

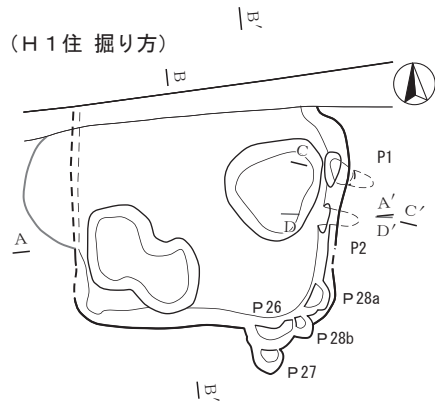
ピット一覧表(2) 単位: cm

P No.	グリッド	平面形	深さ	時期・所見	P No.	グリッド	平面形	深さ	時期・所見	P No.	グリッド	平面形	深さ	時期・所見
P - 1	X 283, Y 153	略円形	19	古墳 - 古代	P -23	X 272, Y 152	楕円形	30	古墳 - 古代	P -48b	X 282, Y 152	楕円形	11	古墳 - 古代
P -2a	X 283, Y 152	不整楕円形	45	古墳 - 古代	P -24	X 272, Y 153	楕円形	18	古墳 - 古代	P -49	X 282, Y 152	隅丸長方形	11	中世
P -2b	X 283, Y 152	楕円形	11	古墳 - 古代	P -25	X 276, Y 153	楕円形	8	古墳 - 古代	P -50	X 282, Y 152	円形	16	古墳 - 古代
P -3a	X 282, Y 152	楕円形	47	古墳 - 古代	P -26	X 276, Y 153	楕円形	29	古墳 - 古代	P -51a	X 282, Y 152	隅丸正方形	29	古墳 - 古代
P -3b	X 282, Y 152	不整楕円形	50	古墳 - 古代	P -27	X 276, Y 153	楕円形	25	古墳 - 古代	P -51b	X 282, Y 152	楕円形	39	古墳 - 古代
P -3c	X 282, Y 152	楕円形	60	古墳 - 古代	P -28	X 275, Y 153	円形	22	古代	P -52	X 277, Y 152	楕円形	13	古墳 - 古代
P -4	X 273, Y 153	楕円形	22	古墳 - 古代	P -28b	X 276, Y 153	円形	28	古墳 - 古代	P -53	X 153, Y 277	不整円形	11	中世
P -5	X 273, Y 153	隅丸正方形	86	古代	P -29	X 276, Y 153	略円形	45	古代	P -54	X 274, Y 153	楕円形	23	古墳 - 古代
P -6	X 273, Y 153	隅丸正方形	83	古代	P -30	X 275, Y 153	隅丸正方形	40	古代	P -55	X 278, Y 153	楕円形	16	古墳 - 古代
P -7	X 272, Y 153	隅丸正方形	75	古代	P -31	X 274, Y 153	隅丸長方形	33	古墳 - 古代	P -55b	X 273, Y 153	隅丸正方形	14	古墳 - 古代
P -8a	X 272, Y 152	楕円形	49	10世紀	P -32	X 274, Y 153	不整楕円形	26	古代	P -56	X 277, Y 153	楕円形	7	古墳 - 古代
P -8b	X 272, Y 153	不整楕円形	33	10世紀	P -33	X 273, Y 153	略円形	33	古墳 - 古代	P -57	X 278, Y 153	楕円形	10	中世
P -9	X 272, Y 153	楕円形	18	古墳 - 古代	P -34	X 273, Y 153	略円形	23	古代	P -58	X 278, Y 153	楕円形	20	古墳 - 古代
P -10	X 272, Y 153	楕円形	19	古墳 - 古代	P -35	X 275, Y 153	円形	44	古代	P -59	X 276, Y 153	円形	20	古墳 - 古代
P -11	X 272, Y 152	楕円形	60	古墳 - 古代	P -36	X 276, Y 153	隅丸正方形	13	中世	P -60	X 276, Y 153	楕円形	5	古墳 - 古代
P -12	X 273, Y 152	不整楕円形	5	古墳 - 古代	P -37	X 276, Y 153	楕円形	23	中世	P -61	X 276, Y 153	円形	7	古墳 - 古代
P -13	X 273, Y 152	隅丸正方形	16	古墳 - 古代	P -38	X 277, Y 153	隅丸正方形	21	中世	P -62	X 276, Y 153	楕円形	11	古代
P -14	X 276, Y 152	楕円形	22	古墳 - 古代	P -39	X 277, Y 153	楕円形	9	中世	P -63	X 272, Y 152	隅丸正方形	25	古墳 - 古代
P -14b	BP-106 と同一				P -40	X 277, Y 153	不整楕円形	11	古墳 - 古代	P -64	X 282, Y 152	楕円形	24	古墳 - 古代
P -15	X 276, Y 152	略円形	14	古墳 - 古代	P -41	X 277, Y 153	楕円形	13	古墳 - 古代	P -65	X 281, Y 153	隅丸長方形	75	古墳 - 古代
P -15b	BP-105 と同一				P -42	X 276, Y 153	隅丸正方形	39	中世	P -66	X 281, Y 153	楕円形	10	古墳 - 古代
P -16	X 276, Y 152	略円形	15	古墳 - 古代	P -43	X 276, Y 153	円形	11	古墳 - 古代	P -67	X 278, Y 153	楕円形	18	中世
P -17	X 274, Y 152	楕円形	10	古墳 - 古代	P -44		欠番			P -68	X 272, Y 153	楕円形	28	古墳 - 古代
P -18	X 277, Y 153	略円形	25	古墳 - 古代	P -45	X 276, Y 153	楕円形	15	古墳 - 古代	P -69	X 280, Y 153	略円形	2	古墳 - 古代
P -19	X 274, Y 152	楕円形	11	古墳 - 古代	P -46	X 282, Y 152	長楕円形	18	古墳 - 古代	P -70	X 273, Y 152	略円形	10	古墳 - 古代
P -20	X 274, Y 152	楕円形	8	古墳 - 古代	P -47	X 282, Y 152	略円形	40	古墳 - 古代	P -71	X 272, Y 152	楕円形	21	古墳 - 古代
P -21	X 274, Y 152	楕円形	17	古墳 - 古代	P -48a	X 282, Y 152	隅丸正方形	17	古墳 - 古代	P -72	X 273, Y 152	楕円形	10	古墳 - 古代
P -22	X 274, Y 152	円形	32	古墳 - 古代										

H-1号住居跡



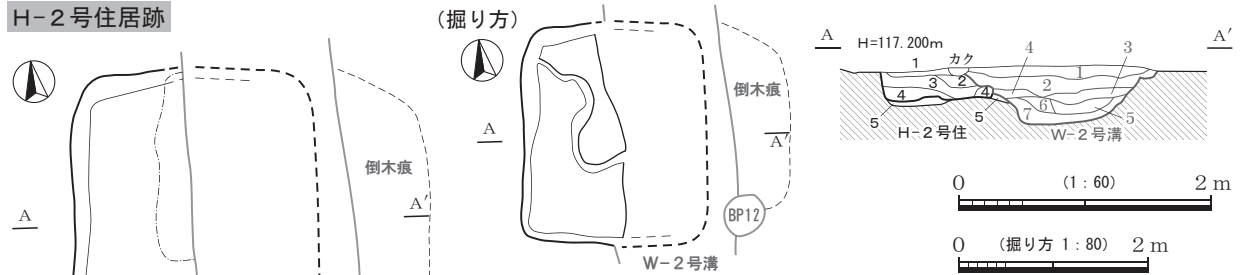
(H1住 掘り方)



H-1号住居跡 土層説明

1. 灰褐色土 しまりあり。As-B中量。As-C少量。
2. 褐色土 しまり弱い。As-C少量。
3. 暗褐色土 しまり強い。As-C中量。黄褐色シルト粒少量、ブロック微量。
4. 暗~黒褐色土 硬化。As-C多量。黄褐色シルトブロック少量。
5. 黒褐色土 しまり弱い。As-C少量。黄褐色シルト粒微量。
6. 暗褐色土 しまり強い。As-C多量。黄褐色シルト粒少量。
7. 褐色土 しまり強い。As-C微量。黄褐色シルトブロック微量。緻密、均質。
8. 暗褐色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒中量。
9. 黒褐色土 しまりあり~弱い。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。
10. 黒色土 しまり弱い。
11. 黒色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒少量。
12. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルトブロック少量。
13. 黒褐色土 硬化。As-C微量。黄褐色シルトブロック少量。貼床。
14. 黄褐色土 硬化。黄褐色シルトブロック主体。
15. 黄褐色土 しまりあり~強い。黄褐色シルトブロック多量。
16. 暗褐色土 しまりあり~弱い。黄褐色シルト粒多量、ブロック少量。
17. 暗褐色土 しまりあり~強い。黄褐色シルト粒少量。均質。

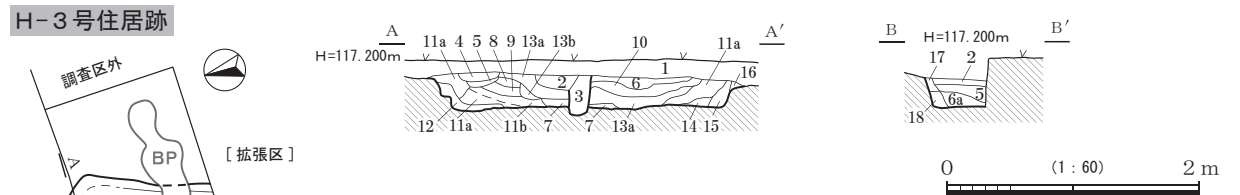
H-2号住居跡



H-2号住居跡 土層説明

1. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒微量。
2. 暗褐色土 しまり弱い。As-C微量。黄褐色シルトブロック少量。
3. 黒褐色土 しまり強い。As-C中量。黄褐色シルトブロック中量。埋戻し。
4. 黒褐色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒中量、ブロック少量。
5. 黄褐色土 しまり非常に強い。As-C少量。黄褐色シルトブロック多量。

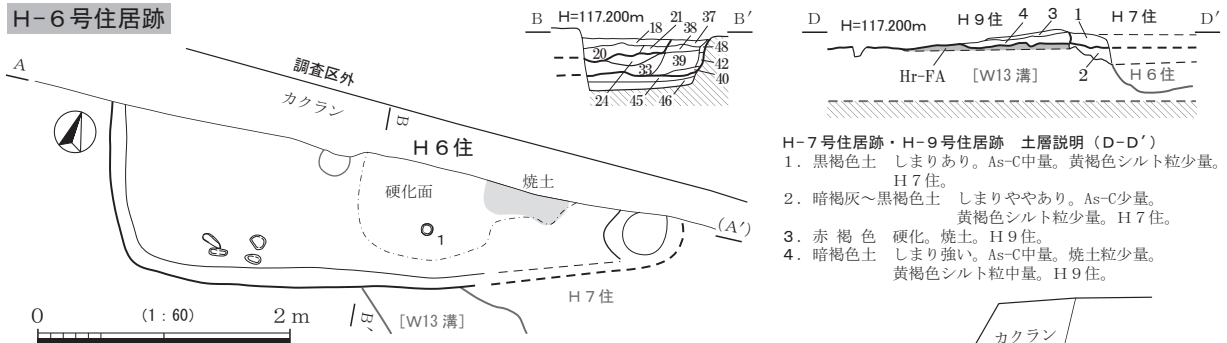
H-3号住居跡



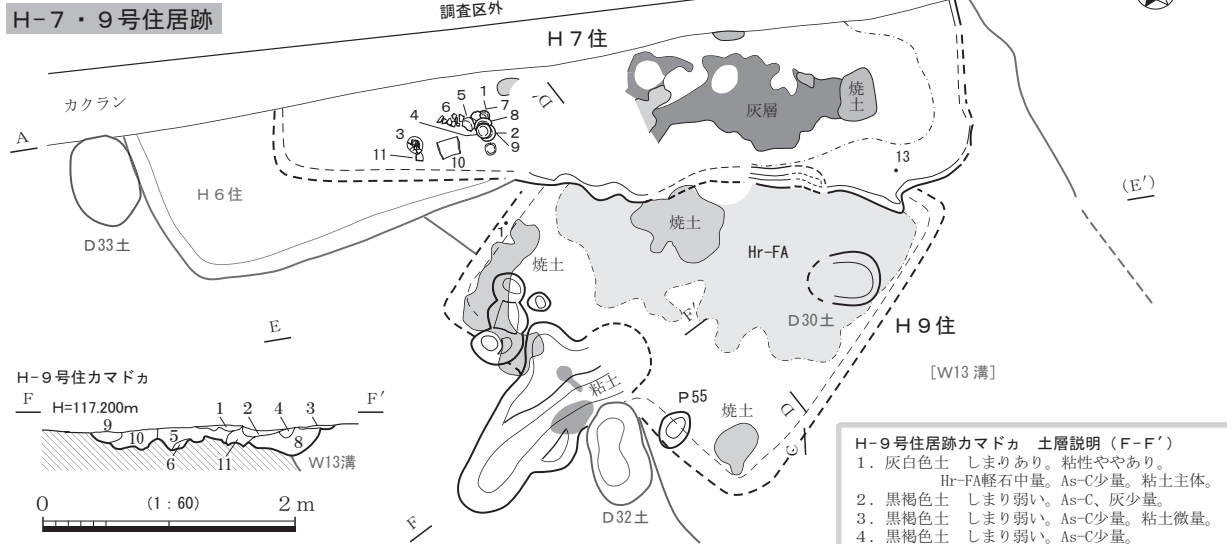
H-3号住居跡 土層説明

1. 暗灰褐色土 しまり弱い。As-B多量。耕作土。
2. 暗灰褐色土 しまり弱い。As-B多量。耕作土。
3. 暗灰褐色土 しまりやや弱い。As-B多量。柱穴覆土。
4. 暗灰褐色土 しまり弱い。As-B多量。
5. 暗灰褐色土 しまり弱い。粘性弱い。As-C微量。
6. 黒褐色土 しまりあり。粘性ややあり。As-C微量。黄褐色シルトブロック微量。
7. 暗褐色土 しまり弱い。粘性弱い。黄褐色シルトブロック微量。
8. 黒褐色土 硬化。粘性あり。As-C多量。しまりややあり。粘性あり。黄褐色シルト粒多量。
9. 明褐色土 しまりややあり。粘性あり。黄褐色シルト粒多量。
10. 暗灰褐色土 しまりややあり。粘性ややあり。As-C微量。褐灰シルトブロック微量。
- 11a. 灰褐色土 しまりややあり。粘性弱い。黄褐色粘質シルトブロック多量。
- 11b. 灰褐色土 しまり強い。粘性強い。黄褐色粘質シルトブロック多量。
12. 黄褐色土 しまり弱い。粘性弱い。黄褐色シルトブロック主体。
- 13a. 褐色土 しまりややあり。粘性弱い。黄褐色シルトブロック微量。
- 13b. 褐色土 しまりややあり。粘性弱い。黄褐色シルトブロックごく微量。
14. 明褐色土 しまりややあり。粘性弱い。黄褐色シルトブロック、褐灰シルトブロック多量~主体。
15. 灰褐色土 しまり弱い。粘性弱い。黄褐色シルトブロック微量。
16. 黄褐色土 しまりなし。総社砂屋の地山。
17. 黒色土 しまり弱い。
18. 明褐色土 しまり強い。黄褐色シルトブロック多量。

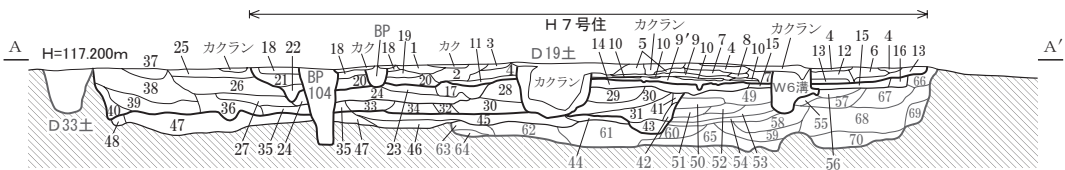
Fig. 7 [100] 遺構図 (1) H-1・2・3号住居跡



- H-7号住居跡・H-9号住居跡 土層説明 (D-D')**
1. 黒褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。H7住。
 2. 暗褐色～黒褐色土 しまりややあり。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。H7住。
 3. 赤褐色 硬化。焼土。H9住。
 4. 暗褐色土 しまり強い。As-C中量。焼土粒少量。黄褐色シルト粒中量。H9住。



- H-9号住居跡カマドカ 土層説明 (F-F')**
1. 灰白色土 しまりあり。Hr-FA軽石中量、As-C少量、粘土主体。
 2. 黒褐色土 しまり弱い。As-C、灰少量。
 3. 黒褐色土 しまり弱い。As-C少量。粘土微量。
 4. 黒褐色土 しまり弱い。As-C少量。



- H-7号住居跡 土層説明 (A-A')**
1. 暗褐色土 しまり強い。As-C中量。Hr-FA軽石少量。
 2. 暗褐色土 しまり強い。As-C、地山粒少量。
 3. 褐色土 しまり強い。As-C中量。Hr-FA軽石少量。
 4. 褐色土 しまりあり。As-C中量。地山粒少量。
 5. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。Hr-FA軽石・灰粒少量。
 6. 明黄褐色土 しまりあり。Hr-FAブロック主体。
 7. 褐色土 しまりあり。As-C、Hr-FA灰粒、焼土、灰少量。
 8. 明赤褐～橙色土 しまりあり。焼土主体。
 9. 黒灰色土 しまりあり。粘性ややあり。ラミナ状。黒色灰層、白色灰、焼土少量。As-C微量。
 - 9'. 黒灰色土 白色灰ラミナ目立つ。
 10. 褐色土 しまり強い。As-C、Hr-FA灰粒少量。
 11. 明褐色～灰白色土 しまりあり。白色灰多量。As-C、Hr-FA灰粒少量。
 12. 暗褐色土 しまり強い。Hr-FAブロック微量。As-C中量。炭化物、Hr-FA灰粒、灰少量。
 13. 褐色土 しまりあり。As-C、Hr-FA灰粒、焼土、灰少量。
 14. 褐色土 硬化。Hr-FA灰粒少量。Hr-FA軽石微量。As-C中量。
 15. 暗褐色土 しまりあり。As-C多量。Hr-FA軽石少量。貼床。
 16. 褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルトブロック多量。貼床。
 17. 暗褐色土 しまりあり。As-C少量。炭化物少量。黄褐色シルト粒微量。
 18. 暗褐色土 しまり強い。As-C少量。シルト粒微量。
 19. 褐色土 しまりあり。As-C少量。シルト粒微量。
 20. 暗褐色土 しまりあり。As-C少量。シルト粒微量。
 21. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。
 22. 褐色土 しまりあり。As-C微量。細粒。
 23. 黒褐色土 しまり非常に強い。As-C中量。黄褐色シルト粒微量。貼床。
 24. 暗褐色土 しまり非常に強い。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。貼床。

- H-6号住居跡 土層説明 (A-A'・B-B')**
25. 褐色土 しまり強い。As-C中量。Hr-FA軽石少量。黄褐色シルト粒少量。
 26. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。
 27. 暗褐色土 しまり強い。As-C少量。貼床。黄褐色シルト粒多量、ブロック微量。
 28. 暗褐色土 しまりあり。Hr-FA粒子少量。As-C、黄褐色シルトブロック微量。
 29. 暗褐色土 しまり強い。As-C中量。炭化物少量。黄褐色シルト粒微量。
 30. 暗褐色土 しまり強い。As-C、シルト粒、炭少量。
 31. 暗～黒褐色土 しまりあり。As-C中量。Hr-FA粒子少量。褐灰シルト粒中量。
 32. 褐色土 しまりややあり。
 33. 暗褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒少量、ブロック微量。
 34. 褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒・ブロック少量。
 35. 褐色土 しまりややあり。As-C微量。黄褐色シルト粒少量。
 36. 暗褐色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒少量、ブロック微量。
 37. 褐色土 しまりあり。As-C、シルト粒微量。
 38. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。シルト粒少量。
 39. 暗褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒少量、ブロック微量。
 40. 黒褐色土 しまりやや弱い。As-C微量。黄褐色シルト粒少量。
 41. 褐色土 しまり強い。As-C微量。
 42. 黒褐色土 しまり弱い。As-C少量。壁体カ。
 43. 暗～黒褐色土 しまりややあり。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。貯カ。
 44. 暗褐色土 しまり非常に強い。As-C、黄褐色シルト粒少量。貼床。
 45. 黒褐色土 硬化。As-C中量。黄褐色シルトブロック多量。貼床。灰層ラミナあり。
 46. 黒褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒中量、ブロック少量。

5. 褐色土 しまりあり。As-Cごく微量。黄褐色シルトブロック多量。
6. 明褐色土 しまりあり。シルトブロック主体。
7. 暗褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒中量。
8. 褐色土 しまりややあり。シルトブロック少量。
9. 黒褐色土 しまりややあり。As-C微量。黄褐色シルト粒少量。
10. 褐色土 しまりあり。白色シルト粒子多量。地山粒少量。
11. 黄褐色土 しまり強い。地山ブロック。
47. 黄褐色土 しまり非常に強い。黄褐色シルトブロック主体。
48. 黄褐色土 しまり弱い黄褐色シルトブロック。
- 49～70. W-13号溝

- H-7号住居跡 土層説明 (C-C')**
1. 褐色土 しまり強い。炭化物少量。As-C中量。灰白～黒灰色の緻密灰中量。
 2. 暗褐色土 しまりあり。灰多量。As-C少量。
 3. 明褐色土～暗褐色土 しまりあり。As-C微量。黒色灰・白色灰・暗褐色土・Hr-FAブロックが互層状堆積。
 4. 灰褐色土 As-C中量。Hr-FA粒子中量。硬化した貼床。
 5. 黒褐色土 しまり強い。As-C多量。Hr-FA粒少量。
 - 5'. 暗褐色土 硬化。
 6. 褐灰色土 As-C中量。Hr-FA粒子多量。黄褐色シルト粒少量。硬化した貼床。
 7. 暗褐色土 しまりややあり。As-C微量。
 8. 明褐色～明黄褐色土 Hr-FA、一次堆積。8～22. W-13号溝。

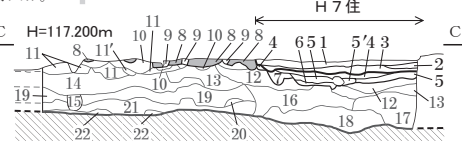


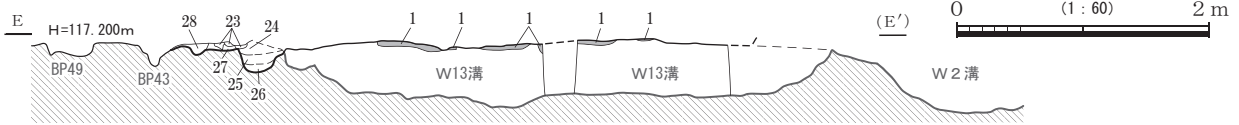
Fig. 8 [100] 遺構図 (2) H-6・7・9号住居跡

H-9号住居跡

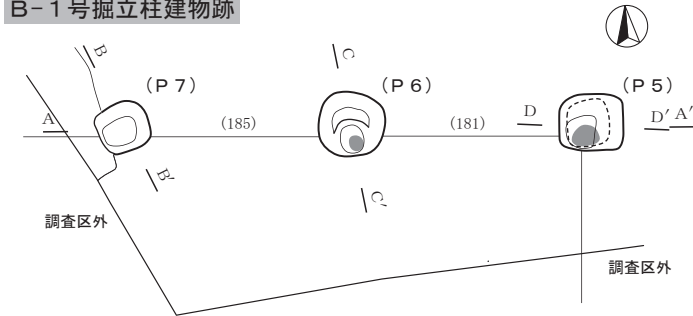
H-9号住居跡 土層説明 (E-E')

- 1~22. W-13号溝。
- 1. 明褐色土 しまり明黄褐色土 しまりあり。Hr-FA、一次堆積。
- 23. 赤褐色土 被熱により赤化・硬化した地山シルト。焼土。
- 24. 褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒中量。

- 25. 暗褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒中量。
- 26. 褐色土 しまりややあり。黄褐色シルトブロック少量。
- 27. 明褐色土 しまりあり。焼土微量。
- 28. 黒褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルトブロック少量。

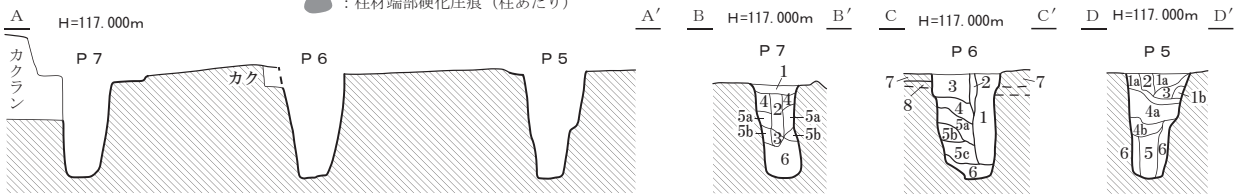


B-1号掘立柱建物跡



P-6 土層説明 (C-C')

- 1. 黒褐色土 しまりなし。黄褐色シルトブロック少量。
- 2. 黄褐色土 しまり弱い。粘性弱い。黄褐色シルトブロック多量。暗褐色土ブロック少量。
- 3. 明褐色土 しまり弱い。粘性弱い。1層ブロック多量。2層ブロック、暗褐色土ブロック少量。
- 4. 明褐色土 しまり弱い。粘性弱い。黄褐色シルト多量。
- 5. 明褐色土 しまりやや強い。粘性やや強い。黄褐色シルトブロック、褐灰シルトブロック多量。
- 6. 明褐色土 しまりやや強い。粘性やや強い。シルト質。
- 7. 黄褐色土 しまり弱い。粘性弱い。黄褐色シルトの地山。
- 8. 黄灰褐色土 しまりやや弱い。粗い褐灰シルトの地山。



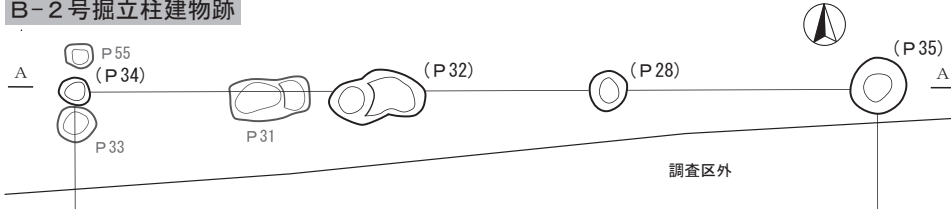
P-5 土層説明 (D-D')

- 1. 黄褐色土 しまり弱い。粘性弱い。暗褐色土ブロック多量。黄褐色シルトブロック、a層多量、b層中量。
- 2. 暗褐色土 しまり弱い。粘性弱い。極細砂粒、黄褐色シルトブロック少量。
- 3. 明褐色土 しまりやや強い。粘性やや強い。粗いシルト質土多量。黄褐色シルトブロック少量。
- 4. 明褐色土 粗いシルト質土多量。黄褐色シルトブロック、a層多量、b層少量。
- 5. 黒褐色土 軟弱。柱痕。
- 6. 明褐色土 しまり強い。褐灰粗粒シルト主体。黄褐色シルト粒微量。

P-7 土層説明 (B-B')

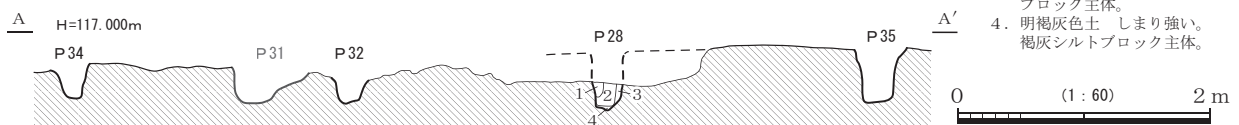
- 1. 黄褐色土 しまりなし。黄褐色シルトブロック少量。褐灰シルトブロック少量。
- 2. 黒褐色土 しまり弱い。黒土とシルトの混合土。柱痕。
- 3. 灰褐色土 しまりあり。粘性強い。柱痕。
- 4. 黄褐色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック多量。黒褐色土ブロック含む。根固め。
- 5. 明褐色土 しまり弱い。粘性弱い。褐灰粗粒シルト多量。黄褐色シルトブロック、a層少量、b層中量。
- 6. 明褐色土 しまりやや強い。褐灰粗粒シルト、黄褐色シルトブロック少量。

B-2号掘立柱建物跡

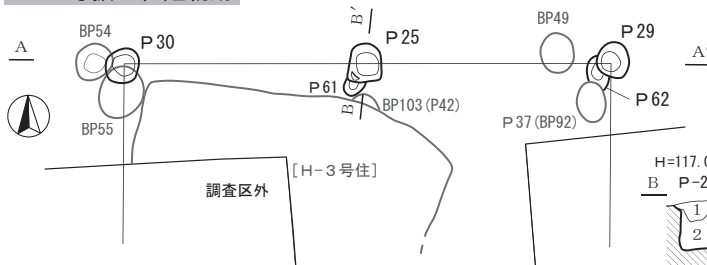


P-28 土層説明 (B-2号掘立柱建物)

- 1. 黒色土 軟弱。柱痕。
- 2. 暗灰褐色土 しまり弱い。黄褐色シルトブロック微量。As-C微量。
- 3. 明褐色土 しまりなし。粘性弱い。黄褐色シルトブロック微量。褐灰シルトブロック主体。
- 4. 明褐色土 しまり強い。褐灰シルトブロック主体。



B-3号掘立柱建物跡



P-29・62 土層説明

- 1. 褐色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック多量。
- 2. 黄褐色土 しまりややあり。粘性ややあり。黄褐色シルトブロック主体。
- 3. 褐色土 しまりあり。

P-30 土層説明

- 1. 暗灰褐色土 しまり弱い。粘性弱い。褐灰シルトブロック少量。柱痕カ。
- 2. 明褐色土 しまり強い。シルト質土及び砂質土主体。黄褐色シルトブロック多量。
- 3. 明褐色土 しまりあり。粘性ややあり。シルト質土主体。

P-25 土層説明

- 1. 暗褐色土 しまり弱い。粘性弱い。As-B含む。
- 2. 明褐色土 しまり弱い。粘性弱い。褐灰シルト主体。

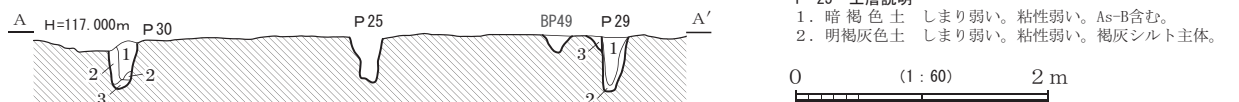


Fig. 9 [100] 遺構図 (3) B-1・2・3号掘立柱建物跡

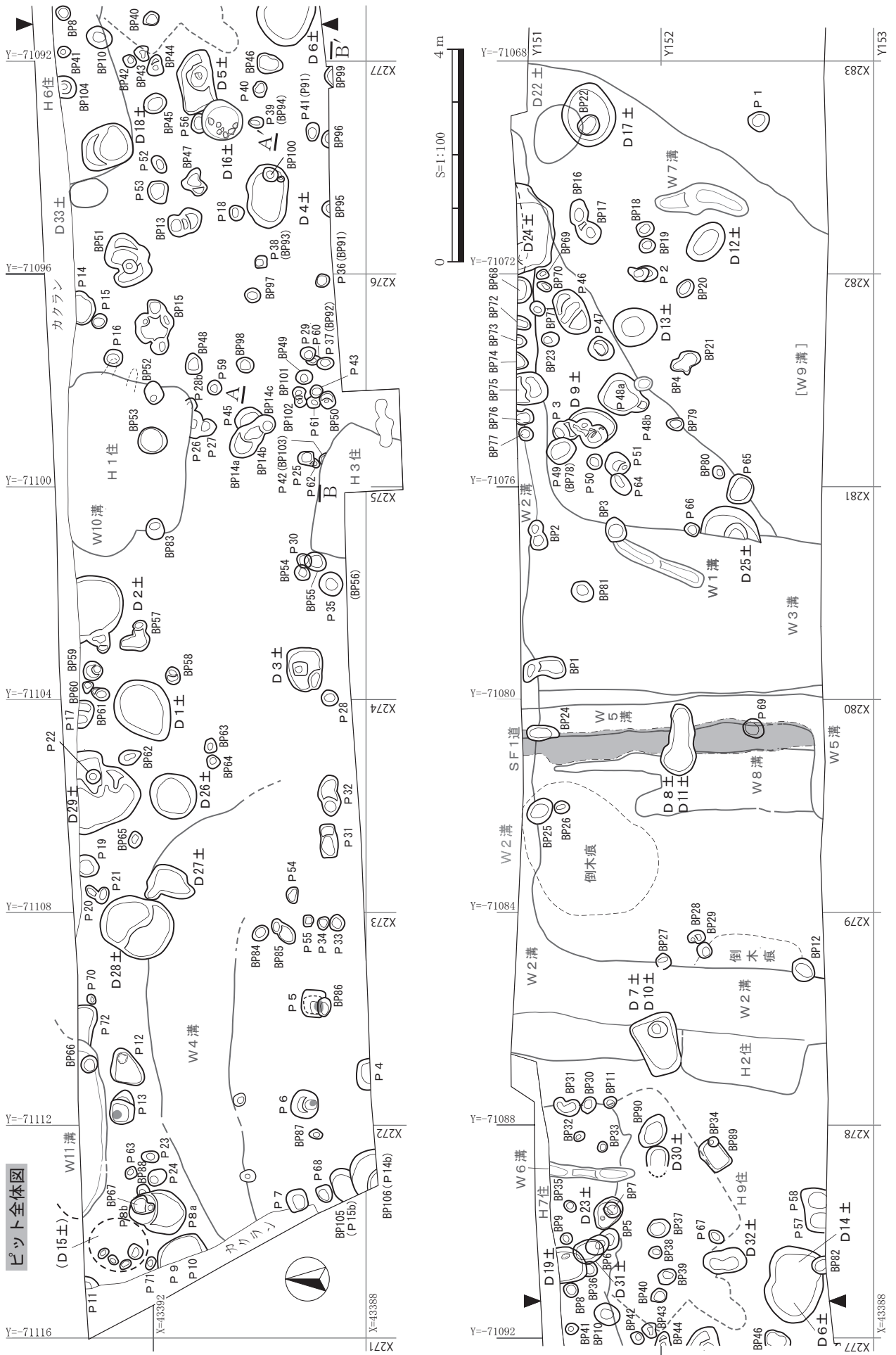
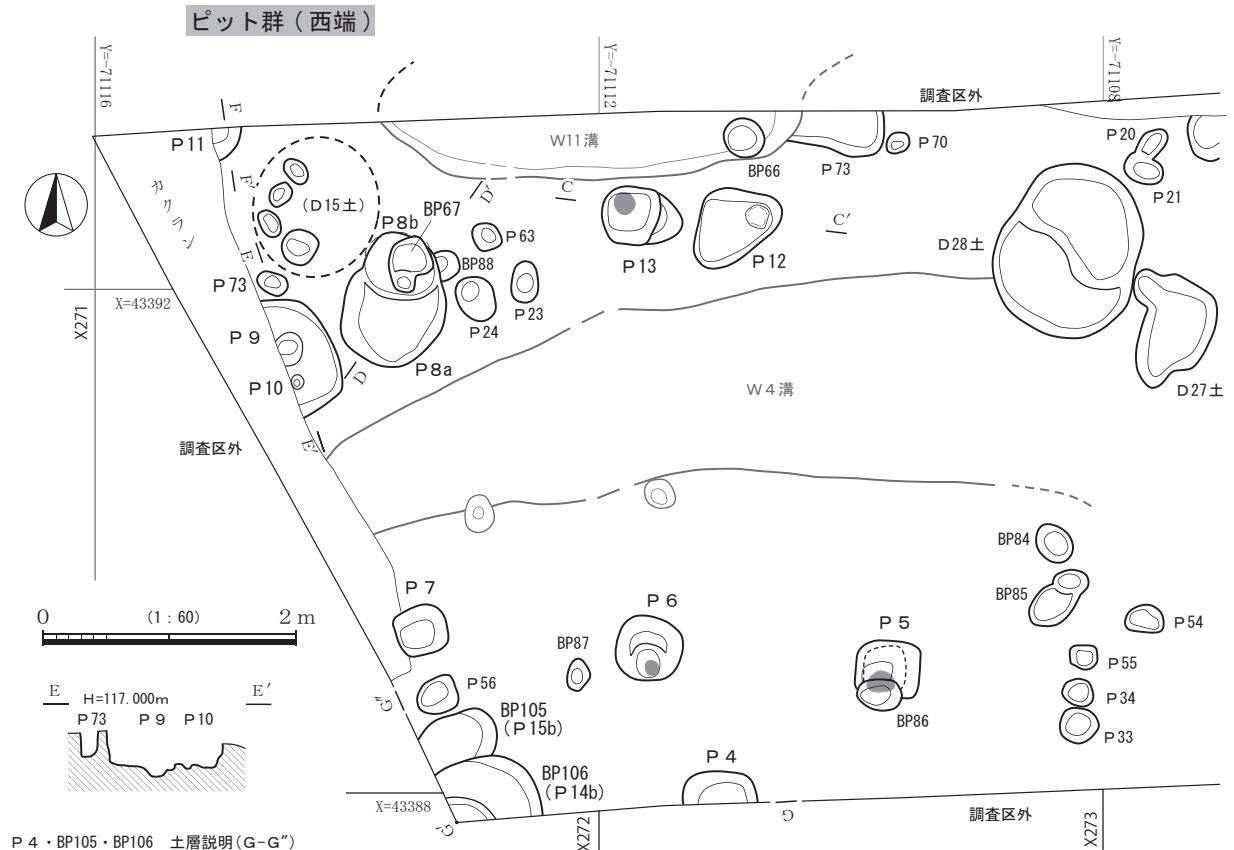
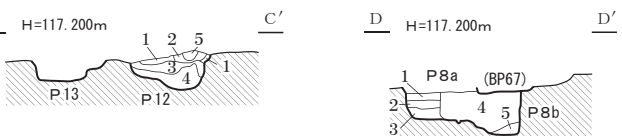
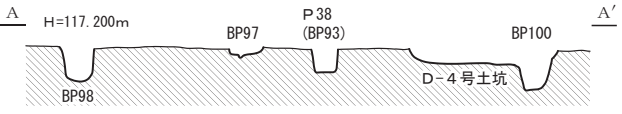
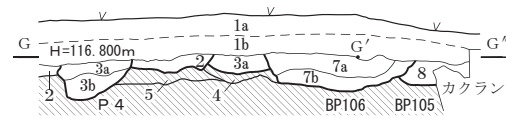


Fig. 10 [100] 遺構図 (4) ピット全体図



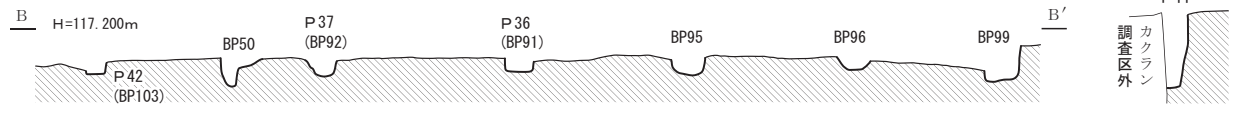
P 4・BP105・BP106 土層説明 (G-G')

1. 明灰褐色土 しまりあり。As-B多量に含む現表土。
2. 灰褐色土 しまりあり。As-B多量。黄褐色シルトブロック少量。
- 3a. 灰褐色土 しまりややあり。As-B多量。黄褐色シルトブロック微量。
- 3b. 灰褐色土 しまりややあり。As-B多量。黄褐色シルトブロック少量。
4. 黄褐色土 黄褐色シルトブロック主体。砂質シルト多量。
5. 明褐色土 しまり強い。総社砂層シルト質土 (地山)。
6. 明褐色土 しまり強い。総社砂層シルト質土 (地山)。
- 7a. 灰褐色土 しまりあり。As-B多量。黄褐色シルトブロック少量。
- 7b. 灰褐色土 しまりあり。As-B中量。黄褐色シルトブロック少量。
8. 明褐色土 しまりあり。As-B少量。黄褐色シルトブロック多量。



P 8 土層説明 (D-D')

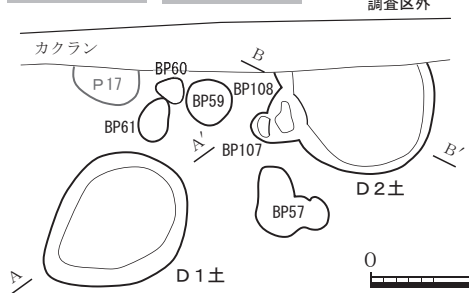
1. 暗灰褐色土 しまり弱い。粘性ややあり。黄褐色シルトブロック少量。砂質シルトブロック微量。
2. 黒褐色土 しまり弱い。粘性弱い。黄褐色シルトブロック、黒色土ブロック少量。
3. 黄褐色土 しまり弱い。粘性弱い。黄褐色シルトブロック主体。砂質シルトブロック少量。
4. 灰褐色土 黒色土ブロック、黄褐色シルトブロック、砂質シルトブロック多量。
5. 明褐色土 しまり強い。粘性強い。粘質土主体。



P 12 土層説明 (C-C')

1. 灰褐色土 しまり弱い。粘性ややあり。黄褐色シルトブロック少量。As-B微量。
2. 黄褐色土 しまりやや強い。粘性やや強い。黄褐色シルトブロック少量。
3. 暗灰褐色土 しまり弱い。黄褐色シルトブロック、粗粒シルトブロック少量。
4. 明黄褐色土 しまり強い。粘性弱い。黄褐色シルトブロック主体。砂質シルトブロック多量。
5. 黄褐色土 硬化。黄褐色シルトブロック。

D-1号土坑



D-2号土坑



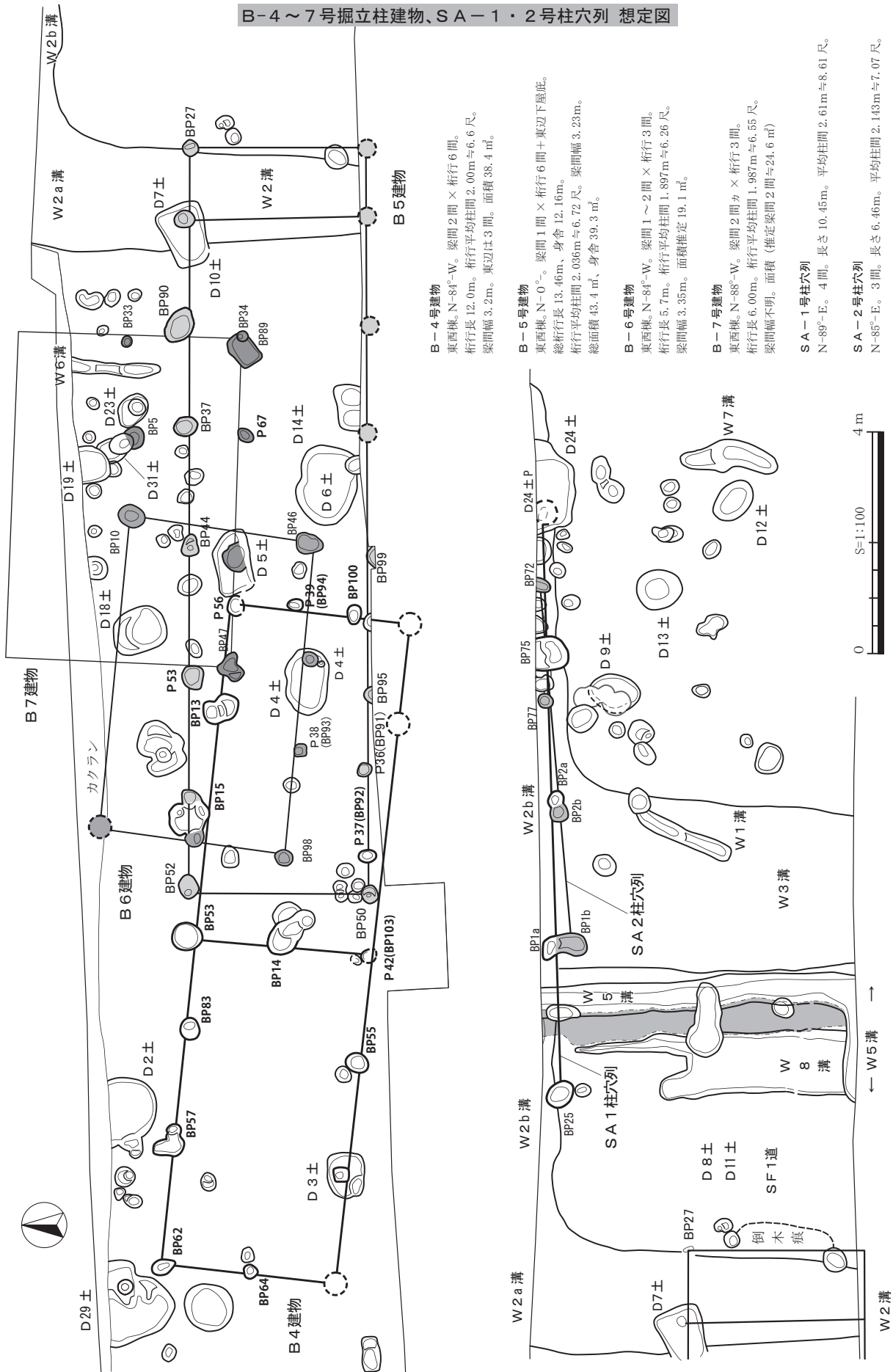
D-1号土坑 土層説明 (A-A')

1. 褐色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック少量、シルト粒中量。
2. 暗褐色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック中量。

D-2号土坑 土層説明 (B-B')

1. 褐色土 しまり強い。As-B少量。黄褐色シルトブロック中量。
2. 暗褐色土 しまりあり。As-B中量。黄褐色シルトブロック少量。
3. 黒褐色土 しまりあり。As-B少量。黄褐色シルト粒少量。

Fig. 11 [100] 遺構図 (5) ピット群 (西端) / D-1・2号土坑



B-4 ~ 7号掘立柱建物、SA-1・2号柱穴列 想定図

B-4号建物

東西棟、N-84°-W。梁間2間×桁行6間。
 桁行長12.0m。桁行平均柱間2.00m≒6.6尺、
 梁間幅3.2m。東辺は3間。面積38.4㎡。

B-5号建物

東西棟、N-0°。梁間1間×桁行6間+東辺下屋庇。
 総桁行長13.46m、身舎12.16m。
 桁行平均柱間2.036m≒6.72尺、梁間幅3.23m。
 総面積43.4㎡、身舎39.3㎡。

B-6号建物

東西棟、N-84°-W。梁間1~2間×桁行3間。
 桁行長5.7m。桁行平均柱間1.897m≒6.26尺、
 梁間幅3.35m。面積推定19.1㎡。

B-7号建物

東西棟、N-88°-W。梁間2間カ×桁行3間。
 桁行長6.00m。桁行平均柱間1.987m≒6.55尺、
 梁間幅不明。面積(推定梁間2間≒24.6㎡)

SA-1号柱穴列

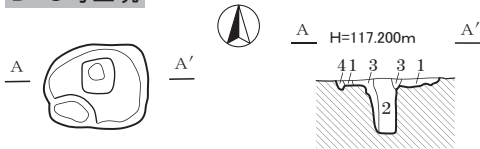
N-89°-E。4間。長さ10.45m。平均柱間2.61m≒8.61尺。

SA-2号柱穴列

N-85°-E。3間。長さ6.46m。平均柱間2.143m≒7.07尺。

Fig. 12 [100] 遺構図(6) B-4~7号掘立柱建物 / SA-1・2号柱穴列 想定図

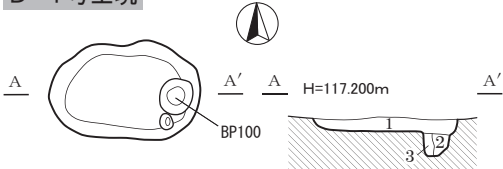
D-3号土坑



D-3号土坑 土層説明

1. 暗褐色土 しまり弱い。As-B少量。黄褐色シルト粒少量。炭化物微量。
2. 褐色土 しまり弱い。As-B中量。柱痕。
3. 暗褐色土 しまりあり。As-B少量。黄褐色シルト粒少量。根固。
4. 褐色土 しまり弱い。As-B少量。

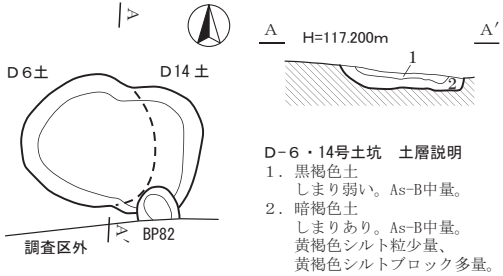
D-4号土坑



D-4号土坑 土層説明

1. 暗褐色土 しまり弱い。As-B中量。黄褐色シルト粒少量。黄褐色シルトブロック少量。
2. 褐色土 しまり強い。黄褐色シルトブロック多量。根固め。
3. 明褐色土 しまり強い。黄褐色シルト主体。根固め。

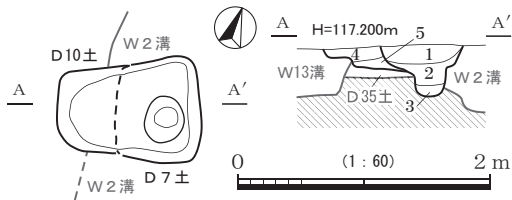
D-6号土坑・D-14号土坑



D-6・14号土坑 土層説明

1. 黒褐色土 しまり弱い。As-B中量。
2. 暗褐色土 しまりあり。As-B中量。黄褐色シルト粒少量。黄褐色シルトブロック多量。

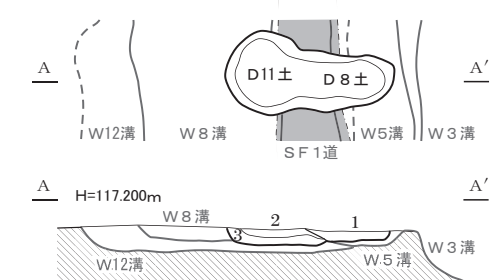
D-7号土坑・D-10号土坑



D-7・10号土坑 土層説明

1. 灰褐色土 しまり強い。As-B多量。黄褐色シルト粒少量。
2. 灰褐色土 しまり弱い。As-B多量。黄褐色シルト粒少量。
3. 褐色土 しまり弱い。As-B微量。黄褐色シルトブロック少量。
4. 灰褐色土 しまりあり。As-B多量。D-10号土坑。
5. しまりあり。As-B少量。D-10号土坑。

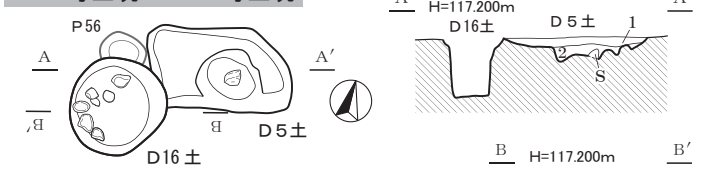
D-8号土坑・D-11号土坑



D-8・11号土坑 土層説明

1. 褐灰色土 しまりややあり。As-B多量。
2. 褐灰色土 しまりあり。As-B多量。
3. 暗褐灰色土 しまりあり。As-B中量。

D-5号土坑・D-16号土坑



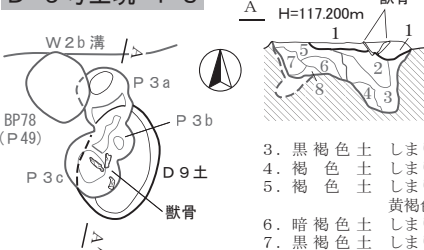
D-5号土坑 土層説明

1. 暗褐色土 しまり弱い。As-B中量。黄褐色シルトブロック少量。
2. 褐色土 しまりあり。炭化物微量。黄褐色シルト粒少量。黄褐色シルトブロック少量。

D-16号土坑 土層説明

1. 暗褐色土 しまりあり。As-B中量。黄褐色シルト粒少量。
2. 暗褐色土 しまり弱い。As-C微量。黄褐色シルトブロック少量。
3. 黒褐色土 しまりあり～弱い。As-C微量。黄褐色シルトブロック少量。
4. 褐色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック多量。
5. 明褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒多量、ブロック少量。

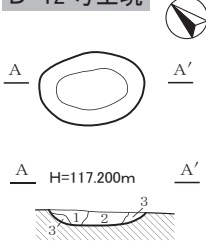
D-9号土坑・P3



D-9号土坑・P3 土層説明

1. 明褐色土 しまりあり。As-B中量。D-9号土坑。
2. 暗褐色土 しまりあり。As-B中量。
3. 黒褐色土 しまりあり～弱い。As-B少量。
4. 褐色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック中量。
5. 褐色土 しまりややあり。As-B微量。As-C微量。黄褐色シルトブロック微量。
6. 暗褐色土 しまりややあり～弱い。As-C少量。
7. 黒褐色土 しまり弱い。As-B微量。As-C少量。

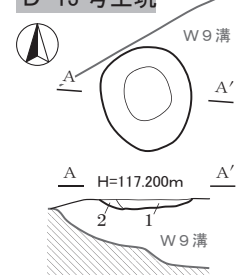
D-12号土坑



D-12号土坑 土層説明

1. 褐灰色土 しまりあり。As-B中量。As-C少量。
2. 黒褐色土 しまりあり。As-B中量。As-C多量。
3. 黒褐色土 しまり弱い。As-B少量。As-C多量。

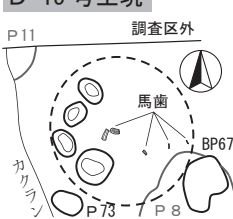
D-13号土坑



D-13号土坑 土層説明

1. 黒褐色土 しまり弱い。As-B少量。黄褐色シルト粒中量。
2. 灰褐色土 しまりあり。As-B少量。黄褐色シルトブロック少量。

D-15号土坑



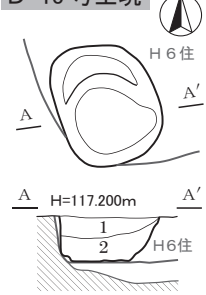
D-17号土坑



D-17号土坑 土層説明

1. 灰褐色土 しまりあり。As-B中量。As-C少量。
2. 褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。

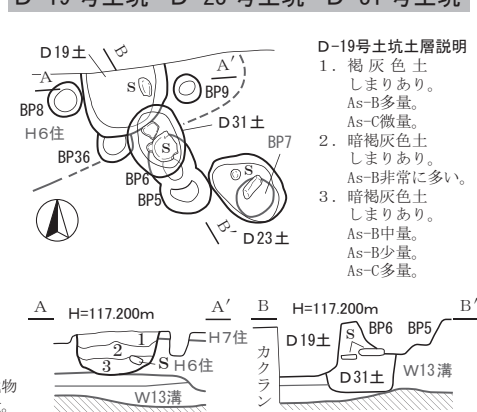
D-18号土坑



D-18号土坑 土層説明

1. 暗褐灰色土 しまりあり。As-B多量。As-C微量。
2. 暗褐色土 しまりあり。As-B少量。As-C少量。炭化物微量。黄褐色シルト粒中量。

D-19号土坑・D-23号土坑・D-31号土坑

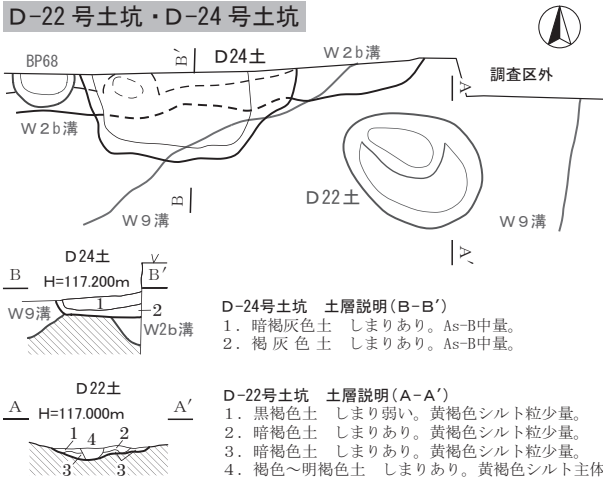


D-19号土坑土層説明

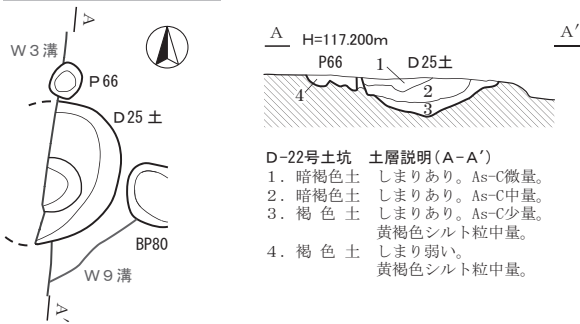
1. 褐灰色土 しまりあり。As-B多量。As-C微量。
2. 暗褐灰色土 しまりあり。As-B非常に多い。
3. 暗褐灰色土 しまりあり。As-B中量。As-B少量。As-C多量。

Fig. 13 [100] 遺構図 (7) D-3～19・23・31号土坑

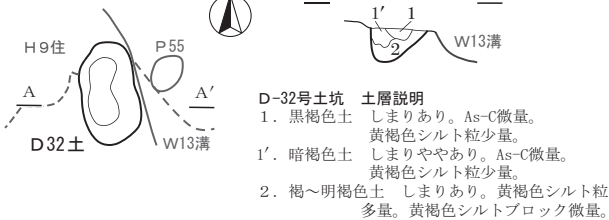
D-22号土坑・D-24号土坑



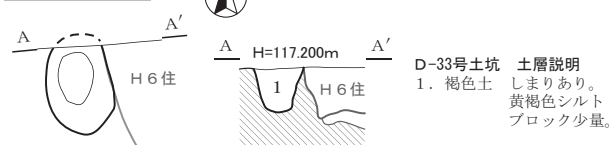
D-25号土坑・P66



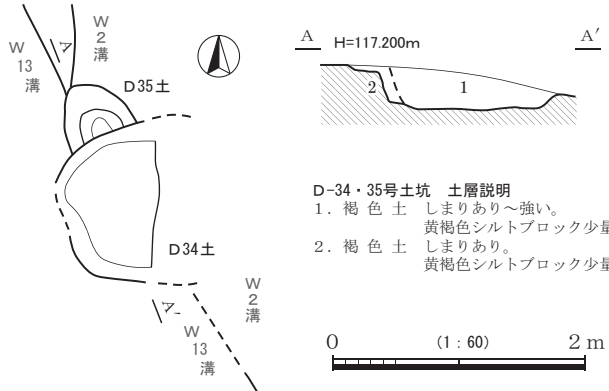
D-32号土坑



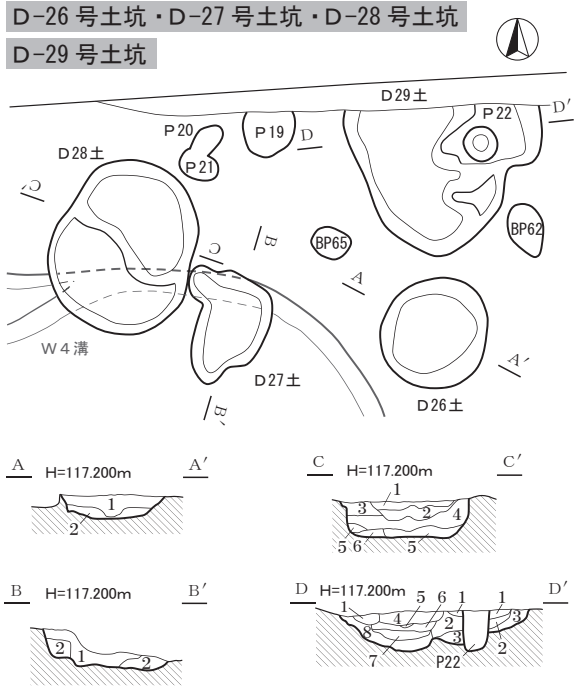
D-33号土坑



D-34・35号土坑



D-26号土坑・D-27号土坑・D-28号土坑



D-29号土坑・P22 土層説明 (D-D')

1. 黒褐色土 As-B多量。
2. 暗灰褐色土 黄褐色シルトブロック少量。
3. 黄褐色土 黄褐色シルト主体。褐色シルトブロック少量。
4. 灰褐色土 As-B微量。黄褐色シルトブロック少量。
5. 黒色土 As-B多量。
6. 黄褐色土 黄褐色シルトブロック・褐色シルトブロック少量。
7. 黄褐色土 黄褐色シルト主体。褐色シルトブロック少量。
8. 明黄褐色土 褐色シルトブロック多量。

W-1号溝 土層説明

1. 暗灰褐色土 しまりあり。As-B中量。

W-6号溝 土層説明

1. 暗褐色土 しまりあり。As-B多量。

W-7号溝 土層説明

1. 褐色土 しまりあり。As-C多量。
2. 黒褐色土 しまりやや弱い。As-C少量。
3. 褐色土 しまりあり。As-C微量。

Fig. 14 [100] 遺構図 (8) D-22・24～29・32～35号土坑 / W-1・6・7号溝

- 20 -

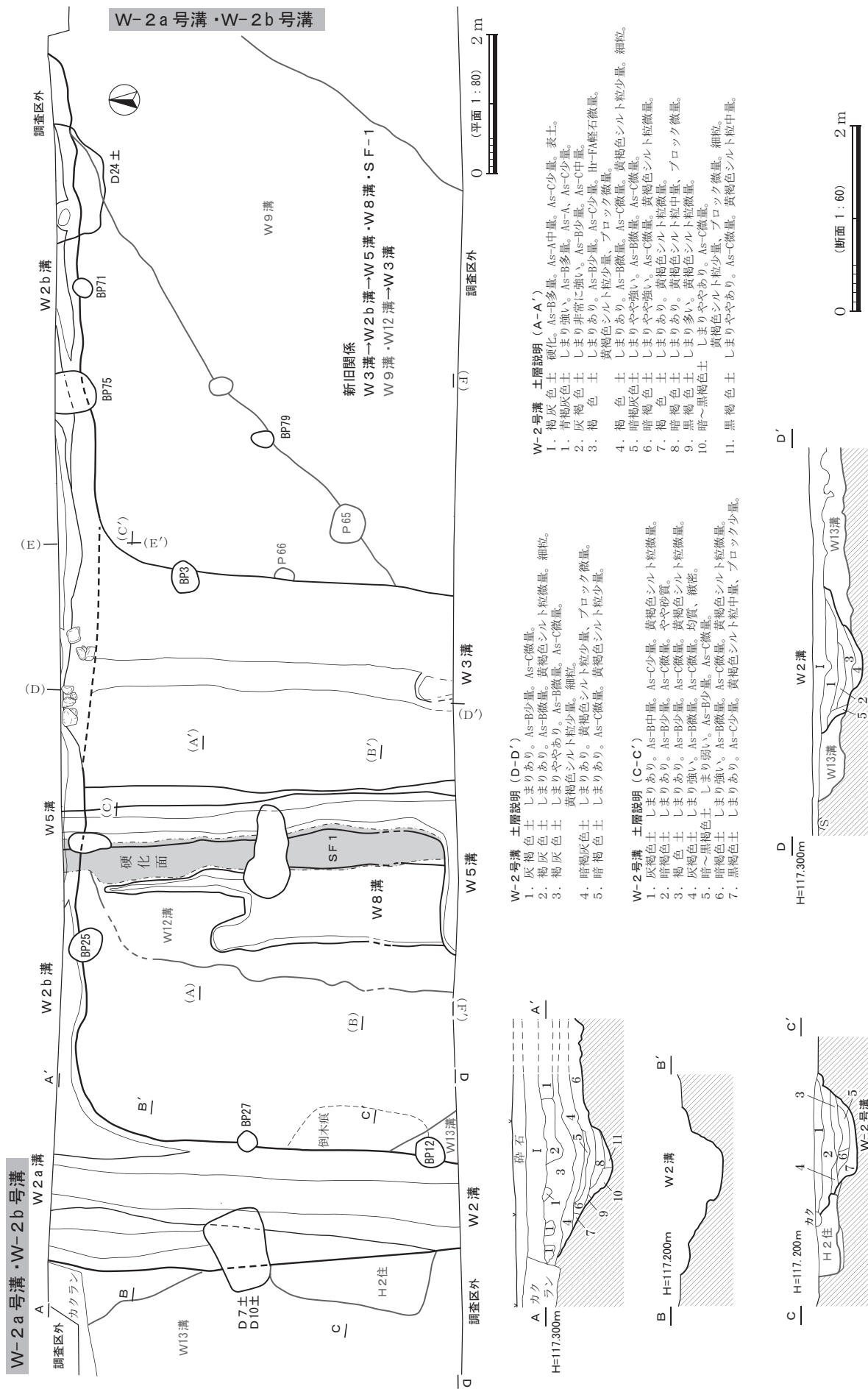
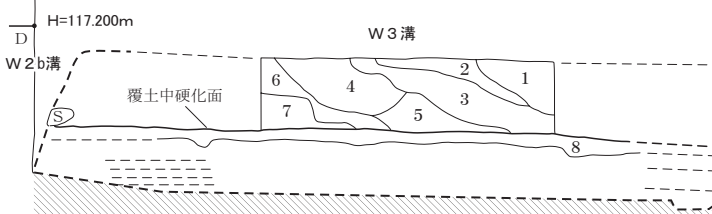
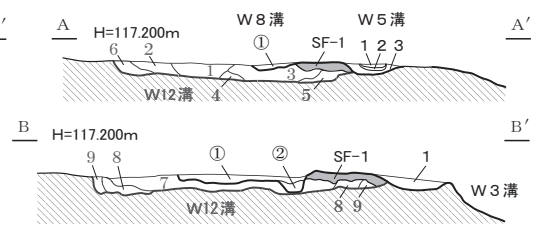
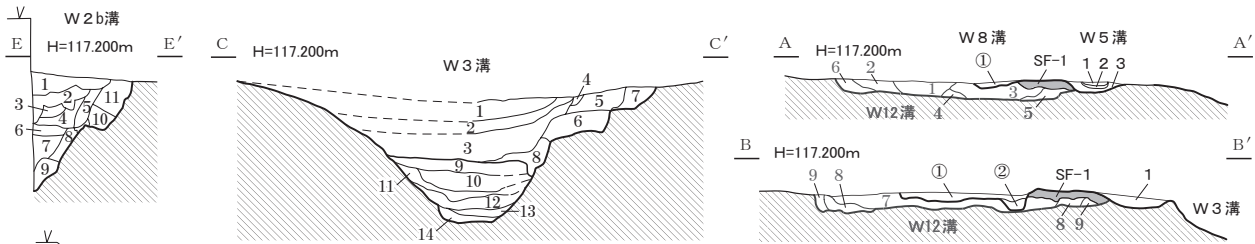
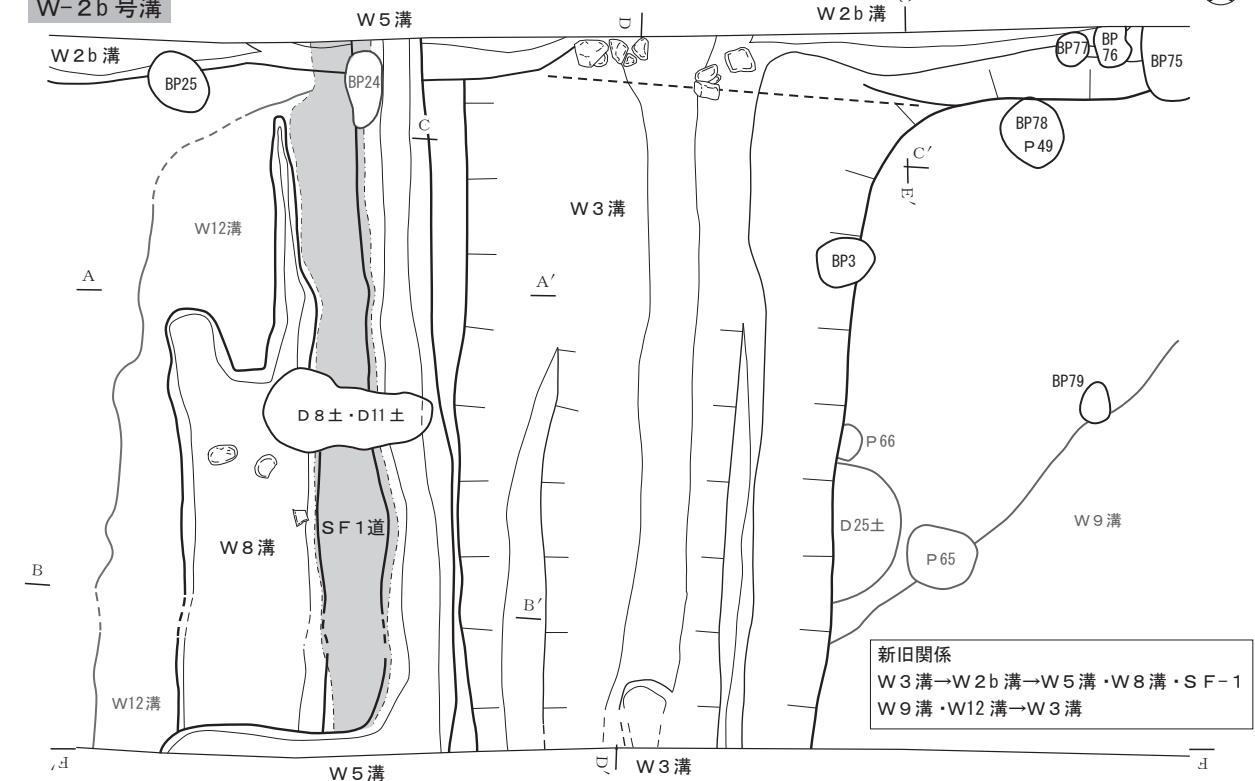


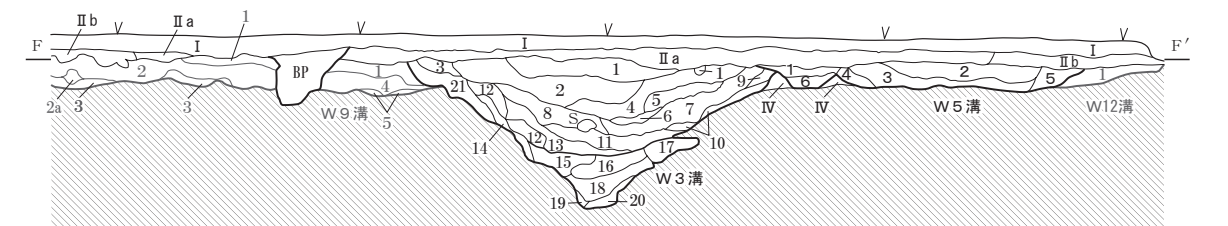
Fig. 15 [100] 遺構図 (9) W-2a・2b号溝

W-3号溝・W-5号溝・W-8号溝・SF-1号道路状遺構

W-2b号溝



- W-5号溝 土層説明 (南壁・F-F')
1. 暗褐色土 しまり弱い。As-B少量。黄褐色シルト粒微量。
 2. 暗褐色土 しまり弱い。As-B少量。黄褐色シルト粒少量。
 3. 黒褐色土 しまり弱い。As-B微量。黄褐色シルトブロック微量。
 4. 黒褐色土 しまりややあり。黄褐色シルトブロック中量。
 5. 暗褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒微量。
 6. 暗褐色土 しまり弱い。As-B少量。黄褐色シルト粒少量。

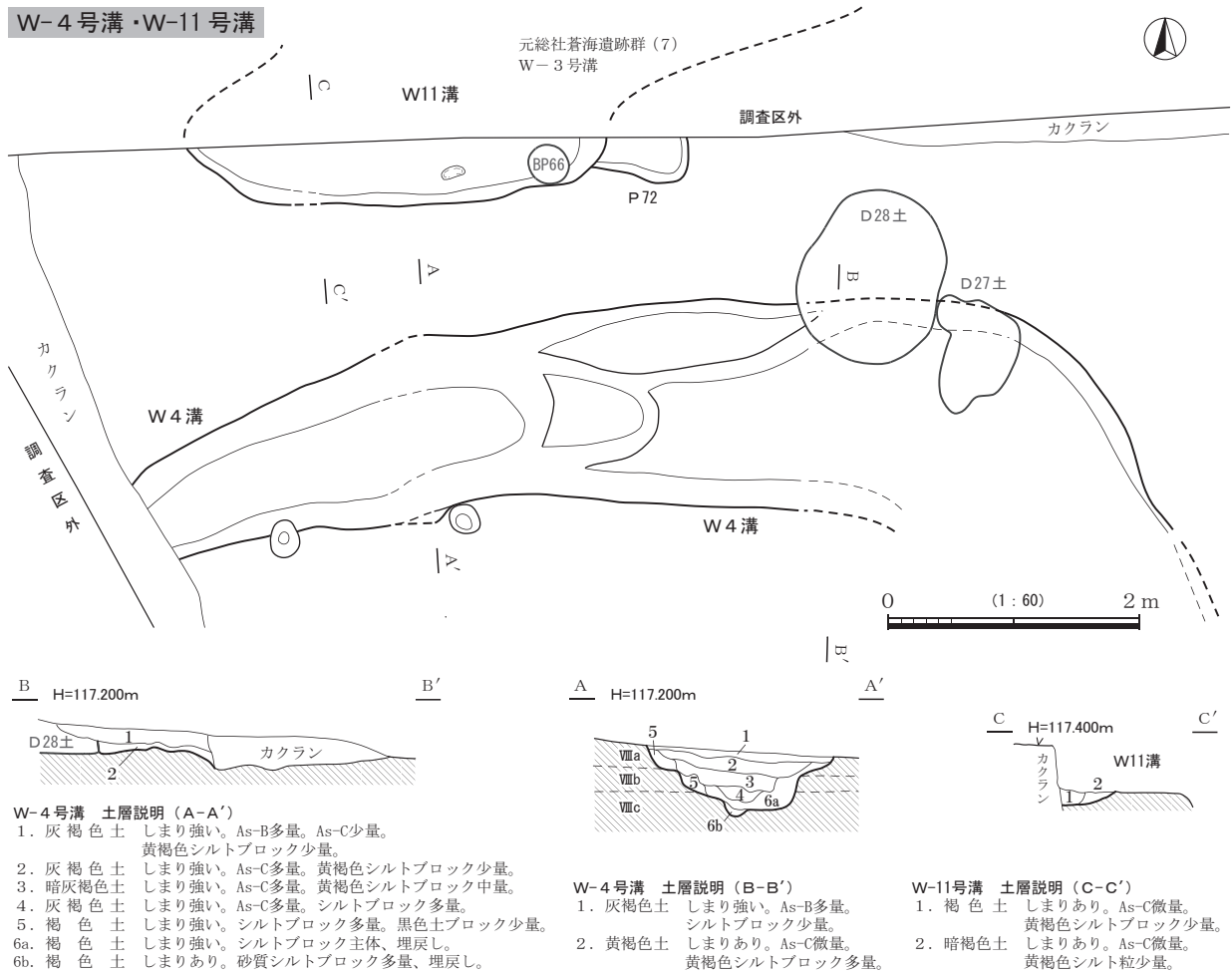


- W-3号溝 土層説明 (F-F')
1. 暗褐色土 しまりあり。As-B中量。黄褐色シルトブロック微量。
 2. 明灰褐色土 しまりあり。As-B少量。黄褐色シルトブロック中量。斑状。
 3. 黒褐色土 しまりややあり。黄褐色シルトブロック微量。
 4. 黒褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒微量。
 5. 褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒微量。
 6. 褐色土 しまり強い。シルト質硬化ブロック少量。
 7. 暗褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒微量。
 8. 灰褐色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック中量。斑状。
 9. 黒褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒微量。
 10. 暗褐色土 しまりややあり。細粒均質。
 11. 灰褐色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック中量。
 12. 褐灰色土 しまりあり。褐灰シルトブロック少量。
 13. 黒褐色土 しまりややあり。褐灰シルトブロック微量。
 14. 暗褐色土 しまりややあり。均質。
 15. 黒褐色土 しまり非常に強い。黄褐色シルト粒少量。

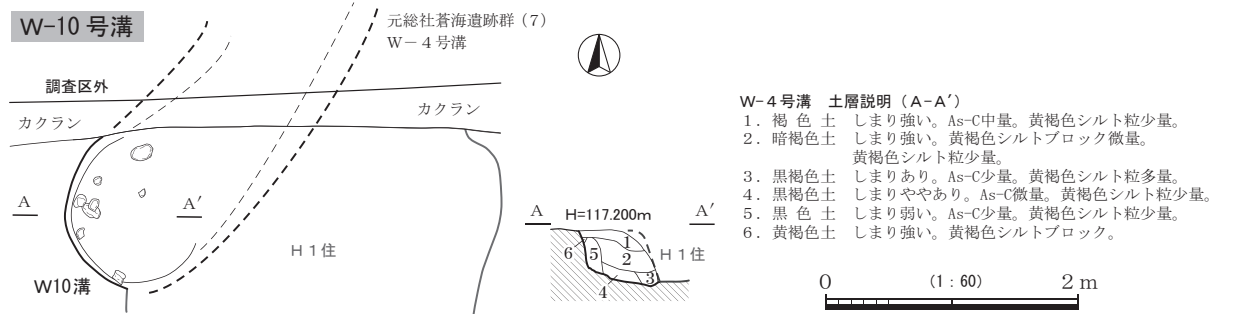
16. 暗褐灰色土 しまり非常に強い。黄褐色シルトブロック微量。
 17. 明褐灰色土 硬化。総社砂層シルトブロック主体。
 18. 褐色土 しまり強い。褐灰シルトブロックやや多量。
 19. 暗褐灰色土 しまりあり。シルト質。
 20. 灰褐色土 しまり強い。シルトブロック多量。
- 基本層序 土層説明 (W3溝 F-F'・W9溝 F-F')
- I. 灰褐色～暗褐色土 しまりあり。As-A微量。As-B少量。現表土。
 - IIa. 暗褐灰色土 しまりあり。As-B少量。
 - IIb. 暗褐灰色土 しまり強い。As-B少量。
 - III. 褐色土 As-C・Hr-FA混入土層。
 - IV. 褐灰色土 しまりあり～強い。Hr-FA純層。
 - V. 黒色土 As-C混入土層。
 - VI. 暗～黒褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒少量。縄文時代包含層。
 - VII. 褐色土 しまりあり。漸移層。
 - VIII. 黄褐色土 硬化。総社砂層最上層の黄褐色シルト層。

Fig.16 [100] 遺構図 (10) W-2b・3・5・8号溝 / SF-1号道路状遺構

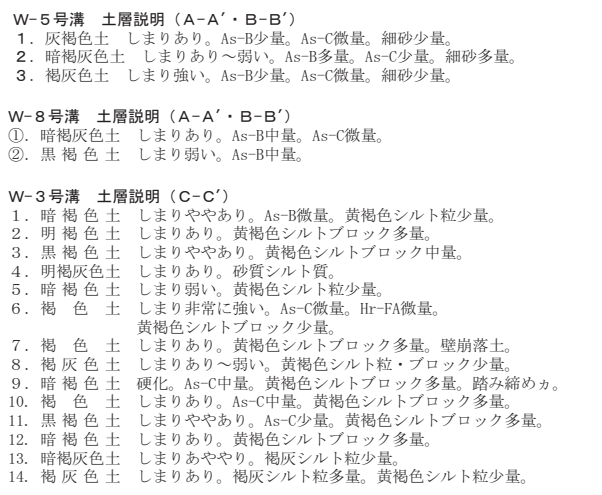
W-4号溝・W-11号溝



W-10号溝



W-3号溝・W-5号溝・W-8号溝・SF-1道路状遺構



W-2b号溝

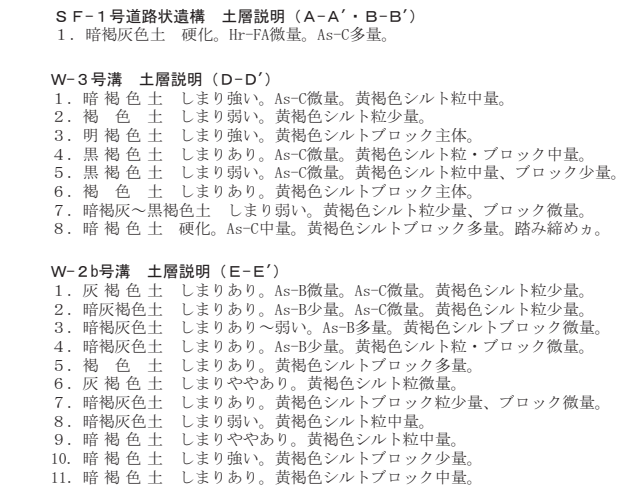


Fig. 17 [100] 遺構図 (11) W-4・10・11号溝 (W-2b・3・5・8号溝 / SF-1道路状遺構)

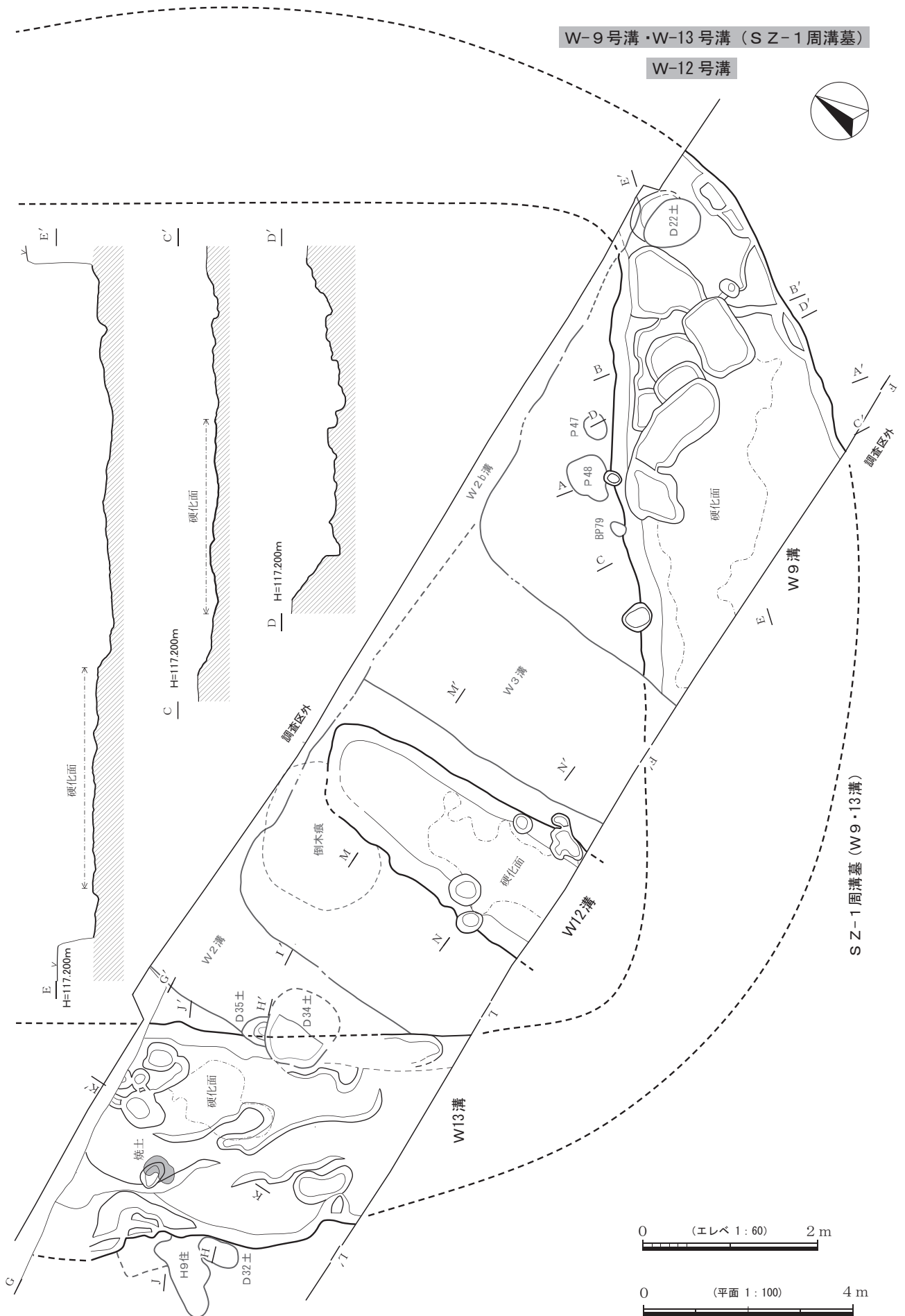
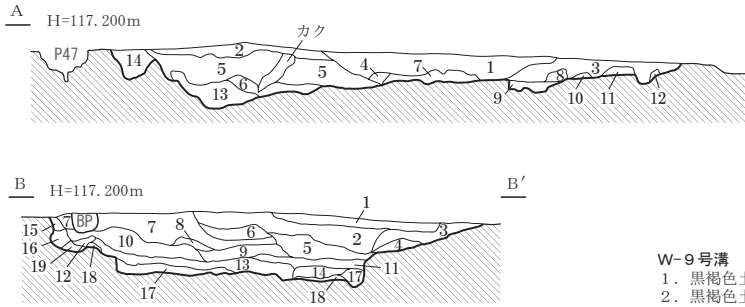


Fig. 18 [100] 遺構図 (12) W-9・13号溝 (SZ-1周溝墓) ① / W-12号溝①

W-9号溝・W-13号溝 (SZ-1周溝墓)



W-9号溝 土層説明 (A-A')

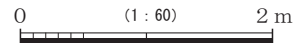
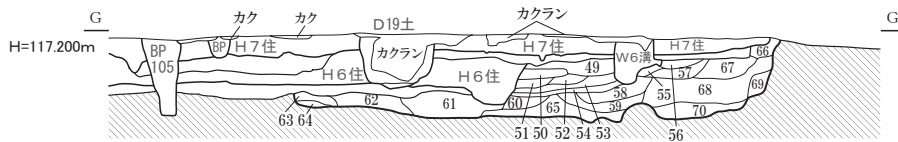
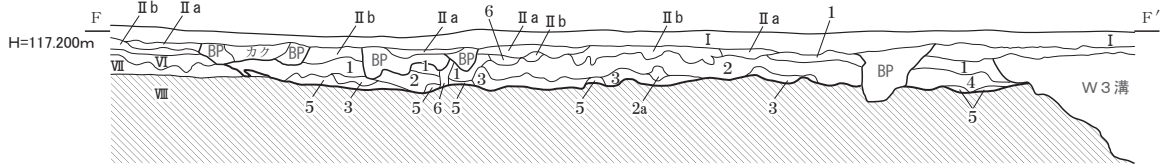
1. 褐～暗褐色土 しまりあり。As-C多量。Hr-FA灰層ブロック微量。
2. 褐～暗褐色土 しまりややあり。As-C中量。細粒。
3. 暗～黒褐色土 しまりあり。As-C多量。黄褐色シルト粒少量、ブロック微量。
4. 黒褐色土 しまり強い。As-C多量。
5. 暗～黒褐色土 しまりあり。As-C多量。黄褐色シルト粒・ブロック少量。
6. 褐色土 しまり強い。As-C少量。黄褐色シルトブロック中量。埋戻しか。
7. 褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒多量。
8. 褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒多量。
9. 褐色土 しまり弱い。As-C微量。黄褐色シルト主体。
10. 褐色土 しまり弱い。As-C微量。黄褐色シルトブロック50%。
11. 褐色土 しまり強い。As-C少量。黄褐色シルトブロック多量。
12. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒中量。
13. 褐色土 しまり強い。As-C中量。As-C純層ブロック10%。黄褐色シルトブロック多量。埋戻し。
14. 褐色土 しまり強い。黄褐色シルト粒少量、ブロック微量。

W-9号溝 土層説明 (F-F')

1. 黒褐色土 しまり弱い、粘性弱い。As-Cやや多量。黄褐色シルト粒少量。
2. 暗褐色土 しまりやや弱い。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。
- 2a. 暗褐色土 しまりやや弱い。As-C微量。黄褐色シルト粒微量。
3. 暗黄褐色土 しまり弱い。As-C微量。黄褐色シルト粒微量。
4. 黒褐色土 しまり弱い。粘性弱い。As-Cやや多量。黄褐色シルトブロックやや多量。褐灰シルト粒やや多量。
5. 明黄褐色土 しまり非常に弱い。白色軽石粒少量。
6. 暗褐色土 しまり非常に弱い。根カクラン。

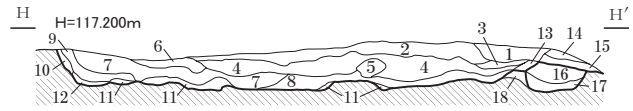
W-9号溝 土層説明 (B-B')

1. 黒褐色土 しまりあり。As-C多量。Hr-FA灰層ブロック少量。
2. 黒褐色土 しまりあり。As-C非常に多量。
3. 黒褐色土 しまりあり。As-C非常に多量、ブロック状。黄褐色シルト粒少量。
4. 暗褐色土 しまりややあり。As-C多量。黄褐色シルトブロック少量。
5. 黒褐色土 しまりややあり。As-C(φ 1cm以下)多量。黄褐色シルト粒少量。
6. 黒褐色土 しまり強い。As-C(φ 1cm以下)多量。
7. 暗～褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルトブロック微量。
8. 黒色土 しまりあり。As-C微量。細粒、均質。
9. 黒褐色土 しまりあり。As-C少量。軟質黒色土主体。黄褐色シルトブロック微量。
10. 暗褐色土 しまり強い。As-C中量。黄褐色シルト粒中量。黄褐色シルトブロック微量。
11. 黒褐色土 しまりあり。As-C(φ 1cm以下)非常に多量。
12. 褐灰色土 しまり強い。As-C微量。
13. 暗～黒褐色土 しまりあり。As-C(φ 1cm以下)中量。黄褐色シルトブロック少量。
14. 黒褐色土 しまりあり。As-C(φ 1cm以下)多量。
15. 褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒中量。
16. 明褐色土 しまり弱い。As-C微量。黄褐色シルト粒主体。
17. 黄褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルトブロック主体。暗褐色土30%。
18. 明褐色土 硬化。黄褐色シルトブロック主体。
19. 黄褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト主体。



W-13号溝 土層説明 (G-G')

- 1～24. H-7号住居跡 25～48. H-6号住居跡
49. 黒褐色土 しまりあり。As-C非常に多い。
 50. 黒色土 しまりあり。As-C非常に多い。
 51. 暗褐色土 しまりあり。As-C多量。
 52. 暗褐色土 (明) しまりややあり。As-C多量。
 53. 褐色土 しまりややあり。As-C微量。黄褐色シルト粒少量。
 54. 灰褐色土 しまりやや弱い。As-C微量。褐灰細粒シルト多量。
 55. 明褐色土 しまりややあり。As-C微量。黄褐色シルト粒中量。
 56. 暗褐色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒中量。
 57. 暗褐色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒多量。
 58. 暗～褐色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒多量。黄褐色シルトブロック微量。
 59. 暗褐色土 しまり強い。As-C少量。黄褐色シルト粒中量。黄褐色シルトブロック少量。
 60. 暗褐色土 しまりややあり。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。黄褐色シルトブロック微量。
 61. 黒褐色土 しまり強い。As-C多量。黄褐色シルト粒中量。黄褐色シルトブロック少量。
 62. 暗～黒褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒中量。黄褐色シルトブロック微量。
 63. 暗褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒少量。As-Cを多量に含む黒色土ブロック含む。
 64. 褐色土 しまり弱い。黄褐色シルトブロック少量。
 65. 暗～褐色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルトブロック多量。As-Cを多量に含む黒色土ブロック含む。
 66. 褐色土 しまりややあり。As-C微量。黄褐色シルト粒少量。
 67. 暗褐色土 しまり強い。As-C少量。黄褐色シルト粒中量。黄褐色シルトブロック微量。As-Cを含まない黒色土ブロックを多量含む。
 68. 暗褐色土 しまり強い。As-C少量。黄褐色シルトブロック多量。As-Cを含まない黒色土ブロックを多量含む。埋戻しか。
 69. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒中量。
 70. 黄褐色土 しまり強い。地山シルトの埋戻しか。

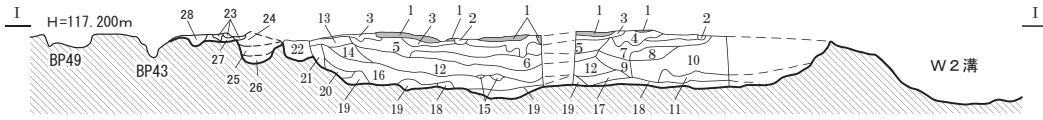


W-13号溝 土層説明 (H-H')

1. 褐色土 しまり強い。As-C中量。黄褐色シルト粒・ブロック斑状に多量。埋戻しか。
2. 黒褐色土 しまりややあり。As-C非常に多量。黄褐色シルト粒少量。
3. 黒色土 しまり弱い。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。
4. 暗褐色土 しまりあり。As-C多量。黄褐色シルト粒中量、ブロック少量。
5. 黄褐色土 硬化。黄褐色シルトブロック塊。
6. 褐色土 しまりややあり。As-C少量。黄褐色シルトブロック少量。
7. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒中量、ブロック微量。
8. 暗褐色土 しまり強い。As-C中量。黄褐色シルト粒多量、ブロック少量。黒色土ブロック少量。
9. 暗～黒褐色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒多量。
10. 褐色土 しまりややあり。As-C微量。黄褐色シルト粒多量。
11. 灰褐～にびい黄褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒少量、ブロック多量。埋戻しか。
12. 黄褐色土 しまりあり。シルト質。
13. 褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒多量、ブロック微量。
14. 暗褐色土 しまり強い。As-C中量。黄褐色シルト粒少量、ブロック微量。
15. 褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒微量。
16. 暗褐色土 しまりあり。白色軽石微量。黄褐色シルト粒・ブロック微量。D34号土坑。
17. 褐色土 しまり強い。黄褐色シルトブロック中量。D34号土坑。
18. 黄褐色土 黄褐色シルトブロック。地山か。

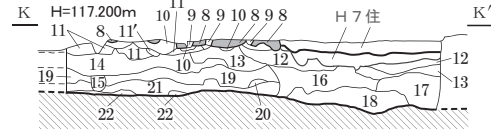
Fig. 19 [100] 遺構図 (13) W-9・13号溝 (SZ-1周溝墓) ②

W-9号溝・W-13号溝 (SZ-1周溝墓)



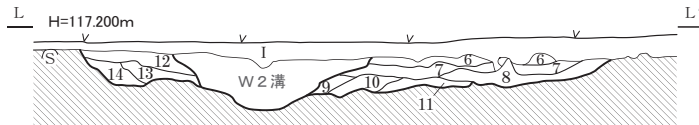
W-13号溝・H-9号住居跡 土層説明 (I-I')

1. 明褐色土～明黄褐色土 しまりあり。Hr-FA、一次堆積。
2. 灰褐色土 しまり強い。Hr-FA粒子多量。As-C微量。
3. 灰褐色土 しまり強い。As-C、Hr-FA粒子少量。
4. 灰褐色土 しまり強い。As-C中量。Hr-FA粒子少量。
5. 黒褐色土 しまり強い。As-C多量。黄褐色シルト粒少量。
6. 黒色土 しまりあり～ややあり。As-C非常に多い。
7. 暗褐色土 しまりあり。As-C多量。黄褐色シルト粒微量。
8. 褐色土 しまり強い。As-C多量。黄褐色シルト粒少量。
9. 褐色土 8層類似。黄褐色シルトブロック微量。
10. 褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルトブロック多量。埋戻し。
11. 黒褐色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒・ブロック少量。
12. 褐色土 しまりややあり。As-C中量。黄褐色シルト粒微量。細粒。
13. 暗褐色土 しまり強い。As-C少量。
14. 暗褐色土 しまり強い。As-C微量。
15. 褐色土 しまりあり。緻密粒子、灰カ。
16. 暗褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒少量。粗粒。
17. 褐色土 しまり強い。黄褐色シルト粒中量、ブロック少量。
18. 黒褐色土 硬化。As-C中量。黄褐色シルト粒多量、ブロック少量。
19. 褐～明黄褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルトブロック中量。
20. 黒色土 しまりややあり。As-C非常に多い。
21. 暗褐色土 しまりややあり。As-C微量。黄褐色シルトブロック微量。
22. 褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒中量、ブロック少量。
23. 赤褐色土 被熱により赤化・硬化した地山シルト。焼土。H-9号住。
24. 褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒中量。H-9号住。
25. 暗褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒中量。H-9号住。
26. 褐色土 しまりややあり。黄褐色シルトブロック少量。H-9号住。
27. 明褐色土 しまりあり。焼土微量。H-9号住。
28. 黒褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルトブロック少量。H-9号住。



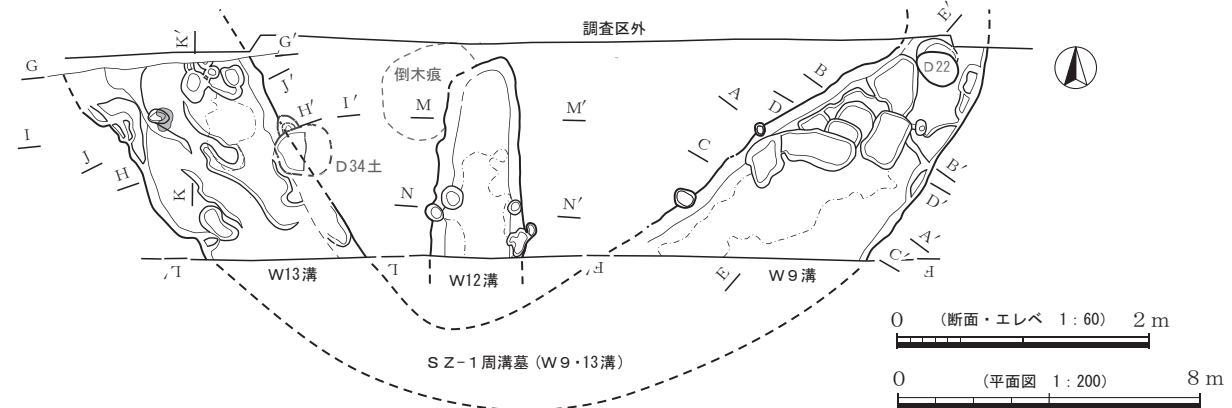
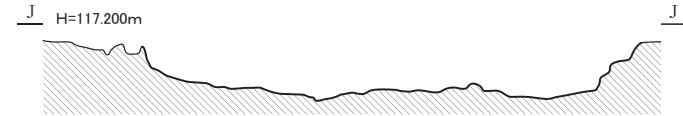
W-13号溝 土層説明 (K-K')

- 1～7. H-7号住居跡
8. 明褐色～明黄褐色土 しまり強い。Hr-FA層1次堆積。
9. 黒褐色土 しまりややあり。
10. 褐色土 しまりあり。As-C中量。Hr-FA少量。
11. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。
- 11' 暗褐色土 しまり強い。As-C中量。
12. 黒褐色土 しまりややあり。As-C微量。細粒。
13. 黒褐色土 しまり強い。As-C中量。
14. 黒色土 しまりあり。As-C多量。
15. 黒色土 しまり弱い。As-C微量。
16. 暗褐色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。
17. 暗褐色土 しまり強い。As-C少量。黄褐色シルト粒やや多い。黄褐色シルトブロック少量。
18. 暗～黒褐色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルトブロック多量。埋め戻しカ。
19. 暗～褐色土 しまりややあり。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。
20. 暗褐色土 しまり弱い。As-C微量。
21. 黒褐色土 しまりややあり。As-Cごく微量。
22. 黄褐色土 しまり強い。黄褐色シルトブロック多量。

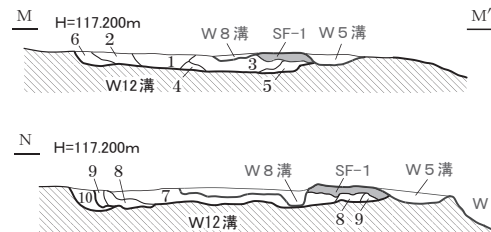


W-13号溝 土層説明 (L-L')

- 1～5. W-2号溝
6. 黒褐色土 しまりややあり。As-C中量。黒色土ブロック多量。
7. 暗褐色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒微量。
8. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。黒色土ブロック少量。
9. 褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒微量。
10. 黒褐色土 しまり強い。As-C中量。黄褐色シルト粒中量。黄褐色シルトブロック少量。
11. 褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒少量。
12. 黒褐色土 しまり強い。As-C多量。黄褐色シルト粒少量。黄褐色シルトブロック少量。
13. 暗褐色土 しまり強い。黄褐色シルト粒・ブロック少量。
14. 暗褐色土 しまり強い。As-C少量。黄褐色シルトブロック多量。



W-12号溝



W-12号溝 土層説明 (M-M'・N-N')

1. 黒褐色土 しまりややあり。As-C多量。
2. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルトブロック少量。
3. 暗褐色土 しまりややあり。As-C中量。黄褐色シルトブロック少量。
4. 褐色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。
5. 褐色土 しまり強い。As-C微量。黄褐色シルト粒少量。
6. 黒褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒少量。
7. 黒褐色土 しまりややあり。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。
8. 褐色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック少量。
9. 褐色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック少量。
10. 褐色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック少量。ビット。

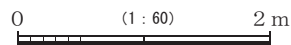
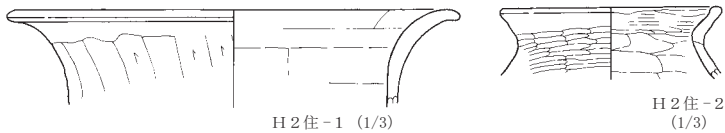
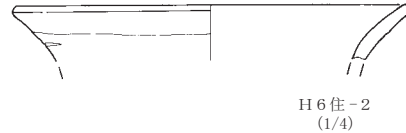


Fig. 20 [100] 遺構図 (14) W-9・13号溝 (SZ-1周溝墓) ③ / W-12号溝②

H-2号住居跡



H-6号住居跡



H-7号住居跡 (1)

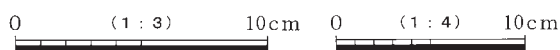
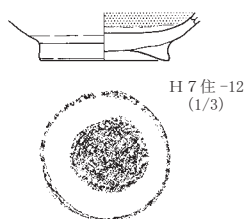
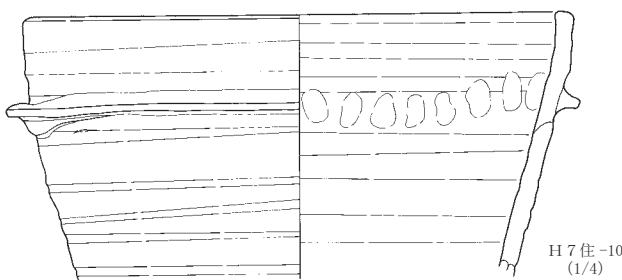
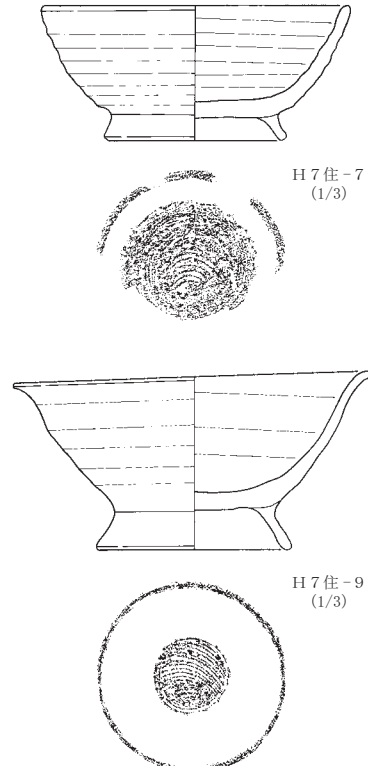
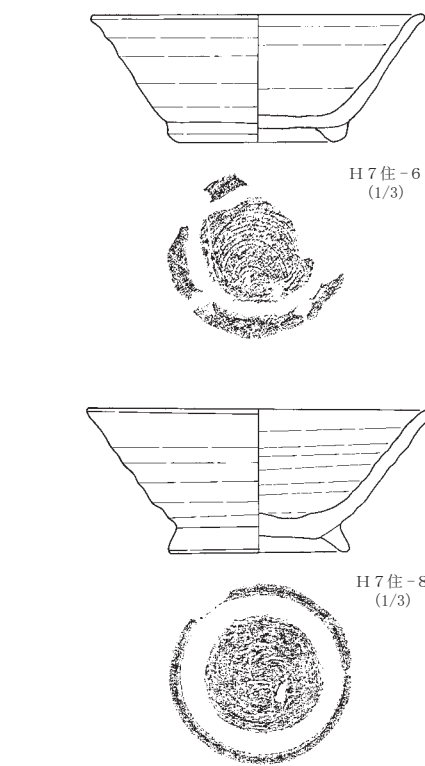
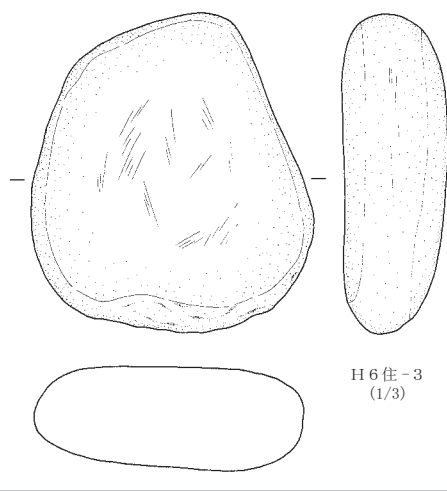
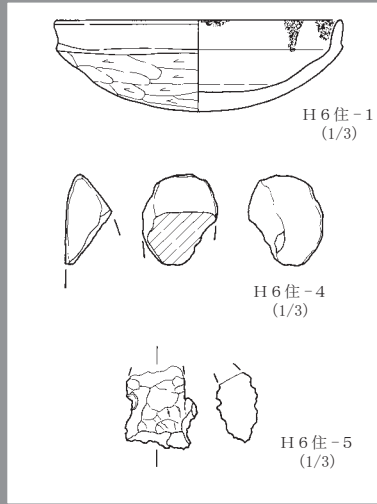
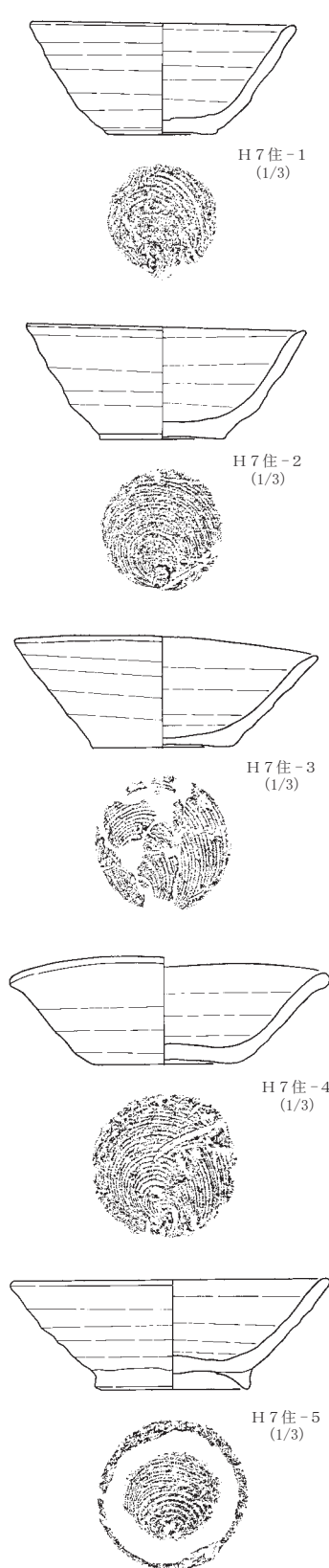
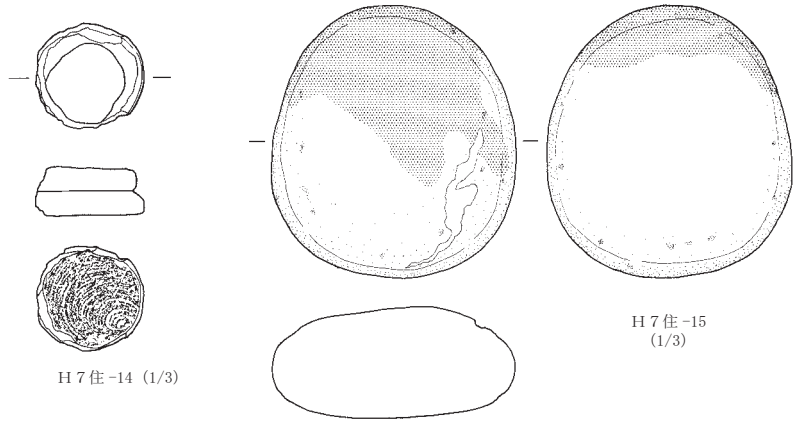
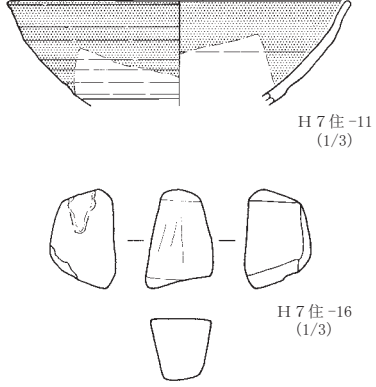


Fig. 21 [100] 遺物図 (1) H-2・6号住居跡 / H-7号住居跡①

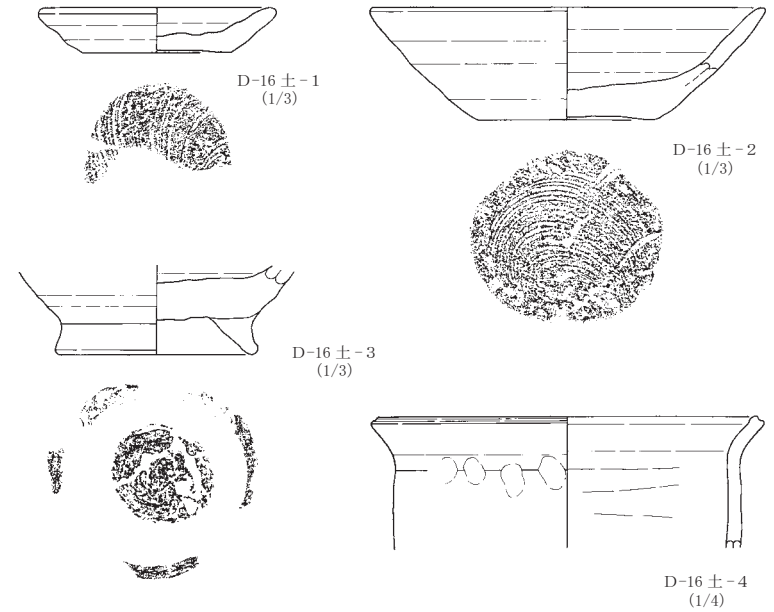
H-7号住居跡 (2)



H-9号住居跡



D-16号土坑



D-17号土坑

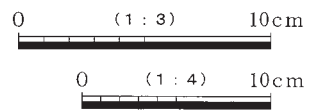
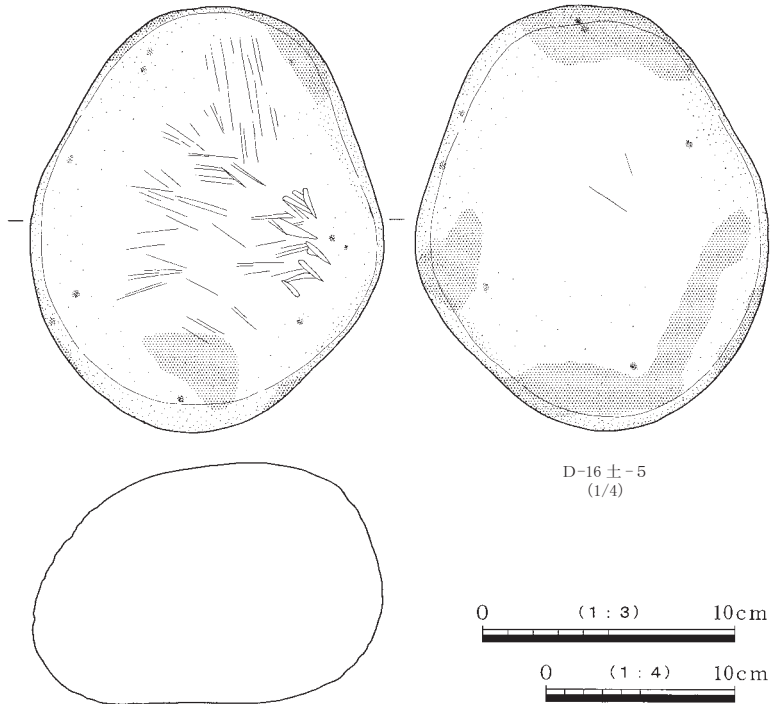
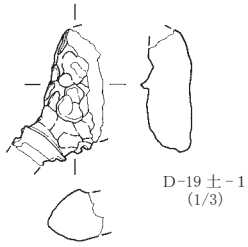
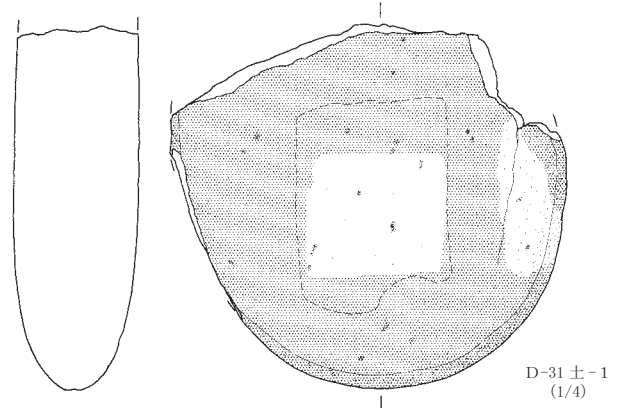


Fig. 22 [100] 遺物図 (2) H-7号住居跡② / H-9号住居跡 / P-12 / D-16・17号土坑

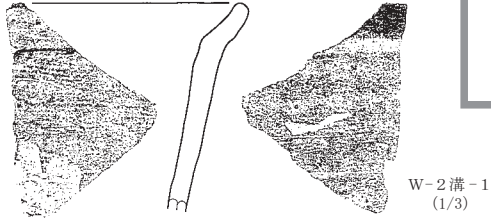
D-19号土坑



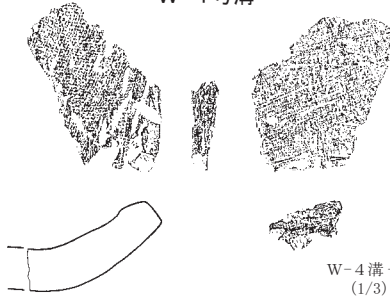
D-31号土坑



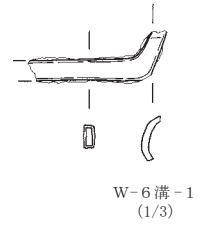
W-2号溝



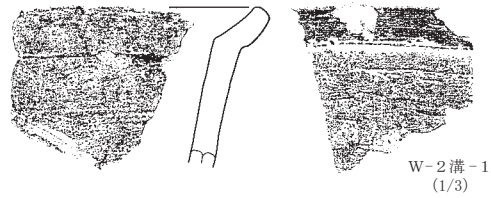
W-4号溝



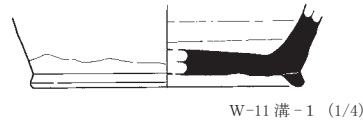
W-6号溝



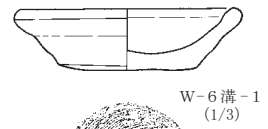
W-3号溝



W-11号溝



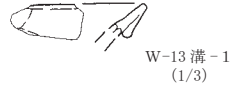
BP-9号溝



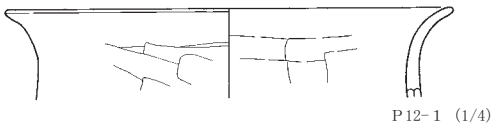
W-9号溝



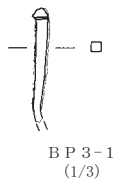
W-13号溝



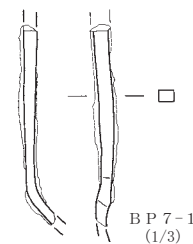
P-12号ピット



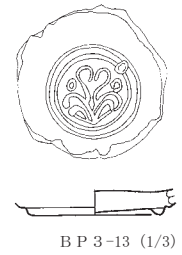
BP-3号ピット



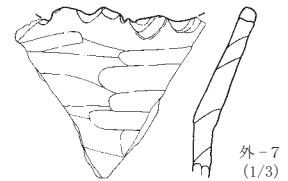
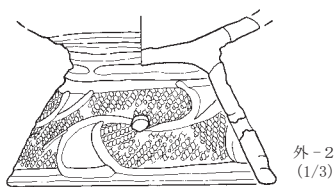
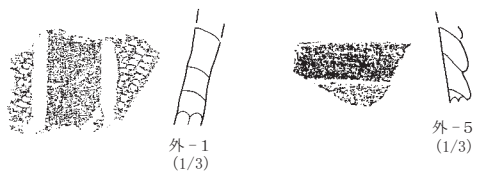
BP-7号ピット



BP-13号ピット



遺構外出土遺物①



0 (1:3) 10cm 0 (1:4) 10cm

Fig. 23 [100] 遺物図 (3) D-19・31号土坑 / BP-3・7・9 /
W-2・3・4・6・9・11・13号溝 / 遺構外出土遺物① 1~7

遺構外出土遺物②

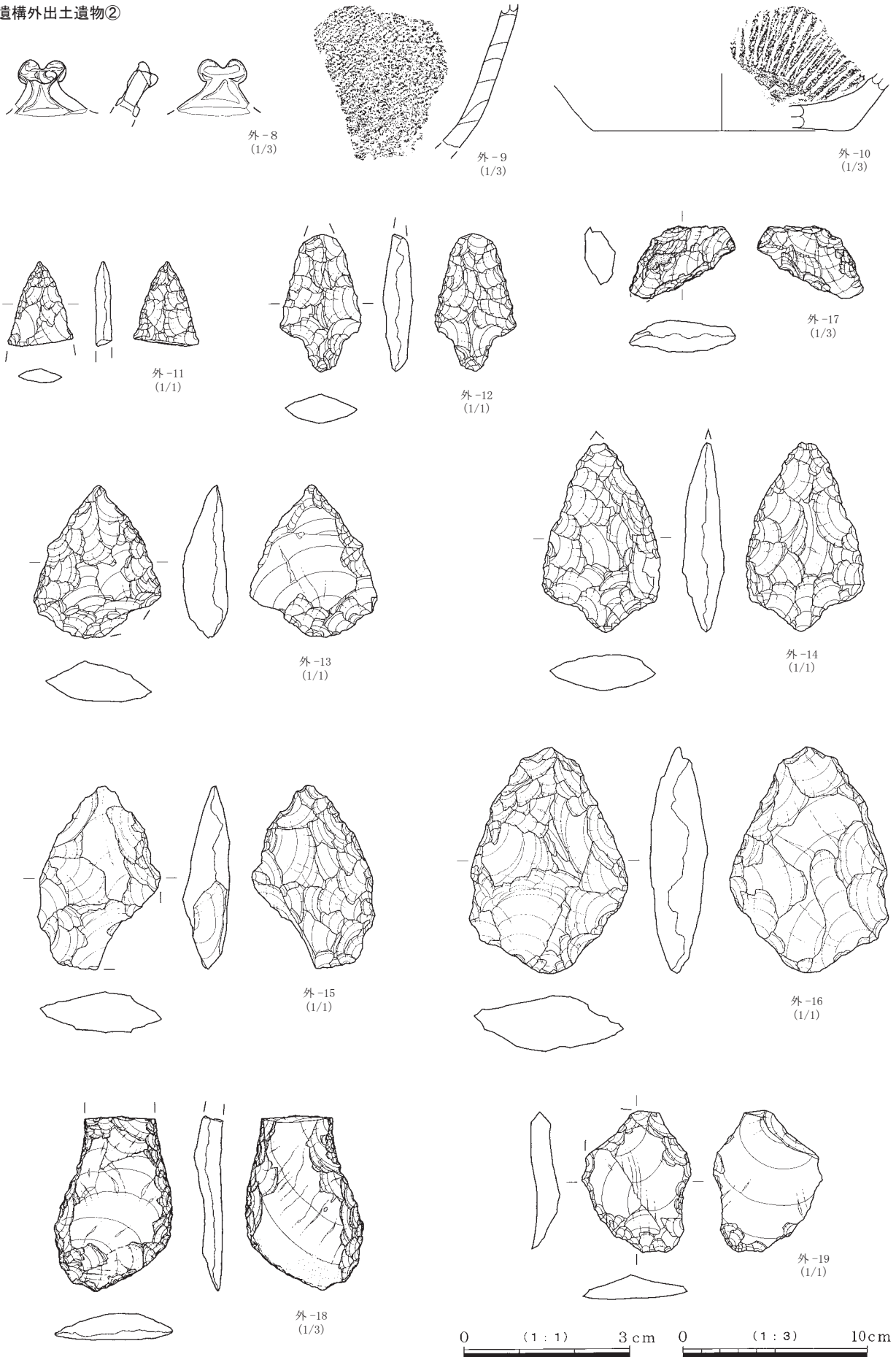


Fig. 24 [100] 遺物図 (4) 遺構外出土遺物② 8~19

遺構外出土遺物③



Fig. 25 [100] 遺物図 (5) 遺構外出土遺物③ 20 ~ 32

Tab. 5 [100] 出土遺物観察表(1) 住居跡

H-2号住居跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 甕	口径 (24.0) 器高 (5.1)	①酸化焰 ②にぶい黄～浅黄 ③白色粒・黒色粒・石英 ④口縁部～胴部上位 1/8	外面：口縁部横ナデ。胴部縦位匱ケズリ。 内面：口縁部～胴部横位匱ナデ。	覆土一括、 H6・7住 覆土上層	
2	土師器 小型甕	口径 (11.8) 器高 (3.8)	①酸化焰 ②明褐 ③白色粒・黒色粒・石英 ④口縁部～胴部上位 1/4	外面：口縁部横ナデ。胴部横位ミガキ。 内面：口縁部横ナデ後、横位ミガキ。胴部 横位匱ナデ。	覆土一括	

H-6号住居跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 坏	口径 11.4 器高 3.6	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・黒色粒・石英 ④完形	外面：口縁部横ナデ。体部～底部匱ケズリ、 一部指ナデ。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部匱ナデ。	No.1	口縁部内面 に油煙付着。
2	土師器 甕	口径 (21.0) 器高 (2.9)	①酸化焰 ②にぶい橙 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部 1/3	外面：口縁部横ナデ。 内面：口縁部横ナデ。	H6・7住 覆土一括	
番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴		出土層位	備考	
3	石器 砥石	扁平な自然礫の表面・右側面に摩耗痕。表面は光沢、擦痕。黒色頁岩。 長さ12.6 幅11.2 厚さ4.0 重さ920.0		覆土一括		
4	石製品 砥石	小型砥石。節理による欠損。2面使用。 長さ(3.55) 幅3.0 最大厚1.8 重さ14.8		覆土一括		
5	鉄滓	長さ：3.25 幅：2.5 厚さ：1.6 重さ7.51 羽羽の一部が剥落したものか。発泡している。		覆土一括		

H-7号住居跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 坏	口径 11.0 底径 4.6 器高 4.6	①酸化焰 ②浅黄橙～にぶい黄橙 ③黒色粒・石英 ④ほぼ完形	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	(H6住) No.7	
2	須恵器 坏	口径 11.6 底径 5.2 器高 4.8	①還元焰 ②にぶい黄～黄灰 ③黒色粒・石英 ④ほぼ完形	外面：轆轤成形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	No.11、 (H6住) No.9	内面全体に スス付着。
3	須恵器 坏	口径 12.5 底径 5.8 器高 4.6	①酸化焰 ②にぶい黄橙～浅黄橙 ③黒色粒・石英 ④ほぼ完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	No.1、 中央北確認 面	内外面にス ス付着。
4	須恵器 坏	口径 13.2 底径 6.0 器高 4.5	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒 ④完形	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	No.8	内外面にス ス付着。
5	須恵器 碗	口径 13.2 底径 6.4 器高 4.5	①還元焰気味 ②灰白 ③白色粒・黒色粒・雲母 ④口縁部～体部 1/4 欠損	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼 付時に回転ナデ。 内面：轆轤整形。	No.4+5、 H6・7住 覆土一括	
6	須恵器 碗	口径 (13.2) 底径 (7.1) 器高 5.0	①還元焰気味 ②灰白 ③白色粒・黒色粒・雲母 ④ 1/3	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼 付時に回転ナデ。 内面：轆轤整形。	No.4	
7	須恵器 碗	口径 (12.2) 底径 (7.2) 器高 5.3	①酸化焰 ②淡黄～灰黄 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④ 2/3	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼 付時に回転ナデ。 内面：轆轤整形。	No.7、 土器集中、 上層	
8	須恵器 碗	口径 13.6 底径 7.2 器高 5.7	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒・石英 ④口縁部～体部 1/3 欠損	外面：轆轤整形。底部回転糸切り後ナデ。 高台貼付時に回転ナデ。 内面：轆轤整形。	No.10	内外面にス ス付着。
9	須恵器 碗	口径 14.2 底径 7.7 器高 7.0	①酸化焰 ②にぶい黄橙～橙 ③白色粒・褐色粒 ④ほぼ完形	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼 付時に回転ナデ。 内面：轆轤整形。	No.11	内外面にス ス付着。
10	羽釜	口径 (29.2) 器高 (13.9)	①酸化焰 ②にぶい黄褐～明赤褐 ③白 色粒・黒色粒 ④口縁部～胴部上半 1/5	外面：轆轤整形。鏝貼付。 内面：轆轤整形。鏝貼付時に指頭圧痕。	No.3	内外面にス ス付着。
11	灰釉陶器 碗	口径 (13.6) 器高 (4.1)	①還元焰 ②胎土：灰白、釉：灰白 ③白色粒 ④口縁部～体部 1/5	外面：轆轤整形。体部下位回転匱ケズリ。 内面：轆轤整形。	No.2	釉薬漬け掛 け。
12	灰釉陶器 碗	底径 5.1 器高 (1.9)	①還元焰 ②胎土：灰白、釉：灰オリ ーブ ③白色粒・黒色粒 ④底部	外面：轆轤整形。底部回転糸切り後ナデ。 高台貼付時に回転ナデ。内面：轆轤整形。	(カマド) 上面	見込みに重 ね焼き痕。
13	須恵器 坏	底径 7.6 器高 (2.6)	①酸化焰 ②にぶい黄褐 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④底部 3/4	外面：轆轤整形。底部回転糸切り後、部分 的なナデ。内面：轆轤整形。	H8住 No.1	
14	土製品 円板 (須恵器坏)	長さ 4.05 幅 4.2 厚さ 1.9	①酸化焰 ②にぶい黄橙～にぶい黄褐 ③白色粒・黒色粒 ④完形	上面：ナデ。 下面：回転糸切り。 側面：打ち欠き後研磨。一側面は非常に丁寧。	(カマド) 上面	重さ33.3 g。坏底部 の再利用。
番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴		出土層位	備考	
15	石器 砥石カ	やや扁平な自然礫の表・裏面に平滑な摩耗痕顕著。閃緑岩。 長さ11.7 幅9.7 厚さ4.4 重さ699.0		No.12		
16	石製品 砥石	不整形な6面体。全面使用、平滑。流紋岩。 長さ3.9 幅2.7 厚さ2.4 重さ26.2		土器集中		

Tab. 6 [100] 出土遺物観察表(2) 住居跡・土坑・溝

H-9号住居跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	円筒埴輪	底径 (20.8) 器高 (11.4)	①酸化焰 ②橙～明褐 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④底部 1/4	外面：縦ハケ。ハケ目7本/2cm。底面ナデ。 内面：斜位篋ナデ。下端部は縦位ナデ。	No. 1	

D-16号土坑

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 坏	口径 (9.4) 底径 (5.8) 器高 1.8	①酸化焰 ②にぶい黄橙～にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④ 1/2	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	No. 1、下層	
2	須恵器 坏	口径 (15.6) 底径 7.2 器高 4.4	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～体部 3/4 欠損	外面：轆轤整形。底面右回転糸切り。 内面：轆轤整形。	No. 2、上層	体部下位は粘土2枚貼り合わせ。
3	須恵器 碗	底径 (8.0) 器高 (3.5)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④底部 2/3	外面：轆轤整形。底部回転糸切り後ナデ。 高台貼付時に回転ナデ。 内面：轆轤整形。	下層	
4	土師器 甕	口径 (20.8) 器高 (6.9)	①酸化焰 ②にぶい橙～にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒・小礫 ④口縁部～胴部上位 1/8	外面：口縁部横ナデ。頸部指頭圧痕。胴部ナデ。 内面：口縁部横ナデ。胴部横位ナデ。	上層	
番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴		出土層位	備考	
5	石器 砥石	厚みのある自然円礫の表・裏面に摩耗痕。砥面に線刻と擦痕。安山岩。 長さ 16.8 幅 13.9 厚さ 9.5 重さ 3034.3				

D-17号土坑

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	瓦 平瓦	厚さ 1.9	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③黒色粒・砂粒 ④狭端部左側破片	凹面：布目圧痕後、端部篋ナデ。凸面：縄叩き。 側面：篋ナデ。 狭端部：篋ナデ。	覆土一括	

D-19号土坑

番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴		出土層位	備考	
1	鉄滓 流動滓	長さ：5.4 幅：3.6 厚さ：2.1 重さ：31.21		覆土一括		

D-31号土坑

番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴		出土層位	備考	
1	円礫 礎石	扁平な自然礫。ほぼ全面に煤が付着するが、表面中央のみ方形に煤が付着しない柱材痕跡明瞭。砂岩。 長さ 20.2 幅 21.0 厚さ 6.6 重さ 4050		覆土下層	B混柱穴。	

W-2号溝

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	鍋	器高 (8.2)	①酸化焰 ②黒 ③白色粒 ④口縁部～胴部破片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	覆土一括	内耳土器
2	青磁 碗		①還元焰 ②胎土：灰白、釉：明緑灰 ④体部破片	外面：轆轤整形。鎬連弁文。 内面：轆轤整形。	覆土一括	写真のみ。 釉葉厚い。

W-3号溝

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	鍋	器高 (6.3)	①酸化焰 ②黒褐～暗灰黄 ③白色粒・ 黒色粒・褐色粒 ④口縁部～胴部破片	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	覆土一括	内耳土器カ

W-4号溝

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	瓦 平瓦	厚さ 1.6	①還元焰 ②灰黄～にぶい黄橙 ③砂粒・チャート ④狭端部左側破片	凹面：布目圧痕。端部面取り。凸面：篋ナデ。 側面：篋ナデ。 狭端部：篋ナデ。	上層	

W-6号溝

番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴		出土層位	備考	
1	鉄製品 錠カ	長さ：5.4 幅：0.7 厚さ：0.25 重さ：8.6 端部欠損。		覆土一括		

W-9号溝

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	弥生土器 壺		①酸化焰 ②にぶい黄褐～浅黄 ③白色粒・黒色粒 ④胴部破片	外面：胴部篋ナデ後、平行線文・櫛描波状文。 赤彩。 内面：胴部篋ナデ。	No. 1	

Tab. 7 [100] 出土遺物観察表（3）溝・ピット・遺構外出土遺物

W-11号溝

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器壺	底径 (14.5) 器高 (4.3)	①還元焰 ②黄灰～灰 ③白色粒・黒色粒 ④底部 1/4	外面：轆轤整形。底部ナデ。高台貼付時に回転ナデ。 内面：轆轤整形。	No. 1	

W-13号溝

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器壺		①酸化焰 ②にぶい褐 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部破片	外面：口縁部横ナデ。 内面：口縁部横ナデ。	覆土一括	折り返し口縁。

P-12号ピット

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器甕	口径 (23.8) 器高 (4.7)	①酸化焰 ②にぶい褐～にぶい赤褐 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④口縁部～胴部上位 1/8	外面：口縁部横ナデ。胴部斜位篋ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。胴部横位篋ナデ。	No. 1	
番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴			出土層位	備考
2	礫被熱礫	強い被熱により発砲、破碎。安山岩。重さ 211.6			覆土一括	写真のみ。

BP-3号ピット

番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴				出土層位	備考
1	鉄製品角釘	長さ 4.15 幅 0.45 厚さ 0.4 重さ 3.22 端部欠損。				覆土一括	

BP-7号ピット

番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴				出土層位	備考
1	鉄製品棒状製品	長さ 7.9 幅 0.6 厚さ 0.45 重さ 11.4 両端部欠損。				覆土一括	

BP-9号ピット

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	かわらけ	口径 9.0 底径 5.4 器高 2.5	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③黒色粒・雲母 ④口縁部～体部 1/4 欠損	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	覆土一括、H8住、W6溝 東脇、表土	

BP-13号ピット

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	陶器灰釉皿	底径 5.3 器高 (1.0)	①還元焰 ②胎土：灰白、釉：灰オリ ③細砂粒 ④底部	外面：轆轤整形。底部ナデ。高台貼付。底部無釉、高台部灰釉。 内面：轆轤整形。見込み灰釉、劃花文。	覆土一括	古瀬戸。高台内輪トチ。

遺構外出土遺物①

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	縄文土器深鉢		① ②黄褐～にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒・石英・角閃石 ④胴部破片	単節 RL 縄文施文後、平行する単沈線を縦位施文し、区画内を磨消。	W 8号溝	中期後葉加曾利 E 3 式
2	縄文土器台付鉢	底径 (10.6) 器高 (6.6)	① ②オリブ黒～黒 ③白色粒・石英・角閃石・輝石 ④胴部下位～台部	胴下部から台部にかけて横位単沈線を 5 条以上施文。台部は単節 LR 縄文施文後に中央 4 ヶ所に穿孔し、この円孔を起点にして弧状・S 字状単沈線を施文し、入組三叉文とする。	W 3号溝 No. 1	晩期前半大洞 B 2 式
3	縄文土器深鉢		① ②黒～オリブ黒 ③石英・角閃石・輝石 ④口縁部～胴部破片	口唇部下に平行する 3 条の横位沈線。胴部に単節 LR 縄文施文後、平行する 2～3 条の単沈線で帯状区画を描出し、磨消し。	D 2号土坑、 表土	晩期前半大洞 B 式
4	縄文土器注口土器もしくは香炉形土器		① ②にぶい黄橙 ③白色粒・片岩 ④口縁部破片	口縁部透かし彫り状。屈曲部には 2 個 1 対の小突起を連続的に貼付し、突起間の胴上部に陰刻三叉文を施す。胴下部は単節 LR 縄文施文後、単沈線によって雲形文を描出。	W 13号溝	晩期前半大洞 C 1 式
5	縄文土器粗製深鉢		① ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒・角閃石 ④胴部破片	複数段の擬口縁の深鉢。口縁部粘土帯をヒダ状に残して接合成形。	W 13号溝	晩期前半安行 3 式併行
6	縄文土器深鉢		① ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒色粒 ④胴部破片	やや深い単沈線を横位・弧状・環状に施文する。	W 13号溝	晩期前半安行 3 式併行カ
7	縄文土器粗製深鉢		① ②灰黄 ③白色粒・黒色粒・片岩 ④口縁部破片	口唇部は竹管状工具によって押圧され、不規則な小波状を呈する。口縁部～胴上部は横位ナデ、ケズリ痕が顕著。	W 12号溝 No. 1	晩期前半安行 3 式併行
8	縄文土器突起		① ②明黄褐色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁突起	2 本の粘土紐を合わせて三角形に成形、頂部には 2 つの円形小突起を貼付。内外面に陰刻三叉文。	H 7・8 住 灰層	晩期前半大洞 A 式

Tab. 8 [100] 出土遺物観察表(4) 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物②

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
9	縄文土器 粗製深鉢		① ②明赤褐～暗灰黄 ③白色粒・ 黒色粒・チャート・石英 ④胴部破片	胴下部。単節LR縄文を全面施文。	W13号溝	晩期前半カ
10	炆器 挿鉢	底径 (14.0) 器高 (3.1)	① ②明赤褐 ③白色粒 ④体部下位～底部1/5	外面：轆轤整形。底部ナデ。 内面：轆轤整形。体部擦目。底部ナデ。	表土	堺・明石系 外底面磨減。
番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴		出土層位	備考	
11	石器 石鏃	先端部のみ残存。全面に丁寧な2次調整。黒色安山岩。 長さ (1.55) 幅 (1.2) 最大厚 0.3 重さ 0.4		中央確認面		
12	石器 石鏃	凸基有茎。先端部欠損。黒色安山岩。 長さ (2.5) 幅 (1.49) 最大厚 0.54 重さ 1.51		H9号住 焼土直下		
13	石器 石鏃	円基。未製品カ。裏面に主要剥離面残存。表面は2次調整、微細剥離顕著。頁岩。 長さ 2.76 幅 (2.32) 最大厚 0.73 重さ 4.06		W13号溝		
14	石器 石鏃	凸基有茎。全面に2次調整、微細剥離。黒色頁岩。 長さ (3.46) 幅 2.14 最大厚 0.77 重さ 4.47		表土		
15	石器 石鏃	平基。基部欠損。全面2次調整、一部微細剥離。頁岩。 長さ 3.33 幅 2.21 最大厚 0.88 重さ 4.77		H9号住		
16	石器 石鏃	凸基有茎カ。未製品。全体に2次調整、裏面に主要剥離面残存。黒色安山岩。 長さ 4.1 幅 2.9 最大厚 1.04 重さ 11.0		H1号住		
17	石器 両面加工石器	全体に2次加工を施し、一部調整剥離。スクレイパーカ。黒色安山岩 (外22と類似)。 長さ (6.2) 幅 3.1 最大厚 1.64 重さ 30.8		W13号溝		
18	石器 打製石斧	撥形もしくは分銅形。基部欠損。刃部摩耗顕著。頁岩。 長さ (9.49) 幅 6.36 最大厚 1.5 重さ 89.5		W9号溝		
19	石器 RF	剥片周縁部に微細剥離。チャート。 長さ 2.69 幅 2.0 最大厚 0.45 重さ 2.02		D32号土坑		
20	石器 RF	縦長剥片の両側縁に微細剥離。チャート。 長さ 5.34 幅 1.61 最大厚 0.49 重さ 3.53		W13号溝		
21	石器 RF	側縁～下縁に微細剥離。ホルンフェルス。 長さ 6.5 幅 5.5 最大厚 1.32 重さ 50.8		W13号溝		
22a	石器 スクレイパー	22bと接合資料。左側縁に2次加工と微細剥離。黒色安山岩。 長さ 6.2 幅 5.4 最大厚 1.5 重さ 50.6		W13号溝		
22b	石器 剥片	22aと接合資料。22bから剥離された剥片。黒色安山岩。 長さ 3.82 幅 3.1 最大厚 0.79 重さ 7.8		W13号溝		
23a	石器 石核	23bと接合資料。上下左右4方向から剥片剥離した板状の残核の、左側中央剥離面に加撃して23aと23bに分割。分割後の剥片剥離は認められない。長さ 6.14 幅 6.89 重さ 185.6		W13号溝		
23b	石器 石核	23aと接合資料。長さ 8.2 幅 7.95 重さ 109.0 23a + 23b = 長さ 9.28 幅 9.05 最大厚 2.57		W13号溝		
24	石器 磨製石斧	定角式磨斧。基部のみ残存。4面を平滑に研磨。節理による欠損。流紋岩。 長さ (4.3) 幅 3.5 最大厚 (1.7) 重さ 22.2		東側確認面		
25	石器 叩石	不整形な棒状礫の下端部に敲打痕。上端部は敲打による剥離カ。緑色岩類。 長さ 11.9 幅 3.9 厚さ 2.95 重さ 229.7		W3号溝		
26	石器 叩石	棒状礫の下端部に敲打痕が顕著。上半部欠損。砂岩。 長さ (8.5) 幅 6.15 厚さ 4.8 重さ 355.5		W3号溝		
27	石器 叩石	長楕円形の扁平礫の両端部と、左側縁の一部に敲打混。やや被熱。閃緑岩。 長さ 18.3 幅 8.2 厚さ 5.2 重さ 1032.6		H11号住		
28	石器 磨石	片面のみ平滑に摩耗。敲打による破碎の可能性あり。黒色安山岩。 長さ (6.8) 幅 (9.55) 厚さ (3.55) 重さ 281.7		D20号土坑 No.2		
29	石器 磨石	小型、扁平球状。全体に摩耗痕。砂岩。 長さ 6.7 幅 6.0 厚さ 4.9 重さ 284.5		H13号住		
番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴		出土層位	備考	
30	古銭	長さ：2.35 幅：2.35 厚さ：0.1 重さ：2.72 完形。「寛永通宝」。		東側確認面		
31	鉄滓 流動滓	長さ：4.4 幅：5.5 厚さ：2.75 重さ 86.16		表土		
32	鉄滓 流動滓	長さ：4.3 幅：3.75 厚さ：1.95 重さ 24.66		W4溝南側 攪乱		

元総社蒼海遺跡群 (101)

VI 標準堆積土層

(101) 調査区の現況は北西から南東へと緩やかに傾斜する台地で、東側の低地(沼)からは幅の狭い谷(現道)が調査区方向に向かって袂りこんでいる。調査区北側の平坦面には埋没谷が存在するようで、調査区中央付近を境にして、黒色土(黒ボク土)の土質が変化する。

表土は全体に厚く、古代の遺物包含層(VI層)までが約1m、総社砂層の漸移層(VII層)までが約1.4mを測る。特にAs-A混土・As-B混土が厚い。IV層B混土中には、乾燥するとラミナ状の縞模様を呈する硬化薄層が顕著に観察できる。これは中世の土坑覆土中にも認められるが、成因は不明である。南側隣接調査区・元総社蒼海遺跡群(75)で確認された巨大な蒼海城外郭堀は、厚いB混土(III・IV層)を切っている。中世の遺構群はV層直下で検出した。V層下のW-1号溝が白色シルトで埋没していることから、この頃に西方で洪水が起こったものと推測する。VII層はAs-Cを多量に含む黒色土で、北側ほど顕著である。VIII~XI層は縄文時代の包含層と推定され、南側は細粒で乾燥し、僅かながら北側ほど粘性が高い。北端部は東西方向の埋没谷へと落ち込む地形変換点にあたり、XIII・XIV層は北端部でのみ確認できる土層堆積である。おそらくは総社砂層の堆積完了時点においてすでに谷地形は存在し、縄文時代には浸食とともに谷頭の埋没が進行していったものと推測する。

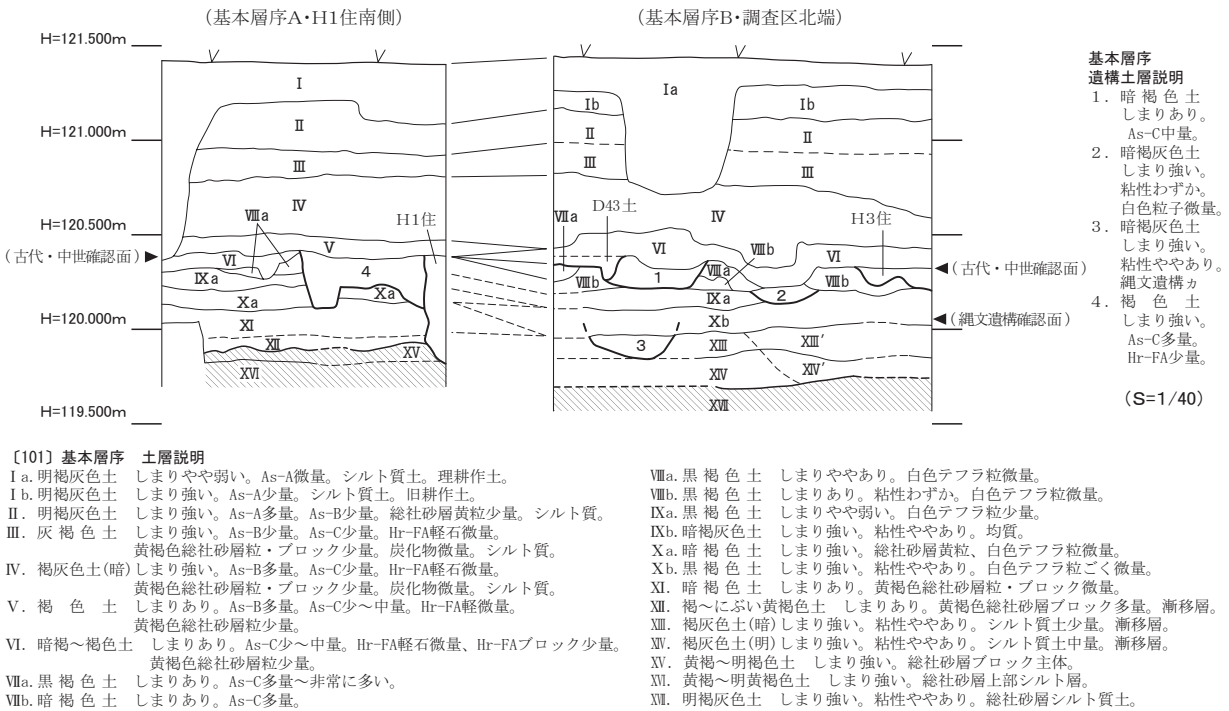


Fig. 26 [101] 標準堆積土層

VII 遺構と遺物

1. 遺跡の概要

本遺跡は字草作で、元総社小見遺跡・元総社草作遺跡などと隣接する。蒼海城の最外郭部にあたり、直前に調査された南側隣接調査区(元総社蒼海遺跡群75)では、深さ2m以上の外郭堀が開口していた。

調査の結果、縄文時代後期・古墳時代後期(7世紀後半)・古代・中世にかけての集落遺跡であることが判明した。加曾利B式期の土坑群、9世紀以前の掘立柱建物跡、10世紀前半の埋葬人骨が確認できたことは、注目してよいだろう。以下、各時代ごとに概要を記述し、個別遺構については遺構一覧表を参照されたい。



Fig. 27 元総社蒼海遺跡群 (101) 遺構全体図①

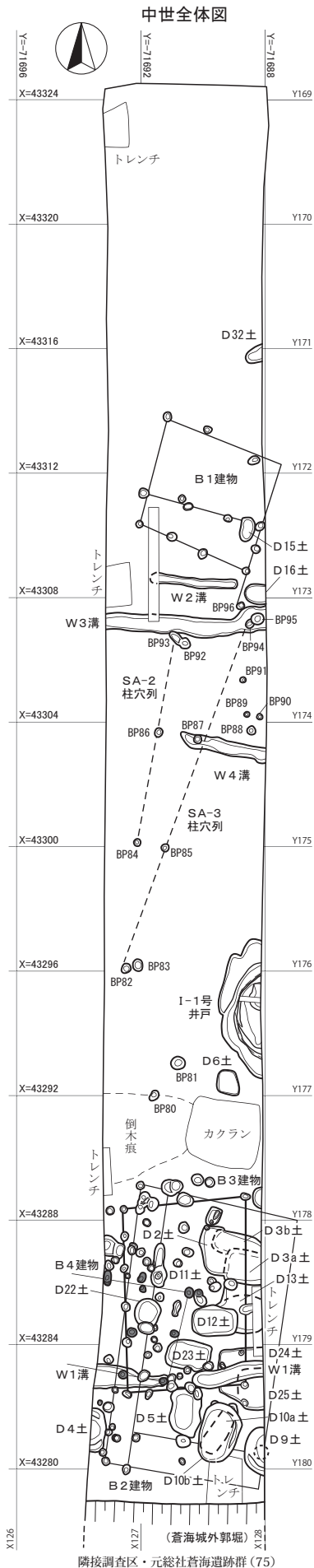


Fig. 28. 元総社蒼海遺跡群 (101) 遺構全体図②

縄文時代

後期中葉の土坑 13 基・竪穴状遺構 1 基ならびにピット群を確認した。南側では縄文土器が皆無であることから、時間的制約もあり、縄文面の調査範囲は北側に限定した。D-21 号土坑付近を境にして北側は、埋没谷へと徐々に傾斜してゆく地形にあたる。遺構確認は非常に困難であり、形状の誤認や遺構自体の見落としを完全には否定できない。土坑は隅丸長方形や楕円形を主体とし、重複が著しい。遺物量は極めて少ないながらも、多孔石や板状礫のみを伴う土坑もあり、土坑形状も考慮して、大半は墓坑と推定する。包含層遺物も含めて、土器は加曾利 B 式にほぼ限定される。T-2 号竪穴状遺構は壁際にあり、詳細不明ながら、2~3 基の土坑が重複したものかもしれない。W-6 号溝としたものは、竪穴住居壁周溝の一部と推測している。明瞭な墓群を伴う後期集落が埋没谷頭に沿って展開する様相が想定され、今後の調査では注意を要する。

古墳時代-古代

本遺跡の主体となる時代で、竪穴住居 13 軒、竪穴状遺構 2 基、掘立柱建物跡 1 棟、柱穴列 1 条、土坑 12 基、溝 1 条を確認した。遺構は南側に集中して、重複が著しい。H-4 号および H-9 号住居跡は一部しか残存せず、詳細不明だが、7 世紀代であろう。H-7・15 号住居跡は小規模な竪穴で、カマド煙道部のみ確認した H-17 号住居跡も含めて主軸方位が相同である。SA-1 号柱穴列も主軸方位が近似し、同時期と推測する。

H-6 号住居跡は南北 6.9 m (最大 7.5 m) × 東西推定 5.8 m の大型住居跡である。隅丸長方形を呈し、南側に明瞭な出入口張出部を設ける。当初は複数軒の重複と想定していたため、H-5・7・8 号は欠番となった。6 本主柱穴・周溝内補助柱穴・出入口ピット・棟筋補助柱穴で構成される。中央部にはシルトで埋め戻された 4 本主柱穴があり、竪穴・上屋の拡張・更新が明瞭な事例である。貯蔵穴は不整形で小さく、調査区外のカマド脇にもう 1 基存在する可能性がある。竪穴は地山の黄褐色シルトブロックや褐色土によってある程度埋め戻され、P 1・P 5 の土層断面を見ると、埋戻し後に主柱を抜き取ったことが判る。ただし、東列中央の P 2 はシルトで硬く埋め戻されており、P 2 の直上に構築された H-16 号住居跡が関与しているものと推測する。H-16 号住居跡は 8 世紀代と推定される。H-6 号住居跡としての調査中に確認したため床面と西・南壁が不明となってしまったが、土層断面からおおよその大きさ・形状を復元した。床面には灰混じりの土層が堆積する。

10 世紀前半の H-11 号住居跡も H-6 号住居の覆土中に構築される。東・南壁を明瞭に確認できなかったが、貼床の硬化は顕著で、カマド焚口や前庭の灰層は厚い。H-12 号住居跡はカマドと南壁しか認識することができなかった。出土遺物は元々 H-6 号住居跡に伴うものと考えられ、竪穴やカマドの形状・構造からは 10 世紀代と推測される。H 12

住→H 11 住へと連続的な推移が想定される。北壁のH-3・10号住居跡（H-3号が新しい）も10世紀前半頃と考えられる。埋没谷上に構築され、全体像は不明である。緑釉陶器片が出土したW-5号溝は南・北住居群のほぼ中間を東西に走行し、黒ボク土質の変換点にも相当する。微地形と土壌の違いを考慮した土地区画溝の可能性はある。

H-13号住居跡は浅く不整形な竪穴で、As-C混土を覆土とする。実際には性格不明な竪穴状遺構であり、調査時遺構名をそのまま採用した。遺物は縄文土器や石器のみで、時期判断は難しい。ピット4基を確認したが、竪穴に伴わない可能性もある。隣接するT-1号竪穴状遺構も非常に浅い性格不明遺構で、As-C混土を覆土とする以外、時期判断の材料に欠く。当初はC混水田の可能性を探索したが、最終的には竪穴として記録した。

B-5号掘立柱建物跡（各柱穴は土坑として登録）は、梁間2間、桁行2間以上の東西棟建物で、北東の柱穴は隅丸方形を呈する。土層断面では柱痕が明瞭だった。時期を特定する遺物は出土していないが、北東隅の柱穴（D-20号土坑）はD-21号土坑（10世紀前半の墓坑）によって切られ、南辺の柱穴（D-30号土坑）はH-1号住居跡（9世紀第4四半期）に壊されている。建物柱穴以外の土坑は計13基確認した。浅い土坑が多く、7世紀後半～10世紀代に収まる。D-7号土坑はH-1号住居跡を破壊しており、10世紀代と思われる。古代のピットは少数限定的で、直線的に並ぶピット8基+2基をもってSA-1号柱穴列と判断した。この時期の土坑群はSA-1号柱穴列の西側およびW-5号溝の南側に集中する。SA-1号柱穴列の主軸はH-7・15・16号住居跡と近似しており、9世紀代の可能性があるB-5号掘立柱建物跡とは重複することから、柱穴列の時期は7世紀代～8世紀代と推測する。土地利用に関して区画の面で一定の制約が働いていたものと考えられる。

D-21号土坑は10世紀前半の墓坑である。頭蓋骨と四肢骨の一部が検出され、鑑定の結果、20～30歳の成人女性と推定された。上顎右第1切歯に特徴的な摩耗が認められ、いわゆる「親不知」は水平萌出している。頭位は北を向いた伸展葬で、体の右側に須恵器碗1点が置かれ、土坑南端には体部に焼成後穿孔のある須恵器小型壺と須恵器碗2点が副葬されていた。うち1点には内面に「寸」の墨書がある。碗の間からは鉄釘2本が検出され、木質が附着している。土層断面からは棺の痕跡は認められなかった。小型壺以外は底面からかなり浮いており、土層断面8層を見る限り、南端の副葬品は南半部埋戻し直後に再掘削して埋納したものと推測する。

中世

中世遺構は掘立柱建物跡4棟以上やピット99基（B-2～4号建物跡含む）、柱穴列2条、土坑18基、井戸1基、溝3条を確認した。遺構は南側に集中する。各遺構の新旧重複関係と主軸方位から、1期：B1建物・SA3柱穴列および土坑群 → 2期：B2号建物・W2～4号溝・SA2号柱穴列 → 3期：B3号建物 → 4期：W1号溝 → 5期：B4号建物 という変遷を想定する。北部のB1建物とSA-3号柱穴列は軸が一致しており、同時期であろう。ほぼ等間隔で直線的に並ぶピット群を柱穴列としたが、例えば畝地などの区画を表示するような施設と想像する。並走するW-2～4溝には畝のサクの可能性があり、SA-2柱穴列とW-4溝が直交する点に注意しておきたい。土坑群は形状や覆土から3群に分かれる。南端のD-4・5・9・10b号土坑は楕円形で、As-Bの混入量が多い。北側のD-2・3a・3b・12・23号土坑は隅丸長方形を基調とし、D-13・24・25号土坑は非常に浅い。出土遺物はほぼ皆無ながら、南・北群はその特徴的な形状から、墓坑と推定する。As-Bの混入量から推察して、北群の方が新しい可能性がある。B2号建物は推定面積が40㎡を超える主屋であろう。ラミナ状に堆積した白色極細粒シルトで埋没していたW-1号溝はD-24・25号土坑を切る。西側からの洪水層堆積物と推定する。B-4号建物のピット覆土には白色シルトが混入する。D-10a号土坑はD-10b号土坑覆土中に掘削された長楕円形土坑で、シルトブロックとAs-B混土で一括埋戻しされている。I-1号井戸は安全を考慮して完掘しなかったが、南部建物群に伴う井戸であろう。遺物は遺構外のかわけ1点以外ほぼ皆無なため中世遺構群の時期特定は非常に難しいが、隣接調査区の堀を16世紀と仮定した場合、堀の上端からW-1号溝確認面まで40～50cmの堆積土が存在するため、遺構群全体としては14～15世紀頃と想定される。

Tab. 9 [101] 遺構一覧表 (1)

住居跡・堅穴状遺構一覧表 (H-2・5・8・14号住居跡は欠番) 単位:m

遺構名	グリッド	平面形	主軸方位	長軸×短軸×深さ	カマド	貯蔵穴	遺物	所見	時期
H-1号住居跡	X 127, Y 177	隅丸方形	N-93°-E	4.58 × (1.64) × 0.47	東壁	南東隅	須恵器坏、土師器甕	D 7・34 土に切られ、D 30 土 (B 5 掘立) を壊す。	9 世紀 第 4 四半期
H-3号住居跡	X 127・128, Y 169・170	方形	N-90°-E	(3.49) × (1.53) × 0.23 (断面 0.36)	区外、東カ	不明	須恵器碗	H 10 住を切る。南壁にわずかな段。	10 世紀 前半カ
H-6号住居跡	X 274, Y 153	隅丸長方形	N-2°-E	6.98/7.52 × (5.28) × 0.90	区外東壁	南東隅 小規模	須恵器坏蓋・甕・壺、 土師器坏・甕、槍鉋	南壁に出入口張出と梯子穴。6 本主柱穴。建替え前は 4 本主柱穴。	7 世紀後半
H-7号住居跡	X 128, Y 178	正方形カ	N-18°-E	(1.75) × (1.67) × 0.38	北壁	区外	須恵器坏蓋、土師器片	H 6・17 住に切られる。	7 世紀後半
H-9号住居跡	X 128, Y 181	不明	不明	(-) × (-) × 0.27	不明	不明		H 6 住・蒼海城堀によって破壊。H 4 住と同一カ	7 世紀代
H-10号住居跡	X 128, Y 170	隅丸方形	N-2°-E	(2.20) × (1.44) × 0.10 (断面 0.44)	区外カ	不明	灰釉陶器皿、平瓦片、 不明鉄製品	H 3 住に切られる。西壁際に小ビット。	10 世紀代
H-11号住居跡	X 127・128, Y 179・180	推定隅丸 正方形	N-79°-E	(2.20) × 3.63 × 0.44 (断面 0.69)	東壁南側	南東隅	須恵器坏・碗、羽釜	H 6・12・15 住を切る。	10 世紀前半 灰層厚い。
H-12号住居跡	X 127・128, Y 179・180	隅丸方形カ	N-82°-E	(3.26) × (0.75) × 0.74	南東隅	不明	須恵器坏蓋、土師器坏	H 6・15 住を切る。H 11 住とはほぼ重複。	10 世紀前半
H-13号住居跡	X 128, Y 171	不整隅丸 長方形	N-0°-	3.61 × 3.59 × 0.15	—	—	縄文土器、石器	As-C 混黒褐色覆土。 堅穴状遺構。	古墳～古代
H-15号住居跡	X 128, Y 179	不整方形カ	N-17°-E	2.02 × (1.29) × 0.39	不明	不明	土師器片	H 6・11 住に切られる。 堅穴状遺構カ	7 世紀代
H-16号住居跡	X 128, Y 180	隅丸正方形	N-19°-E	(2.47) × (1.98) × 0.66	北壁	不明	須恵器坏・碗・坏蓋	H 6 住覆土中に構築。 床面に灰混土層。	8 世紀代
H-17号住居跡 (カマドのみ)	X 128, Y 180	—	N-22°-E	(0.76) × (0.64) × 0.29	北カマド	—	—	カマドのみ。H 7 住を破壊し、 H 6 住に切られる。	7 世紀代
H-18号住居跡 (西壁断面のみ)	X 127, Y 180	不明	—	—	—	—	—	H 11 住の南側西壁でのみ確認。 H 6・11 住より古い。	7 世紀代
T-1号 堅穴状遺構	X 128, Y 172・173	不整隅丸 長方形	N-5°-E	3.51 × 1.99 × 0.05	—	—	—	As-C 混黒褐色覆土。ごく浅い。	古墳～古代
T-2号 堅穴状遺構	X 127, Y 172・173	隅丸 長方形カ	N-0°-	(6.4) × (0.51) × 0.22	—	—	—	2 基重複カ。堅穴住居の可能性あり。	縄文時代 後期カ

掘立柱建物跡・柱穴列一覧表 単位:m

遺構名	グリッド	平面形	主軸方位	棟方向	梁間×桁行 / 構成 / 桁行平均柱間 / 面積 / 所見	時期
B-1号 掘立柱建物跡	X 128, Y 172・173	平行四辺形 状	N-66°-W	東西棟	2.58/3.51 × 3.96。1 間 × 3 間 + 下屋。桁行平均 1.232 ≒ 4.06 尺。面積 13.9 m ² 、身舎 8.6 m ² 。 14 基で構成。身舎と下屋庇は平面台形状。SA 3 柱列と同時カ。	中世
B-2号 掘立柱建物跡	X 127・128 Y 178-180	長方形	N-13°-E	南北棟	全体 5.02 × 8.92。身舎 4.13 × 5.94。1 ~ 2 間 × (4 間) + 西・南面下屋庇。 桁行平均 2.022 ≒ 6.67 尺。東辺はほぼ推定。推定総面積 44.6 m ² 、身舎 32.1 m ² 。	中世
B-3号 掘立柱建物跡	X 127・128 Y 178-180	長方形	N-1°-W	南北棟	3.99/3.79 × 6.04/5.94。2 間 × 3 間。桁行平均 1.983 ≒ 6.54 尺。 梁間平均柱間 1.931 ≒ 6.37 尺。P 13・17・22・31・54・68・75・78	中世
B-4号 掘立柱建物跡	X 127・128 Y 178-180	長方形カ	N-80°-W	東西棟	2.96 × 2.66 以上。2 間 × 3 間以上。残存桁行平均 1.322 ≒ 4.36 尺。 白色シルト混入ビットの建物。東柱状 1 基。P 29・32・38・42・51・55・99	中世
B-5号 掘立柱建物跡	X 127・128, Y 175-177	長方形	N-86°-E	東西棟	5.41 × -。2 間 × 2 間以上。残存桁行平均 2.195 ≒ 7.24 尺。 D 19・20・26・29・30 土で構成。柱痕明瞭。	9 世紀第 4 四 半期以前
SA-1号 柱穴列	X 127・128, Y 176-178		N-20°-E		柱穴 8 基 + 2 基 10.39 m 柱間は 1.90 ~ 2.06 m を測る。半間位置のビット 2 基。北側に張出。 H 7・15・16 住 (7 世紀後半 ~ 8 世紀代) と主軸が近似。	古墳～古代
SA-2号 柱穴列	X 127・128, Y 174・175		N-10°-E		柱穴 3 基 6.58 m 柱間は 3.03 m・3.56 m。W 4 溝とは直交の位置関係。柵列など、土地 区画や境界を示す施設の可能性あり。SA-3 号とは時期差。	中世
SA-3号 柱穴列	X 127・128, Y 174-176		N-20°-E		柱穴 4 基 11.74 m 柱間は 4.06 m・3.70 m・4.05 m。B 1 掘立東辺と連続的。柵列など、 土地区画や境界を示す施設の可能性あり。SA-2 号とは時期差。	中世

土坑一覧表 (1) [D-20・21号土坑は欠番] 単位:m

遺構名	グリッド	主軸方位	平面形	断面形	長軸×短軸×深さ	覆土	遺物	所見	時期
D-1号土坑	X 128, Y 180	N-81°-W	隅丸長方形	逆台形	1.10 × 0.83 × 0.14	As-A 混	ガラス片		近代
D-2号土坑	X 128, Y 179	N-5°-W	隅丸長方形	逆台形	1.56 × (0.85) × 0.20	As-B 混	土師器片	D 3 土に切られる。	中世
D-3a号土坑	X 128, Y 179	N-80°-W	隅丸長方形カ	逆台形	(1.26) × (1.08) × 0.25	As-B 混	須恵器片、土師器片	D 2 土・D 3 b 土を切る。	中世
D-3b号土坑	X 128, Y 179	N-70°-W	隅丸長方形カ	逆台形	(1.65) × (0.74) × 0.22	As-B 混	須恵器片、土師器片	D 2 土を切る。D 3 a 土に 切られる。	中世
D-4号土坑	X 127, Y 180	N-83°-W	楕円形カ	U 字状	(0.48) × 1.39 × 0.83	As-B 混		軟弱な As-B 混土含む。	中世
D-5号土坑	X 128, Y 180	N-4°-E	不整 隅丸長方形	逆台形	1.53 × 1.01 × 0.43	As-B 混	土師器片	壁際に軟弱な As-B 混土。	中世
D-6号土坑	X 128, Y 177	N-2°-W	不整隅丸方形	浅皿状	0.79 × 0.72 × 0.03	As-A 混			近世以降
D-7号土坑	X 127, Y 177	N-83°-E	楕円形	逆台形	(0.92) × 1.38 × 0.66	As-C 混	須恵器片・土師器片	H 1 住を壊す。	9 世紀以降
D-8号土坑	X 127, Y 178	N-69°-W	不整楕円形	逆台形	0.89 × 0.70 × 0.13	As-C 混			古代
D-9号土坑	X 128, Y 180	N-0°-	楕円形	逆台形	1.54 × (0.63) × 0.64	As-B 混	須恵器坏・碗、土師器片	下部に BP98。上層硬化。	中世
D-10a号土坑	X 128, Y 180	N-35°-E	長楕円形	逆台形	(1.45) × (0.68) × 0.29	As-B 混 シルト		As-B・白色シルト多量混入。 一括埋戻し。	中世
D-10b号土坑	X 128, Y 180	N-16°-E	楕円形	逆台形	1.92 × 1.26 × 0.43		須恵器甕、土師器片	As-B 混土による埋戻し。	中世
D-11号土坑	X 128, Y 179	N-6°-E	長楕円形	漏斗状	1.41 × 0.49 × 0.54	As-B 混		ビット扱い。	中世
D-12号土坑	X 128, Y 179	N-41°-W	隅丸長方形	浅皿状	1.46 × 0.99 × 0.43	As-B 混	須恵器坏・甕、平瓦		中世

Tab.10 [100] 遺構一覧表(2)

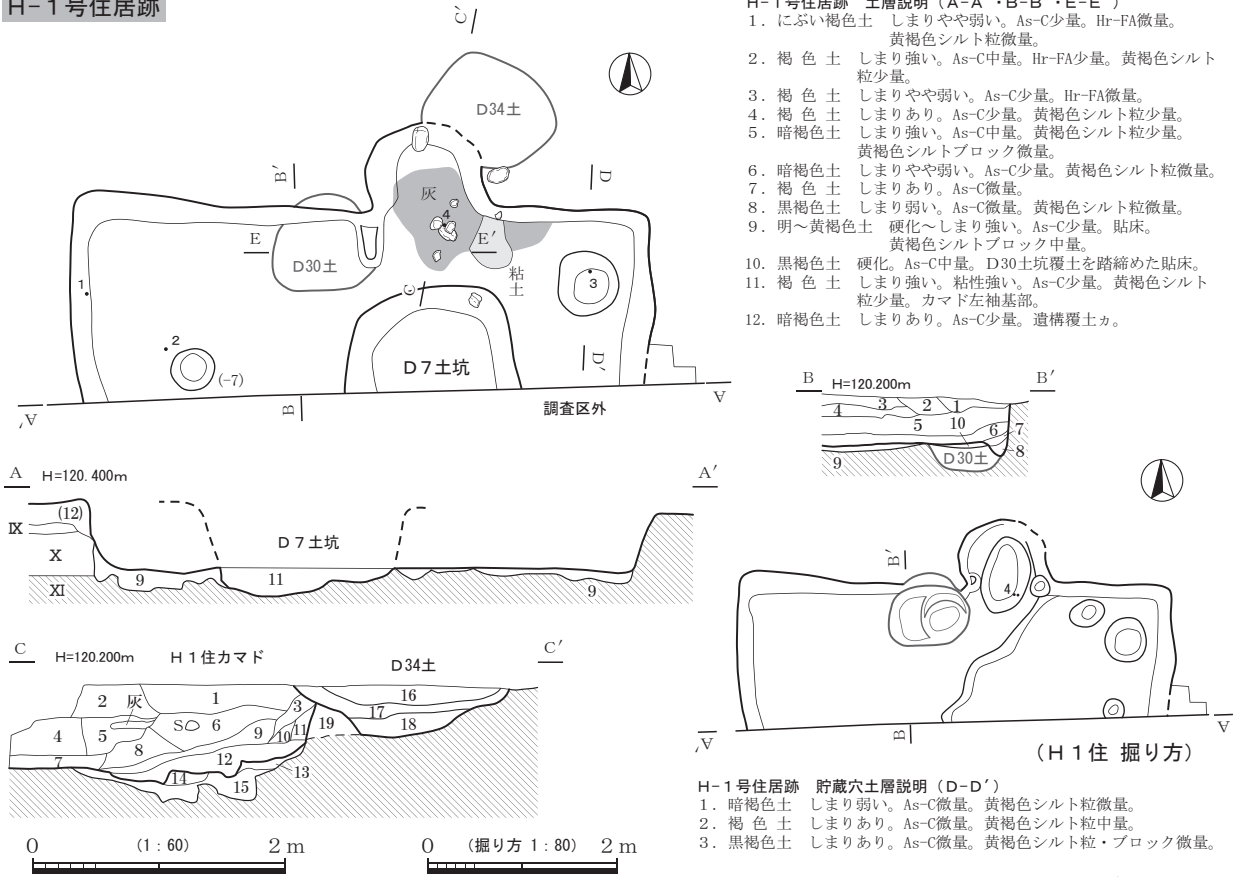
土坑一覧表(2) (D-39・45号土坑は欠番) 単位:m

遺構名	グリッド	主軸方位	平面形	断面形	長軸×短軸×深さ	覆土	遺物	所見	時期
D-13号土坑	X 128, Y 179	N-85°-E	隅丸楕円形	浅皿状	(1.46) × (1.21) × 0.16	As-B混	須恵器・土師器片		中世
D-14号土坑	X 128, Y 174	N-6°-E	円形	逆台形	1.00 × 0.97 × 0.39	As-C混	土師器坏		7世紀後半
D-15号土坑	X 128, Y 173	N-15°-E	不整楕円形	浅皿状	0.78 × 0.47 × 0.06	As-B混	土師器甕	B 1 建物に伴う施設カ	中世
D-16号土坑	X 128, Y 173	N-84°-W	楕円形	浅皿状	(0.68) × 0.64 × 0.09	As-B混		B 1 建物に伴う施設カ	中世
D-17号土坑	X 128, Y 174	N-26°-W	楕円形	逆台形状	1.10 × 0.83 × 0.47	As-C混	須恵器甕、土師器坏		7世紀後半～8世紀前半
D-18号土坑	X 128, Y 175	N-88°-W	不整隅丸方形	浅皿状	1.27 × 1.17 × 0.21	As-C混	土師器片、縄文土器		古墳～古代
D-19号土坑 (B 5掘立)	X 128, Y 175	N-46°-W	円形	箱形	0.96 × 0.88 × 0.84	As-C混		B 5 掘立建物の北東柱穴。 柱痕あり。	9世紀以前
D-20号土坑	X 127, Y 175	N-86°-E	隅丸正方形	箱形	0.92 × 0.90 × 0.94	As-C混		B 5 掘立建物の柱穴。	9世紀以前
D-21号土坑 (墓坑)	X 127, Y 175	N-8°-E	隅丸逆長台形状	タライ状	2.54 × 1.09 ~ 0.82 × 0.27	As-C混	副葬品: 須恵器椀3、須恵器小型壺1、鉄釘2	成人女性人骨1体。埋戻し後再掘削して副葬カ	10世紀前半
D-22号土坑	X 127, Y 179	N-25°-E	略円形	箱形	0.88 × 0.80 × 0.71	As-B混	須恵器坏・碗、土師器片		中世
D-23号土坑	X 128, Y 180	N-76°-W	隅丸長方形	逆台形状	1.40 × 0.94 × 0.34	As-B混	被熱亜角礫1	D 1 土と重複。	中世
D-24号土坑	X 128, Y 179	N-88°-E	不整隅丸長方形	浅皿状	(1.45) × 1.38 × 0.12	As-B混	須恵器片	D 25 土より古い。W 1 溝に切られる。	中世
D-25号土坑	X 128, Y 179	N-0°-	隅丸方形	浅皿状	1.35 × (0.75) × 0.07	As-B混	土師器片	D 24 土を切る。W 1 溝に切られる。断面では土坑外南側に覆土が展開する。	中世
D-26号土坑	X 128, Y 176	N-29°-W	楕円形	箱形	0.95 × 0.76 × 0.78	As-C混		B 5 掘立建物の柱穴。	9世紀以前
D-27号土坑	X 128, Y 176	N-68°-E	略円形	逆台形	(0.58) × 0.69 × 0.10	As-C混		D 26 土に切られる。	9世紀以前
D-28号土坑	X 128, Y 177	N-28°-W	略円形	逆台形	0.83 × 0.77 × 0.38	As-C混			古墳～古代
D-29号土坑	X 128, Y 177	N-40°-W	略円形	箱形	0.87 × 0.76 × 0.71	As-C混		B 5 掘立建物の柱穴。	9世紀以前
D-30号土坑	X 127, Y 177	N-15°-W	不整楕円形	逆台形	0.88 × 0.76 × (0.60)	As-C混		B 5 掘立建物の柱穴。 H 1 住が上部を破壊。	9世紀以前
D-31号土坑	X 127, Y 174	N-44°-E	円形	漏斗状	0.51 × 0.44 × 0.55	As-C混	土師器甕	柱穴状。	7世紀後半
D-32号土坑	X 128, Y 172	N-64°-E	長楕円形	浅皿状	(0.66) × 0.51 × 0.26	As-C混	縄文土器		古墳～古代
D-33号土坑	X 127, Y 178	N-90°-	楕円形	逆台形	1.00 × 0.80 × 0.20	As-C混	土師器片		古墳～古代
D-34号土坑	X 128, Y 177	N-36°-E	不整隅丸方形	逆台形	0.96 × 0.89 × 0.20	As-C混	須恵器碗	H 1 住カマドを切る。	10世紀前半
D-35号土坑	X 128, Y 177	N-37°-W	不整楕円形	逆台形状	0.94 × 0.72 × 0.10	As-C混	須恵器坏	D 36 土に切られる。	古墳～古代
D-36号土坑	X 128, Y 177	N-40°-W	不整楕円形	逆台形状	0.91 × 0.78 × 0.15	As-C混	土師器片	D 35 土を切る。	古墳～古代
D-37号土坑	X 128, Y 173	N-85°-E	楕円形		1.84 × 1.32 × (0.4)	暗褐色土	多孔石	推定墓坑(抱石)。	縄文後期
D-38号土坑	X 128, Y 173	N-87°-W	略円形	逆台形	0.69 × 0.65 × 0.27	暗褐色土	縄文土器		縄文後期
D-40号土坑	X 128, Y 172	N-5°-W	長楕円形	逆台形状	1.97 × 1.10 × 0.33	暗褐色土	板状礫(安山岩・長さ42cm、厚さ3cm)、深鉢	推定墓坑(抱石)。	縄文後期
D-41号土坑	X 128, Y 172	N-83°-E	不整隅丸長方形	逆台形状	2.30 × 0.89 × 0.34	暗褐色土	縄文土器深鉢	D 40 土に切られ、D 50・51 土を切る。	縄文後期中葉
D-42号土坑	X 128, Y 170	N-8°-W	不整楕円形	逆台形状	0.96 × 0.77 × 0.34	暗褐色土		北側未調査。	縄文後期
D-43号土坑	X 128, Y 170	N-40°-W	方形	浅皿状	(1.33) × (0.88) × 0.16	暗褐色土		D 46 土を切る。	古代
D-44号土坑	X 128, Y 170	N-7°-E	不整円形	逆台形状	1.72 × 1.54 × 0.48	暗褐色土	黒曜石剥片		縄文後期
D-46号土坑	X 127, Y 170	N-0°-	不整楕円形	播鉢状	1.45 × (0.72) × 0.39	暗褐色土			縄文後期
D-47a号土坑	X 128, Y 173	N-55°-W	不整楕円形	逆台形状	1.15 × 0.74 × 0.42	暗褐色土		D 47b 土と重複。	縄文後期
D-47b号土坑	X 128, Y 173	N-84°-W	不整楕円形	丸鉢状	(1.36) × 1.07 × 0.22	暗褐色土		D 47a 土と重複。	縄文後期
D-48号土坑	X 128, Y 173	N-5°-W	楕円形	逆台形	1.25 × 0.92 × 0.23	暗褐色土			縄文後期
D-49号土坑	X 128, Y 171	N-80°-E	楕円形	逆台形状	1.00 × 0.79 × (0.25)	暗褐色土		H 13 住内。	縄文後期
D-50号土坑	X 128, Y 172	N-76°-E	不整隅丸長方形	逆台形状	1.85 × 0.77 × 0.34	暗褐色土	縄文土器深鉢	D 41 土に切られる。	縄文後期中葉
D-51号土坑	X 127, Y 172	N-72°-E	楕円形カ	逆台形状	(1.42) × (0.75) × 0.19	暗褐色土		D 40・52 土に切られる。	縄文後期
D-52号土坑	X 127, Y 172	N-3°-E	隅丸長方形	逆台形	2.24 × 1.47 × 0.25	暗褐色土	縄文土器深鉢 凹石	D 40 土に切られ、D 51 土を切る。	縄文後期中葉

溝一覧表 単位:m

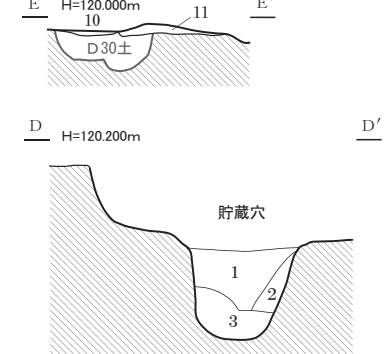
遺構名	グリッド	走向方位	断面形	上端幅×下端幅×深さ	覆土	遺物	所見	時期
W-1号溝	X 127・128, Y 180	N-87°-W N-76°-E	U字状	0.78 ~ 0.31 × 0.62 ~ 0.11 × 0.19	灰白色シルト	土師器片	洪水シルトで埋没。土坑群より新しく、建物群と同時期。西→東。	中世
W-2号溝	X 127・128, Y 173	N-85°-W	U字状	0.29 × 0.18 × 0.05 長さ2.54 m	As-B混			中世
W-3号溝	X 127・128, Y 173	N-87°-W	浅皿状	0.79 ~ 0.47 × 0.59 ~ 0.28 × 0.08	As-B混			中世
W-4号溝	X 128, Y 175	N-78°-W	浅皿状	0.50 ~ 0.30 × 0.28 ~ 0.12 × 0.07 長さ2.81	As-B混		S A - 2 柱穴列とは直交	中世
W-5号溝	X 127・128, Y 174	N-87°-W	逆台形状	1.34 ~ 0.67 × 0.91 ~ 0.52 × 0.20	As-C混	緑釉陶器片、須恵器碗		10世紀後半
W-6号溝	X 128, Y 170	N-42°-W	U字状	0.29 × 0.12 × 0.11、長さ1.92	暗褐色土		竪穴住居の周溝カ	縄文後期

H-1号住居跡



- H-1号住居跡 カマド土層説明 (C-C')**
1. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。Hr-FA微量。黄褐色シルト粒少量。
 2. 暗褐色土 しまりややあり。As-C中量。黄褐色シルト粒微量。
 3. 黒褐色土 しまり強い。As-C中量。
 4. 褐色土 しまりやや弱い。As-C少量。黄褐色シルトブロック微量。
 5. 褐色土 しまりややあり。As-C少量。灰少量。焼土微量。
 6. 褐色土 しまりややあり。As-C少量。焼土微量。黄褐色シルト粒・ブロック少量。
 7. 褐色土 しまりやや弱い。黄褐色シルト粒微量。細粒。
 8. 暗褐色土 しまりややあり。As-C少量。焼土少量。黄褐色シルト粒微量。
 9. 黒褐色土 しまり弱い。As-C少量。焼土・灰少量。黄褐色シルト粒微量。細粒。

10. 黄褐色土 しまりあり。As-C微量。焼土中量。黄褐色シルトブロック中量。As-C微量。
11. 明褐色土 しまりあり。焼土微量。
12. 黒灰色土 しまり弱い。灰多量。
13. 暗褐色土 しまりあり。焼土微量。黄褐色シルト粒少量。
14. 明赤褐色土 しまりあり。焼土ブロック多量。
15. 褐色土 しまりあり。褐灰シルト少量。
16. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒微量。D34土。
17. 暗褐色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒微量。D34土。
18. 黒褐色土 しまりややあり。As-C中量。D34土。
19. 明褐色土 しまりあり。黄褐色総社砂層シルトブロックの地山。



H-3号住居跡・H-10号住居跡

- H-3号住居跡 土層説明 (A-A'・B-B')**
1. 褐色土 しまり強い。As-C中量。Hr-FA軽石微量。黄褐色シルト粒微量。
 2. 褐色土 しまり強い。As-C中量。Hr-FA軽石微量。黄褐色シルト粒少量。
 3. 褐~暗褐色土 しまり強い。As-C中量。Hr-FA軽石微量。
 4. 黒褐色土 しまりあり。As-C少量。
 5. 黒褐色土 しまり強い。As-Cやや多量。Hr-FA軽石微量。
 6. 黒褐色土 しまりやや弱い。As-C微量。
 7. 暗褐色土 しまりあり。As-C微量。
 8. 黒褐色土 しまり強い。As-C中量。貼床。
 9. 黒色土 しまりあり。粘性わずかにあり。微小白色軽石微量。基本層序VIIa層。

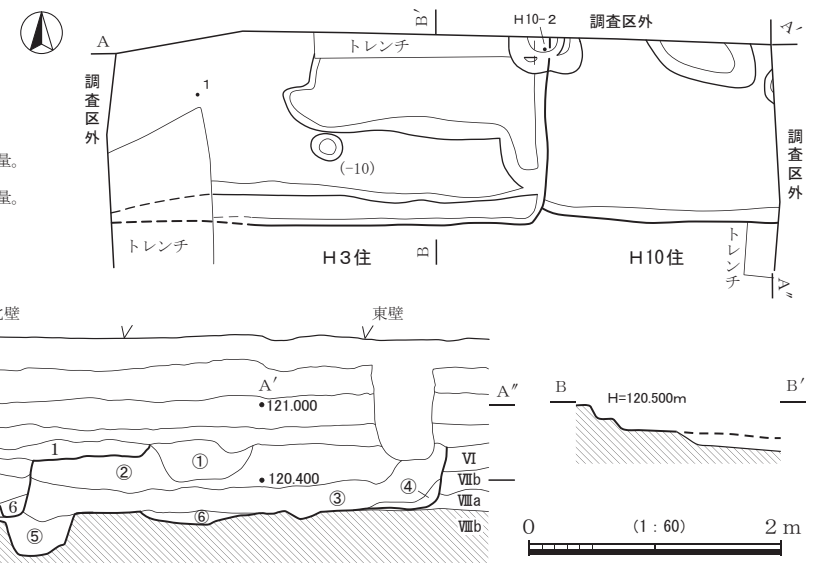


Fig. 29 [101] 遺構図 (1) H-1・3・10号住居跡

H-3号住居跡・H-10号住居跡

H-10号住居跡 土層説明 (A-A')

- ①. 黒褐色土 しまりややあり。As-C少量。Hr-FA軽石微量。
黄褐色シルト粒微量。
- ②. 暗褐色土 しまり強い。As-C中量。Hr-FA軽石微量。
黄褐色シルト粒少量。

- ③. 黒褐色土 しまり強い。As-Cやや多量。Hr-FA軽石微量。
- ④. 黒褐色土 しまりあり。As-C少量。
- ⑤. 黒褐色土 しまりややあり。As-C微量。
- ⑥. 黒褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。

H-4号住居跡・H-6号住居跡・H-7号住居跡・H-9号住居跡・H-15号住居跡・H-17号住居跡

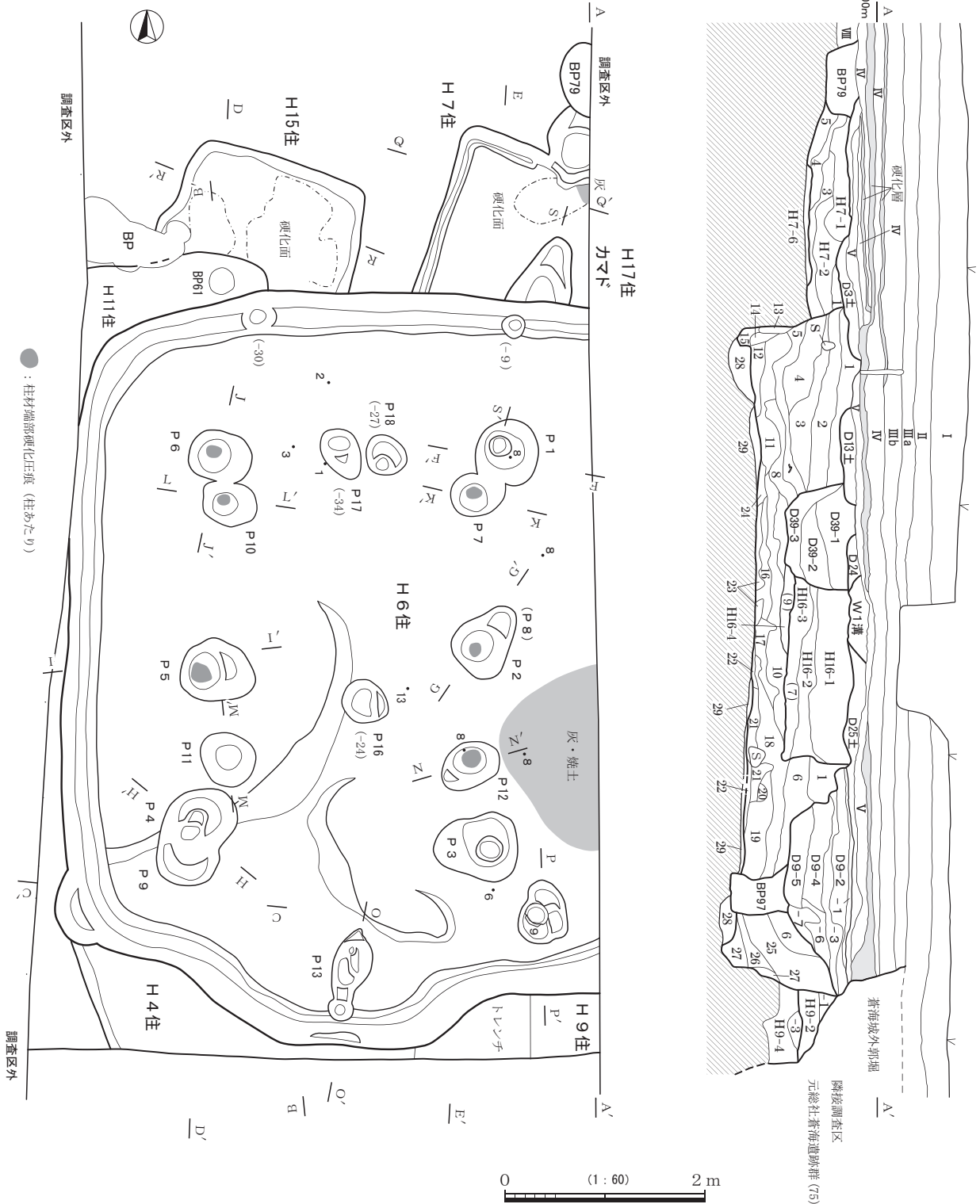


Fig. 30 [101] 遺構図 (2) H-4・6・7・9・15・17号住居跡①

H-4号住居跡・H-6号住居跡・H-7号住居跡・H-9号住居跡・H-15号住居跡・H-17号住居跡

H-6号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 暗褐色色土 しまり強い。As-C多量。黄褐色シルト粒中量、ブロック微量。
2. 極暗褐色色土 しまり強い。As-C中量。黄褐色シルト粒多量、ブロック少量。
3. 暗褐色色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒中量。
4. 褐色色土 しまり強い。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。
5. 暗褐色色土 しまりあり。As-C微量。褐色土ブロック少量。
6. 暗褐色色土 しまり強い。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。
7. 暗褐色色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。H-16号住居跡。
8. 褐色色土 しまりややあり。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。
9. 極暗褐色色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。H-16号住居跡。
10. 褐色色土 しまりあり。As-C少量。焼土微量。灰微量。黄褐色シルト粒少量。
11. 黒色土 しまりやや弱い。As-Cごく微量。細粒。
12. 極暗褐色色土 しまりあり。As-C少量。褐色シルトブロック少量。
13. 暗褐色色土 しまりやや強い。黄褐色シルトブロック少量。
14. 黒褐色色土 しまり弱い。均質、細粒。壁体カ。
15. 黒褐色色土 しまりやや弱い〜あり。黄褐色シルトブロック微量。周溝。
16. 黒色土 しまりやや弱い。As-C微量。灰微量。黄褐色シルト粒微量。
17. 明褐色色土 しまりやや強い。As-C少量。Hr-FA軽石微量。焼土微量。黄褐色シルトブロック多量。
18. 褐色色土 しまりあり。As-C少量。焼土・灰微量。黒灰ブロック含む。灰白粘質シルトブロック少量。黄褐色シルトブロック微量。
19. 褐色色土 しまり強い。As-C少量。黄褐色シルトブロック少量。
20. 暗褐色色土 やや硬化。As-C微量。黄褐色シルトブロック多量。
21. にぶい黄褐色土 しまり強い。As-C少量。焼土微量。明褐色シルトブロック少量。
22. 暗褐色色土 しまりやや弱い。As-C微量。焼土微量。
23. にぶい黄褐色土 しまり強い。As-C微量。焼土微量。黄褐色シルト粒少量。
24. 暗褐色色土 しまりややあり。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。
25. 暗褐色色土 しまり強い。As-C多量。黄褐色シルト粒少量。
26. 暗褐色色土 しまりあり。As-C微量。
27. 褐色色土 しまり強い。As-C少量。黄褐色シルトブロック中量。
28. 黒褐色色土 しまりあり〜強い。As-C少量。黄褐色シルトブロック少量。貼床。
29. 黄褐色色土 硬化。黄褐色シルトブロック主体。貼床。

H-4号住居跡 土層説明 (D-D')

1. 暗褐色色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。
2. 褐色色土 しまり強い。As-C少量。黄褐色シルトブロック少量。貼床。

H-7号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 暗褐色色土 しまりあり。As-C多量。黄褐色シルト粒中量、ブロック微量。
2. 褐色色土 しまり強い。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。
3. 極暗褐色色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒中量、ブロック微量。
4. 暗褐色色土 しまりややあり。As-C微量。灰少量。焼土微量。黄褐色シルト粒微量。カマド。
5. 暗褐色色土 しまりややあり。As-Cごく微量。カマド。
6. 褐色色土 しまり強い。As-C少量。黄褐色シルトブロック少量。貼床。

H-9号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 褐色色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。
2. 黒褐色色土 しまり強い。As-C中量。黄褐色シルト粒中量。
3. 暗褐色色土 しまり強い。As-C少量。黄褐色シルトブロック多量。貼床。
4. 暗褐色色土 しまり強い。As-C少量。灰少量。黄褐色シルト粒中量。貼床。

H-16号住居跡 土層説明 (A-A')

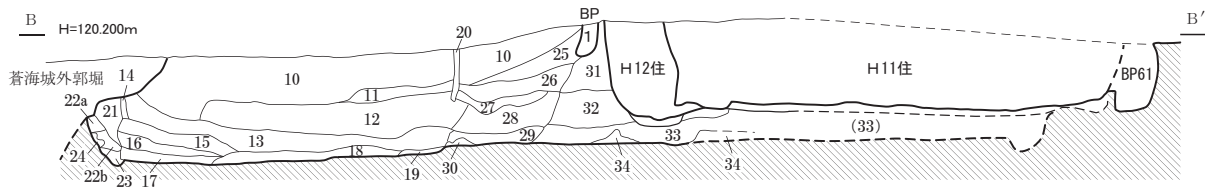
1. 暗褐色色土 しまり強い。As-C多量。黄褐色シルト粒少量。
2. 暗褐色色土 しまり強い。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。
3. 暗褐色色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。(7)
4. 極暗褐色色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。(9)

D-39号土坑 土層説明 (A-A')

1. 極暗褐色色土 しまり強い。As-C多量。
2. 極暗褐色色土 しまりあり。As-C中量。
3. 黒褐色色土 しまりややあり。As-C少量。

BP (As-B混入ピット) 土層説明 (B-B')

1. 暗褐色色土 しまりあり。白色シルト多量。As-B、As-C少量。



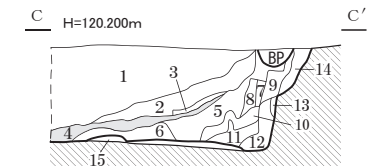
H-6号住居跡 土層説明 (B-B')

- 1~9. H-11・12号住居跡
10. 暗褐色色土 しまり強い。As-C多量。Hr-FA少量。黄褐色シルト粒少量。
11. 褐色色土 しまり弱い。As-C中量。
12. 暗褐色色土 しまりあり。黄褐色シルト粒中量、ブロック微量。
13. 黒褐色色土 しまりやや弱い。As-C少量。黄褐色シルト粒・ブロック少量。
14. 黒褐色色土 しまり弱い。As-C微量。
15. 黒褐色色土 しまり強い。As-C中量。黄褐色シルト粒多量、ブロック少量。褐色シルト少量。
16. 黒褐色色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルトブロック微量。
17. 黒褐色色土 しまりあり。粘性ややあり。As-C微量。黄褐色シルト粒・ブロック微量。
18. 明褐色色土 しまりあり。粘性あり。As-C少量。黄褐色シルトブロック少量。
19. 明褐色色土 しまり弱い。As-C微量。黄褐色シルト粒多量、ブロック少量。
20. 暗褐色色土 しまりやや弱い。As-C微量。
21. 黒褐色色土 しまり非常に強い。As-C多量。Hr-FA少量。黄褐色シルト粒・ブロック少量。
- 22a. 明褐色色土 しまり強い。As-C微量。黄褐色シルト粒多量、ブロック少量。
- 22b. 褐色色土 しまり強い。As-C微量。黄褐色シルト粒多量、ブロック少量。

23. 褐色色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルトブロック少量。周溝。
24. 明褐色色土 しまり硬い。黄褐色シルトブロック主体。
25. 暗褐色色土 しまり強い。As-C多量。Hr-FA少量。
26. 褐色色土 (暗) しまりあり。As-C少量。焼土微量。
27. 褐色色土 (明) しまりやや弱い。As-C少量。焼土微量。
28. 褐色色土 しまりあり。As-C中量。焼土微量。
29. 明褐色色土 しまりやや弱い。As-C少量。黄褐色シルト粒中量。黄褐色シルトブロック少量。細粒。
30. 明褐色色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック主体。
31. 褐色色土 しまり強い。As-C多量。
32. 褐色色土 しまりあり。As-C中量。
33. 暗褐色色土 しまりやや弱い。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。細粒。
34. 明褐色色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルトブロック中量。細粒。

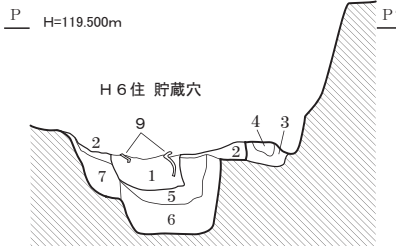
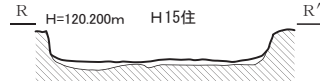
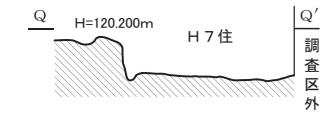
H-17号住居跡 カマド 土層説明 (S-S')

1. 暗褐色色土 しまりあり。As-C少量。焼土微量。黄褐色シルト粒少量。
2. 暗褐色色土 しまりあり。As-C微量。焼土微量。黄褐色シルト粒少量。灰少量。



H-6号住居跡 南西埋戻し 土層説明 (C-C')

1. 褐〜暗褐色色土 しまりあり〜強い。As-C多量。黄褐色シルト粒少量、ブロック微量。
2. 褐色色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒多量、ブロック中量。
3. 黒褐色色土 しまり弱い。As-C少量。黄褐色シルト粒多量。
4. 黄褐色色土 しまり強い。As-C少量。シルトブロック主体。埋戻し。
5. 黒褐色色土 しまり弱い。As-C微量。細粒。
6. 黒褐色色土 しまり強い。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。黄褐色シルトブロック微量。褐灰シルト微量。
7. 黒褐色色土 しまり弱い。As-Cごく微量。
8. 黒褐色色土 硬化。As-C中量。
9. 暗褐色色土 硬化。As-C中量。黄褐色シルト粒中量。
10. 褐色色土 硬化。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。
11. 黒褐色色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。
12. 黒色土 軟弱。As-Cごく微量。黄褐色シルト粒微量。壁体カ。
13. 黄褐色色土 しまり強い。黄褐色シルトブロック主体。
14. 褐色色土 しまり強い。漸移層ブロック中量。
15. 明褐色色土 硬化。シルト質土主体。貼床。



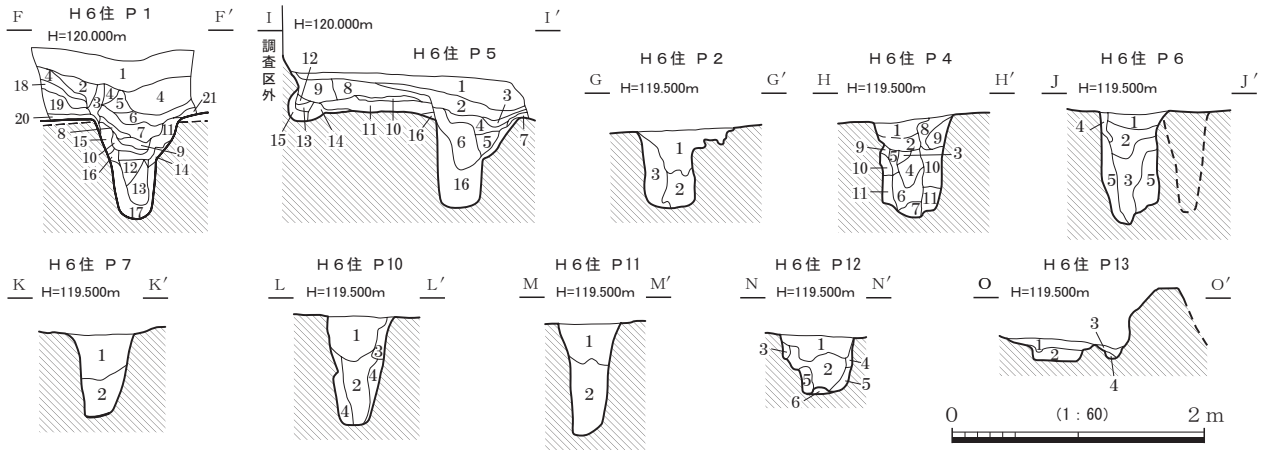
H-6号住居跡 貯蔵穴 土層説明 (P-P')

1. 黒褐色色土 軟弱。シルト質土・灰少量。
2. 褐色色土 しまり強い。粘性弱い。黒色土ブロック多量。褐色シルトブロック多量。貼床。
3. 黒褐色色土 しまり強い。粘性弱い。褐色シルトブロック少量。旧周溝。
4. 黄褐色色土 しまり強い。黄褐色シルトブロック主体。貼床。
5. 明黄褐色色土 しまり強い。シルトブロック主体の埋戻し。
6. 暗褐色色土 しまりあり。褐色シルト粒微量。均質。
7. 黒褐色色土 しまりあり。褐灰・黄褐色シルト粒中量。



Fig. 31 [101] 遺構図 (3) H-4・6・7・9・15・17号住居跡②

H-4号住居跡・H-6号住居跡・H-7号住居跡・H-9号住居跡・H-15号住居跡・H-17号住居跡



H-6号住居跡 P1 土層説明 (F-F')

1. 褐色土 しまり強い。As-C多量。Hr-FA少量。
2. 暗褐色土 しまりややあり。As-C少量。
3. 明褐色土 しまり強い。黄褐色シルトブロック少量。
4. 暗褐色土 しまりあり。As-C多量。
5. 褐色土 しまりややあり。As-C少量。
6. 暗褐色土 しまりややあり。As-C中量。
7. 黒褐色土 しまり強い。As-C少量。
8. 黒褐色土 しまりやや弱い。黄褐色シルト粒中量。黄褐色シルトブロック少量。
9. 黒色土 しまり弱い。As-C、黄褐色シルト粒微量。
10. 黄褐色土 しまりあり。黄褐色シルトブロック主体。
11. 黒色土 しまり弱い。As-C微量。
12. 明褐色土 しまりやや弱い。シルト質土主体。抜取後埋戻し。
13. 暗褐色土 しまりやや弱い。シルト質土主体。抜取後埋戻し。
14. 褐色土 しまり強い。シルト質土主体。根固め。
15. 黒褐色土 しまりあり。シルト質土中量。As-C微量。根固め。
16. 暗褐色土 しまり強い。粘性弱い。シルト質土多量。根固め。
17. 明褐色土 しまり強い。シルト質土主体。下部硬化。
18. 黒褐色土 しまり強い。As-C中量。
19. 暗褐色土 しまり強い。As-C中量。
20. 黒灰色土 しまり弱い。As-C微量。灰層含む。
21. 黒褐色土 硬化。As-C中量。

H-6号住居跡 P5 土層説明 (I-I')

1. 褐～暗褐色土 しまりあり。As-C多量。炭化物微量。
2. 黒褐色土 しまり弱い。As-C中量。黄褐色シルト粒、炭化物少量。細粒。
3. 褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒少量。As-C微量。
4. 黒褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒中量。黄褐色シルトブロック少量。As-C微量。
5. 暗褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒中量。As-C、黄褐色シルトブロック、シルト少量。
6. 暗褐～黄褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。黄褐色シルトブロック微量。
7. 黒褐色土 しまりあり。シルト少量。As-C、黄褐色シルト粒微量。
8. 褐～暗褐色土 しまりあり。As-C、黄褐色シルトブロック、黄褐色シルト粒中量。乱れる。
9. 黒褐色土 しまり弱い。As-C、黄褐色シルト粒少量。黄褐色シルトブロック微量。
10. 黒褐色土 しまり弱い。As-C微量。
11. 暗褐色土 しまりあり～強い。黄褐色シルトブロック、黄褐色シルト粒多量。As-C少量。
12. 黄褐色土 硬化。シルト大径ブロック主体。
13. 褐色土 しまり弱い。黄褐色シルトブロック中量。
14. 黒褐色土 しまりやや弱い。As-C、黄褐色シルト粒微量。
15. 黒色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒微量。
16. 明褐色土 しまり強い。粘性ややあり。シルト主体。埋戻し。

H-6号住居跡 P7 土層説明 (K-K')

1. 褐色土 しまり強い。黄褐色シルト粒多量、ブロック少量。褐灰シルト多量。閉塞。
2. 明褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒多量。褐灰シルト主体。埋戻し。

H-6号住居跡 P10 土層説明 (L-L')

1. 明黄褐色土 しまり強い。黄褐色シルトブロック多量。黄褐色シルト主体。閉塞。
2. 褐灰色土 しまりあり。褐灰シルトブロック多量。抜取後、埋戻し。
3. 暗褐色土 しまりやや弱い。黄褐色シルト粒多量。黄褐色シルト粒少量。根固め。
4. 暗褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒多量。黄褐色シルト粒少量。根固め。

H-6号住居跡 P11 土層説明 (M-M')

1. 暗褐色土 しまり強い。黄褐色シルトブロック、褐灰シルト多量。黒色土ブロック含む。閉塞。
2. 暗褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒、褐灰シルト少量。一括埋戻し。

H-6号住居跡 P12 土層説明 (N-N')

1. 明黄褐～褐灰色土 しまり強い。黄褐色シルトブロック、黄褐色シルト粒、褐灰シルト多量。閉塞。
2. 灰褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒、褐灰シルト中量。斑状。埋戻し。
3. 黄褐色土 硬化。シルトブロック。
4. 黒褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒、褐灰シルト少量。
5. 暗褐色土 しまり強い。褐灰シルト中量。黄褐色シルト粒少量。根固め。
6. 黄褐色土 硬化。黄褐色シルトブロック、褐灰シルト主体。柱端圧痕。

H-6号住居跡 P13 土層説明 (O-O')

1. 褐色土 しまりあり。黄褐色シルト粒中量。灰白粘土ブロック微量。
2. 明褐～明黄褐色土 しまり強い。黄褐色シルトブロック多量斑状。埋戻し。
3. 褐色土 しまりややあり。黄褐色シルト粒中量。
4. 明褐色土 硬化。黄褐色シルトブロック多量。柱端圧痕。

H-6号住居跡 P2 土層説明 (G-G')

1. 灰白色土 しまり強い。褐灰シルト多量。黄褐色シルト粒中量。As-C少量。黒色土ブロック混入。埋戻し。
2. 灰白色土 しまり非常に強い。シルト質。埋戻し。
3. 明褐色土 しまりあり。シルト質土主体。埋戻し。

H-6号住居跡 P4 土層説明 (H-H')

1. 黒褐色土 しまり弱い。As-C微量。黄褐色シルト粒多量。黄褐色シルトブロック少量。1～7層、柱材採取。
2. 明褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒主体。1層混入。
3. 灰白色土 しまりあり。褐灰シルトブロック主体。
4. 褐灰色土 しまりやや弱い。褐灰シルトブロック多量。
5. 暗褐色土 しまり弱い。褐灰シルト粒子主体。
6. 明褐色土 しまりあり。褐灰シルトブロック主体。
7. 暗褐色土 しまりあり。褐灰シルト粒子主体。
8. 乳白色土 しまりあり。明褐色シルト粒子主体。黄褐色シルト多量。根固め。
9. 暗褐色土 しまり強い。シルトブロック主体。根固め。
10. 褐灰色土 しまり非常に強い。シルト粒子主体。根固め。
11. 明褐色土 しまり非常に強い。シルトブロック主体。根固め。

H-6号住居跡 P6 土層説明 (J-J')

1. 暗褐色土 しまり弱い。As-C微量。
2. 暗褐色土 しまり弱い。砂質。
3. 黒色土 しまり弱い。褐灰シルト微量。
4. 黒褐色土 しまりあり。褐灰シルト中量。柱材採取。
5. 灰白色土 しまり強い。褐灰シルト主体。根固め。

H-6b号住居跡 (新)

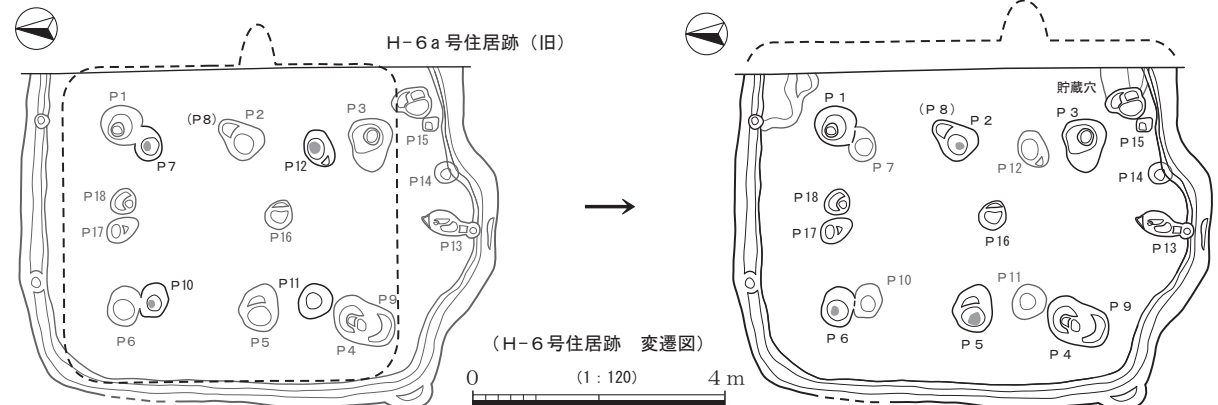
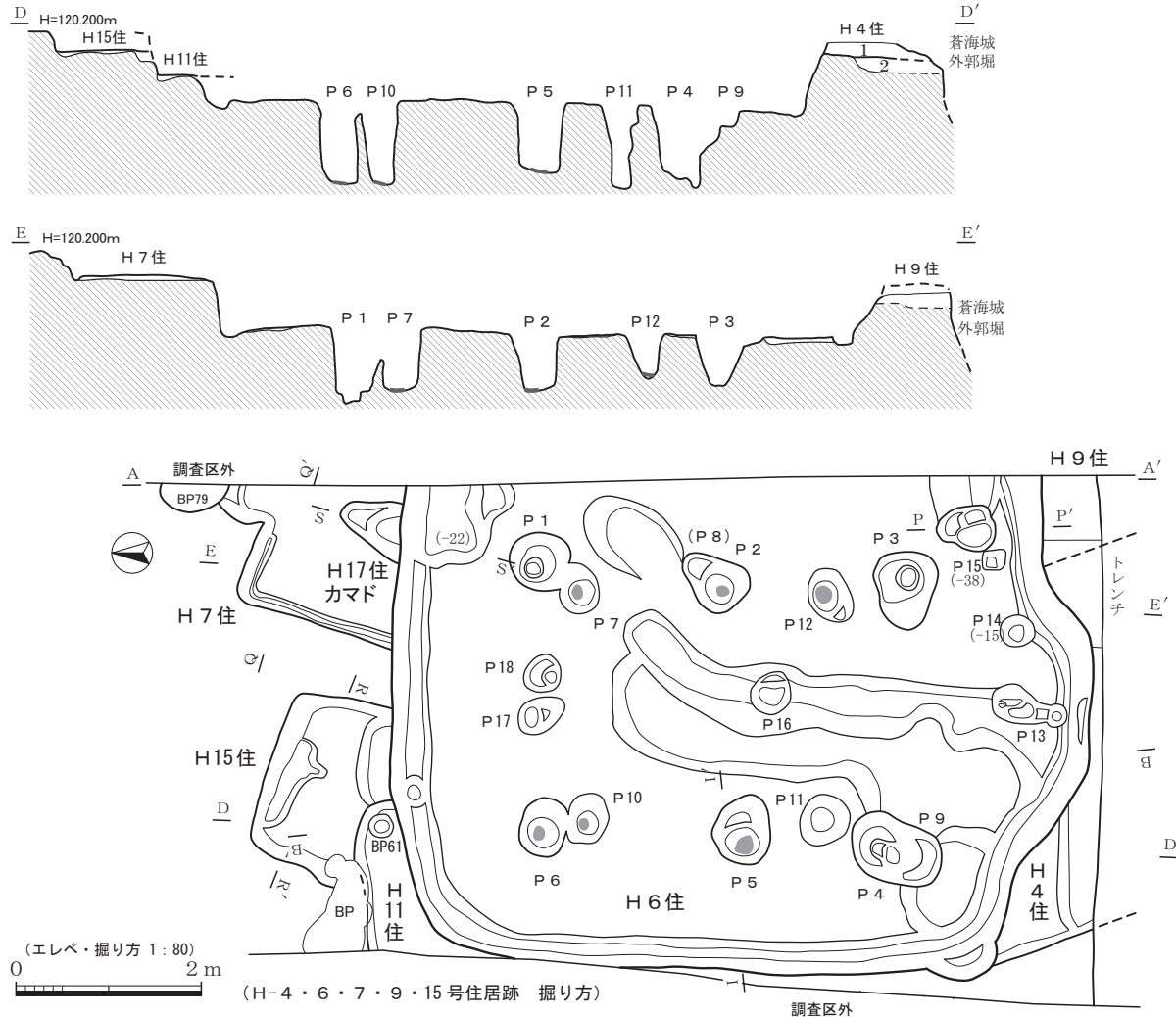
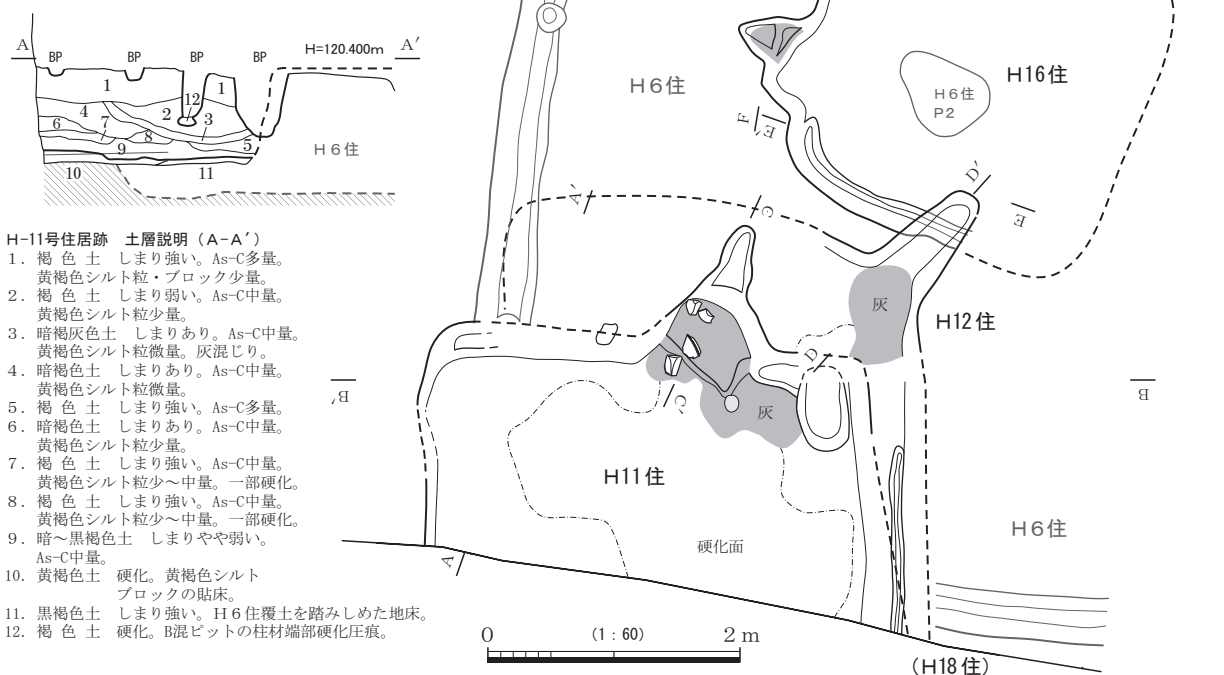


Fig. 32 [101] 遺構図 (4) H-4・6・7・9・15・17号住居跡③

H-4号住居跡・H-6号住居跡・H-7号住居跡・H-9号住居跡・H-15号住居跡・H-17号住居跡



H-11号住居跡・H-12号住居跡
H-16号住居跡

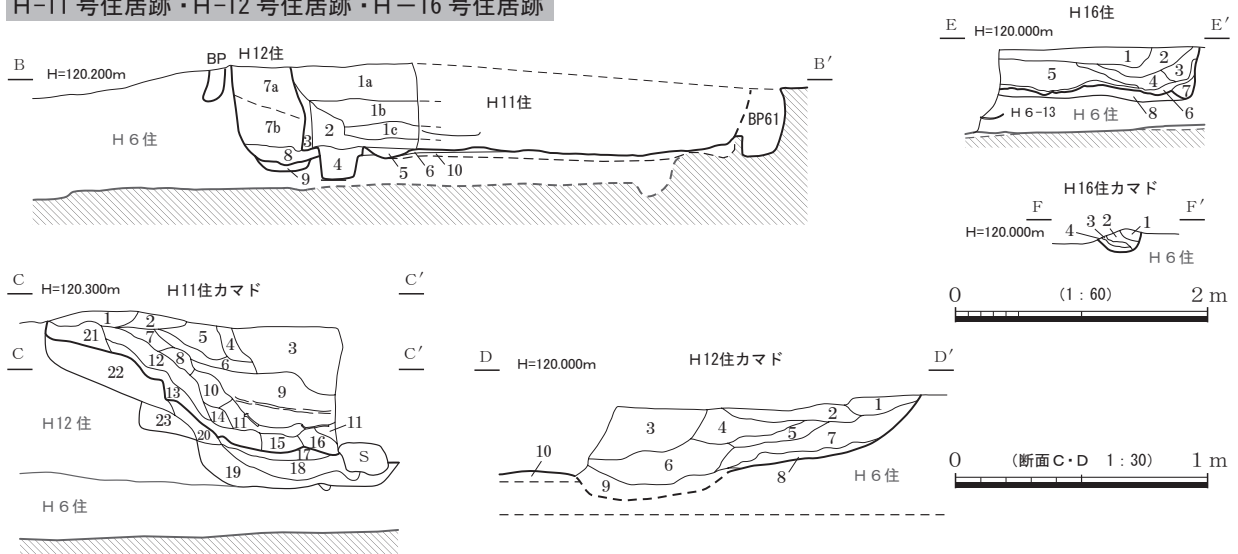


H-11号住居跡 土層説明 (A-A')

1. 褐色土 しまり強い。As-C多量。黄褐色シルト粒・ブロック少量。
2. 褐色土 しまり弱い。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。
3. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒微量。灰混じり。
4. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒微量。
5. 褐色土 しまり強い。As-C多量。
6. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。
7. 褐色土 しまり強い。As-C中量。黄褐色シルト粒少～中量。一部硬化。
8. 褐色土 しまり強い。As-C中量。黄褐色シルト粒少～中量。一部硬化。
9. 暗～黒褐色土 しまりやや弱い。As-C中量。
10. 黄褐色土 硬化。黄褐色シルトブロックの貼床。
11. 黒褐色土 しまり強い。H6住覆土を踏みしめた地床。
12. 褐色土 硬化。B混ピットの柱材端部硬化圧痕。

Fig. 33 [101] 遺構図 (5) H-4・6・7・9・15・17号住居跡④ / H-11・12・16号住居跡①

H-11号住居跡・H-12号住居跡・H-16号住居跡



H-11・12号住居跡 土層説明 (B-B')

1. 褐色土 しまり強い。As-C多量。黄褐色シルト粒・ブロック微量。Hr-FA少量。
2. 暗褐色土 しまりあり。As-C多量。黄褐色シルト粒・ブロック微量。Hr-FA少量。
3. 暗褐色土 しまり強い。As-C中量。Hr-FA少量。硬化ブロック中量。黄褐色シルト粒・ブロック微量。
4. 暗褐色土 しまり弱い。As-C中量。Hr-FA少量。黄褐色シルト粒、微量。
5. 黒褐色土 しまり弱い。As-C微量。貯蔵穴覆土。
6. 暗褐色土 しまりなし。As-C微量。灰層主体。
- 7a. 褐色土 しまりあり。As-C多量。Hr-FA少量。黄褐色シルト粒微量。
- 7b. 褐色土 しまり強い。As-C多量。Hr-FA少量。黄褐色シルト粒微量。
8. 褐色土 しまり弱い。As-C微量。細粒灰純層。
9. 褐色土 しまり非常に強い。黄褐色シルト粒・ブロック少量。貼床。
10. 褐色土 しまり非常に強い。黄褐色シルトブロック中量。貼床。

H-12号住居跡 カマド土層説明 (D-D')

1. 暗赤褐色土 しまりあり。灰ブロック少量。As-C、焼土微量。
2. 赤褐色土 しまりあり。焼土中量。灰中量。As-C少量。
3. 暗褐色土 しまりあり。焼土微量。As-C中量。黄褐色シルトブロック少量。
4. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。
5. 黒褐色土 しまり強い。焼土中量。灰ブロック中量。
6. 暗褐色土 しまりあり。焼土少量。灰中量。As-C少量。
7. 暗赤褐色土 しまりあり。焼土中量。灰中量。As-C少量。
8. 暗褐色土 しまりやや弱い。灰主体。As-C微量。
9. 暗褐色土 しまり弱い。灰層。しっとりきめ細かい。
10. 褐色土 しまり非常に強い。黄褐色シルトブロック中量。貼床。

H-16号住居跡 カマド土層説明 (F-F')

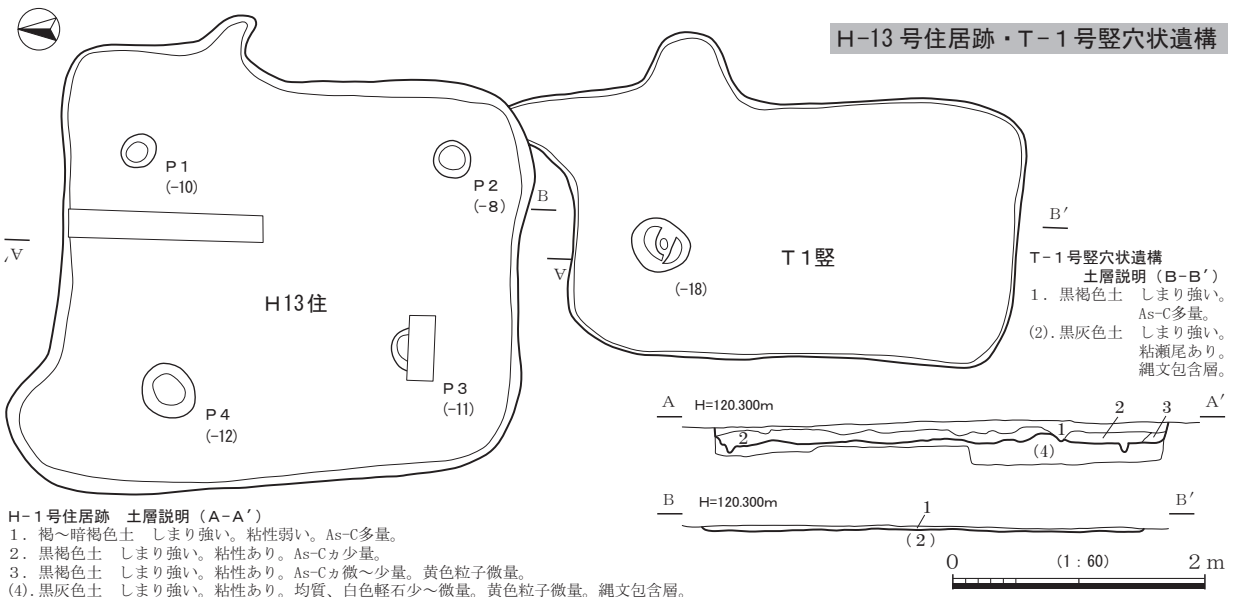
1. 褐色土 しまりあり。As-C多量。焼土微量。
2. 黒褐色土 しまり弱い。焼土少量。As-C微量。灰主体。
3. 黒色土 しまり弱い。焼土少量。As-C微量。灰主体。
4. 暗褐色土 しまりあり。焼土多量。As-C、灰少量。

H-11号住居跡 カマド 土層説明 (C-C')

1. 明褐色土 しまり強い。粘性弱い。焼土少量。粘土中量。As-C少量。
2. 黒褐色土 しまり強い。焼土少量。As-C少量。
3. 暗褐色土 しまりあり。焼土微量。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。
4. 明褐色土 しまり強い。粘性弱い。粘土少量。As-C少量。
5. 明赤褐色土 しまりあり。焼土中量。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。
6. 黒褐色土 しまり弱い。焼土微量。灰多量。As-C少量。
7. 暗褐色土 しまり弱い。焼土多量。As-C微量。
8. 暗褐色土 しまりあり。焼土微量。灰少量。
9. 明赤褐色土 しまり強い。焼土多量。As-C中量。黄褐色シルトブロック少量。
10. 黒色土 しまり弱い。焼土微量。As-C少量。
11. 暗褐色土 しまり弱い。焼土微量。灰多量。
12. 黒褐色土 しまり強い。焼土微量。As-C少量。
13. 赤褐色土 しまり強い。焼土主体。As-C微量。
14. 赤褐色土 しまり強い。焼土主体。As-C微量。
15. 暗赤褐色土 しまり弱い。焼土少量。As-C少量。
16. 明赤褐色土 しまりあり。焼土主体。As-C中量。
17. 暗褐色土 しまり弱い。焼土少量。灰主体。As-C少量。
18. 黒褐色土 しまりやや弱い。焼土微量。As-C微量。
19. 黒褐色土 しまり弱い。焼土微量。As-C微量。
20. 黒褐色土 しまり強い。焼土微量。As-C少量。
21. 暗褐色土 しまりあり。焼土微量。As-C中量。
22. 黒褐色土 しまりあり。焼土微量。As-C中量。
23. 暗褐色土 しまり弱い。焼土微量。As-C微量、灰混じり。

H-16号住居跡 土層説明 (E-E')

1. 暗褐色土 しまり強い。As-C多量。Hr-FA少量。
2. 暗褐色土 しまりやや弱い。As-C微量。
3. 暗褐色土 しまりあり。粘性弱い。As-C微量。
4. 暗褐色土 しまりあり。As-C中量。Hr-FA少量。
5. 褐色土 しまり強い。As-C中量。Hr-FA少量。
6. 褐色土 しまりあり。粘性弱い。As-C微量。灰層主体。
7. 黒褐色土 しまり弱い。As-Cごく微量。
8. 褐色土 しまりあり。As-C中量。貼床か？



H-13号住居跡 土層説明 (A-A')

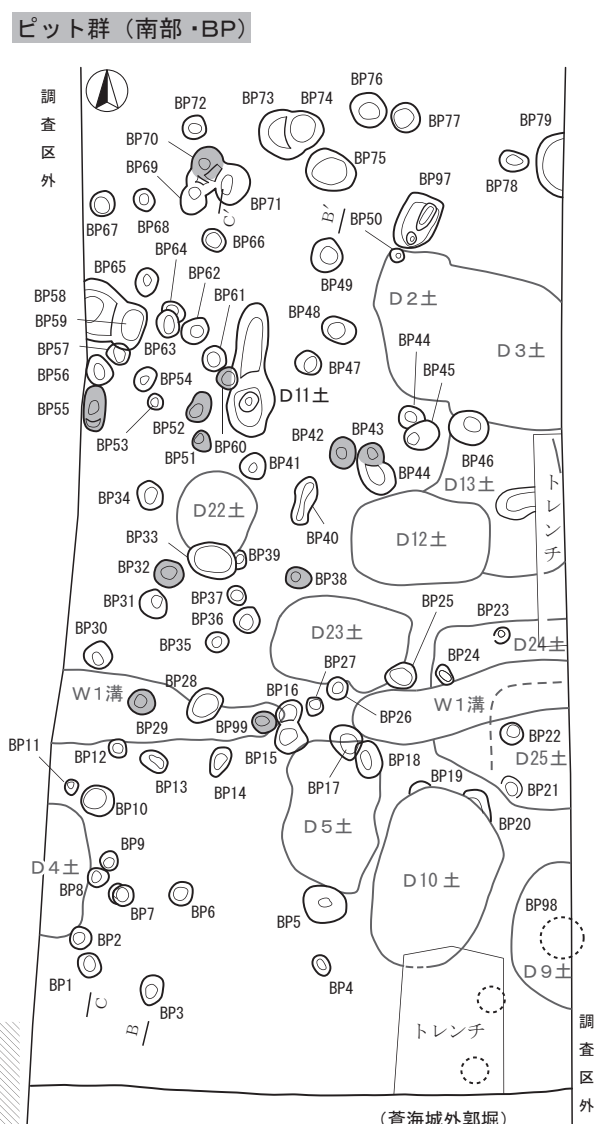
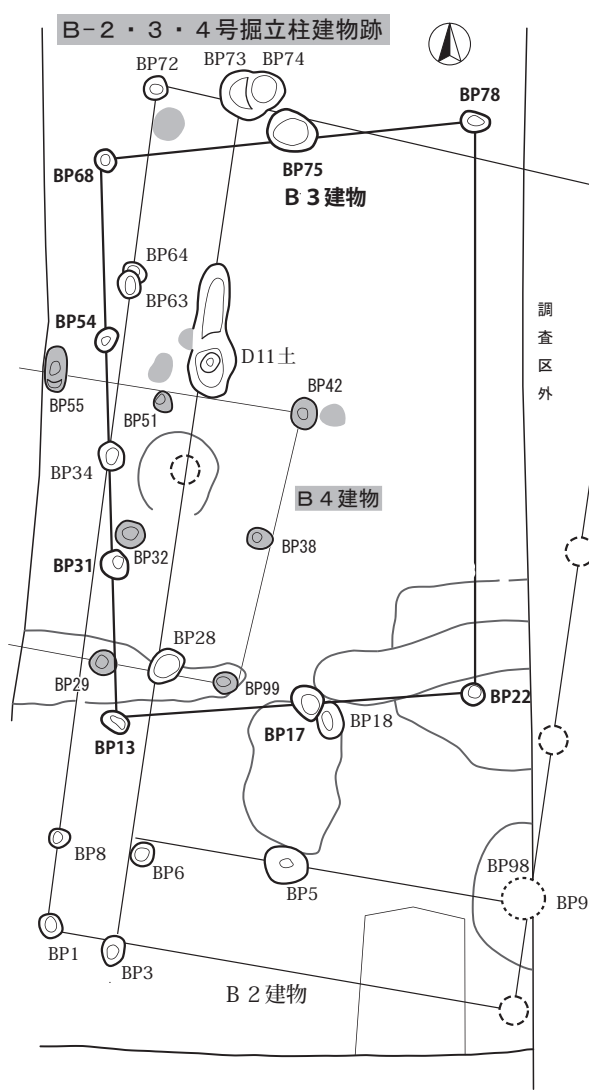
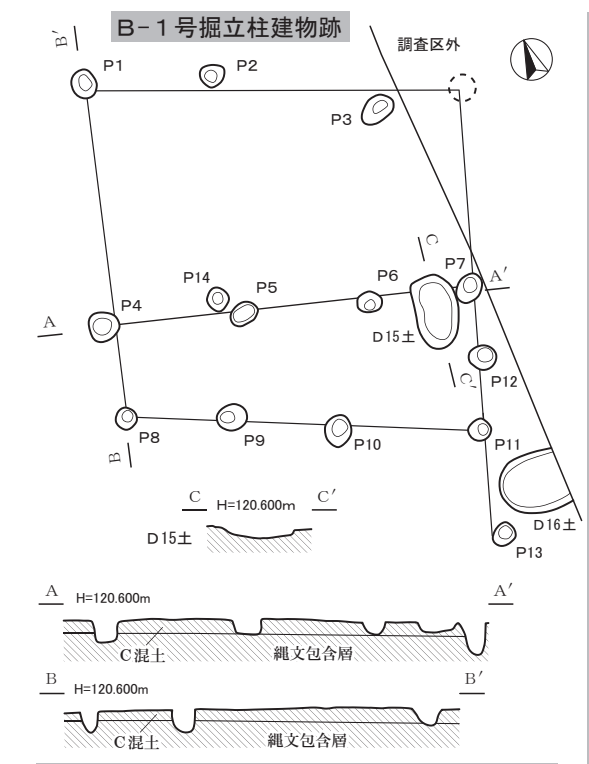
1. 褐～暗褐色土 しまり強い。粘性弱い。As-C多量。
2. 黒褐色土 しまり強い。粘性あり。As-C少量。
3. 黒褐色土 しまり強い。粘性あり。As-Cカ微～少量。黄色粒子微量。
4. 黒灰色土 しまり強い。粘性あり。均質、白色軽石少～微量。黄色粒子微量。縄文包含層。

T-1号竪穴状遺構

土層説明 (B-B')

1. 黒褐色土 しまり強い。As-C多量。
2. 黒灰色土 しまり強い。粘瀬尾あり。縄文包含層。

Fig. 34 [101] 遺構図 (6) H-11・12・16号住居跡② / H-13号住居跡 / T-1号竪穴状遺構



B-1号掘立柱建物跡柱穴深度表 (単位: cm)

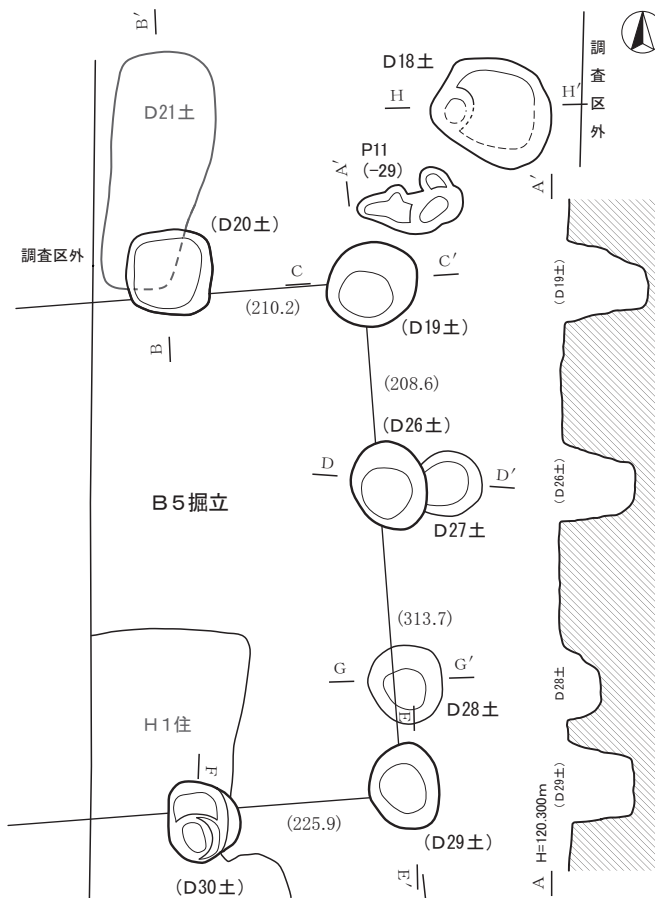
PNo.	深さ	PNo.	深さ	PNo.	深さ	PNo.	深さ
P1	17	P5	15	P9	20	P13	23
P2	16	P6	16	P10	21	P14	22
P3	21	P7	34	P11	28		
P4	25	P8	24	P12	31		

BP柱穴深度表 (単位: cm) BP80 ~ 96 は中世全体図参照

PNo.	深さ	PNo.	深さ	PNo.	深さ	PNo.	深さ	PNo.	深さ
BP1	18	BP21 (18)		BP41	41	BP61	15	BP81	28
BP2	18	BP22 (26)		BP42	57	BP62	30	BP82	15
BP3	26	BP23 (17)		BP43	37	BP63	63	BP83	13
BP4	8	BP24 (55)		BP44	19	BP64	45	BP84	18
BP5	39	BP25	19	BP45	40	BP65	14	BP85	15
BP6	23	BP26	18	BP46	34	BP66	14	BP86	8
BP7	30	BP27	22	BP47	29	BP67	30	BP87	12
BP8	15	BP28	12	BP48	23	BP68	29	BP88	18
BP9	14	BP29	25	BP49	26	BP69	57	BP89	15
BP10	30	BP30	83	BP50	9	BP70	63	BP90	14
BP11	33	BP31	32	BP51	35	BP71	43	BP91	14
BP12	17	BP32	19	BP52	39	BP72	22	BP92 (37)	
BP13	20	BP33	11	BP53	8	BP73 (10)		BP93 (19)	
BP14	6	BP34	11	BP54	14	BP74 (15)		BP94	20
BP15	32	BP35	13	BP55	23	BP75 (10)		BP95	20
BP16	4	BP36	10	BP56	23	BP76	33	BP96	23
BP17	36	BP37	10	BP57	16	BP77	37	BP97	22
BP18	40	BP38	28	BP58	26	BP78	14	BP98 (121)	
BP19 (15)		BP39	11	BP59	36	BP79	15	BP99	20
BP20 (25)		BP40	11	BP60	15	BP80	20		

Fig. 35 [101] 遺構図 (7) B-1・2・3・4号掘立柱建物跡 / ピット群 (南部)

B-5号掘立柱建物跡、D-18・27・28号土坑



D-19号土坑 土層説明 (C-C')

1. 褐色土 しまり弱い。As-C少量。柱痕。
2. 暗褐色土 しまりやや弱い。As-C微量。柱痕。
3. 褐色土 しまりあり。As-C中量。根固め(～10)。
4. 暗褐色土 しまり強い。As-C多量。
5. 黒褐色土 しまり強い。As-C微量。
6. 暗褐色土 しまりやや弱い。As-C微量。
7. 黒褐色土 しまり強い。As-C微量。
8. 褐色土 しまりあり。As-C少量。柱端硬化。
9. 黒褐色土 しまりあり。As-C微量。均質。柱端硬化。
- 10a. 暗褐色土 しまり非常に強い。As-C少量。黄褐色シルトブロックブロック中量。
- 10b. 暗褐色土 しまり強い。As-C少量。黄褐色シルトブロック中量。

(平面・Aエレベ 1:80)

D-18号土坑 土層説明 (H-H')

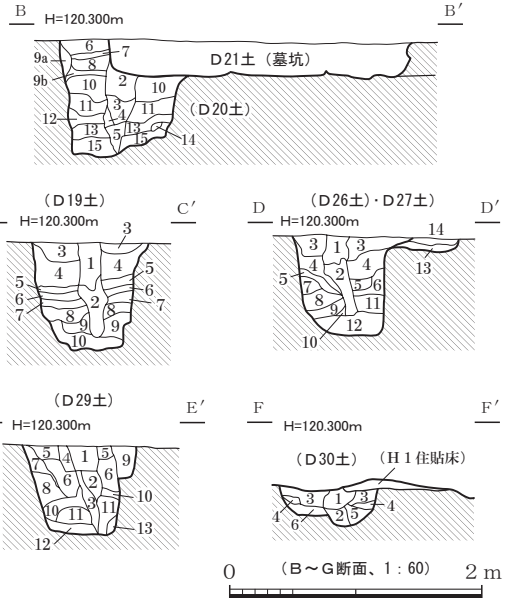
1. 褐色土 しまり強い。As-C多量。Hr-FA少量。黄褐色シルト粒微量。

D-29号土坑 土層説明 (E-E')

1. 褐色土 しまりあり。As-C多量。柱痕。
2. 暗褐色土 しまりやや弱い。As-C少量。柱痕。
3. 暗褐色土 しまり弱い。As-C微量。柱痕。
4. 褐色土 しまりやや弱い。As-C少量。柱痕。
5. 褐色土 しまり強い。As-C中量。根固め(～13)。
6. 暗褐色土 しまりあり。As-C多量。斑状。
7. 黒褐色土 しまり弱い。As-C微量。
8. 暗褐色土 しまりあり。As-C少量。
9. 褐色土 しまりあり。As-C多量。
10. 黒褐色土 しまり弱い。As-C微量。
11. 極暗褐色土 しまりやや弱い。As-C微量。
12. 褐色土 しまりややあり。As-C微量。黄褐色シルト粒・ブロック少量。
13. 黒褐色土 しまり弱い。As-C微量。

D-30号土坑 土層説明 (F-F')

1. 暗褐色土 しまり弱い。As-C少量。黄褐色シルト粒微量。柱痕。
2. 黒褐色土 しまり弱い。As-C微量。柱痕。
3. 黒褐色土 しまり強い。As-C微量。黄褐色シルト粒微量。
4. 黒色土 しまり弱い。As-C微量。黄褐色シルト粒微量。
5. 黒褐色土 しまりあり。As-C微量。黄褐色シルト粒微量。
6. 黄褐色土 しまり強い。黄褐色シルトブロック主体。

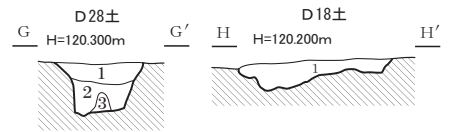


D-20号土坑 土層説明 (B-B')

1. D21号土坑覆土。
2. 褐色土 しまり弱い。As-C中量。黄褐色シルト粒少量。柱痕。
3. 暗褐色土 しまり弱い。As-C中量。黄褐色シルトブロック少量。柱痕。
4. 灰褐色土 しまり弱い。砂状。柱痕。
5. 黒褐色土 しまりあり。As-C微量。柱痕。
6. 褐色土 しまり強い。As-C多量。黄褐色シルト粒多量。根固め(～15)。
7. 暗褐色土 しまりあり。As-C多量。
8. 黒褐色土 しまり強い。As-C多量。黄褐色シルト粒少量。
- 9a. 灰褐色土 軟弱。砂状。
- 9b. 黒褐色土 しまりあり。As-C微量。
10. 暗～黒褐色土 しまりあり。As-C多量。斑状。
11. 暗～黒褐色土 しまり強い。As-C少量。
12. 黒褐色土 しまり強い。As-C少量。
13. 暗褐色土 しまりあり。As-C微量。
14. 黄褐色土 黄褐色シルトブロックのみ。

D-26・27号土坑 土層説明 (D-D')

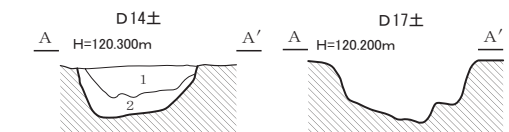
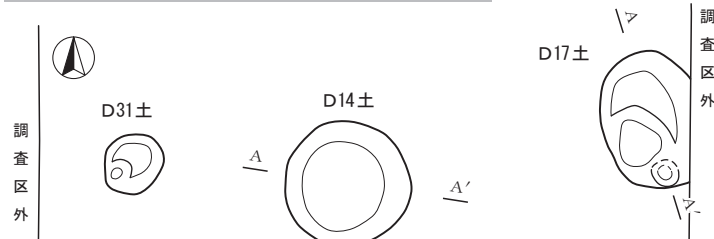
1. 褐色土 しまりあり。As-C多量。柱痕。
2. 暗褐色土 しまり弱い。As-C微量。柱痕。
3. 褐色土 しまり強い。As-C多量。Hr-FA微量。根固め(～12層)。
4. 暗褐色土 しまり強い。As-C多量。
5. 黒褐色土 しまり弱い。As-C微量。
6. 黒褐色土 しまり強い。As-C微量。
7. 暗褐色土 しまりあり。As-C少量。
8. 褐色土 しまりあり。As-C少量。
9. 黒褐色土 しまり弱い。As-C微量。
10. 褐色土 しまり弱い。As-C微量。
11. 黒褐色土 しまり強い。As-C少量。
12. 暗褐色土 しまりあり。As-C微量。細粒。
13. 暗褐色土 しまりあり。As-C少量。D27土。
14. 褐色土 しまりあり。As-C少量。D27土。



D-28号土坑 土層説明 (G-G')

1. 褐色土 しまり強い。As-C多量。Hr-FA微量。
2. 暗褐色土 しまりあり。As-C多量。
3. 明褐色土 しまりやや弱い。As-C微量。

D-14号土坑・D-17号土坑・D-31号土坑



D-14号土坑 土層説明 (A-A')

1. 褐色土 しまり強い。As-C多量。
2. 暗褐色土 しまり強い。As-C中量。

Fig. 36 [101] 遺構図(8) B-5号掘立柱建物跡 / D-14・17・18・27・28・31号土坑

SA-1号柱穴列・D-7号土坑・D-8号土坑・D-33号土坑・D-34号土坑・D-35号土坑・D-36号土坑

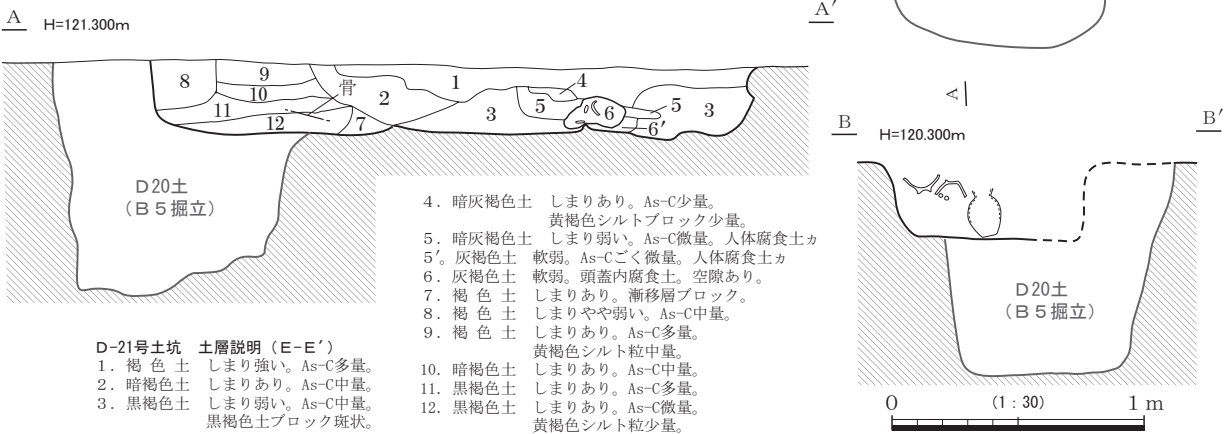
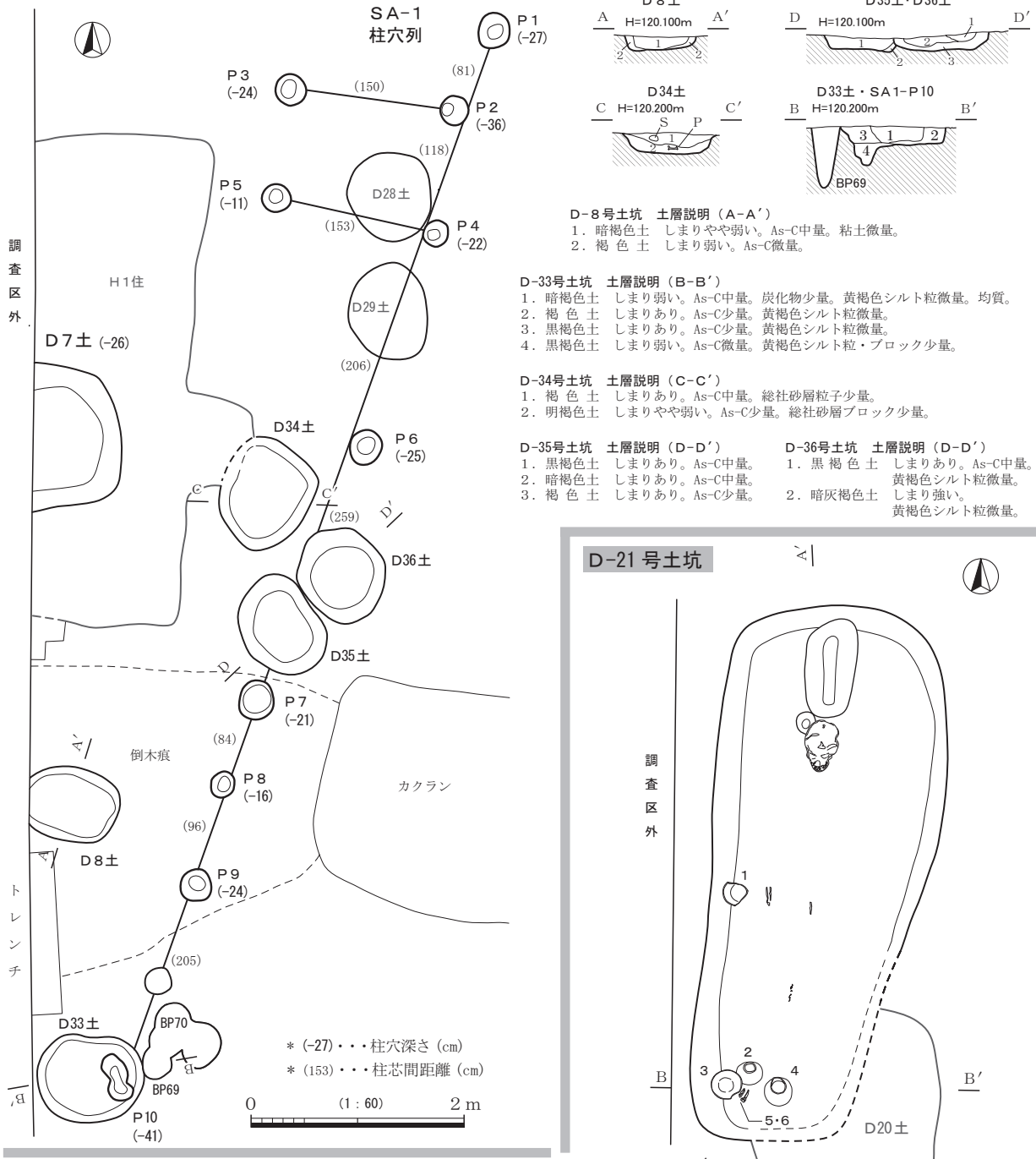
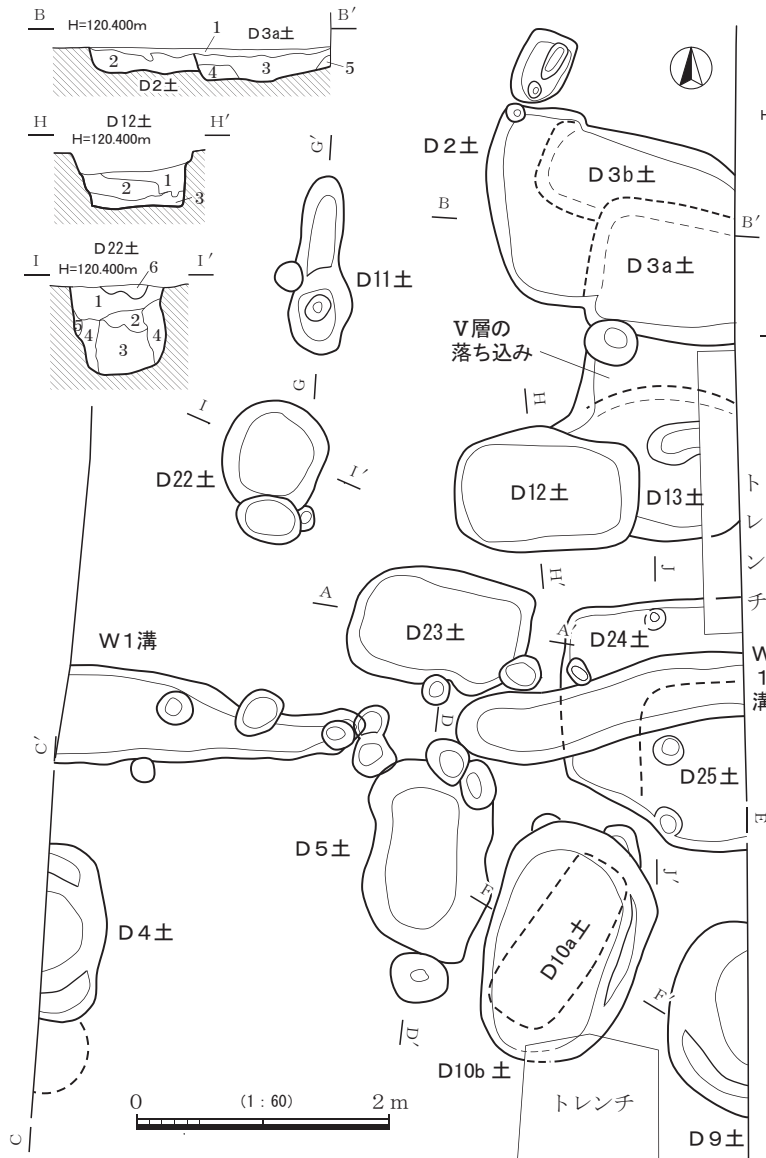


Fig. 37 [101] 遺構図 (9) SA-1号柱穴列 / D-7・8・33~36号土坑 / D-21号土坑

D-2~5号土坑・D-9~13号土坑・D-22~25号土坑



D-23号土坑 土層説明 (A-A')

1. 暗灰褐色土 しまり強い。As-B少量。As-C中量。黄褐色シルト粒微量。
2. 暗褐色土 しまりあり。As-B中量。As-C多量。黄褐色シルト粒微量。
3. 暗灰褐色土 しまり弱い。As-B多量。As-C微量。

D-2・3号土坑 土層説明 (B-B')

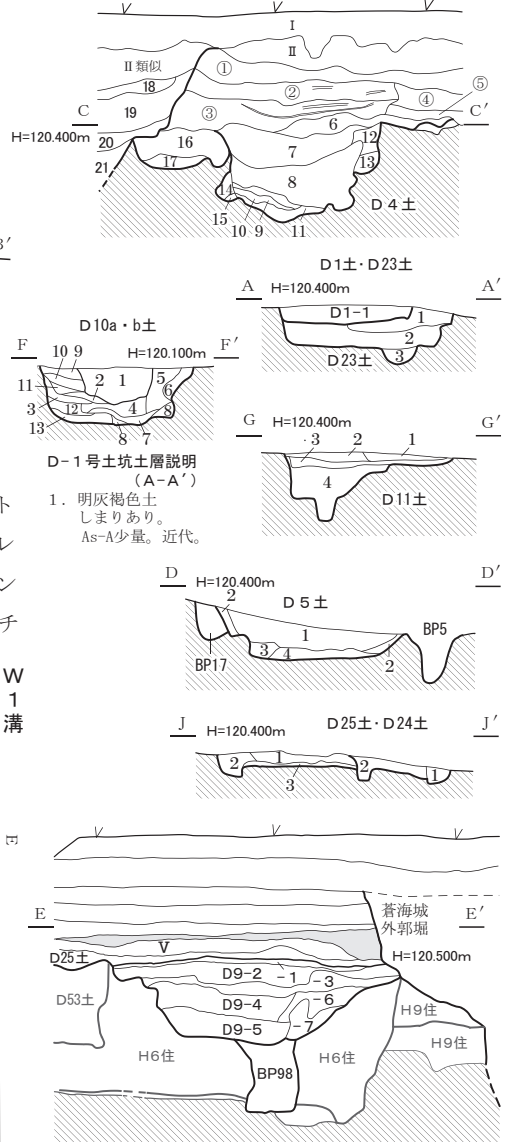
1. 褐灰色土(明) しまりあり。As-B多量。As-Cごく微量。
2. 暗褐色土(暗) しまりあり。As-B少量。As-C中量。φ5~20mmシルト質土少量。
3. 暗褐色土(明) しまりあり。As-B少量。As-C中量。φ5~20mmシルト質土少量。
4. 暗褐色土(明) しまりやや弱い。As-B中量。As-C少量。シルト粒少量。
5. 暗褐色土(暗) しまりややあり。As-B少量。As-C微量。シルト粒少量。

D-4号土坑 土層説明 (C-C')

- ①. 明灰褐色土 しまり強い。As-B少量。As-C少量。黄褐色シルト粒少量。シルト質。
- ②. 褐灰色土(暗) しまり強い。As-B中量。As-C中量。暗色硬化薄層あり。
- ③. 褐色土(暗) しまり強い。As-B中量。As-C中量。やや砂質。暗色硬化薄層複数条。
- ④. 明褐色土 しまり強い。As-B中量。As-C中量。
- ⑤. 褐色土 しまり強い。As-B中量。As-C中量。
- ⑥. 暗褐色土 しまりあり。As-B中量。As-C微量。黄褐色シルト粒少量。
- ⑦. 暗褐色土 しまりあり。As-B多量。黄褐色シルトブロック微量。
- ⑧. 暗褐色土 しまりややあり。As-B多量。黄褐色シルトブロック微量。
- ⑨. 明黄褐色土 軟弱。As-B非常に多い。黄褐色シルト粒多量。
- ⑩. 褐灰色土 軟弱。As-B非常に多い。
- ⑪. 暗褐色土 しまりややあり。As-B多量。
- ⑫. 暗褐色土 しまり強い。As-B中量。黄褐色シルト粒少量。
- ⑬. 暗褐色土 しまり弱い。As-B多量。
- ⑭. 明褐色土 しまり弱い。黄褐色シルト粒主体。
- ⑮. 明褐色土 しまり弱い。As-B少量。黄褐色シルト粒主体。
- ⑯. 黒褐色土 しまりあり。As-C少量。黄褐色シルトブロック少量。土坑カ
- ⑰. 褐色土 しまりややあり。やや砂質。土坑カ
- ⑱. 褐灰色土(暗) しまり強い。As-B中量。シルト質土。堀覆土。
- ⑲. 灰褐色土 しまり強い。As-B中量。シルト質土。堀覆土。
- ⑳. 暗灰褐色土 しまり強い。As-B中量。シルト質土。堀覆土。
- ㉑. 灰褐色土 しまりあり。As-B少量。シルト質土。堀覆土。

D-10a・b号土坑 土層説明 (F-F')

1. 褐灰色土 しまりあり。As-B多量。As-C中量。灰白シルトφ2~20mm。斑状中量。一括埋戻し。D-10a号土坑。しまり非常に弱い。As-B多量。アッシュのみブロック状。
2. 明青灰色土 しまり強い。黄褐色シルトブロック多量。As-B中量。シルト質土中量。アッシュ少量。
3. 黄褐色土 しまり弱い。As-B多量。As-C微量。黄褐色シルトブロック微量。シルト質土微量。
4. 明褐色土 しまりあり。As-B多量。As-C微量。シルト質土微量。
5. 褐灰色土(暗) しまり強い。As-B多量。As-C微量。シルト質土微量。
6. 明褐色土 しまり弱い。As-B多量。As-C微量。
7. 褐灰色土(明) しまり弱い。As-B多量。シルト質土少量。As-C微量。
8. 暗褐色土 しまり弱い。As-B多量。シルト質土少量。As-C微量。
9. 暗褐色土 しまりやや弱い。As-B多量。As-C少量。
10. 褐灰色土 しまり弱い。As-B多量。
11. 暗褐色土 しまりやや弱い。As-B中量。As-C微量。
12. 暗褐色土 しまり弱い。As-B多量。
13. 暗褐色土 しまりやや弱い。As-B中量。As-C微量。



D-1号土坑土層説明 (A-A')

1. 明灰褐色土 しまりあり。As-A少量。近代。

D-5号土坑 土層説明 (D-D')

1. 暗褐色土 しまりあり。As-B多量。As-C少量。
2. 暗褐色土 しまり非常に弱い。As-B多量。As-Cごく微量。
3. 褐色土 しまり弱い。As-B多量。As-C微量。
4. 黒褐~暗褐色土 しまりあり。As-B少量。As-C中量。

D-9号土坑 土層説明 (E-E')

1. 黒褐色土 やや硬化。As-B多量。
2. 明褐色土 しまり強い。As-B中量。As-C微量。Hr-FA軽石微量。暗色硬化薄層多数条含む。やや硬化。As-B少量。As-C微量。
3. 暗褐色土 暗色硬化層主体。
4. 褐灰色土 しまりあり。As-B中量。As-C微量。暗色硬化薄層複数条含む。
5. 暗褐色土 しまりややあり。As-B少量。As-C微量。
6. 暗褐色土 しまりあり。As-B少量。均質。
7. 明褐色土 しまりややあり。As-B中量。

Fig. 38 [101] 遺構図 (10) D-2~5・9~13・22~25号土坑

D-11・12・22・24・25号土坑

D-11号土坑 土層説明 (G-G')

1. 明褐色土 しまりあり。As-B多量。粘土ブロック少量。シルト質土多量。均質。
2. 褐色土 しまりあり。As-B多量。粘土ブロック少量。シルト質土少量。
3. 青褐色土 しまり強い。As-B多量。
4. 暗褐色土 しまりあり。As-B少量。As-C中量。

D-22号土坑 土層説明 (I-I')

1. 褐色土 しまりあり。As-B多量。As-C中量。
2. 暗褐色土 しまりあり。As-B多量。As-C微量。総社砂層黄ブロック微量。
3. 黒褐色土 しまりあり。As-B少量。As-C多量。黄褐色シルト粒・ブロック少量。
4. 暗褐色土 しまりやや弱い。As-B中量。As-C少量。黄褐色シルトブロック少量。
5. 黒褐色土 しまり弱い。As-B多量。
6. 灰褐色土 しまりややあり。As-B多量。重複したビット。

D-12号土坑 土層説明 (H-H')

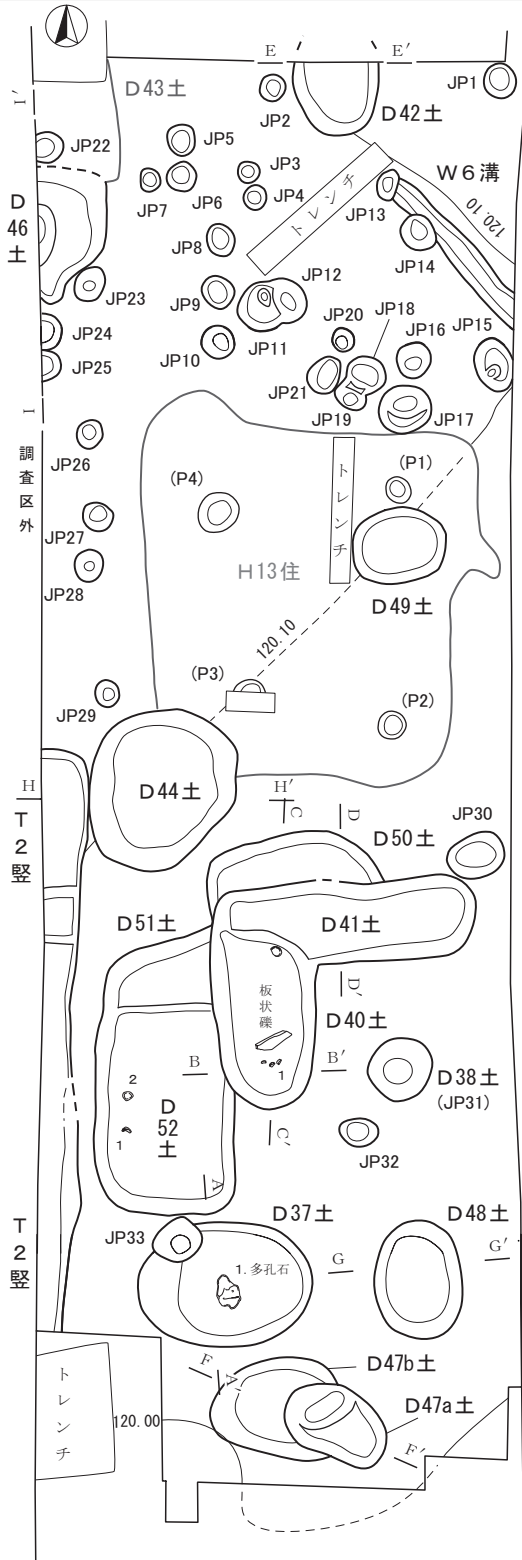
1. 黒褐色土 しまりややあり。As-B少量。As-C中量。Hr-FA微量。
2. 暗褐色土 しまり弱い。As-B多量。As-C微量。
3. 褐色土 しまり弱い。As-B多量。As-C微量。

D-24号土坑 土層説明 (J-J')

1. 暗灰褐色土 しまり弱い。As-B多量。
2. 暗褐色土 しまりややあり。As-B中量。As-C微量。

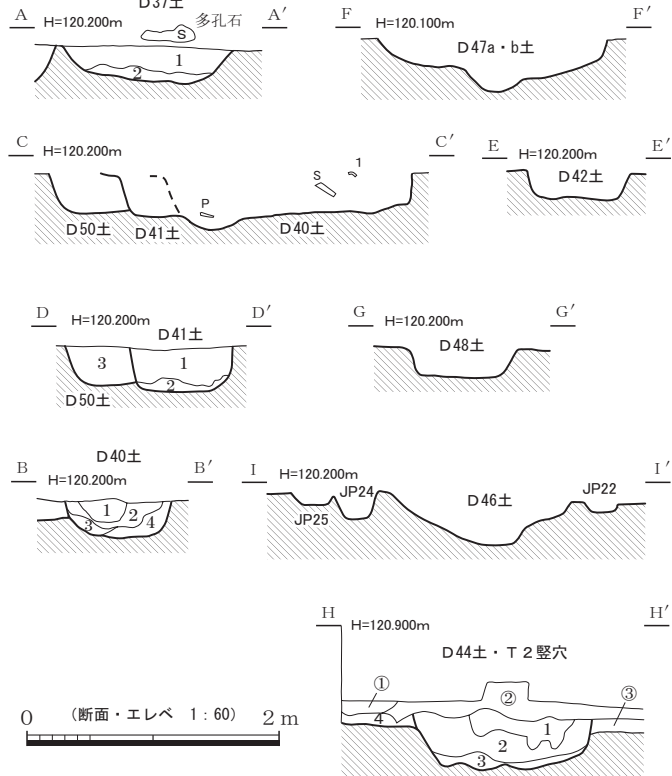
D-25号土坑 土層説明 (J-J')

1. 褐色土 しまりあり。As-B少量。As-C少量。
2. 暗褐色土 しまりややあり。As-B中量。
3. 灰褐色土 (暗) しまり強い。As-B多量。As-C微量。硬化。



縄文遺構群 (D-37・38・40～42・44・52号土坑)

*D-39・45号土坑は欠番



D-37号土坑 土層説明 (A-A')

1. 黒褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石少量。
2. 褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色粒子微量。総社砂層砂ブロック少量。

D-40号土坑 土層説明 (B-B')

1. 黒褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石多量。
2. 褐色土 しまり非常に強い。白色軽石多量。
3. 黒褐色土 しまり強い。粘性あり。白色軽石少量。
4. 暗褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石少量。

D-41・50号土坑 土層説明 (D-D')

1. 黒褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石少量。
2. 褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色粒子微量。砂質ブロック少量。
3. 暗褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石少量。

D-44号土坑・T-2号竪穴状遺構 土層説明 (H-H')

- ①. 黒色土 しまり強い。As-C多量。
- ②. 暗褐色土 しまり強い。As-C混土ブロックを少量含む。
- ③. 褐～暗褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石微量。

1. 黒褐色土 しまり強い。粘性弱い。白色軽石少量。
2. 暗褐色土 しまり強い。白色軽石微量。
3. 褐色土 しまり強い。白色軽石微量。黄色粒子微量。
4. 暗褐色土 しまり強い。白色軽石中量。T2 竪穴。

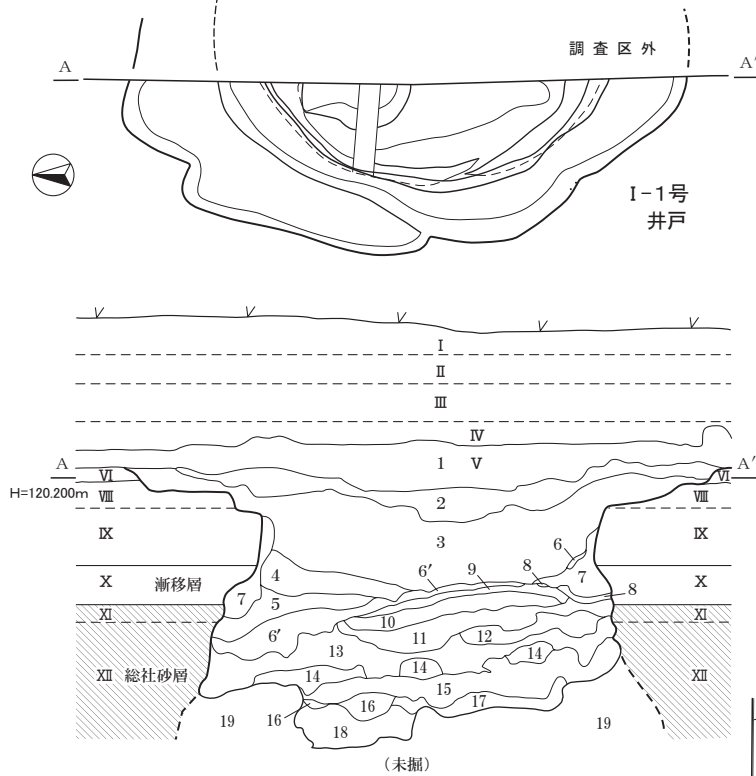
JP (縄文時代ピット) 深度表

PNNo.	深さ	PNNo.	深さ
JP1	15	JP21	20
JP2	13	JP22	14
JP3	9	JP23	24
JP4	14	JP24	20
JP5	15	JP25	18
JP6	16	JP26	21
JP7	13	JP27	14
JP8	14	JP28	23
JP9	14	JP29	29
JP10	18	JP30	21
JP11	24	JP31	25
JP12	28	JP32	28
JP13	11	JP33	28
JP14	20		
JP15	19	W6溝	9
JP16	26		
JP17	32		
JP18	22		
JP19	20		
JP20	22		

(単位: cm)

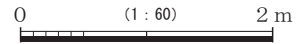
Fig. 39 [101] 遺構図 (11) 縄文時代 土坑・ピット

I-1号井戸

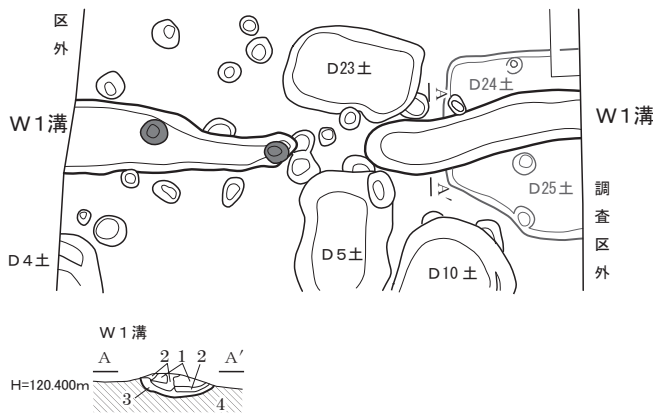


I-1号井戸 土層説明

1. 基本V層
2. 明褐色土 しまり強い。As-C中量。灰白色シルトブロック(φ 1~20cm)多量。
3. 褐色土 しまりあり。As-C多量。明褐色シルトブロック微量。
4. 褐色土 しまりあり。As-C中量。明褐色シルトを互層状に含む。
5. 暗褐色土 しまりやや弱い。均質。
6. 明褐色土 しまりややあり。白色シルト主体。
- 6'. 明褐色土 しまりややあり。白色シルト中量。
7. 暗褐色土 しまりあり~強い。IX・X層の崩落。
8. 明褐色土 しまりややあり。灰白シルト多量。
9. 極暗褐色土 しまりあり。シルト微量。
10. 褐~明褐色土 しまり強い。黄褐色シルトブロック多量。
11. 褐色土 しまりややあり。砂質。As-B少量。
12. 褐色土 しまりあり。均質。X層崩落土。
13. 極暗褐色土 しまり強い。粘性わずか。褐色土ブロックを斑状に多量含む。
14. にぶい黄褐色土 しまりあり。均質。ローム質シルト。
15. 黄褐色土 しまり強い。総社砂層最上層のローム質シルト層壁面の崩落土。
16. 明褐色土 しまり非常に強い。粘性わずか。灰白緻密シルトブロック。壁面崩落土カ。
17. 暗褐色土 しまりあり。シルト質。均質。
18. 暗褐色土 しまりあり。粘性ややあり。白色シルトブロック中量。
19. 灰白色~明褐色土 しまり強い~非常に強い。壁面の崩落土。算盤玉状の挟れ部分。井戸下半分未掘削。



W-1号溝



W-1号溝 土層説明 (A-A')

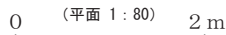
1. 灰白色土 しまり強い。極細粒均質シルト。洪水層。
2. 明褐色~褐色土(明) しまりあり。細粒シルト。ラミナ状。
3. 暗褐色土 しまりあり。灰白シルトブロック、As-C少量。
4. 暗褐色土 しまり強い。As-C中量。下部の堅穴住居覆土。

W-2~4号溝 土層説明 (A-A')

1. 褐~灰褐色土 しまりあり。As-B中量。As-C微量。やや砂質。

W-5号溝 土層説明 (A-A')

1. 褐色土 しまりあり。As-C中量。Hr-FA軽石微量。
2. 褐色土 しまりあり。As-C中量。
3. 褐色土 しまりあり。As-C中量。



W-2・3・4・5号溝

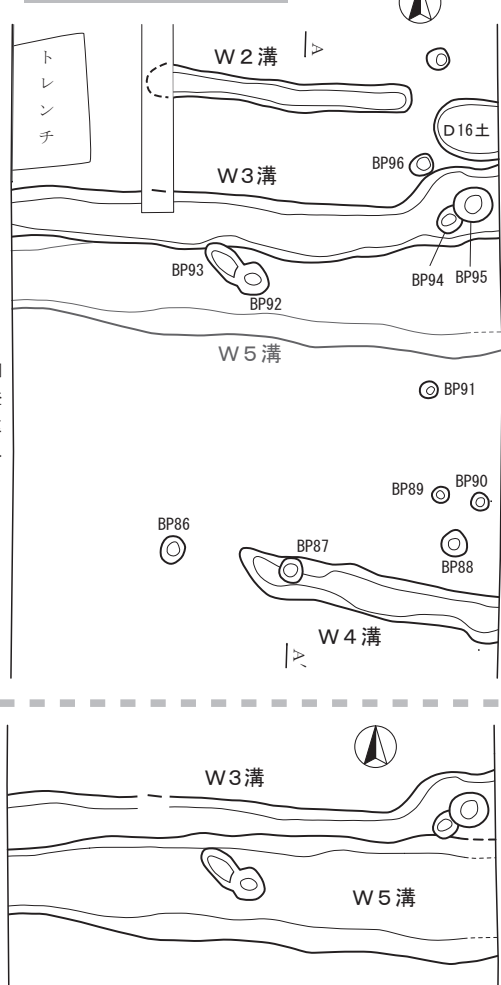
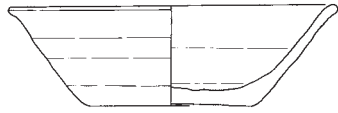
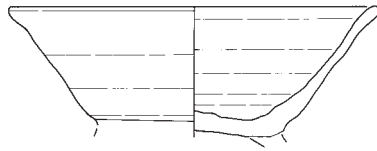


Fig. 40 [101] 遺構図 (12) I-1号井戸 / W-1~5号溝

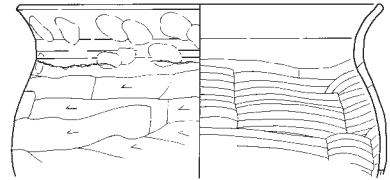
H-1号住居跡



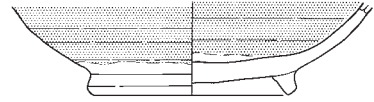
H1住-1
(1/3)



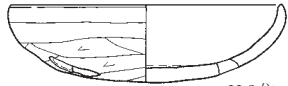
H1住-2
(1/3)



H1住-3 (1/3)



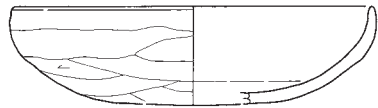
H-6号住居跡



H6住-1
(1/3)



H6住-2
(1/3)



H6住-3
(1/3)



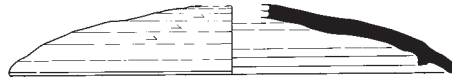
H6住-4
(1/3)



H6住-5
(1/3)



H6住-6
(1/3)



H6住-7
(1/3)

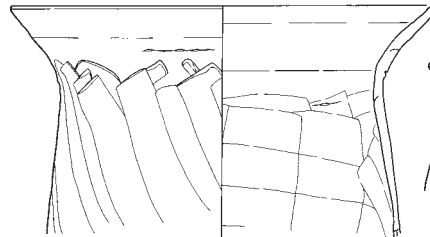
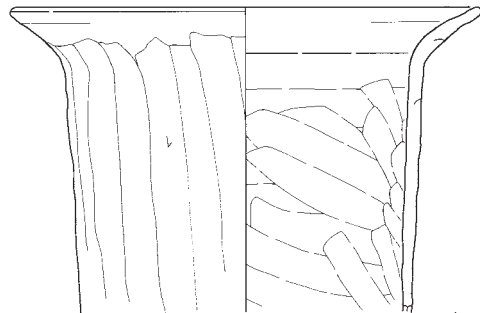
H-3号住居跡



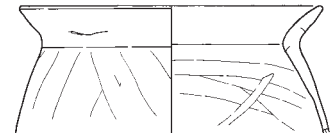
H3住-1
(1/3)



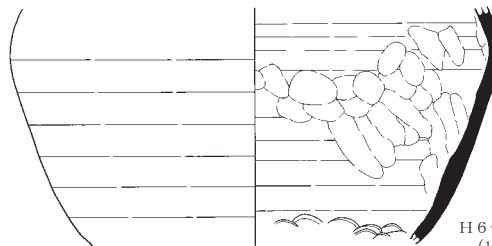
H6住-11
(1/3)



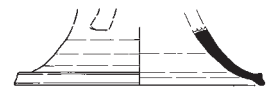
H6住-9
(1/3)



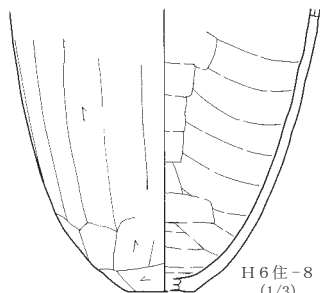
H6住-10
(1/3)



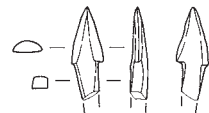
H6住-13
(1/3)



H6住-12
(1/3)

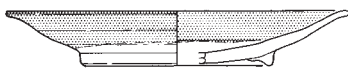


H6住-8
(1/3)



H6住-14
(1/3)

H-10号住居跡



H10住-1
(1/3)



H10住-2
(1/3)



H10住-3
(1/3)

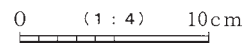
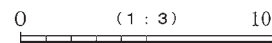
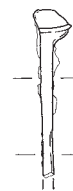
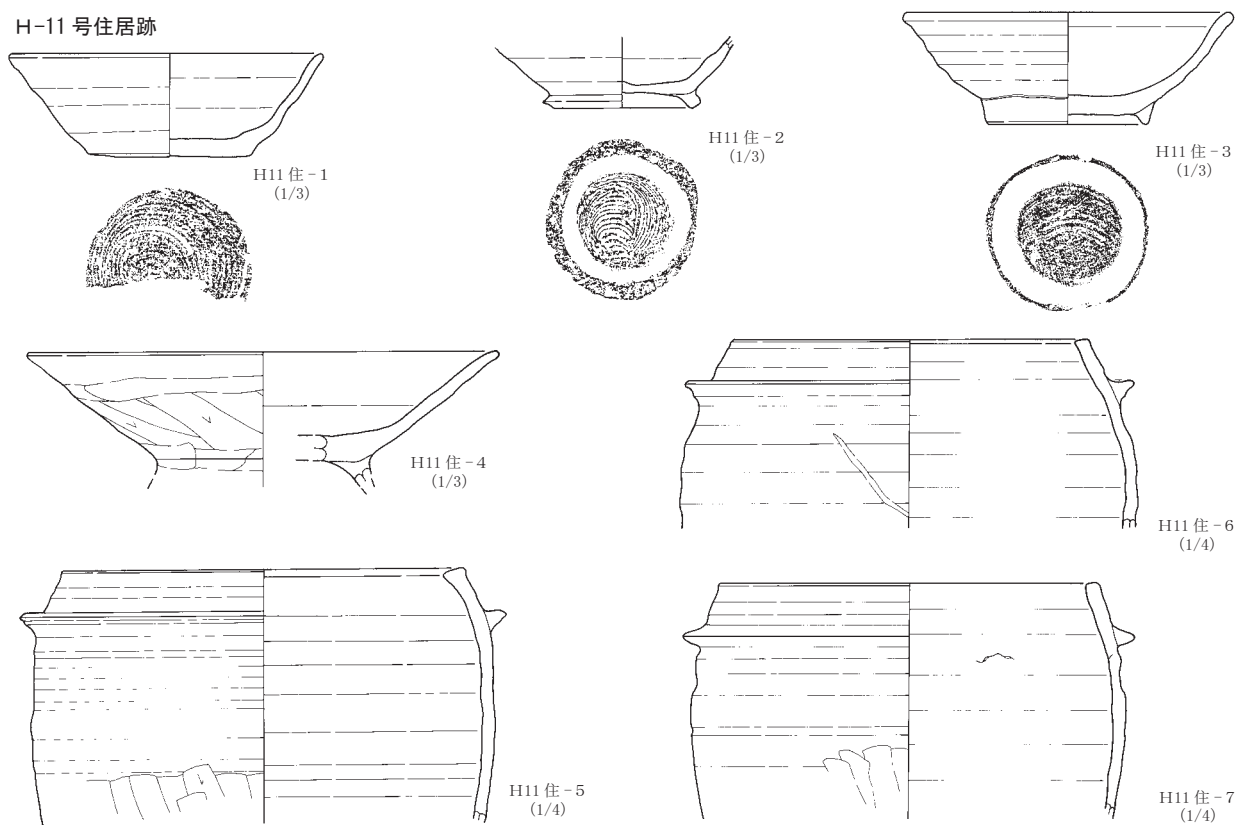
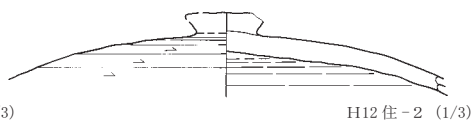
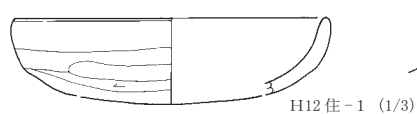


Fig. 41 [101] 遺物図 (1) H-1・3・6・10号住居跡

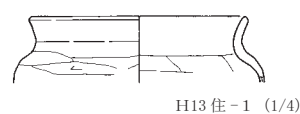
H-11 号住居跡



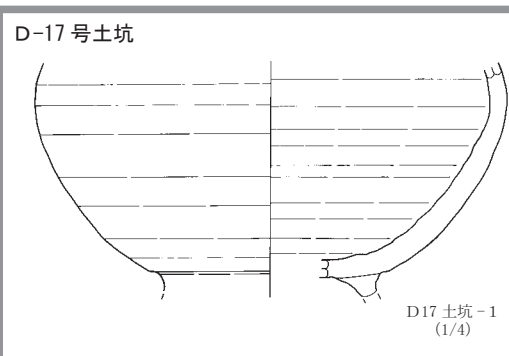
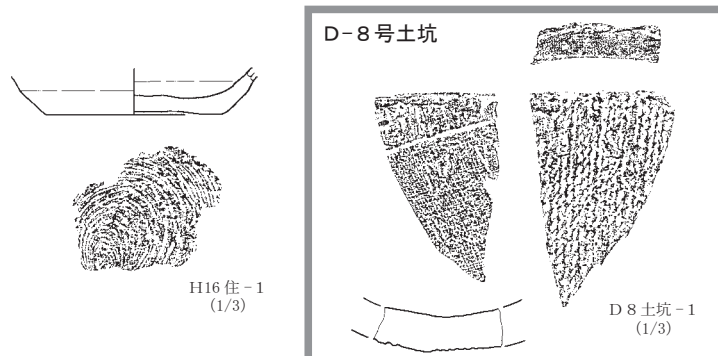
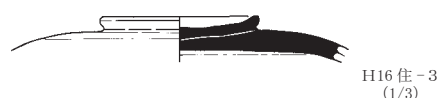
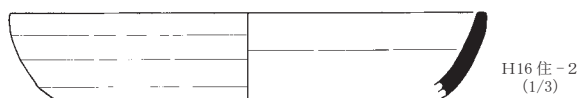
H-12 号住居跡



H-13 号住居跡



H-16 号住居跡



D-21 号土坑 (1)

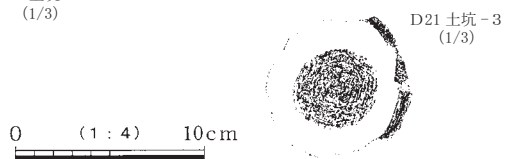
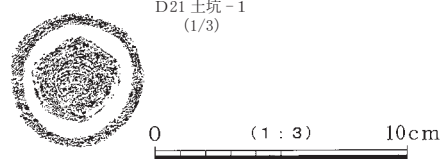
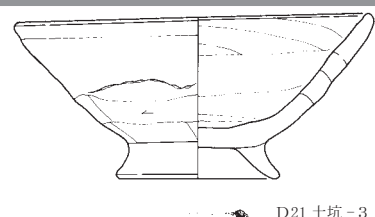
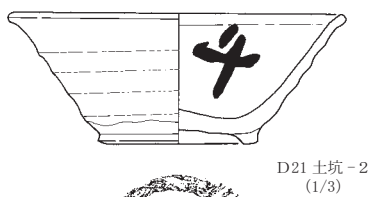
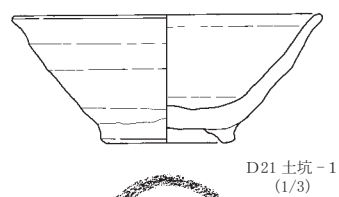
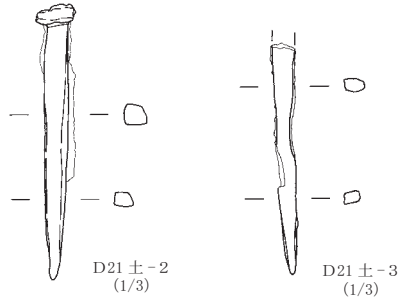
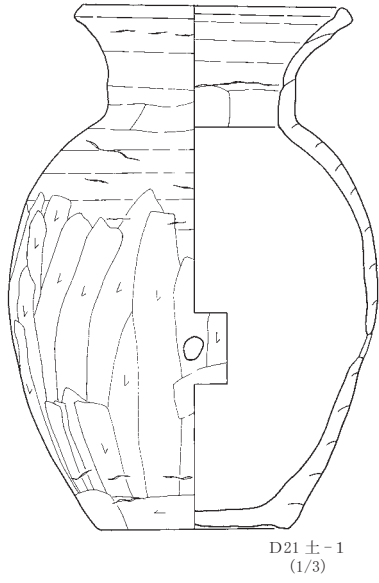
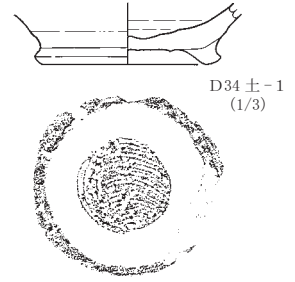


Fig. 42 [101] 遺物図 (2) H-11・12・13・16 号住居跡 / D-8・17 号土坑 / D-21 号土坑 ①

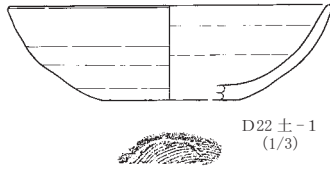
D-21 号土坑 (2)



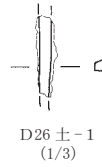
D-34 号土坑



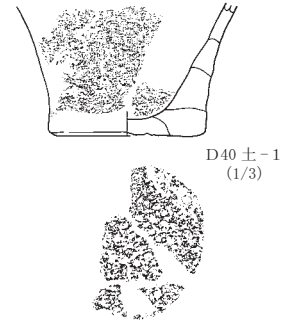
D-22 号土坑



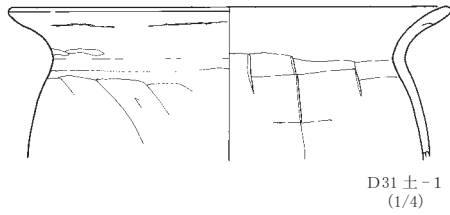
D-26 号土坑



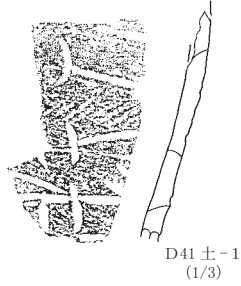
D-40 号土坑



D-31 号土坑



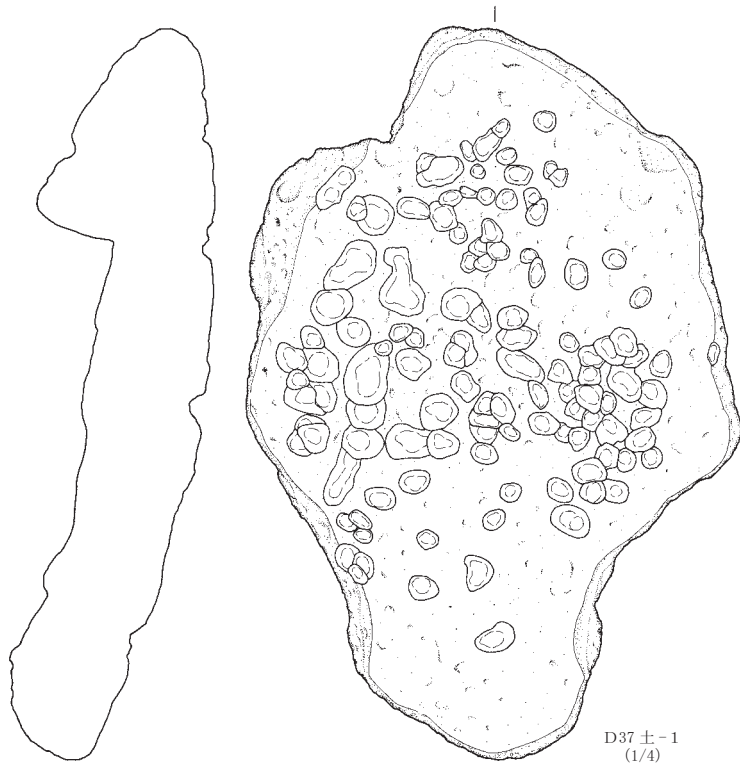
D-41 号土坑



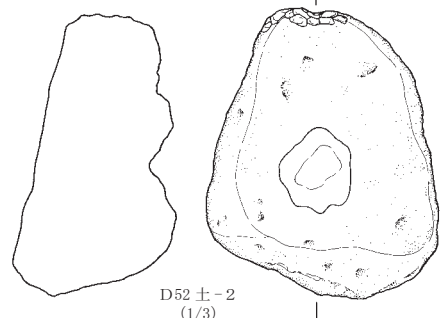
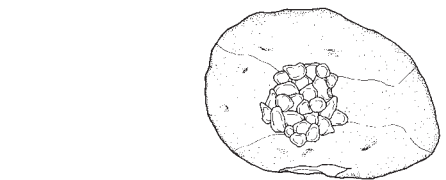
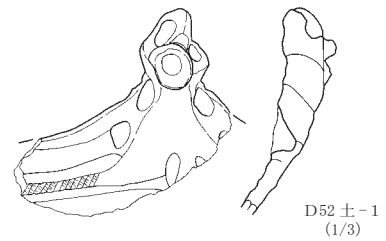
D-50 号土坑



D-37 号土坑



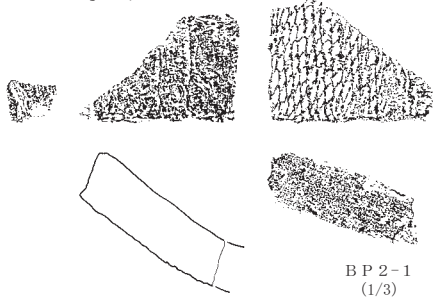
D-52 号土坑



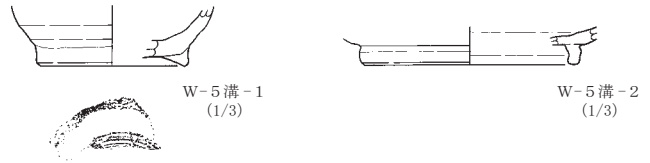
0 (1:3) 10cm 0 (1:4) 10cm

Fig. 43 [101] 遺物図 (3) D-21 号土坑② / D-22·26·31·34·37·40·41·50·52 号土坑

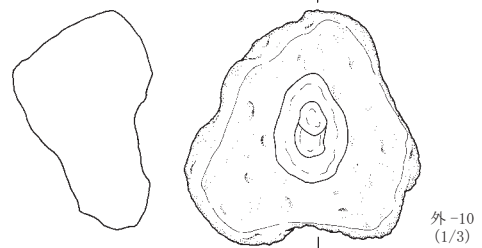
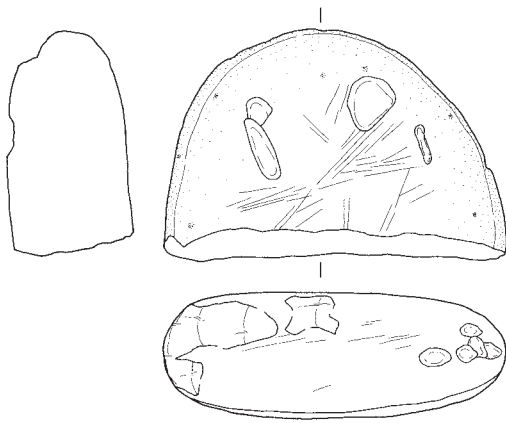
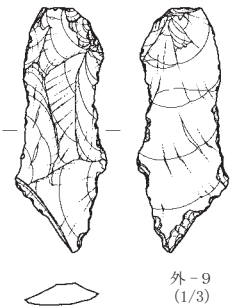
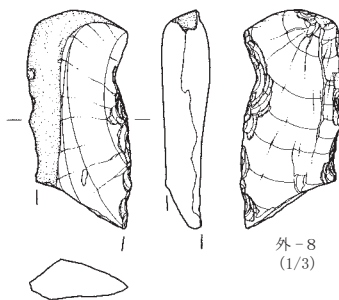
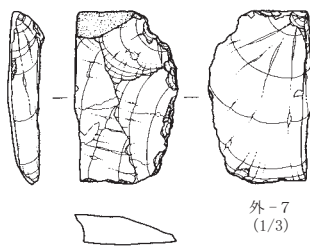
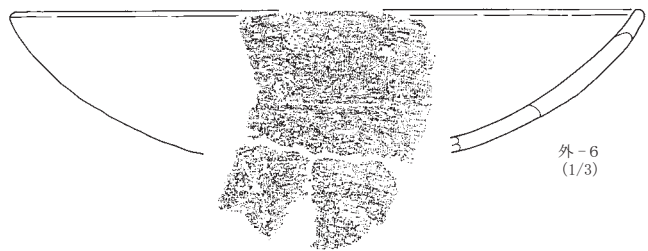
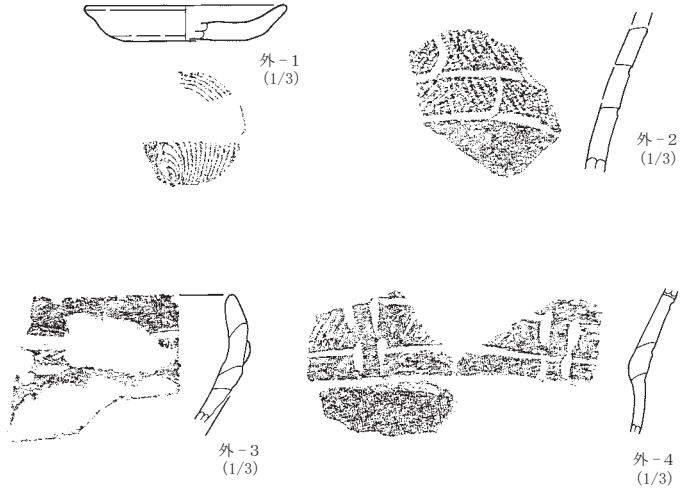
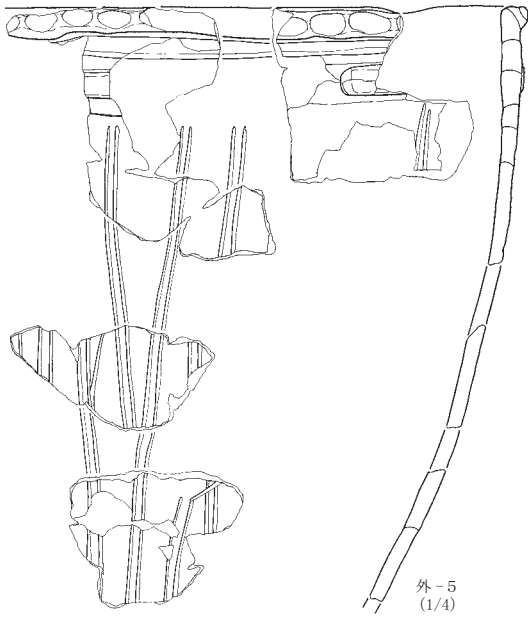
BP-2号ピット



W-5号溝



遺構外出土遺物



0 (1:3) 10cm 0 (1:4) 10cm

Fig. 44 [101] 遺物図 (4) BP-2/W-5号溝/遺構外出土遺物1~11

Tab.11 [101] 出土遺物観察表(1) 住居跡

H-1号住居跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 坏	口径 (12.9) 底径 6.5 器高 4.0	①酸化焰気味 ②にぶい黄～黒 ③白色粒・石英 ④口縁部～体部 2/3 欠損	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	No.7	
2	須恵器 碗	口径 (14.6) 器高 (5.1)	①酸化焰気味 ②灰黄 ③白色粒 ④口縁部～体部 3/4・高台部欠損	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	No.6	
3	土師器 甕	口径 (19.4) 器高 (9.2)	①酸化焰 ②にぶい赤褐～橙 ③白色粒 ④口縁部～胴部上位 1/3	外面：口縁部横ナデ後、指頭圧痕。胴部斜位匱ケズリ後、上位に横位匱ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。胴部木口状工具による横位ナデ。	No.1、貯蔵穴 No.1、覆土一括	
4	灰釉陶器 碗	底径 8.2 器高 (3.7)	①還元焰 ②胎土：灰白、釉：オリ ブ灰 ③白色粒 ④底部 1/3	外面：轆轤整形。底部回転匱ケズリ後ナデ。 高台貼付時に回転ナデ。 内面：轆轤整形。	カマド No.1・2	

H-3号住居跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 碗	底径 (6.8) 器高 (2.7)	①酸化焰 ②暗灰黄～黒褐 ③白色粒 ④底部 1/4	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼付時に回転ナデ。 内面：轆轤整形。	No.1	

H-6号住居跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 坏	口径 10.7 器高 3.1	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・黒色粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部横ナデ。体部上位ナデ。 体部中位～底部匱ケズリ。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部ナデ。	No.5、 覆土一括	体部に外面からの穿孔。
2	土師器 坏	口径 (12.0) 器高 2.8	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・黒色粒 ④ 1/3	外面：口縁部横ナデ。体部～底部匱ケズリ。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部匱ケズリ。	No.2、 覆土上層	
3	土師器 坏	底径 (14.2) 器高 (3.8)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・黒色粒 ④ 1/4	外面：口縁部横ナデ。体部上位ナデ。 体部中位～底部匱ケズリ。 内面：口縁部～体部横ナデ。底部匱ケズリ。	覆土一括	
4	須恵器 坏蓋	口径 (8.4) 器高 (0.6)	①還元焰 ②灰 ③白色粒 ④ 1/3	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。返りをもつ。	覆土一括	
5	須恵器 坏蓋	口径 (11.2) 器高 2.5	①還元焰 ②灰 ③白色粒・黒色粒 ④ 1/4	外面：轆轤整形。天井部回転匱ケズリ。宝珠形摘み。 内面：轆轤整形。返りをもつ。	覆土一括	
6	須恵器 坏蓋	器高 (2.5)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④天井部	外面：轆轤整形。天井部回転匱ケズリ。宝珠形摘み。 内面：轆轤整形。	No.1	
7	須恵器 坏蓋	口径 (17.6) 器高 (2.7)	①還元焰 ②灰 ③白色粒 ④ 1/5	外面：轆轤整形。天井部回転匱ケズリ。 内面：轆轤整形。返りをもつ。	覆土一括、H 11 住カマド	
8	土師器 甕	口径 24.8 底径 3.6 器高 (25.8)	①酸化焰 ②浅黄橙 ③白色粒・黒色粒・褐色粒 ④口縁部～ 胴部上位 3/4、胴部下位～底部 1/2	外面：口縁部横ナデ。胴部縦位匱ケズリ後、 下端横位匱ケズリ。底部匱ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。胴部横位匱ケズリ後、 上半斜位匱ケズリ。底部匱ケズリ。	No.8・10・12、床直、 P1、下層、H 14 住 カマド付近、H 14 住下層、H 11 住	図上 復元。
9	土師器 甕	口径 22.4 器高 (12.1)	①酸化焰 ②にぶい橙～橙 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～胴部上位	外面：口縁部横ナデ。胴部縦位匱ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。胴部横位匱ケズリ後、 部分的に斜位匱ケズリ。	貯蔵穴	
10	土師器 甕	口径 (16.0) 器高 (6.8)	①酸化焰 ②にぶい黄橙 ③白色粒・黒 色粒 ④口縁部～胴部上位 1/5	外面：口縁部横ナデ。胴部縦位匱ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。横位匱ケズリ。	No.6	
11	須恵器 壺	底径 (11.0) 器高 (3.6)	①還元焰 ②灰 ③白色粒 ④胴部下位～底部 1/4	外面：轆轤整形。胴部下位横位カキメ。高 台貼付。 内面：轆轤整形。	覆土一括、 D 12号土坑	
12	須恵器 高坏	底径 (13.2) 器高 (3.1)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④脚部 1/3	外面：轆轤整形。 内面：轆轤整形。	No.2	透し孔あり。
13	須恵器 甕	器高 (12.5)	①還元焰 ②灰 ③白色粒 ④胴部破片	外面：轆轤整形。自然釉付着。 内面：轆轤整形後、指ナデ。下端に同心円 の当て具痕。	No.9	
番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴		出土層位	備考	
14	鉄製品 槍鉋	穂先長：(3.65) 穂先幅：1.2 重さ：(3.54) 基(茎)部欠損。		覆土一括		

H-10号住居跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	灰釉陶器 段皿	口径 (13.5) 底径 (7.5) 器高 2.2	①還元焰 ②胎土：灰白、釉：灰白 ③白色粒 ④ 1/8	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼付時に回転ナデ。 内面：轆轤整形。	覆土上層	
2	瓦 丸瓦	厚さ 1.8	①酸化焰 ②黄灰～にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・褐色粒・石英 ④端部破片	凹面：布目圧痕。端部面取り。 凸面：横位匱ケズリ。 端部：匱ケズリ。	覆土一括	
番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴		出土層位	備考	
3	鉄製品 釘	長さ 6.7 幅 0.6～1.9 厚さ 0.6 重さ 7.61 端部欠損。		覆土一括		

Tab. 12 [101] 出土遺物観察表(2) 住居跡・土坑

H-11 号住居跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 坏	口径 12.4 底径 6.5 器高 4.1	①酸化焰 ②にぶい黄橙～オリーブ黒 ③白色粒・褐色粒 ④1/2	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	No. 5 貯蔵穴	
2	須恵器 碗	口径 6.1 器高 (2.8)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒・黒色粒 ④底部	外面：轆轤整形。底部右回転糸切り。高台 貼付時に回転ナデ。内面：轆轤整形。	上層No. 4	
3	須恵器 碗	口径 (13.0) 底径 6.4 器高 4.4	①酸化焰 ②浅黄～淡黄 ③白色粒 ④口縁部～体部 3/4 欠損	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼 付時に回転ナデ。 内面：轆轤整形。	No. 3	
4	土師器 碗	口径 (18.6) 器高 (5.3)	①酸化焰 ②黒～黒褐 ③白色粒 ④1/3、高台部欠損	外面：口縁部横ナデ。体部斜位篋ケズリ後、 上・下端横位篋ナデ。 内面：口縁部～体部回転ナデ。底部ナデ。	カマドNo. 1	
5	羽釜	口径 (21.4) 器高 (13.4)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・雲母 ④口縁部～胴上部 1/4	外面：轆轤整形。胴部縦位篋ケズリ。鏝貼付。 内面：轆轤整形。	カマドNo. 2	
6	羽釜	口径 (19.0) 器高 (9.9)	①還元焰 ②灰黄 ③白色粒 ④口縁部～胴上部 1/5	外面：轆轤整形。胴部に棒状工具によるナ デ痕跡あり。鏝貼付。内面：轆轤整形。	No. 2	
7	羽釜	口径 (20.0) 器高 (12.4)	①酸化焰気味 ②にぶい黄～灰黄褐 ③白色粒 ④口縁部～胴上部 1/8	外面：轆轤整形。胴部縦位篋ナデ。鏝貼付。 内面：轆轤整形。	No. 1	

H-12 号住居跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 坏	口径 (12.3) 器高 (3.1)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～体部 1/5	外面：口縁部横ナデ。体部上位ナデ後、篋 ケズリ。 内面：口縁部～体部横ナデ。	覆土一括	
2	須恵器 蓋	器高 (3.3)	①還元焰 ②灰白～灰 ③白色粒 ④天井部 1/4	外面：轆轤整形。天井部回転篋ケズリ。擬 宝珠摘み。 内面：轆轤整形。	No. 1	

H-13 号住居跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器 小型甕	口径 (11.5) 器高 (3.5)	①酸化焰 ②橙 ③白色粒・角閃石 ④口縁部～胴部上位 1/5	外面：口縁部横ナデ。胴部横位篋ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。胴部横位篋ナデ。	覆土一括	

H-16 号住居跡

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 坏	口径 (7.0) 器高 (1.8)	①酸化焰気味 ②オリーブ黒～灰 ③白色粒 ④体部下位～底部 1/6	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	カマド	
2	須恵器 碗	口径 (18.8) 器高 (3.4)	①還元焰 ②灰 ③白色粒 ④口縁部～体部 1/8	外面：轆轤整形。体部下位回転篋ケズリ。 内面：轆轤整形。	覆土一括	
3	須恵器 坏蓋	口径 (1.8)	①還元焰 ②灰白～灰 ③白色粒 ④天井部 1/4	外面：轆轤整形。天井部回転篋ケズリ。環 状摘み。自然袖付着。内面：轆轤整形。	H 14 住下層	摘み径 (6.2)

D-8 号土坑

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	瓦 平瓦	厚さ 1.5	①酸化焰気味 ②灰白 ③黒色粒・砂粒 ④端部破片	凹面：布目圧痕。端部篋ナデ。 凸面：縄叩き。端部：篋ナデ。	覆土一括	破損後に二 次被熱。

D-17 号土坑

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 壺	口径 (12.4)	①還元焰 ②暗灰～黄灰 ③白色粒 ④胴部下半 1/3	外面：轆轤整形。高台貼付。自然袖付着。 内面：轆轤整形。	覆土一括	

* D-21 号土坑は次頁

D-22 号土坑

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 坏	口径 (12.8) 底径 (5.5) 器高 3.7	①酸化焰気味 ②暗灰黄 ③黒色粒 ④1/3	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。 内面：轆轤整形。	覆土一括	

D-26 号土坑

番号	器種	法量 (cm・g)	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	鉄製品 棒状	長さ：3.2 幅：0.5 厚さ 0.4 重さ：3.71 両端部欠損。		覆土一括	

Tab. 13 [101] 出土遺物観察表 (3) 土坑

D-21 号土坑

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器碗	口径 13.3 底径 6.3 器高 5.2	①酸化焰気味 ②灰白～灰黄 ③白色粒 ④完形	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼付時に回転ナデ。 内面：轆轤整形。	No. 2	内面に墨書あり。
2	須恵器碗	口径 12.2 底径 5.3 器高 5.1	①酸化焰気味 ②淡黄 ③白色粒・片岩 ④口縁部～体部 1/5 欠損	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼付時に回転ナデ。 内面：轆轤整形。	No. 1	
3	土師器碗	口径 14.1 底径 (6.4) 器高 6.4	①酸化焰 ②明赤褐 ③白色粒 ④高台部 2/3 欠損	外面：口縁部横ナデ。体部上半ナデ、下半横位篋ケズリ後横位篋ナデ。底部回転糸切り後ナデ。高台部横ナデ。 内面：口縁部～体部横・斜位篋ナデ。底部篋ナデ。高台部横ナデ。	No. 3	
4	須恵器壺	口径 (11.0) 底径 7.5 器高 20.6	①酸化焰気味 ②灰黄 ③白色粒・ ④口縁部 2/3 欠損	外面：轆轤整形。胴部縦位篋ケズリ後、下端横位篋ケズリ。底部ナデ。 内面：轆轤整形。頸部横位篋ナデ。	No. 1	胴部中位に穿孔。0.9 × 0.7 cm。
番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴			出土層位	備考
5	鉄製品釘	長さ 10.9 幅 0.7 ~ 0.9 厚さ 0.6 ~ 0.8 重さ 23.98 ほぼ完形。			No. 4	
6	鉄製品釘	長さ 9.1 幅 0.6 ~ 0.9 厚さ 0.45 ~ 0.5 重さ 8.72 上端部欠損。			No. 5	

D-31 号土坑

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	土師器甕	口径 (23.4) 器高 (8.1)	①酸化焰 ②にぶい橙 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～胴部上位 1/3	外面：口縁部横ナデ。胴部斜位篋ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。胴部横位篋ナデ。	No. 1、 覆土一括	

D-34 号土坑

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器碗	底径 7.3 器高 (2.4)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒 ④底部～高台部	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼付時に回転ナデ。内面：轆轤整形。	No. 1	

D-37 号土坑

番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴			出土層位	備考
1	石器多孔石	不整形な礫の両面に敲打とみられる凹穴が多数。やや被熱、風化顕著。完形。安山岩。 長さ 38.7 幅 26.2 厚さ 12.4 重さ 5600				抱石。

D-40 号土坑

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	縄文土器深鉢	底径 (6.2) 器高 (5.3)	①酸化焰 ②にぶい橙～黒褐 ③白色粒・黒色粒・砂粒 ④胴部下位～底部	内外面に平滑なミガキ。底部網代痕。	P 1	後期中葉～中葉

D-41 号土坑

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	縄文土器深鉢		①酸化焰 ②灰黄褐～にぶい黄褐 ③白色粒 ④胴部破片		覆土上層	

D-50 号土坑

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	縄文土器深鉢		①酸化焰 ②にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・石英 ④突起部	頂部と脇に 5 カ所の楕円孔、中央部に 1 カ所の貫通円孔を伴う。	覆土一括	後期中葉 加曾利 B 2 式

D-52 号土坑

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	縄文土器深鉢		①酸化焰 ②明赤褐 ③白色粒・チャート・片岩 ④突起部	波頂部に外面 7 カ所、内面 1 カ所の円孔を伴う突起を作出する。口縁下に平行する 2 条の浅い沈線を横位施文し、沈線間に無節縄文を充填。突起直下に「い」の字状短沈線を施文。口縁内面に平行する横位単沈線 2 条。	覆土一括	後期中葉 加曾利 B 2 式
番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴			出土層位	備考
2	石器凹敲石	不整形な自然礫の表面に深い凹み、裏面に浅い凹み。上下端部に顕著な敲打痕。完形。安山岩。 長さ 11.5 幅 9.1 厚さ 6.1 重さ 533.9			No. 2	

Tab. 14 [101] 出土遺物観察表 (4)

BP-2号ピット

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	瓦 平瓦	厚さ 2.0	①還元焰 ②灰 ③白色粒・砂粒 ④狭端部左側破片	凹面：篋ナデ。 凸面：縄叩き。 側面：篋ナデ。 狭端部：篋ナデ。	覆土一括	

W-5号溝

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	須恵器 碗	底径 (6.0) 器高 (2.3)	①還元焰 ②灰白 ③白色粒 ④底部～高台部 1/4	外面：轆轤整形。底部回転糸切り。高台貼付時に回転ナデ。 内面：轆轤整形。	No. 1	
2	緑釉陶器 碗	底径 (8.6) 器高 (1.5)	①還元焰 ②胎土：浅黄、釉：暗オリーブ ③細砂粒 ④高台部破片	外面：轆轤整形。高台貼付。 内面：轆轤整形。	No. 2	内外面施釉。疊付無釉。

遺構外出土遺物

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土層位	備考
1	かわらけ	口径 (8.0) 底径 (4.7) 器高 1.4	①酸化焰 ②にぶい橙 ③黒色粒・褐色粒 ④ 2/3	外面：轆轤整形。底部左回転糸切り。 内面：轆轤整形。	H 8 住一括	
2	縄文土器 深鉢		①酸化焰 ②灰黄～暗灰黄 ③白色粒・石英・砂粒多量 ④胴部破片	胴部に平行する横位沈線を3条以上施文後、横位区画内に単節 RL 縄文を充填。その後、「し」の字状短沈線を横位沈線の間に繋ぐように施文。	X42964- Y71396 黒色粘質土	後期中葉 加曾利B1式
3	縄文土器 浅鉢		①酸化焰 ②にぶい橙～灰黄褐 ③白色粒・石英・チャート・片岩 ④口縁部破片	横位沈線、低隆帯上ナナメキザミ。内面屈曲部を沈線状に凹線。	X42964- Y71396 黒色粘質土	後期中葉 加曾利B2式
4	縄文土器 深鉢		①酸化焰 ②にぶい黄褐 ③石英・砂粒 ④胴部破片	胴部に平行する複数条の横位沈線を施文後、縦位「い」の字状短沈線で区画。区画内を無節 L 縄文で充填。内面平滑なミガキ	D 38 号土坑、 X42964- Y71396 黒色粘質土	後期中葉 加曾利B2式
5	縄文土器 深鉢		①酸化焰 ②にぶい橙 ③白色粒・黒色粒・石英・片岩 ④口縁部～胴部破片	口唇外面は幅広の押圧隆帯を一巡貼付。口縁下にも横位幅広隆帯を貼付。隆帯間に凹線2条。胴部は半截竹管状工具による縦位沈線を不規則に施文。胴部外面横位ケズリ。内面は平滑なミガキ。	X42964- Y71400～ Y71396	後期中葉 加曾利B2式
6	縄文土器 浅鉢	口径 (25.0) 器高 (6.6)	①酸化焰 ②灰褐～にぶい黄橙 ③白色粒・石英・砂粒 ④口縁部～胴部破片	外面は横ケズリ状のナデ。内面は平滑なミガキ。	H 13 住No. 1 覆土一括、 X960-Y395	後期中葉 加曾利B2式カ
番号	器種	法量 (cm・g) / 成・整形技法の特徴		出土層位	備考	
7	石器 スクレイパー	剥片右側縁に連続する微細剥離。黒色安山岩。 長さ 6.85 幅 4.1 最大厚 1.1 重さ 41.4		X42964- Y71396		
8	石器 スクレイパー	原礫面が残る縦長剥片の両側縁に2次調整、微細剥離。端部欠損。凝灰岩。 長さ (8.63) 幅 4.0 厚さ 1.9 重さ 70.1		X42964- Y71400	C 混黒色土	
9	石器 RF	不整形な縦長剥片の周縁に微細剥離。黒色頁岩。 長さ 9.7 幅 3.63 厚さ 0.8 重さ 34.1		H 13 住		
10	石器 凹石	不整形な自然礫の表面中央に敲打集中。安山岩。 長さ 9.2 幅 9.3 厚さ 5.5 重さ 326.2		H 13 住		
11	石器 砥石	分割された扁平礫の表・裏面と剥離面に顕著な摩耗痕。砥面に擦痕、線刻。 長さ 9.2 幅 13.6 厚さ 5.0 重さ 813.8		H 3 住 S No. 1		

VIII 自然科学分析

元総社蒼海遺跡群（101） D-21号土坑出土の古代人骨

技研コンサル株式会社文化財研究所 榎崎修一郎

元総社蒼海遺跡群(101)は、群馬県前橋市元総社町に所在する。前橋市教育委員会による発掘調査が、2014(平成26)年12月から2015(平成27)年2月まで行われ、D-21号土坑より、古代の埋葬人骨が出土したので以下に報告する。

人骨の時期は、出土遺物より10世紀前半と推定されている。歯の計測は藤田の方法(藤田 1949)に従い、計測値の比較データは、中近世人はMATSUMURA [松村] (1995)を引用し、現代人は権田(1959)を引用した。古代人骨の出土例は全国的に非常に少なく、群馬県でも同様の傾向にあるため、残念ながらまとまった比較データは無い。なお、元総社蒼海遺跡群及びその周辺遺跡の出土人骨は、これまで、本報告者による報告があるので参照されたい(榎崎 2006a～f・榎崎 2008)。

1. 人骨の出土状況

人骨は、長軸(南北)254cm・短軸(東西)82cm～109cm・深さ約27cmの隅丸逆台形状の土坑から出土している。本土坑は調査区のほぼ中央に位置する。本土坑の南東隅部はB-5号掘立柱建物跡の柱穴(D-20号土坑)と重複し、本土坑が新しい。



写真1. D-21号土坑 人骨・遺物出土状況 [南から撮影]



写真2. D-21号土坑 人骨頭蓋骨検出状況 [南から撮影]

2. 人骨の出土部位

人骨の残存状態は悪く、頭蓋骨片・下顎骨片及び四肢骨片が出土している。なお、上下顎骨には歯が植立した状態で出土した。

3. 副葬品

副葬品は、須恵器碗3点・須恵器壺1点が出土している。その他、釘と推定される鉄製品2点も検出されており、木棺に使用された可能性が高い。

4. 被葬者の頭位・埋葬状態

出土人骨の残存状態は非常に悪いが、頭蓋骨の出土位置から、頭位は北であると推定される。また、頭蓋骨は正位の状態であり、わずかに残存している四肢骨片も交叉するのではなく南北に平行した状態であるため、仰臥

伸展葬であると推定される。仰臥伸展葬であれば、顔面部分が上を向き土坑底部と平行になると考えがちだが、実際の発掘事例では、本事例のように経年変化で頭部は土坑底部と水平になる場合が多い。

5. 被葬者の個体数

出土歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

6. 被葬者の性別

頭蓋骨の厚さは、比較的薄く女性的である。出土歯の歯冠計測値は、計測値からは、上下歯共に、切歯から小臼歯は比較的大きいものの、大臼歯は小さい傾向が認められる。後の「8. 被葬者の古病理」で記載したように、本被葬者の上顎右 I1（第1切歯）には異常磨耗が認められ、^おう^うす績み作業によると推定された。この作業は、通常、女性しか行わないため、総合的に被葬者の性別は女性であると推定される。

7. 被葬者の死亡年齢

出土永久歯の歯冠咬合面の咬耗度を観察すると、上顎左右 C（犬歯）・上下左右 M1（第1大臼歯）は、象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。その他の歯は、エナメル質のみのマルティンの1度の状態である。被葬者の死亡年齢は、幅を持たせて、約20歳代後半から約30歳代であると推定される。

8. 被葬者の古病理

- (1) 歯石：出土歯には、歯石の付着は認められなかった。
- (2) 齲蝕：出土歯には、俗に虫歯と呼ばれる齲蝕は認められなかった。
- (3) 上顎左 M3（第3大臼歯）の退化形：本個体の上顎 M3（第3大臼歯）は、萌出しておらず、上顎骨内に存在した。残念ながら上顎右 M3 は確認できなかったが、同様の状態かあるいは先天性欠如であると推定される。この上顎左 M3 は退化形であり、矮小歯である。
- (4) 水平智歯：出土歯のうち、下顎左右 M3（第3大臼歯）は垂直に萌出するのではなく、歯冠部が左右 M2（第2大臼歯）の遠心部に向けて水平に萌出している状態の水平智歯である。
- (5) 上顎切歯の異常磨耗：上顎右 I1（第1切歯）の咬合面は、真ん中が凹んだ状態である。これは恐らく、



写真3. 下顎骨左右 M3（第3大臼歯）の水平智歯



写真4. 上下顎歯の前面観



写真5. 上顎右 I1（第1切歯）の異常磨耗

ちよま
苧麻（カラムシ、アサ）の繊維を糸に績む「苧績み」の作業によると推定される。元聖マリアンナ医科大学の解剖学者・森本岩太郎は、1995年に論文を発表し、神奈川県・山梨県・長野県の7遺跡から出土した古代（4体）から中世（3体）にかけての女性人骨7体にこの異常磨耗を認めている（森本 1995）。なお、森本（1995）は、「磨耗」の用語を使用しているが、ここでは人為的に磨耗したという意味で「磨耗」を使用することとする。森本（1995）によると、上顎左右のI1（第1切歯）に多く認められ、I2（第2切歯）にも認められる場合が多い。左右では、右側に認められる場合が多いという。本個体の場合、右I1（第1切歯）には認められるが、左I1には認められない。被葬者の死亡年齢が若いために、あまり異常磨耗が進まなかったのかもしれない。

9. 埋葬状態の考察

群馬県内における古代の墓制は、津金沢吉茂によるまとめ（津金沢 1991）や、東日本埋蔵文化財研究会によりまとめられている（東日本埋蔵文化財研究会編 1995）。また、本報告者等による群馬県出土人骨のデータベースでは、縄文時代から近世までまとめられている（榎崎・石守 2005）。元総社蒼海遺跡群で出土した古代人骨の埋葬状態を、表1に示した。これらには、人骨が検出されているものと検出されていないものが混在しているが、検出されたものも鑑定は行われていない。大きな傾向として、墓坑の長軸方向が南北（約2m前後）で形状が長方形か楕円形であり、埋葬形態は頭位を北にした仰臥伸展位で埋葬されたと推定される。副葬品として、須恵器環や須恵器碗が基本となっており、津金沢（1991）の論考と同様の傾向にある。

表1. 元総社蒼海遺跡群の古代墓坑まとめ

遺跡名	遺構名	時期	土坑形状	長軸方向	長軸	短軸	深さ	副葬品
元総社蒼海遺跡群（101）	D-21号土坑	10C前半	隅丸長方形	南北	254cm	82-109cm	27cm	須恵器碗・須恵器壺
	1区D-12号土坑	10C前半	長楕円形	南北	176cm	79cm	31cm	須恵器碗・灰釉陶器皿
元総社蒼海遺跡群（37）	1区D-30号土坑	10C前半	長楕円形	南北	150cm	72cm	33cm	須恵器環・須恵器碗・灰釉陶器碗・白玉
	1区D-35号土坑	10C前半	隅丸長方形	南北	183cm	156cm	46cm	須恵器環・須恵器碗・緑釉陶器碗・羽釜
元総社蒼海遺跡群（39）	D-35号土坑	10C代	隅丸長方形	南北	188cm	93cm	37cm	須恵器環・須恵器碗
	D-42号土坑	10C代	隅丸長方形	南北	188cm	70cm	55cm	須恵器環・須恵器碗・鎌

元総社蒼海遺跡群の周辺遺跡である、元総社小見内Ⅲ遺跡の古代（9世紀）土坑墓では、1基であるが、仰臥伸展葬が認められている（榎崎 2006c）。また、元総社蒼海遺跡群（5）で検出された中世土坑墓60基の内、火葬跡2基を除く58基中埋葬状態が確認できる44基すべてが仰臥屈葬あるいは横臥（側臥）屈葬である（榎崎 2006a）。元総社蒼海遺跡群（5）は14世紀後半～15世紀後半の中世に比定されている。なお、周辺遺跡における近世の埋葬状態は、坐葬が多い。したがって、元総社蒼海遺跡群及びその周辺遺跡においては、9世紀～10世紀は仰臥伸展葬が主であり、14世紀～15世紀には屈葬が主となり、17世紀以後は坐葬が主となる傾向が認められる。但し、これらの時代の空白域については、さらなる検討が必要である。

まとめ

元総社蒼海遺跡群（101）のD-21号土坑から、10世紀前半の古代人骨1体が検出された。被葬者は、約20歳代後半から30歳代女性で、仰臥伸展葬で埋葬されたと推定された。古病理として、上顎左M3（第3大臼歯）に矮小の退化形が認められ、下顎左右M3（第3大臼歯）に水平智歯が認められた。また、上顎右I1（第1切歯）には異常磨耗が認められ、群馬県の周辺地域の古代から中世の女性に特有に認められる、苧麻の繊維を歯で糸に績む「苧績み」の作業に伴うものと推定された。

謝辞

本出土人骨を報告する機会を与えていただき、考古学的情報を与えていただいた、前橋市教育委員会・株式会社シン技術コンサル・有限会社毛野考古学研究所に感謝いたします。

参考文献 [著者名の ABC 順]

藤田恒太郎 1949 「歯の計測基準について」『人類学雑誌』、61：1-6

権田和良 1959 「歯の大きさの性差について」『人類学雑誌』、67：151-163

東日本埋蔵文化財研究会編 1995 「群馬県」
『東日本における奈良・平安時代の墓制：墓制をめぐる諸問題』、
東日本埋蔵文化財研究会

平本嘉助 1972 「縄文時代から現代に至る関東地方人身長の時代的变化」『人類学雑誌』、80：221-236

MATSUMURA, Hirofumi 1995 『A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology』、National Science Museum Monographs No.9, National Science Museum, Tokyo

森本岩太郎 1995 「苧績み作業によると思われる飛鳥・室町時代女性切歯の摩耗」『Anthropological Science』103：447-465

榑崎修一郎 2006a 「元総社蒼海遺跡群 (5) 出土人骨：遺構編」『元総社蒼海遺跡群 (5)』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、pp.33-61

榑崎修一郎 2006b 「元総社蒼海遺跡群 (5) 出土人骨：遺構外編」『元総社蒼海遺跡群 (5)』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、pp.62-63

榑崎修一郎 2006c 「元総社小見内Ⅲ遺跡出土人骨」『元総社蒼海遺跡群 (5)』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、pp.64-80

榑崎修一郎 2006d 「元総社小見内Ⅲ遺跡出土火葬人骨」『元総社蒼海遺跡群 (5)』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、pp.81-85

榑崎修一郎 2006e 「元総社小見Ⅲ遺跡出土人骨」『元総社蒼海遺跡群 (5)』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、pp.33-61

榑崎修一郎 2006f 「元総社草作Ⅴ遺跡出土人骨」『元総社蒼海遺跡群 (5)』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、p.89

榑崎修一郎 2006g 「元総社小見内Ⅹ遺跡出土人骨」『元総社蒼海遺跡群 (5)』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、pp.90-92

榑崎修一郎 2008 「付編 元総社蒼海遺跡群 (15) 出土人骨」『元総社蒼海遺跡群 (15)』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団、pp.61-62

榑崎修一郎・石守 晃 2005 「群馬県出土人骨データベース：(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編」『群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』23：99-109

津金沢吉茂 1991 「第7節. 信仰の遺産・1. 古代の墓制」『群馬県史 通史編 2. 原始古代 2』(群馬県史編さん委員会)、群馬県、pp.746-765

日沖剛史・福田貫之 2012 『元総社蒼海遺跡群 (37)』 前橋市教育委員会

伊藤順一・福田貫之 2013 『元総社蒼海遺跡群 (39)』 前橋市教育委員会

表2. 元総社蒼海遺跡群 (101) 出土人骨歯冠計測値及び比較

歯種	計測項目	元総社蒼海 D-21号土坑		中世時代人* Matsumura, 1995		江戸時代人* Matsumura, 1995		現代人** 権田, 1959		
		右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀	
		MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL	
上顎	I 1	MD	8.5	8.5	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
		BL	7.3	7.6	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28
	I 2	MD	7.0	7.1	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.05
		BL	6.3	6.7	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51
	C	MD	8.2	欠損	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	8.4		8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	P 1	MD	7.3	7.4	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	9.2	9.2	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
	P 2	MD	6.9	6.9	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		BL	9.3	9.1	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
	M 1	MD	9.8	9.8	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		BL	11.0	11.0	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
M 2	MD	9.4	10.0	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74	
	BL	11.5	10.0	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31	
M 3	MD	先天性欠如	先天性欠如	—	—	—	—	8.94	8.86	
	BL			—	—	—	—	10.79	10.50	
下顎	I 1	MD	破損	破損	5.42	5.22	5.45	5.32	5.48	5.47
		BL			5.78	5.61	5.78	5.65	5.88	5.77
	I 2	MD	破損	破損	6.04	5.78	6.09	5.97	6.20	6.11
		BL			6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30
	C	MD	7.3	7.3	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68
		BL	8.0	7.9	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.50
	P 1	MD	7.4	7.3	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
		BL	8.4	8.2	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
	P 2	MD	7.5	7.3	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
		BL	8.4	8.4	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
	M 1	MD	10.8	10.9	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		BL	8.4	8.4	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
M 2	MD	10.8	10.9	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89	
	BL	10.3	10.3	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20	
M 3	MD	12.1	12.0	—	—	—	—	10.96	10.65	
	BL	10.8	10.8	—	—	—	—	10.28	10.02	

- 註1. 計測値の単位はすべて、「mm」である。
- 註2. 歯種は、I 1 (第1切歯)・I 2 (第2切歯)・C (犬歯)・P 1 (第1小白歯)・P 2 (第2小白歯)・M 1 (第1大白歯)・M 2 (第2大白歯)・M 3 (第3大白歯)を示す。
- 註3. 計測項目は、MD (歯冠近邊心径)・BL (歯冠唇頬舌径)を意味する。
- 註4. 「破損」とは、歯冠が破損しており、計測不能であることを示す。
- 註5. 「欠損」とは、出土しなかったことを示す。
- 註6. 「先天性欠如」とは、先天的に萌出しなかったことを示す。
- 註7. 「*」は、MATSUMURA (1995) より引用。
なお、MATSUMURA (1995) には、第3大白歯のデータはない。
- 註8. 「**」は、権田 (1959) より引用。

IX まとめ

元総社蒼海遺跡群 (101)

縄文時代後期中葉を主体時期とする土坑を 13 基確認し、大半は墓坑の可能性が高い。土坑群は埋没谷上に構築され、少なくとも南側に集落はない。後期には環状集落住居帯の外縁部に墓坑群が形成される事例もあり、あるいは集落外の墓域の可能性もある。詳述は避けるが、縄文時代中～後期の環状集落の場合、中央墓群・竪穴住居帯（廃屋墓）以外に、集落外縁廃棄帯にまで及ぶ墓域の重層化現象が存在していた可能性がある。遺物量も少なく、黒色土中での遺構確認は非常に困難だが、今後の調査では十分に注意する必要がある。

7 世紀後半の大型竪穴住居・H 6 住は、南北棟の 6 本主柱構造で本来の深さは 90～100cm を測り、南壁には出入口張出が伴う。遺物量は少なく、特殊な現象は見いだせない。元総社 (9) (10) でも該期の大型住居が複数軒調査されているが、全て略正方形・4 本主柱構造であり、深度は最大 40cm 程度である。よって、H 6 住の構造には、①深い竪穴からの出入りを容易にするための張出 ②上屋自体が相当重く堅牢で、深い竪穴内で支えるための 6 本主柱 という理由が想定される。古代には南北住居帯や土坑群の間に遺構希薄地帯が存在し、S A 1 柱穴列や W 5 溝などが耕地や敷地境界として機能していたものと推測する。D 21 土坑から検出された女性人骨に特徴的な上顎切歯磨耗が確認できたことは、県内の副葬品を伴う平安期の土壇墓被葬者像やその階層について、新たな視角を提供するだろう。

元総社蒼海遺跡群 (100)

元総社 (9) (10) の隣接地であるが、遺構数は対照的に少ない。ただし、推定国府北限溝と 7 世紀後半～11 世紀代集落との間には 10 m 程度の空白地帯が存在し、本調査区も遺構希薄地帯に該当する可能性がある。また、本遺跡では 10 世紀代と推測される小規模な掘立柱建物が複数確認されているが、元総社 (9) (10) では認められない。さて、元総社 (9) (10) では、10・11 世紀代の集落が大溝と並行するように带状に展開し、特に 11 世紀代には南・北住居帯の間に幅 6 m の空白地帯が明瞭に認識できる。調査範囲に左右される可能性はあるものの、同様の事例は元総社 (39) にもあり、10 世紀代の住居分布が带状・列状に展開する。また、元総社小見Ⅲ遺跡では 7・8 世紀代の住居が群在するのに対し、9～11 世紀代の竪穴住居が列状に分布している。大溝のような明確な規制基準はないが、元総社 (101) の古代集落にも、集落内の空間利用に一定の規制を働かせるような、同様の現象が存在している可能性がある。

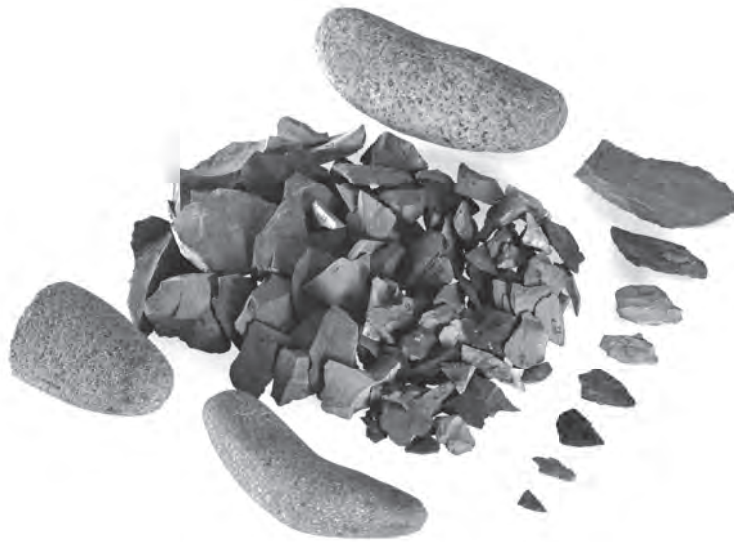


Fig.45 元総社蒼海遺跡群 (7) (9) (10) (100) 古代遺構全体図

写 真 図 版



元総社蒼海遺跡群（101） 南東から榛名山を望む



元総社蒼海遺跡群（100） 縄文時代晩期の石器群



元総社蒼海遺跡群 (100) 空撮全景 榛名山方面を望む



元総社蒼海遺跡群 (100) 空撮全景 (真上から)



H-1号住居跡・W-10号溝 全景 (東から)



H-6号住居跡 全景 (南西から)



H-7・9号住居跡、Hr-FA 残存範囲 全景 (西から)



H-7号住居跡 遺物出土状況 (南東から)



W-4号溝、B-1～3号掘立柱建物跡 全景 (西から)



D-16号土坑 全景 (東から)



D-31号土坑 全景 (北西から)



W-2号溝・H-2号住居跡 全景 (北から)



W-3号溝 全景 (北から)



W-3号溝 土層断面 (南西から)



SF-1号道路状遺構、W-5・8号溝 全景（北から）



W-4・11号溝、西端遺構群 全景（西から）



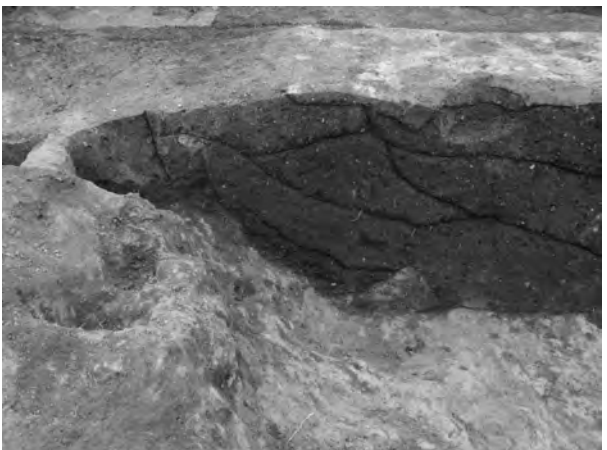
W-9号溝（SZ-1周溝墓）全景（南から）



W-9号溝（SZ-1周溝墓）全景（北東から）



W-13号溝（SZ-1周溝墓）I-I' 土層断面（南東から）



W-13号溝 I-I' 土層断面 壁際堆積土（南から）



遺構外-2（W-13号溝）出土状況（北東から）

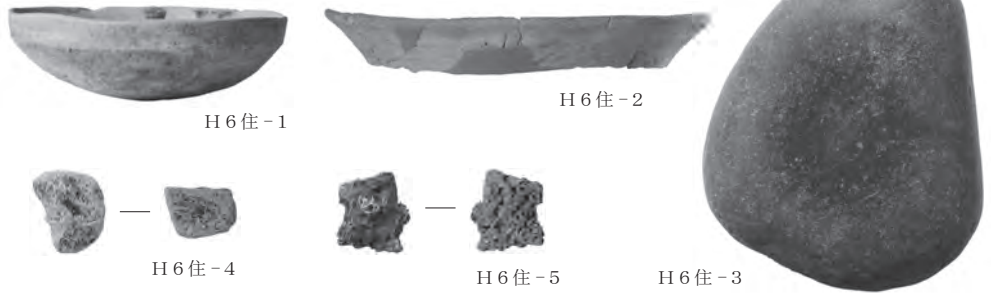


遺構外-4（W-13号溝）出土状況（北から）

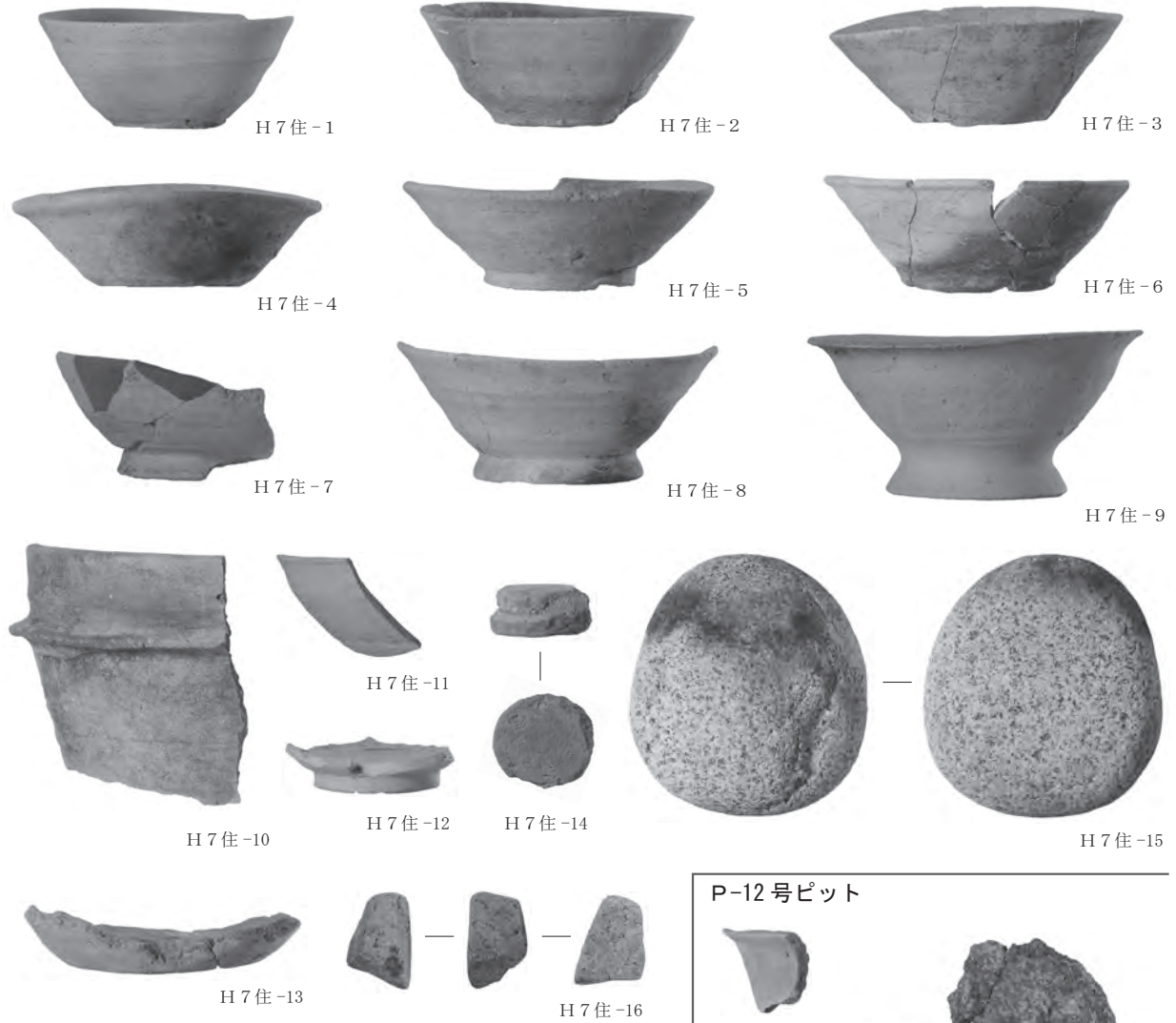
H-2号住居跡



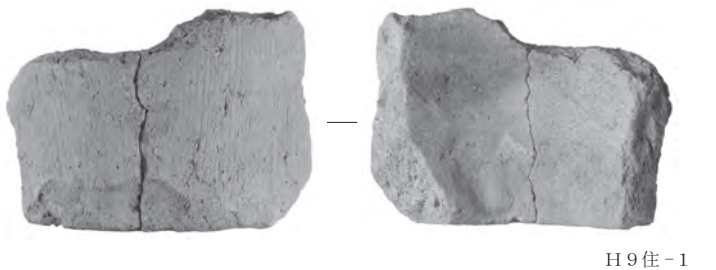
H-6号住居跡



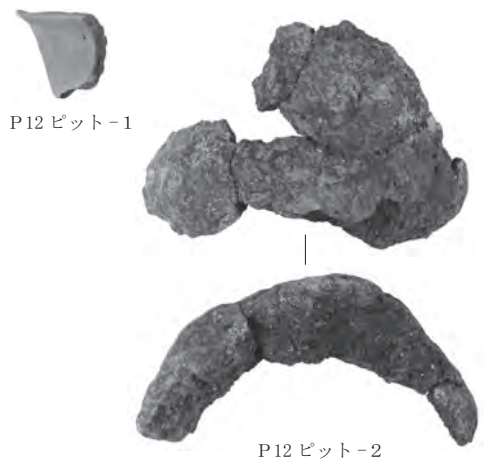
H-7号住居跡



H-9号住居跡



P-12号ピット



BP-3号ピット



BP 3-1

BP-7号ピット



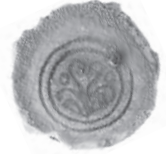
BP 7-1

BP-9号ピット



BP 9-1

BP-13号ピット



BP 13-1

D-16号土坑



D16土-1



D16土-2



D16土-3

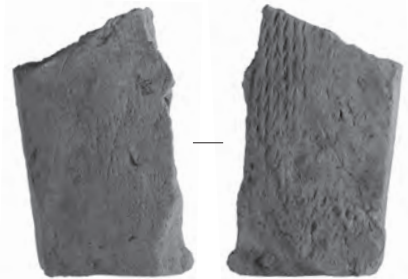


D16土-4



D16土-5

D-17号土坑



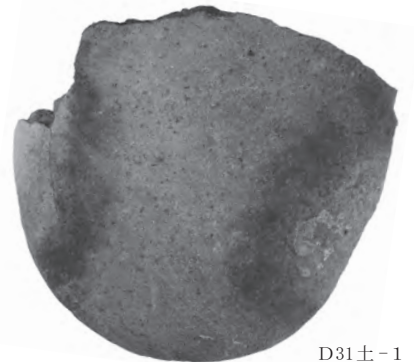
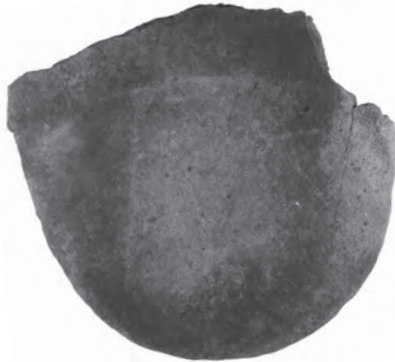
D17土-1

D-19号土坑



D19土-1

D-31号土坑



D31土-1

W-2号溝



W 2溝-1



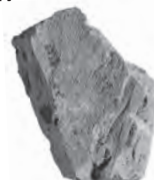
W 2溝-2

W-3号溝



W 3溝-1

W-4号溝



W 4溝-1

W-6号溝



W 6溝-1

W-9号溝



W 9溝-1

W-11号溝



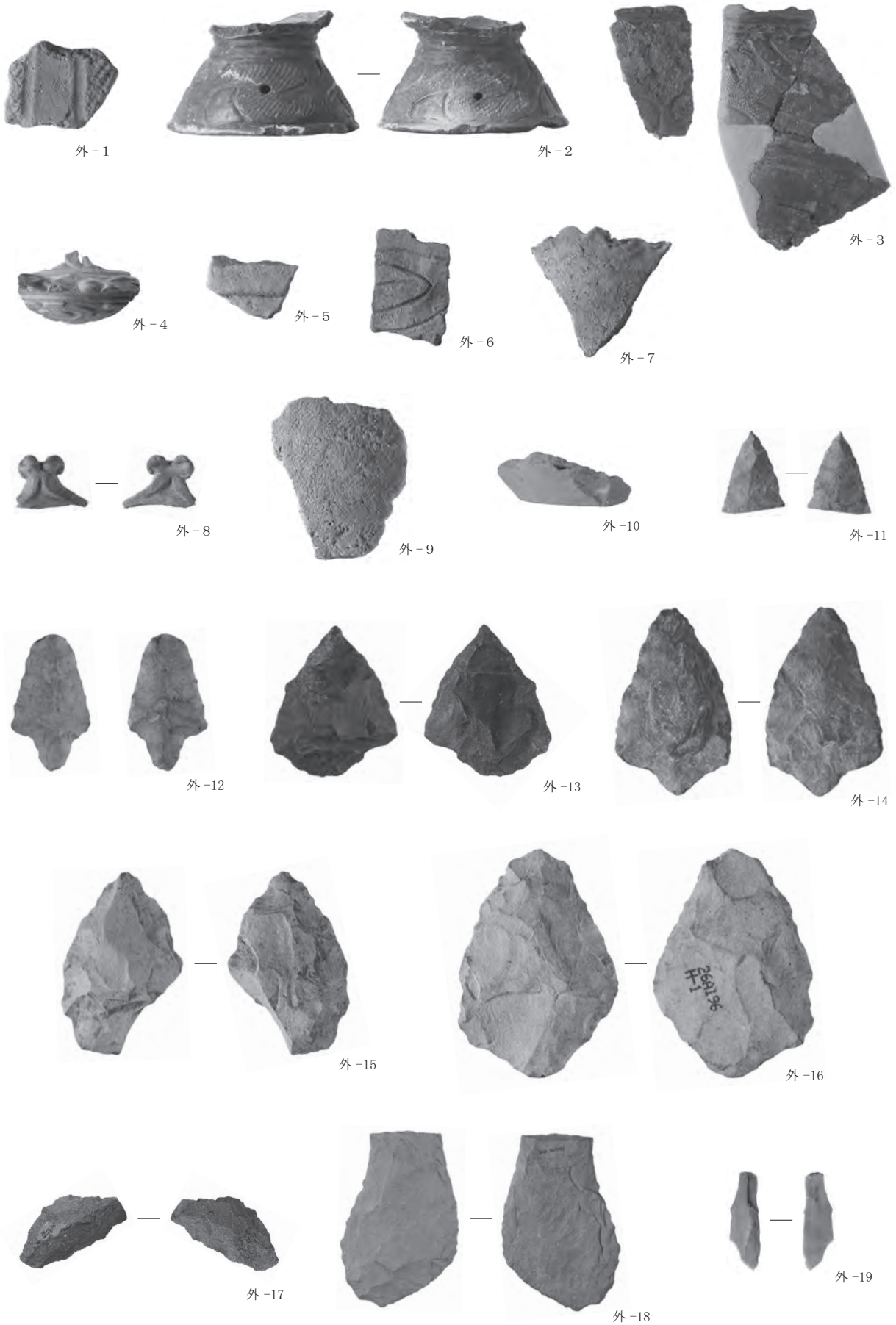
W 11溝-1

W-13号溝

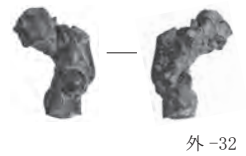
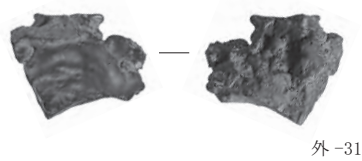
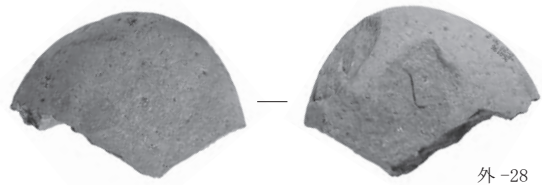
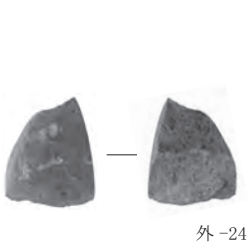
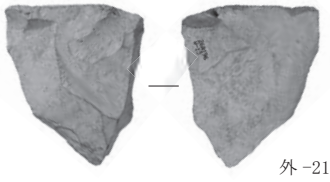
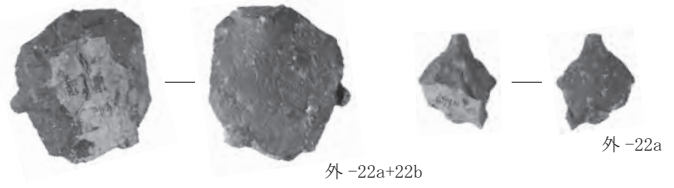
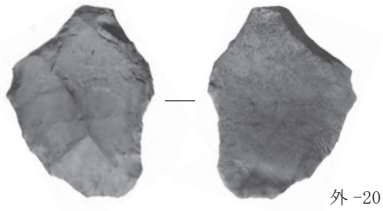


W 13溝-1

遺構外出土遺物①



遺構外出土遺物②





元総社蒼海遺跡群 (101) 空撮全景 (東から)



H-1号住居跡 全景 (西から)



H-6号住居跡 全景 (西から)



H-6号住居跡 出入口張出部 (北東から)



H-7号住居跡・H-17号住居跡カマド 全景 (西から)



H-15号住居跡 全景 (西から)



H-16号住居跡 全景 (南から)



H-11・12号住居跡 全景（西から）



H-12号住居跡カマド 全景（西から）



H-13号住居跡 全景（西から）



T-1号竪穴状遺構 全景（西から）



B-5号掘立柱建物跡 全景（北から）



中世土坑群（中央D 10土）・ピット群 全景（南から）



縄文遺構群 全景（北から）



D-40号土坑 全景・遺物出土状況（南東から）



D-21号土坑 全景・人骨検出状況 (南東から)



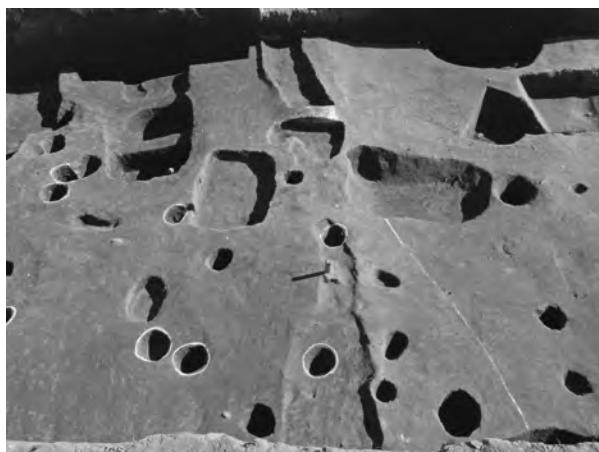
D-21号土坑 頭蓋骨近景 (東から)



D-21号土坑 全景(人骨取上げ後)・遺物出土状況(東から)



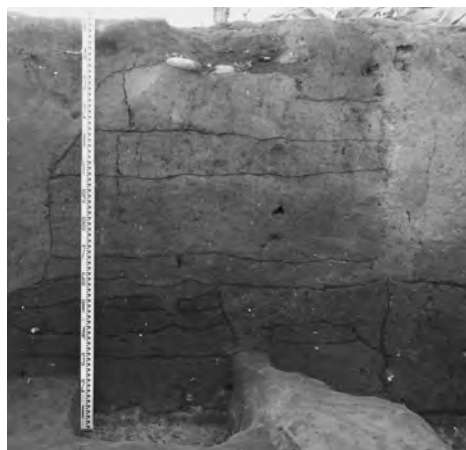
D-21号土坑 副葬品近景 (北東から)



W-1号溝、中世遺構群 全景 (西から)



W-2・3号溝 全景 (東から)



基本層序A (東から)



基本層序B (東から)

H-1 号住居跡



H1住-1



H1住-2



H1住-3



H1住-4

H-3 号住居跡



H3住-1

H-6 号住居跡



H6住-1



H6住-2



H6住-3



H6住-4



H6住-5



H6住-6



H6住-7



H6住-8



H6住-9



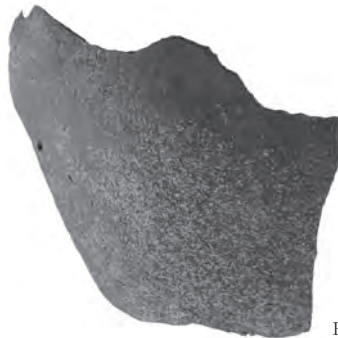
H6住-10



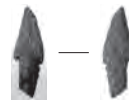
H6住-11



H6住-12



H6住-13



H6住-14

H-10 号住居跡



H10住-1



H10住-2



H10住-3

H-11 号住居跡①



H11住-1



H11住-2



H11住-3



H11住-4

P L . 12 (101)

H-11 号住居跡②



H11 住 - 5



H11 住 - 6



H11 住 - 7

H-12 号住居跡



H12 住 - 1



H12 住 - 2

H-13 号住居跡



H13 住 - 1

H-16 号住居跡



H16 住 - 1



H16 住 - 2



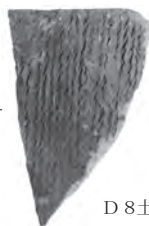
H16 住 - 3

B P - 2 号ピット



B P 2 掘立 - 1

D-8 号土坑



D 8 土 - 1

D-17 号土坑



D17 土 - 1

D-21 号土坑



D21 土 - 1



D21 土 - 2



D21 土 - 2
内面墨書



D21 土 - 3



D21 土 - 4



D21 土 - 5



D21 土 - 6

D-22 号土坑



D22土-1

D-26 号土坑



D26土-1

D-31 号土坑



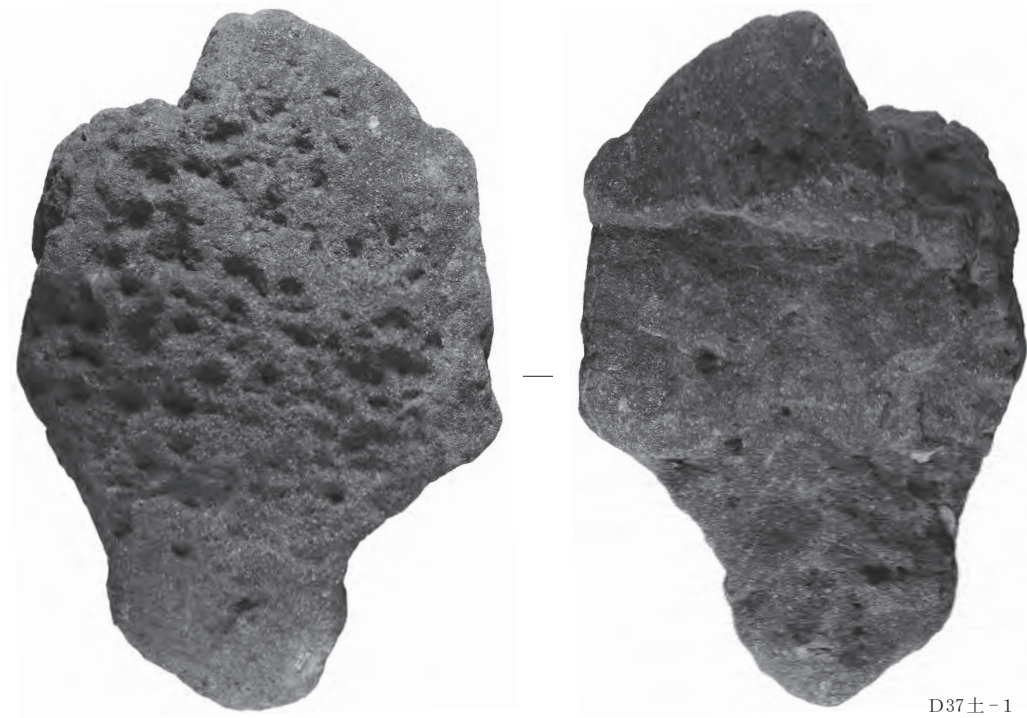
D31土-1

D-34 号土坑



D34土-1

D-37 号土坑



D37土-1

D-40 号土坑



D40土-1

D-41 号土坑



D41土-1

D-50 号土坑



D50土-1

D-52 号土坑



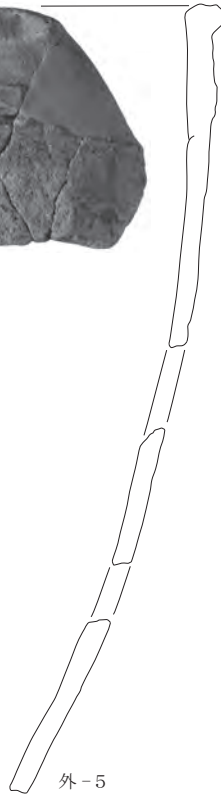
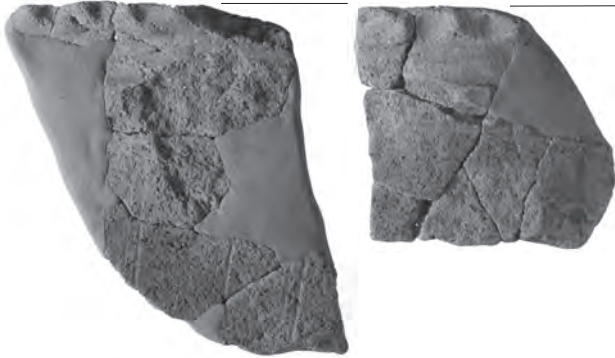
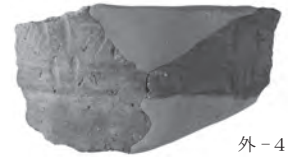
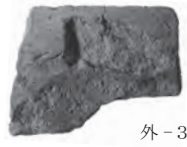
D52土-1

D52土-2

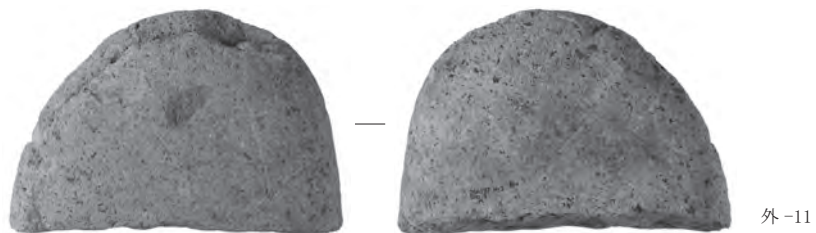
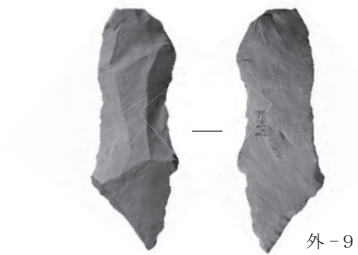
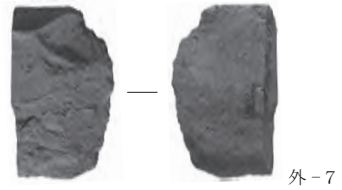
W-5号溝



遺構外



外-5



抄 録

フリガナ	モトソウジャオウマイセキグン (100)・(101)
書名	元総社蒼海遺跡群 (100)・(101)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	藤坂和延 福嶋正史
編集機関	株式会社 シン技術コンサル 〒370-1135 群馬県佐波郡玉村町板井 311-1 TEL. 0270-65-2777
発行機関	前橋市教育委員会
発行年月日	西暦 2016 (平成 28) 年 3 月 25 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (世界測地系)	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
もとそうじゃおうみ 元総社蒼海 遺跡群 (100)	ぐんまけんまえばしし 群馬県前橋市 そうじゃまち 総社町総社 3589、 3583、3587-1	0142	26 A 196	36°	139°	20141213	274	前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区画 整理事業
				23′	2′	～		
				30″	16″	20150323		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海 遺跡群 (100)	集落跡 屋敷跡 墓地	縄文 古墳 奈良 平安 中世 近世	住居跡 6軒 掘立柱建物跡 7棟以上 柱穴列 2条 ピット 約170基 土坑 33基 溝 13条(周溝墓含む) 周溝墓 1基	縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 灰釉陶器 陶器、石器 鉄製品	縄文晩期大洞B2～A式期の遺物。推定古墳前期の方形周溝墓1基以上。SZ-1は覆土上層にHr-FA。中世屋敷は15世紀代カ。元総社蒼海遺跡群(7)(9)(10)の南側隣接地。

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (世界測地系)	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
もとそうじゃおうみ 元総社蒼海 遺跡群 (101)	ぐんまけんまえばしし 群馬県前橋市 もとそうじゃまち 元総社町 1387-1、1387-2	0142	26 A 197	36°	139°	20141217	227.5	前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区画 整理事業
				23′	1′	～		
				27″	52″	20150209		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海 遺跡群 (101)	集落跡 屋敷跡 墓地 墓地	縄文 古墳 奈良 平安 中世、近世 近代	住居跡 13軒 竪穴状遺構 2基 掘立柱建物跡 5棟以上 柱穴列 3条 ピット 約150基 土坑 50基(墓坑1基) 井戸 1基	縄文土器 土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 陶器、石器 鉄製品	縄文後期の墓坑群。7世紀後半に出入口張出を伴う6本主柱構造の大型竪穴住居。10世紀前半に碗(墨書「寸」)・小型壺を副葬した成人女性の墓坑。7～8世紀に柱穴列による区画。中世屋敷地は戦国期より古い。

元総社蒼海遺跡群 (100)・(101)

— 前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成 28 年 3 月 24 日印刷

平成 28 年 3 月 25 日発行

編 集／株式会社 シン技術コンサル

発 行／前橋市教育委員会

前橋市総社町 3 丁目 11-4

TEL 027-280-6511

印 刷／朝日印刷工業株式会社